

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第111集

き ど じょう
木戸城遺跡

こ しん でん
古新田遺跡

2003

財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

古新田遺跡



調査区東半（東から）

例言

1. 本書は、愛知県西尾市志貴野町宮前に所在する古新田遺跡（県遺跡番号55230）の発掘調査報告書である。
2. 調査は矢作川の河川改修に伴う事前調査として、国土交通省（旧建設省）より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査対象面積は、4,100㎡である。
3. 調査期間は、平成12年11月～平成13年3月であり、調査に引き続き平成14年度には報告書作成のための整理作業を実施した。
4. 調査担当者は、以下の通りである。
花井 伸（調査課主査・現三好町立三好中学校教諭）・小嶋廣也（同調査研究員）・武井繁樹（同・現知立市立知立南小学校教諭）
5. 遺物の整理・製図などについては次の方々のご協力を得た。（敬称略）
小川あかね（調査研究補助員）・堀田春美・祖父江久栄・大堀順子（以上整理補助員）
浅井えみ子・五十嵐初子・稲垣貴子・稲垣智子・大見一子・川澄すみ子・土井五月・富田崇子・中桐信子・長谷部陽子・福田妙子（以上整理作業員）
平原知未（別府大学4年生）
この他に、石器類の実測・トレースは小嶋そのみ氏（調査研究補助員）、遺物実測の一部や収納作業では尾張事務所の整理補助員の方々の協力をいただいた。
6. 遺構の一部と石器類を除いた遺物のデジタルトレースは、アイシン精機株式会社新規事業企画室文化財プロジェクトに依頼した。
7. 遺構の写真撮影は調査担当者が行い、遺物の写真撮影は福岡 栄氏に依頼した。
8. 調査に当たっては次の関係機関からご指導・ご協力を得た。
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター・西尾市教育委員会・国土交通省中部地方整備局豊橋工事事務所
9. 調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠した。ただし、旧基準「日本測地系」で表記した。また、海拔標高はT. P.（東京湾平均海面高度）による。
10. 本書で使用する色調名は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準色紙』に依拠した。
11. 遺構は以下のアルファベットによる分類記号と発掘当時の番号表記を基本とした。一部井戸などでは付け直しをしたものもある。
SB：竪穴住居・掘立柱建物 SD：溝 SE：井戸 SK：土坑 SX：その他
ただし、今回の調査においては、柱穴にはPit番号は付けず全てSK番号を付した。
12. 本書の執筆・編集は小嶋が行ったが、一部に分担執筆がある。
第1章第1節・第2節2 武井繁樹 第1章第2節1 鬼頭 剛
第IV章第2節 株式会社第四紀地質研究所 第IV章第3節 株式会社パレオ・ラヴォ
13. 本書をまとめるに当たり、次の方々のご指導の他、多くの方々・機関のご協力を得た。（敬称略）
天野卓哉・荒井信貴・伊藤久美子・稲垣晋也・岡本直久・梶山 勝・加藤安信・喜見俊宏・金子健一
河合君近・齋藤弘之・城ヶ谷和広・鈴木とよ江・中村幸夫・齋 元洋・平松弘孝・尾藤哲也・松井孝宗
松井直樹・伴野義広・山本松男
安城市歴史博物館・岡崎市美術館・小坂井町教育委員会・豊川市桜ヶ丘ミュージアム・高浜市やきもの里かわら美術館・豊田市郷土資料館・豊橋市美術館・西尾市資料館・幡豆町歴史民俗資料館・御津町教育委員会・三好町歴史民俗資料館
14. 調査記録（図面・写真資料・日誌等）は本センターにて保管している。
15. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目次

第I章 調査概要	1
第1節 調査の概要	
1. 遺跡の立地	2
2. 調査にいたる経緯	2
3. 調査の経過	4
4. 発掘調査参加者	6
5. 調査日誌抄	7
第2節 遺跡周辺の環境	
1. 古新田遺跡周辺の地形・地質	8
2. 歴史的環境	10
第II章 遺構	13
第1節 基本層序	14
第2節 古代の遺構	
1. 概要	16
2. 竪穴住居	16
3. 溝	36
4. 土坑	38
第3節 中世の遺構	
1. 概要	42
2. 竪穴状遺構	42
3. 溝	42
4. 井戸	47
5. 土坑	48
第4節 その他の遺構	
1. 概要	54
2. 堀防跡	54
3. 掘立柱建物	54
第III章 遺物	59
第1節 古代以前の遺物	
1. 概要	60
2. 石器類	60
第2節 古代の遺物	
1. 概要	60
2. 出土遺物	62
3. 製塩土器	67
4. 土錘	68
5. 古代瓦	71
6. 瓦塔	82
第3節 中世の遺物	
1. 概要	85
2. 出土遺物	86
第4節 その他の時期の遺物	
1. 概要	90
2. 出土遺物	90
3. 瓦類	92
第5節 その他の遺物	
1. 概要	93
2. 金属製品	93
3. 石製品	94
第IV章 科学分析	95
第1節 胎土分析用古代瓦資料	
1. はじめに	96
2. 目的	97
3. 分析資料の選別	97
4. 寺院・窯跡と分析資料	97
5. 分析資料	102
6. おわりに	126
第2節 X線回折試験及び化学分析	
1. 実験条件	130
2. X線回折試験結果の取扱い	130
3. X線回折試験結果	131
4. 化学分析結果	133
5. まとめ	134
第3節 焼土坑焼土の焼成年代推定	
1. はじめに	155
2. 考古地磁気年代推定の原理	155
3. 試料採取と残留磁化測定	156
4. 焼成年代値の推定	157
第V章 まとめ	159
まとめ	160

図版目次

図版 1	遺構図 (1)	
図版 2	遺構図 (2)	
図版 3	遺構図 (3)	
図版 4	遺構図 (4)	
図版 5	遺構図 (5)	
図版 6	遺構図 (6)	
図版 7	遺構図 (7)	
図版 8	遺構図 (8)	
図版 9	遺構図 (9)	
図版10	遺構図 (10)	
図版11	遺構図 (11)	
図版12	遺構図 (12)	
図版13	遺構図 (13)	
図版14	遺構図 (14)	
図版15	遺構図 (15)	
図版16	遺構図 (16)	
図版17	遺構図 (17)	
図版18	遺構写真 (1)	調査区全景
図版19	遺構写真 (2)	試掘調査、古代の遺構 (1)
図版20	遺構写真 (3)	古代の遺構 (2)
図版21	遺構写真 (4)	古代の遺構 (3)
図版22	遺構写真 (5)	中世の遺構 (1)
図版23	遺構写真 (6)	中世の遺構 (2)
図版24	遺物写真 (1)	古代の遺物 (1)
図版25	遺物写真 (2)	古代の遺物 (2)、製塩土器、土鍾 (1)
図版26	遺物写真 (3)	土鍾 (2)、瓦塔、古代瓦 (1)
図版27	遺物写真 (4)	古代瓦 (2)
図版28	遺物写真 (5)	古代瓦 (3)
図版29	遺物写真 (6)	中世の遺物 (1)
図版30	遺物写真 (7)	中世の遺物 (2)、その他の時代の遺物、その他の遺物

挿図目次

第1図	試掘調査トレンチ位置図	3	第45図	土鏝①	68
第2図	調査区位置図	3	第46図	土鏝②	69
第3図	発掘作業風景	5	第47図	土鏝③	70
第4図	発掘調査参加者	6	第48図	古代瓦①	73
第5図	現地説明会風景	7	第49図	古代瓦②	74
第6図	岡崎平野の地形概念図	9	第50図	古代瓦③	75
第7図	古新田遺跡周辺の遺跡分布図	11	第51図	古代瓦④	76
第8図	T. T. 2地点旧堤防断面図	14	第52図	古代瓦⑤	77
第9図	基本層序模式図	15	第53図	古代瓦⑥	78
第10図	S B01平面図・断面図	17	第54図	古代瓦⑦	79
第11図	S B03・S X13平面図、S X13断面図	18	第55図	古代瓦⑧	80
第12図	S B03断面図	19	第56図	古代瓦⑨	81
第13図	S B02平面図、カマド断面図	19	第57図	瓦塔各部の名称	82
第14図	S B04・S B05平面図・断面図	21	第58図	瓦塔①	83
第15図	S B08平面図・断面図	23	第59図	瓦塔②	84
第16図	S B10平面図・断面図、カマド断面図	24	第60図	中世の遺物分類図	85
第17図	S B17平面図・断面図	25	第61図	中世の遺物①	86
第18図	S B12・S B13・S B14平面図	26	第62図	中世の遺物②	87
第19図	S B12・S B13・S B14断面図、 S B13カマド断面図	27	第63図	中世の遺物③	88
第20図	S X15平面図・断面図	29	第64図	中世の遺物④	89
第21図	S X25・S X26平面図、 S X26断面図、S X25カマド断面図	29	第65図	その他の時期の遺物①	90
第22図	S X27・S X28・S X29平面図	32	第66図	その他の時期の遺物②	91
第23図	S X27・S X28断面図	33	第67図	瓦類	92
第24図	S X31平面図・断面図	33	第68図	金属製品①	93
第25図	S X44平面図・断面図	34	第69図	金属製品②	93
第26図	S X50平面図・断面図	35	第70図	石製品	94
第27図	古代の溝断面図	37	第71図	三河の古代寺院と瓦窯跡関連遺跡位置図	96
第28図	古代の土坑平面図・断面図①	37	第72図	古代瓦胎土分析資料①	102
第29図	古代の土坑平面図・断面図②	39	第73図	古代瓦胎土分析資料②	103
第30図	古代の土坑平面図・断面図③	41	第74図	古代瓦胎土分析資料③	104
第31図	中世の溝断面図①	44	第75図	古代瓦胎土分析資料④	105
第32図	中世の溝断面図②	45	第76図	古代瓦胎土分析資料⑤	106
第33図	中世の土坑平面図・断面図①	48	第77図	古代瓦胎土分析資料⑥	107
第34図	中世の土坑平面図・断面図②	51	第78図	古代瓦胎土分析資料⑦	108
第35図	東壁セクション	55	第79図	古代瓦胎土分析資料⑧	109
第36図	掘立柱建物平面図	57	第80図	古代瓦胎土分析資料⑨	110
第37図	石器類	60	第81図	古代瓦胎土分析資料⑩	111
第38図	古代の遺物分類図	61	第82図	古代瓦胎土分析資料⑪	112
第39図	古代の遺物①	62	第83図	古代瓦胎土分析資料⑫	113
第40図	古代の遺物②	63	第84図	古代瓦胎土分析資料⑬	114
第41図	古代の遺物③	64	第85図	古代瓦胎土分析資料⑭	115
第42図	古代の遺物④	65	第86図	古代瓦胎土分析資料⑮	116
第43図	古代の遺物⑤	66	第87図	古代瓦胎土分析資料⑯	117
第44図	製塩土器	67	第88図	古代瓦胎土分析資料⑰	118
			第89図	古代瓦胎土分析資料⑱	119

第90図	古代瓦胎土分析資料③	122	第109図	$Fe_2O_3-Na_2O$ 図(丸瓦)	150
第91図	古代瓦胎土分析資料④	122	第110図	K_2O-CaO 図(丸瓦)	150
第92図	古代瓦胎土分析資料④	122	第111図	$Qt-P1$ 図(平瓦)	151
第93図	古代瓦胎土分析資料④	123	第112図	$SiO_2-Al_2O_3$ 図(平瓦)	151
第94図	古代瓦胎土分析資料④	124	第113図	$Fe_2O_3-Na_2O$ 図(平瓦)	152
第95図	古代瓦胎土分析資料④	125	第114図	K_2O-CaO 図(平瓦)	152
第96図	古代瓦胎土分析資料④	126	第115図	$Qt-P1$ 図(軒丸瓦・軒平瓦)	153
第97図	古代瓦胎土分析資料④	127	第116図	$SiO_2-Al_2O_3$ 図(軒丸瓦・軒平瓦)	153
第98図	古代瓦胎土分析資料④	128	第117図	$Fe_2O_3-Na_2O$ 図(軒丸瓦・軒平瓦)	154
第99図	三角ダイヤグラム位置分類図	144	第118図	K_2O-CaO 図(軒丸瓦・軒平瓦)	154
第100図	菱形ダイヤグラム位置分類図	144	第119図	広岡・藤澤(1998)による東海地方の 考古学磁気永年変化曲線(太線)	158
第101図	Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム	145	第120図	焼土坑焼土の残留磁化方向と 広岡・藤澤(1998)の考古学地磁気 永年変化曲線の一部	158
第102図	Mo-Ch, Mi-Hb菱形ダイヤグラム	146	第121図	古代の主要遺構	161
第103図	$Qt-P1$ 図(総合図)	147	第122図	中世の主要遺構	163
第104図	$SiO_2-Al_2O_3$ 図(総合図)	147			
第105図	$Fe_2O_3-Na_2O$ 図(総合図)	148			
第106図	K_2O-CaO 図(総合図)	148			
第107図	$Qt-P1$ 図(丸瓦)	149			
第108図	$SiO_2-Al_2O_3$ 図(丸瓦)	149			

表目次

第1表	発掘調査・整理作業工程表	4	第7表	化学分析表③	141
第2表	胎土性状表①	136	第8表	組成分類表①	142
第3表	胎土性状表②	137	第9表	組成分類表②	143
第4表	胎土性状表③	138	第10表	焼土坑の焼土の残留磁化測定(偏角補正前)	157
第5表	化学分析表①	139	第11表	焼土坑の焼成年代推定値	157
第6表	化学分析表②	140			

第 I 章 調査概要



調査前風景（南東から）

第1節 調査の概要

1. 遺跡の立地

古新田遺跡は、西尾市志貴野町宮前に所在する古代から中世にかけての複合遺跡である。志貴野町はもともと古新田村と新々田村に分かれており、宮前は上流沿いの古新田村にある。本遺跡は矢作川と矢作古川との分岐点付近の矢作川左岸に位置しているが、江戸時代初期にこの川が開削される以前は、対岸の安城市域から南へと延びる碧海台地の東端にあつて、大郷山と小島山の分離丘陵の間を流れる矢作古川（旧矢作川）に面する開析谷に当たっていた。

また、本遺跡の南側の地点から、行基葺きの丸瓦や凸面に叩目痕の残った平瓦などの古代瓦が出土しており、礎石や根石と思われる石も確認されていることから、古代寺院があつたのではないかとされ、「志貴野廃寺」推定地と考えられてきた。

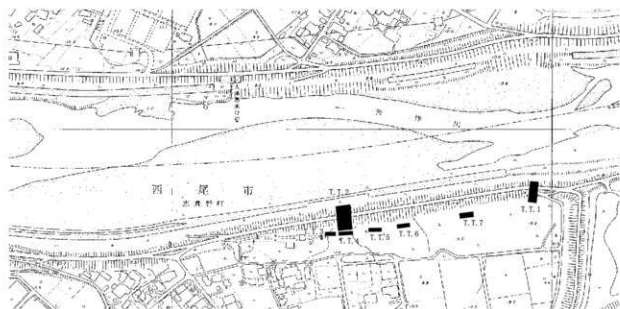
2. 調査にいたる経緯

矢作川の改修工事は、沿岸5市を洪水から防御することを目的とし、昭和49年に流量改訂し、水を安全に流下させるための河床掘削、狭窄部の拡幅、堤防の安全確保を重点に進められてきた。

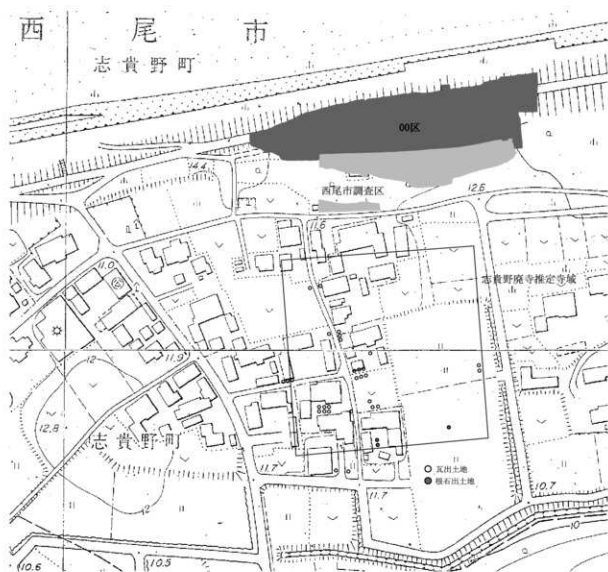
西尾市志貴野町地内の矢作川左岸における矢作川拡幅の計画は平成元年より進められ、平成4年7月に建設省（現国土交通省）中部地方建設局豊橋工事事務所から埋蔵文化財の所在の有無などについての照会が愛知県教育委員会にあつた。計画地内に遺跡は存在していないが、すぐ南側には志貴野廃寺の寺域が推定されていることなどから、埋蔵文化財存在の可能性が高いと判断された。西尾市教育委員会は、平成5年2月に志貴野町八幡社境内に7ヶ所トレンチを設定し、試掘調査を行った。その結果、西端は削平を受けていたが、神社境内及び裏山では遺構・遺物が確認された。建設省中部地方建設局豊橋工事事務所は、矢作川左岸の築堤工事を平成5年度中に施行したいと意向を示したため、神社施設移転後の平成6年1月～3月に遺跡推定範囲のうちの堤防敷となる1,900㎡について、西尾市教育委員会が事前の発掘調査を実施した（平成6年度に報告書刊行済み）。

新堤防建設後の平成11年度には河川改修事業がさらに本格化し、旧堤防の除去作業が始まることとなった。前回の西尾市教育委員会の調査で遺構・遺物が確認されているため、矢作川の河川改修予定地内で5月から7月にかけて愛知県教育委員会より委託を受けた本センターが再び範囲確認調査（7ヶ所、500㎡）を行った（第1図）。旧堤防盛土には明治時代以降の陶磁器・瓦片が混入しており、近世以前まで遡る築造行為の可能性はなかった。また、試掘坑の中で近世以前の人為的な削削及び盛り土行為が確認できたのは、T. T. 2からT. T. 4までであった。これにより、T. T. 2の中ほどより下流の旧堤防盛土直下及びその南側部分の碧海台地基盤層残存部には遺構・遺物が残存している可能性が高く、事前に発掘調査を実施し記録保存をする必要性が認められた。

発掘調査は、国土交通省中部地方建設局豊橋工事事務所より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査期間は平成12年11月から平成13年3月までで、調査面積は4,100㎡である（第2図）。



第1図 試掘調査トレンチ位置図 (1:5,000)



第2図 調査区位置図 (1:2,500)

3. 調査の経過

原因者側による旧堤防盛土の除去を受けて、発掘調査に入った。バックホウにより現地表面から表土を除去した後、国土交通省告示によって定められた平面直角座標第Ⅶ系（ただし旧基準「日本測地系」）に準拠した5mグリッドを設定し、その後手掘りにより包含層を掘削して遺構検出を行った。現場が川と新堤防との間に位置しているため、壁による土層確認ができないので、まず調査区中央に設定したベルトの両側に土層の確認や排水を目的としたトレンチを掘削した。しかし、このトレンチ調査においては明確に遺構を捉えることができなかったため、基盤層である地山まで掘り下げて遺構を検出した。遮る物がなにもない冷たい風が吹き荒ぶ現場で、予想外に遺構が多く、発掘作業員を増員したり、成瀬調査研究員の協力、空撮前には安城市下駄遺跡から池本主任と発掘作業員20名の応援を受け、作業を終了させることができた。

発掘調査中は、「古新田通信」と名付けた発掘ニュースを作業員に週1回程度配布し、発掘調査の手順、注目すべき遺構・遺物の紹介、今週の予定、現在までの現場の状況などを知らせ、また現場でも遺構・遺物の説明を行い、調査参加者の興味・意欲を高めようと努力した。

遺構の測量については、3月16日にヘリコプターによる航空写真測量を実施し、調査区全体の1/50、1/100、1/200の基本平面図を作成したほか、重要部分については手測りによって補助測量図を作成した。しかし、時間的な制約があったため補足調査を十分に行うことができず、井戸の断ち割り時の実測図を作成できなかったりして、不十分な調査になってしまったことは残念である。

また、空撮翌日の3月17日には現地説明会を開催し、小雨にもかかわらず約200名の方々に参加していただいた。この説明会において、古代の竪穴住居や中世の井戸などの遺構の説明、須恵器・土師器・古代瓦・山茶碗などの出土遺物の展示を行い、調査成果を一般の人々に披露することができた。さらに、出土品の一部は、平成13年8月に開催された埋蔵文化財展（御津町文化会館ハートフルホール）においても一般に公開・展示された。

全調査区から出土した遺物は、27リットル入りコンテナ約83箱である。杯・蓋などの須恵器、甕・土鐘などの土師器、丸瓦・平瓦などの古代瓦、山茶碗などの灰軸系陶器などが中心で、近世陶磁器類や、銭貨・鉄滓などの金属製品、硯・磁石などの石製品も僅かながら出土している。出土遺物の整理については、発掘調査と平行して一次整理作業として洗浄・注記を実施した。平成14年度には報告書作成に向けて、二次整理作業である接合・分類、実測図作成やトレースなどを実施し、原稿執筆などを行った。（武井繁樹）

	年度/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	担当調査員
掘	範囲確認	0.2												木下・松田・武井
	本調査	0.0												花井・小嶋・武井
整	一次整理	0.0												竹内・小嶋
	二次整理	0.2												小嶋
用	報告書作成	0.2												小嶋

第1表 発掘調査・整理作業工程表



第3図 発掘作業風景

4. 発掘調査参加者

今回の発掘調査に参加していただいた方々は以下の通りです。ご協力いただきありがとうございます。

発掘調査補助員

渡辺 周子

発掘作業員

石川 敦彦・石川 陽子・市川チヨエ・磯谷 晃郎・岩崎きぬえ・大竹富美子・加藤美恵子
兼田 芳子・神谷 弘子・熊谷マチ子・小林 辰美・後藤 勝吉・榊原 直人・榊原ひで子
佐々木礼子・佐野 栄作・杉山 倫子・鈴木 重美・鈴木 朋子・鈴木美代子・高井良尚美
高橋さゆり・高原 愛子・多賀 功・利根 一元・豊田 善彦・鳥居 和子・中井みつゑ
中尾 敏彦・中尾ヨネ子・中川 文恵・中島たか子・中根 昭宏・中根 温子・服部 典子
服部 祐子・保科 懐子・本田 久子・牧野 重夫・松岡セイ子・松本 純子・山口 正弘
山下日出子・山田 行雄・山田 京子

学生アルバイト

茅野 博史(名古屋大1年)・平原 知未(別府大2年)・山田 桃菜(名古屋大2年)
米津沙斗子(名古屋大2年)

重機オペレーターなど

池田 栄治・池田 勝治・池田 勝典・稲垣 毅・稲垣 美香・稲垣和華男・鈴木 敏夫
平岩 充郎・三輪 康仁

下懸遺跡発掘作業員(応援)

青山ミヨ子・加藤 良子・児玉 五市・近藤 妙子・清水 俊紀・鈴木 寿悦・妹尾 勝
千賀 里司・筒井 徳二・手島 精一・那須 昌俊・長谷川隆三・服部 和平・花田 暁
平岩みさ子・深津 宏二・福島 和人・細井 嘉乃・村松 一茂 (五十音順、敬称略)



第4図 発掘調査参加者

5. 調査日誌抄

- 11月6日 現場事務所立ち上げ
- 11月7日 発掘作業員登録
- 11月13日 旧堤防土取り開始
- 11月21日 調査区設定、表土剥ぎ開始
- 12月4日 作業開始、清掃・トレンチ掘削
- 12月5日 掘り下げ・遺構検出開始
西尾市教委松井直樹氏来訪
- 12月11日 基準杭設置
西尾市教委鈴木とよ江氏来訪
- 12月15日 ベルトコンベア設置
- 12月22日～1月8日 年末年始休業
- 1月15日 調査区東端拡張
- 1月16日 豊橋工事事務所安城出張所
高須所長来訪
- 1月17日 愛知県埋蔵文化財調査センター
加藤安信所長来訪
- 1月18日 江戸時代の堤防跡を確認
- 1月29日 発掘作業員増員
- 2月13日 遺構掘削開始
- 2月16日 現場検討会
- 2月20日 理事長視察
- 3月12日 成瀬調査研究員応援
- 3月13～15日 池本主任、下懸遺跡発掘
作業員20名応援
- 3月14日 愛知大学加納先生来訪
安城市埋蔵文化財研究会川崎みどり
・神谷真佐子両氏来訪
- 3月16日 空撮
- 3月17日 現地説明会
- 3月19日 補足調査開始
- 3月23日 熱残留磁気測定サンプル採取
- 3月26日 古澤地質調査事務所古澤明氏来訪
- 3月30日 埋め戻し
- 3月31日 完全撤去



第5図 現地説明会風景

第2節 遺跡周辺の環境

1. 古新田遺跡周辺の地形・地質

愛知県には伊勢湾・知多湾・三河湾をとり囲むように、濃尾・岡崎・豊橋などの平野が分布している。これらのうち、愛知県のほぼ中央部を北から南へ流れる矢作川によって形成されたのが岡崎平野である。地域名を冠して西三河平野とも呼ばれる。古新田遺跡は、岡崎平野西側に広く露出する新第三系の段丘面上で、三河湾から約13km北側の矢作川左岸にあたる西尾市志貴野町に位置する(第6図)。調査地点の標高は約10mで、矢作川は調査地点北側の碧海面を切って西流し、三河湾に注ぐ。また、調査地の約500m東方において矢作川は矢作川と矢作古川とに分流する。これは1605年(慶長10年)に行なわれた河川のつけ替え工事の結果であり、それまでの矢作川は現在の矢作古川ないし広田川を流下していた。

矢作川沿いには新第三系と第四系が分布し、下位より新第三系中新統～鮮新統の瀬戸層群、中部更新統の三好層、中部更新統の挙母層、上部更新統の碧海層、最上部更新統の越戸層・第一礫層、完新統に分けられる(町田ほか, 1962; 牧野内・小井土, 1988)。また、町田ほか(1962)は矢作川流域に発達する段丘面を高位から三好・挙母・碧海・越戸の4段に区分し、これらの北方にあたる中新統～鮮新統の東海層群(瀬戸層群)がつくる丘陵面を藤岡面と呼んだ。通常、岡崎平野あるいは西三河平野という名称は碧海面以下の段丘群および沖積低地の総称として用いられ、挙母面以上の段丘群は西三河丘陵と呼ばれる。調査地点は上部更新統の碧海層の作る碧海面上に位置する。

矢作川流域における自然地理学的研究には井関・貝塚(1953)の碧海面の微地形形成に関する研究を先鞭として、町田ほか(1962)、岡田(1975)、森山ほか(1996)の地形発達に関する総合的な研究がある。地質学的研究では糸魚川・中山(1968)、森(1984)、桑原ほか(1986)、松島(1990)、森山ほか(1997)の主に貝化石や微化石分析に関する研究や、森山・小沢(1972)、森山・浅井(1980)、桑原(1982)、森山・中西(1991)、森山(1994)の層序や堆積環境についての研究がある。古新田遺跡の基盤層である碧海層について町田ほか(1962)、牧野内・小井土(1988)、森山(1994)をもとに概説する。

碧海層は町田ほか(1962)により命名された中位段丘構成層である。矢作川河口より約28km北側、豊田市水源町付近の豊田峡谷よりも南半部を占める標高5～80mに分布する。最大層厚は70mにおよび、下位から基底礫層・下部層・中部層・上部層の4層層に分けられる。堆積物は中～大礫からなり、南部ほど細粒になる。南部では砂礫を含む砂層となり、粘土の薄層もはさむ。豊田峡谷よりも南側では豊田市南部から知立市、安城市、碧南市、西尾市までの広大な分布を示す。南端の西尾市や一色町では中位層準に海成泥層がはさまれるとの報告がある(桑原, 1982; 桑原ほか, 1986)。北部の矢作川に沿う地域では先新第三系の花崗岩類や東海層群(瀬戸層群)を、南部の碧海台地では挙母層などを不整合に覆う。森山(1994)は碧海層上部の年代について、貝化石から得られたESR(電子スピン共鳴)年代が84～99kaの値であることを報告した。このことから碧海層上部の堆積年代は約8～9万年前であり、酸素同位体ステージの5aに対比される。

2. 歴史的環境

この地域で最も早く人々の営みを遺跡として捉えることができるのは縄文時代前期の遺跡である西尾市下羽角町の釜田貝塚で、碧海台地上の後期に属する八王子貝塚・枯木宮貝塚から当時の海岸線が推定される。弥生時代では、丘陵や台地上の八ツ面山西南麓遺跡群(52)や不毛遺跡(39・41)、沖積低地の岡島遺跡(57)、毘沙門遺跡(66)、下懸遺跡(13)などが知られる。

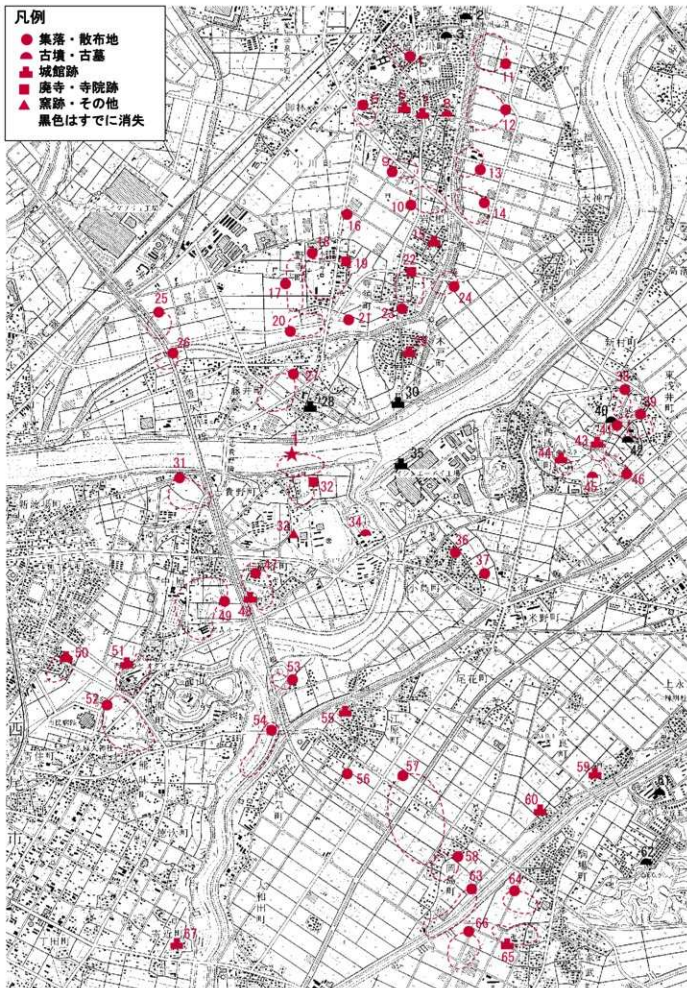
古墳時代では、本遺跡の西側に位置する志貴野遺跡(31)や南側の八ツ面山北部遺跡(49)、その対岸の大畑遺跡(27)、五反田遺跡(14)などから竪穴住居跡が確認されている。また、5世紀以降本遺跡周辺では西山古墳(40)、五砂山古墳(45)、船向山古墳(34)などの古墳の築造が見られた。

奈良時代に入ると、この地は三河国幡豆郡または碧海郡に属していたと思われる。郷名が比定されているのは八ツ面地域で、平城宮跡から出土した木簡に「參河国幡豆郡熊来郷」と書かれており、旧地名の「熊子」に符合するといわれている。志貴野遺跡や八ツ面山北部遺跡では集落跡が確認され、沖積低地の室遺跡(64)では灌漑施設関連と思われる巨大な木桶が出土している。本遺跡の南側で出土している古代瓦は奈良時代を下らないもので、東西125m、南北130mの範囲に散布していることから志貴野廃寺(32)があったと想定されている。対岸の安城市には寺領廃寺(22)の存在が明らかになっており、この辺りが矢作川流域の北野廃寺文化圏に属していたものと考えられている。また、本遺跡周辺の大郷瓦窯跡(33)や大久根遺跡(9)は寺領廃寺用の瓦を焼いていた窯跡と推定されているが、その位置関係からいえば大郷瓦窯跡は志貴野廃寺に瓦を供給していたとも考えることも可能である。

中世では、八ツ面山北部遺跡や室遺跡で溝によって区画された屋敷地跡、加美遺跡(10)では集落跡が確認されている。また、この地域には木戸城(30)、藤井城(28)、戸ヶ崎城(50)、荒川城(51)などの中世城館が多く見られるが、これらは吉良荘内の吉良氏諸将の居館である。さらに、矢作川流域は浄土真宗の盛んな地域で、対岸の本證寺(19)が膨大な門徒を掌握し、その後三河一向一揆を起こすこととなる。

近世になると矢作新川の開削作業が本格化する。慶長10(1605)年、現在の安城市木戸町から西尾市米津町までの台地を掘り割り、長さ1,300m、幅36mの新川建設が行われた。新川が西側の入海に注がれるようになると、入海は次第に埋まり新川の河口は南に延び、それに伴って干拓新田が造られていった。古新田村は、寛文5(1665)年幡豆郡西浅井村畔柳甚五兵衛の開墾に始まり当時幡豆郡浅井新田村と呼ばれていたが、寛文11(1671)年碧海郡に属し、元禄14(1701)年の岡崎藩領絵図に碧

1 古新田遺跡	2 姫小川古墳	3 王塚古墳	4 的場遺跡	5 小川三ツ塚遺跡
6 小川の場丘陵城跡	7 小川志茂城跡	8 加美古墳	9 大久根遺跡	10 加美遺跡
11 姫下遺跡	12 寄島遺跡	13 下懸遺跡	14 五反田遺跡	15 岩根城跡
16 外畑遺跡	17 大畑野遺跡	18 埴目遺跡	19 本證寺	20 前畑遺跡
21 願明遺跡	22 寺領廃寺跡	23 坂口遺跡	24 惣作遺跡	25 車場遺跡
26 西山遺跡	27 大畑遺跡	28 藤井城跡	29 木戸古城跡	30 木戸城跡
31 志貴野遺跡	32 志貴野廃寺跡	33 大郷窯跡	34 舟向山古墳	35 小島城跡
36 小島跡跡出土地	37 北裏遺跡	38 西山遺跡	39 不毛第1遺跡	40 西山古墳
41 不毛第2遺跡	42 不毛古墳	43 浅井東城跡	44 浅井西城跡	45 五砂山古墳
46 五砂山遺跡	47 志龍谷遺跡	48 志龍谷砦跡	49 八ツ面山北部遺跡	50 戸ヶ崎城跡
51 荒川城跡	52 八ツ面山西南麓遺跡群	53 小島遺跡	54 矢作古川江原橋下遺跡	55 江原城跡
56 江原遺跡	57 岡島遺跡	58 岡島古遺跡	59 上末良遺跡	60 下末良陣屋跡
61 金原古墳	62 塚越古墳	63 広田川川床D遺跡	64 室遺跡	65 室城跡
66 毘沙門遺跡	67 堂本遺跡			



第7図 古新田遺跡周辺の遺跡分布図 (1:25,000)
 (平成11年11月国土地理院発行「西尾」を一部改変)

海郡藤井村の枝村としてその名を見ることができる。元文3（1738）年に古新田村と改称されたといわれている。宝暦13（1763）年には幕府領となり赤坂代官所の支配を受けたが、明和7（1770）に岡崎藩領に戻っている。

明治12（1879）年、京都東本願寺の再建にあたって、御用瓦の製瓦場が志貴野町の旧古新田村に置かれた。敷地面積15,248㎡、窓数4基、建物24棟で、明治14（1881）年から6カ年にわたり約288,000枚の瓦が生産された。ここが製瓦地に選ばれたのは、良質の粘土が豊富であることや矢作川に沿っているため船積みにより便利であったことなどが考えられている。

（武井繁樹）

参考文献

- 小嶋廣也他 「古新田遺跡」 『平成12年度 愛知県埋蔵文化財センター年報』 (財)愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター 2001
- 鈴木とよ江 『古新田遺跡』 西尾市教育委員会 1994
- 武井繁樹他 「古新田遺跡範囲確認調査」 『平成11年度 愛知県埋蔵文化財センター年報』 (財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター 2000
- 武井 繁樹 「古新田遺跡」 『愛知県埋蔵文化財情報16 平成11年度』 愛知県教育委員会・(財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター 2001
- 「古新田遺跡」 『愛知県埋蔵文化財情報17 平成12年度』 愛知県教育委員会・(財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター 2002
- 『愛知県遺跡地図(Ⅱ) 知多・西三河地区』 愛知県教育委員会 1995
- 『西尾市史 一 自然環境・原給・古代』 西尾市史編纂委員会 1973
- 『西尾市史 二 古代・中世・近世上』 西尾市史編纂委員会 1974
- 『志貴野八幡社造営記念誌』 八幡社建設委員会 1997

第Ⅱ章 遺構



作業風景（南から）

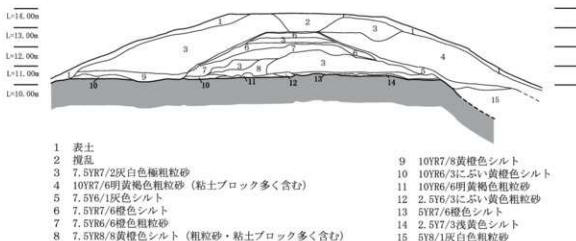
第1節 基本層序

調査区は、ほぼ東西に流れる矢作川に沿って新堤防との間に位置し、長さ約150m、幅20～40mの細長い形をしている。碧海台地の上であるが、矢作川の開削や堤防築堤によって南北両端が掘削され、調査区の範囲だけが台地状に残っているような状況であった。調査区の東側では急激な落ち込みが見られ、開削谷が広がっていたと考えられる。標高は8～12mで、調査区の西から東に向かって低くなり、北から南にかけても緩やかに傾斜しており、検出面で4m近い標高差がある。

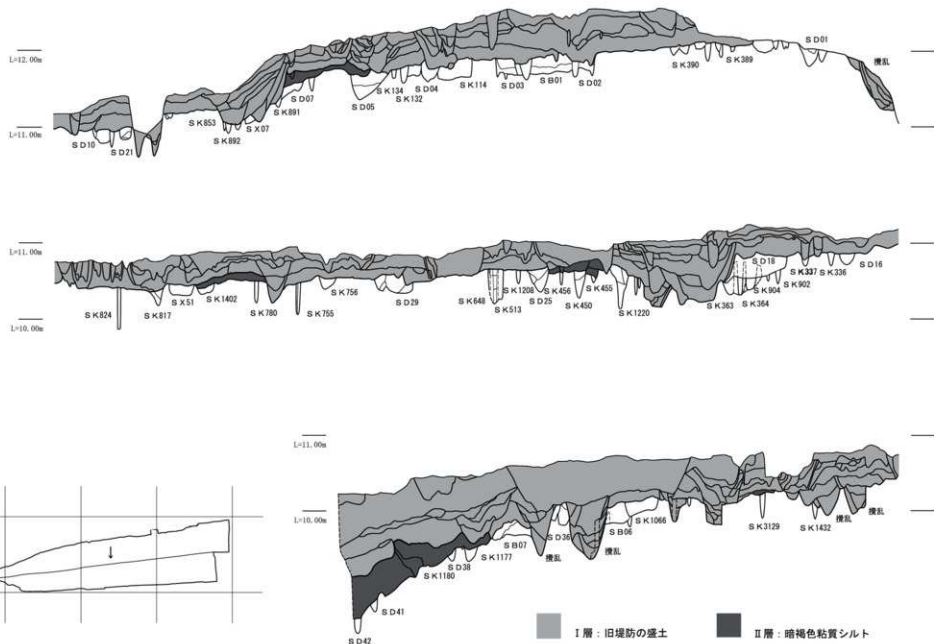
基本層序といっても明確な層序は言い難いが、大きく3層に分けられる。まず、旧堤防の盛土（I層）が確認される。試掘調査のT、T、2の断面図から砂と粘質土の互層になっていることがわかる。この堤防の中から明治以降の陶磁器類が出土していることから、明治以降に築造されたものであり、その後何回かの修復が行われていることが見て取れる。その下が基盤層である黄褐色～赤褐色粘質土層となる場合が多い。これは、堤防築堤時に削平されたものなのか、江戸時代に開削されて耕作が行われたため削られたものなのかは不明である。しかし、基盤層の低いところで褐色粘質シルト（II層）が確認され、灰釉系陶器や古代瓦が出土していることから、中世の包含層と考えられる。厚さは5～15cm程度である。残念ながらこの土層上で遺構を検出することはできなかった。また、西尾市教育委員会の調査で確認された古代の包含層と思われる土層は確認されていない。

調査区を見てみると、大きな不定形の攪乱が見られるが、これは明治時代にこの周辺にあった東本願寺の瓦を焼いた製瓦場が置かれていた時に、瓦の原料となる粘土を採掘した跡で、多くは粗い砂で埋められていた。

調査区の基本層序は以上であるが、今回の調査では発掘調査の時間的な問題や、遺跡の残存状態などから、遺構検出を各時代の生活面ではなく基盤層まで掘り下げて行っているため、記録することができなかった遺構があったことを断っておきたい。以下に、古代・中世と時代毎に遺構を報告する。



第8図 T、T、2地点旧堤防断面図（1:200）



第 9 図 基本層序模式図 (タテ:ヨコ 5:1)

第2節 古代の遺構

1. 概要

今回の調査区において古代の遺構としては、竪穴住居と思われる遺構も含めて竪穴住居が39棟、溝、土坑以外に、時期は不明ながら平安時代と考えられる掘立柱建物が23軒確認されている。時期的には連続しないが、それぞれの時期の集落の一端を確認することができた。

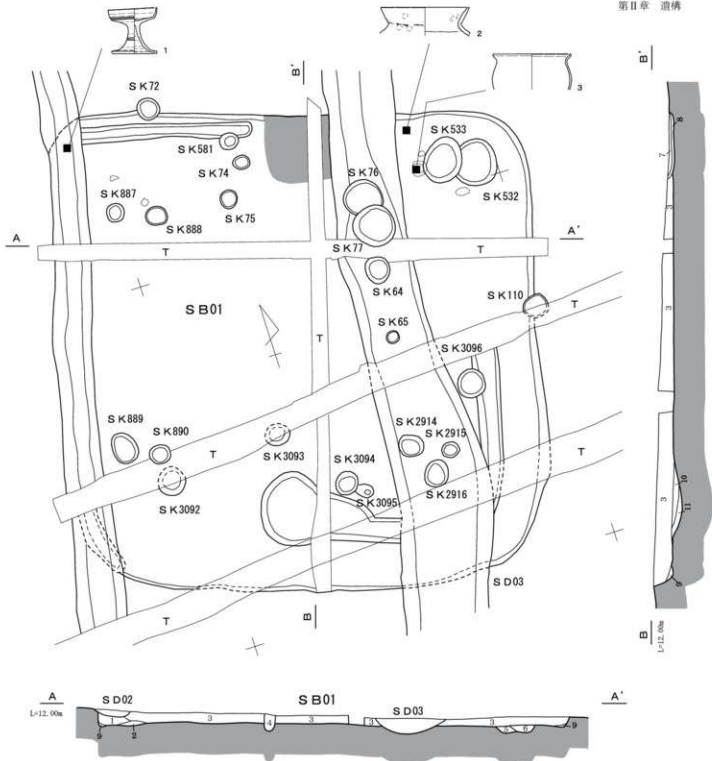
2. 竪穴住居

今回検出された住居は、疑わしいものまで含め39棟である。調査区の東側からやや集中して確認されている。検出された住居の平面プランは、隅丸方形を呈するものと隅丸長方形を呈するものが見られる。一部の住居で、主柱穴・周溝・カマド痕などの施設が確認されている。検出面から床面までの深さは数cm～30cmとかなりの差があり、これは堤防築堤までの時期に削平を受けていた可能性が考えられる。以下、個別に遺構を見ていくが、住居の主軸方向はカマド痕または焼土を有する辺の垂直二等分線と真北でつくられる角度で示した。カマド痕などが確認できない場合は、北辺を利用した。なお、SD 09、SD 65、SD 83などのL字に曲がる細く浅い溝を、削平を受けた竪穴住居の周溝の残欠と捉えることもでき、それも含めるとその数は増加する。

S B 01 調査区西端付近のグリッドVII G 7・8 d～fで検出された竪穴住居で、SX 01の南西側に位置している。中世の溝であるSD 02やSD 03に切られているが、規模は長軸647cm、短軸633cmで、1辺が6m40cm前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居である。住居の主軸方向はN-15°-Eを示している。検出面からの深さは最大22cmを測る。床面からは、主柱穴3基（SK 888、SK 2916、SK 3092）、北辺と西辺で周溝、北辺でカマド痕が確認されている。SK 532やSK 533は貯蔵穴である可能性が高い。遺物は甕などの土師器片が多いが、須恵器で岩崎17号窯様式の高杯が出土している。

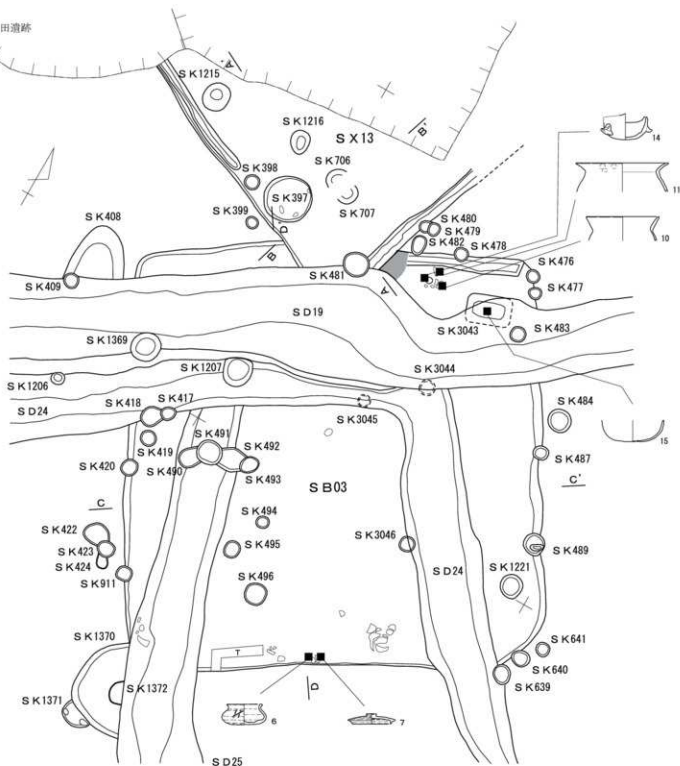
S B 02 調査区のほぼ中央のグリッドVII G 6・7 n～oで検出された竪穴住居で、SB 03の南側に位置している。中世の溝SD 19やSD 24に切れられ、攪乱を受けているため正確な規模は不明であるが、長軸推定600cm、短軸残存長293cmで、1辺が6m前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向はN-30°-Wを示すと思われる。検出面からの深さは最大17cmを測る。床面からは北辺で周溝を確認した程度である。遺物は土師器の小片以外に土師質の平瓦や、須恵器で東山15号窯様式の杯身が出土している。

S B 03 調査区のほぼ中央のグリッドVII G 5・6 o～pで検出された竪穴住居で、SB 02の東側に位置している。中世の溝SD 19・SD 24・SD 25や竪穴住居と思われるSX 13に切られているが、規模は長軸566cm、短軸531cmで、1辺が5m50cm前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向はN-30°-Wを示している。検出面からの深さは最大17cmを測る。床面からは北辺でカマドの残欠と思われる焼土や周溝の一部、貯蔵穴1基（SK 3043）を確認しているが、主柱穴は不明である。遺物は土師器の甕・甔・高杯・ミニチュア製品の他、須恵器で岩崎17号窯様式と思われる杯蓋・摘み付蓋・短頸甕などが出土している。

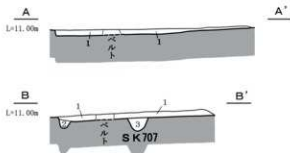


- 1 10YR5/8黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト
- 3 10YR5/6黄褐色粘質シルト (炭化物を含む、焼土ブロックを少量含む)
- 4 10YR4/4褐色シルト (炭化物を少量含む)
- 5 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト
- 6 10YR5/8黄褐色粘質シルト
- 7 7.5YR5/6明褐色粘質シルト (焼土ブロック・炭化物を多く含む)
- 8 7.5YR5/4にぶい褐色粘質シルト (炭化物を多く含む)
- 9 10YR4/6褐色粘質シルト
- 10 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む、有機分の沈着あり)
- 11 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む、有機分の沈着あり)

第10図 SB01平面図・断面図 (1:50)

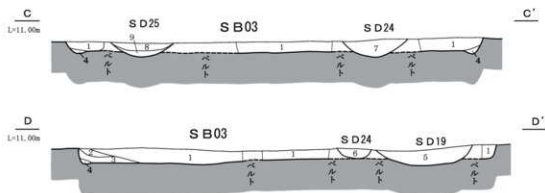


SX13



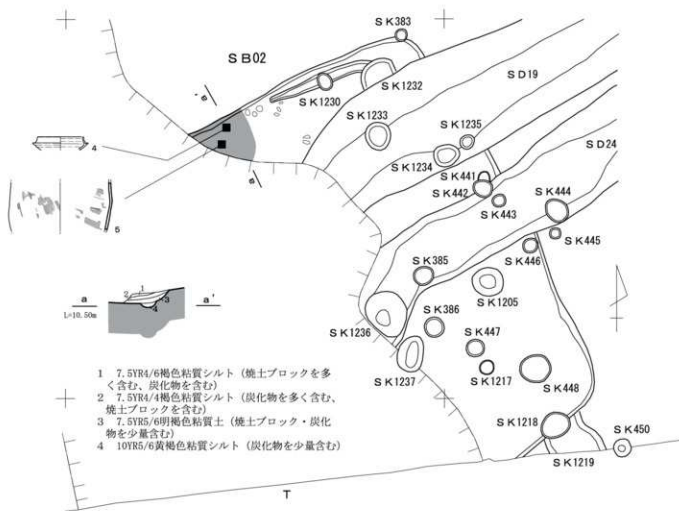
- 1 10YR4/4褐色粘質シルト (小礫・膜化物を含む、
焼土ブロックを少量含む)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫を少量含む)

第11図 SB03・SX13平面図、SX13断面図 (1:50)



- 1 10YR4/4褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (小礫・炭化物を含む)
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を含む)
- 4 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 5 10YR5/6黄褐色粘質シルト (小礫を少量含む)
- 6 10YR4/6褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 7 7.5YR4/4褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 8 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 9 10YR4/4褐色粘質シルト (小礫を少量含む)

第12図 SB03断面図 (1:50)



- 1 7.5YR4/6褐色粘質シルト (焼土ブロックを多く含む、炭化物を含む)
- 2 7.5YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を多く含む、焼土ブロックを含む)
- 3 7.5YR5/6明褐色粘質土 (焼土ブロック・炭化物を少量含む)
- 4 10YR5/6黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

第13図 SB02平面図・カマド断面図 (平1:50、断1:40)

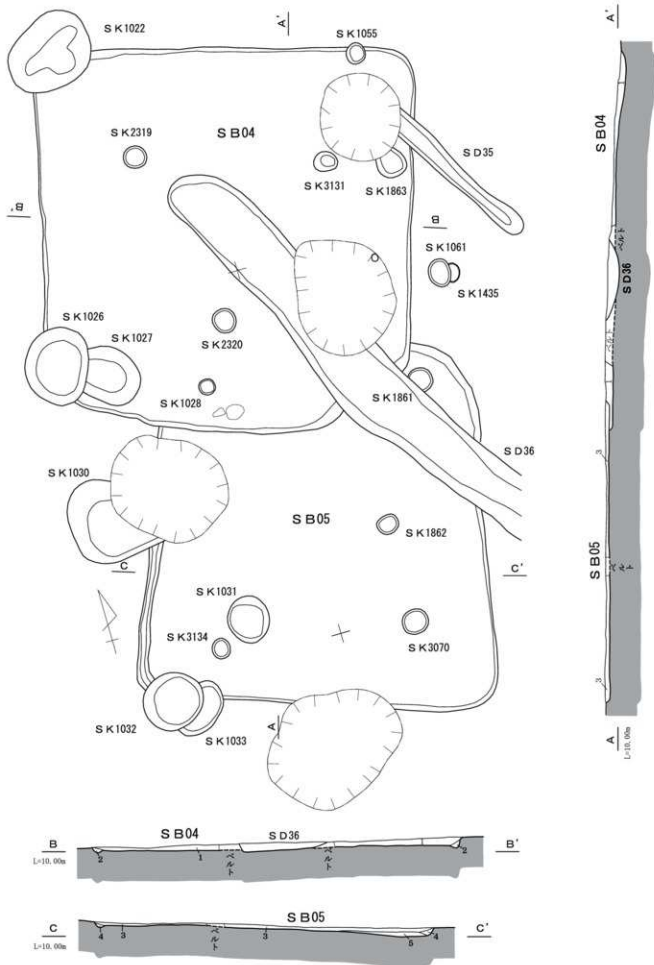
S B 04 調査区東端付近のグリッドVIIH 3・4 e～fで検出された竪穴住居で、S B 05の北側に位置している。中世の溝SD 36に切られ攪乱を受けているが、規模は長軸510cm、短軸507cmで、1辺が5 m 10cm前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居である。S B 05を切っている。住居の主軸方向はN-16°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大7 cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴2基（SK 2319・SK 3131）を確認したのみである。遺物は土師器の小片が多いが、須恵器で東山44号窯様式と思われる高杯が出土している。

S B 05 調査区東端付近のグリッドVIIH 4・5 e～fで検出された竪穴住居で、S B 04の南側に位置している。中世の溝SD 36に切られ攪乱を受けているが、規模は長軸残存長478cm、短軸476cmで、1辺が4 m 80cm前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。S B 04に切られている。住居の主軸方向はN-19°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大6 cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴3基（SK 1857・SK 1860・SK 3070）と周溝の一部を確認している。遺物はほとんどないが、遺構の切り合い関係からS B 04より古いと考えられる。

S B 06 調査区東端付近のグリッドVIIH 5・6 f～gで検出された竪穴住居で、S B 04・S B 05の南側に位置している。中世の溝SD 36などに切られているが、規模は長軸残存長426cm、短軸305cmで、東西方向にやや長い隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向はN-15°-Wを示している。検出面からの深さは最大25cmを測る。床面からは北辺でカマド痕と思われる焼土と周溝を確認している。遺物は土師器片が多く、須恵器では東山44号窯様式の高杯や高蔵寺2号窯様式の蓋などが出土し、遺構の切り合い関係からSX 34より新しいと考えられる。また、S B 06の南側で検出されているSK 3001やSD 88は、竪穴住居の周溝である可能性が高い。

S B 07 調査区東端付近のグリッドVIIH 5・6 g～hで検出された竪穴住居で、S B 06の東側に位置している。攪乱を受けているが、長軸残存長454cm、短軸296cmで、東西方向に長い隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向はN-15°-Wを示していると思われる。検出面からの深さは最大12cmを測る。床面からは北辺でカマドの残欠と思われる焼土と周溝が確認されている。遺物は土師器の小片が多く、時期を確定することはできない。また、S B 07の北側で検出されているSD 37は、竪穴住居の周溝である可能性がある。

S B 08 調査区東端付近のグリッドVIIH 7・8・9 d～eで検出された竪穴住居で、西尾市教育委員会の調査で南東隅が確認された住居（S B 10）と同一遺構である。一部は攪乱を受けているが、長軸720cm、短軸708cmで、1辺が7 m以上の隅丸方形の平面プランをもつ大型の竪穴住居である。住居の主軸方向はN-54°-Wを示している。検出面からの深さは最大30cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴3基（SK 2649・SK 2846・SK 2853）、ただし西尾市の調査で確認されているS B 10内のP 1を柱穴と考えると4基となる。貯蔵穴と考えられる土坑1基（SK 2850）、周溝、西辺でカマド痕が確認されている。遺物は甕・土鍾などの土師器片が多いが、須恵器では6世紀後半頃の高杯の杯部、岩崎7号窯様式の高杯の杯部、東山44号窯様式の高杯の脚部、6世紀後半と思われる土師器の口縁部、7世紀代の壺の底部、東山44号窯様式の杯蓋、岩崎17号窯様式と思われる返り蓋などが出土している。



- 1 7.5YR5/4にぶい褐色粘質土（小礫・炭化物を少量含む）
- 2 7.5YR5/6明褐色粘質シルト
- 3 7.5YR4/3褐色粘質シルト（小礫を含む、炭化物を少量含む）
- 4 7.5YR4/4褐色粘質シルト
- 5 7.5YR5/4にぶい褐色粘質土

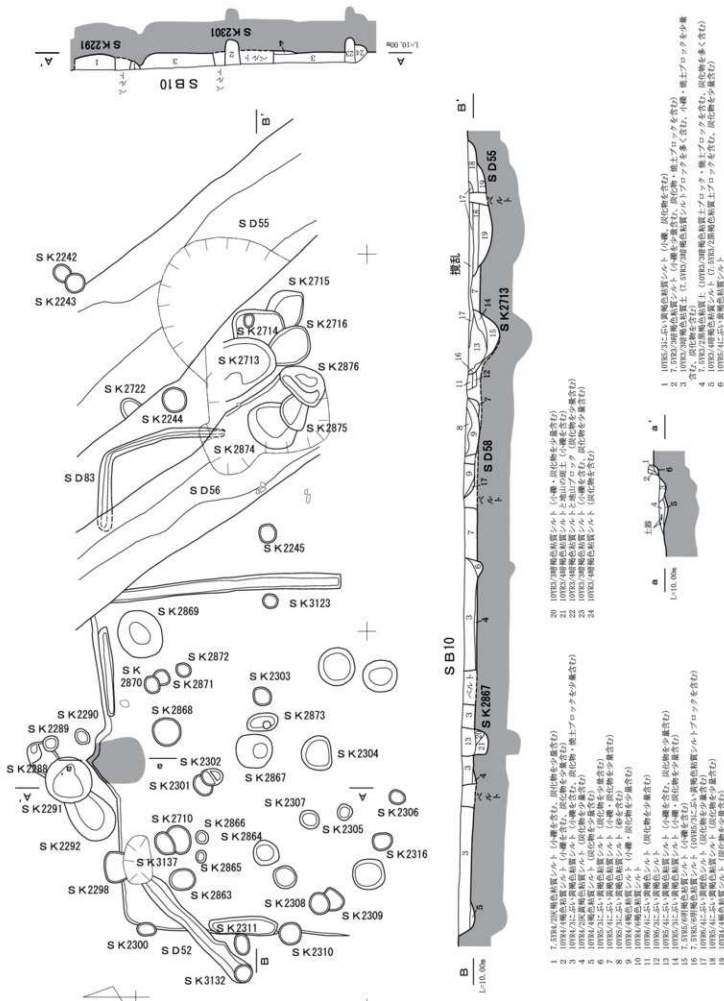
SB09 調査区のほぼ中央のグリッドVII G 8・9 p～qで検出された竪穴住居で、SB03の南側に位置している。中世の溝SD54やSB11に切られているが、規模は長軸522cm、短軸残存長408cmで、1辺が5m前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向はN-5°-Wを示していると思われる。検出面からの深さは最大20cmを測る。床面からは柱穴が多く、北辺でカマドの残欠と思われる焼土が僅かに確認されているが、不明な点が多い。遺物は甕などの土師器片が多く、須恵器では6世紀中頃と思われる杯身や高杯が出土しているが、他の遺物により時間的には7世紀代に入ると考えられる。

SB10 調査区のほぼ中央のグリッドVII G 9 o～pで検出された竪穴住居で、SB09の南西側に位置している。西尾市教育委員会の調査で南半分が確認された住居（SB16）と同一遺構である。規模は長軸483cm、短軸残存長350cm（推定480～490cm）で、1辺が4m80cm前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向はN-5°-Wを示している。検出面からの深さは最大22cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴1基（SK2710、ただし西尾市の調査で確認されているSB16内のP1を柱穴と考えると2基となる）、貯蔵穴と思われる土坑1基（SK2869）、周溝、北辺でカマド痕が確認された。遺物としては製塩土器と考えられる杯部や甕などの土師器片が多く、須恵器では東山44号窯様式の埴輪などが出土している。また、SB10周辺で検出されているSD52やSD83は、竪穴住居の周溝の可能性が高いと思われる。

SB11 調査区のほぼ中央のグリッドVII G 8 o～pで検出された竪穴住居で、SB09の西側に位置している。中世の溝SD55やSD56に切られているが、SK2273も住居の一部と捉えたと、規模は長軸残存長578cm、短軸残存長542cmで、1辺が5m50cm前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向はN-30°-Wを示していると思われる。検出面からの深さは最大18cmを測る。床面からは何も確認されなかった。遺物は甕・瓶などの土師器片が多いが、須恵器で7世紀代と思われる短頸壺片が出土している。

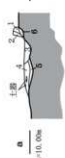
SB12 調査区東端付近のグリッドVII H 6 eで検出された竪穴住居である。複数の竪穴住居が重複していたため、SX30という番号を付けて掘削し最終的にSB12・SB13・SB14・SX53という4つの竪穴住居を確認した。SB12はその中で西側に位置している。視乱を受けSB13に切られているため正確な規模・平面プランは不明である。住居の主軸方向はN-24°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大4cmを測るのみである。床面からは遺構は確認されていない。遺物は甕・瓶などの土師器片、須恵器では東山15号窯様式から岩崎17号窯様式までと思われる杯蓋などが出土している。

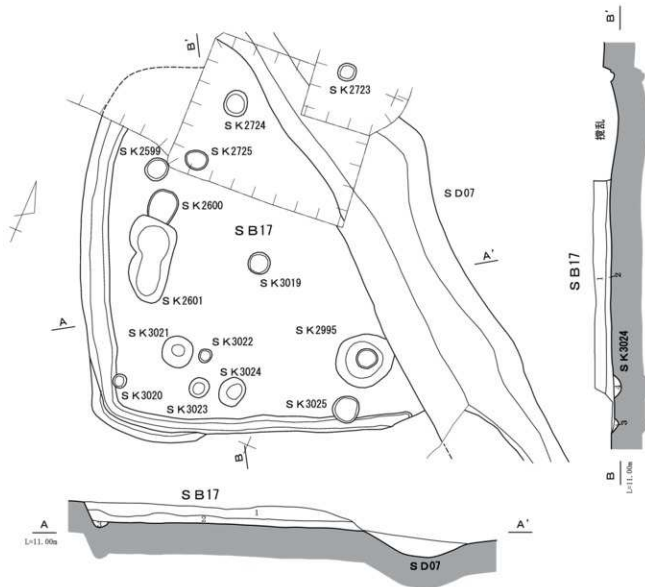
SB13 調査区東端付近のグリッドVII H 6・7 e～fで検出した竪穴住居で、SB12と同様SX30の中で確認された住居の1つで、SB12の東側に位置している。規模は長軸711cm、短軸495cmで、南北方向にやや長い隅丸長方形の平面プランをもつやや大型の竪穴住居である。住居の主軸方向はN-60°-Wを示している。検出面からの深さは最大21cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴2基（SK2830・SK2835）、貯蔵穴と思われる土坑1基（SK3830）、西辺で周溝の一部とカマド痕が確認されている。遺物はカマド痕から鍋や土鍾、甕・瓶などの土師器片の他に、須恵器で岩崎17号窯様式の埴輪が出土しており、4棟の竪穴住居の中で一番新しいことがわかる。



第16図 SB10平面図・断面図、カマド断面図 (平・断1:50、カ1:40)

- 1 10783/4(黄褐色粘質シルト、(小礫・炭化物を少量含む)
 - 2 10783/5(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 3 10783/6(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 4 10783/7(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 5 10783/8(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 6 10783/9(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 7 10783/10(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 8 10783/11(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 9 10783/12(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 10 10783/13(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 11 10783/14(黄褐色粘質シルト、(炭化物を少量含む)
 - 12 10783/15(黄褐色粘質シルト、(炭化物を少量含む)
 - 13 10783/16(黄褐色粘質シルト、(炭化物を少量含む)
 - 14 10783/17(黄褐色粘質シルト、(炭化物を少量含む)
 - 15 10783/18(黄褐色粘質シルト、(炭化物を少量含む)
 - 16 7.53B3/1(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 17 7.53B3/2(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 18 7.53B3/3(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 19 7.53B3/4(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 20 10783/1(黄褐色粘質シルト、(小礫・炭化物を少量含む)
 - 21 10783/2(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 22 10783/3(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 23 10783/4(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
 - 24 10783/5(黄褐色粘質シルト、(炭化物を少量含む)
- 1 10783/15(黄褐色粘質シルト、(小礫・炭化物を少量含む)
- 2 7.53B3/1(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
- 3 7.53B3/2(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
- 4 7.53B3/3(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
- 5 7.53B3/4(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
- 6 10783/1(黄褐色粘質シルト、(小礫・炭化物を少量含む)
- 7 10783/2(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
- 8 10783/3(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
- 9 10783/4(黄褐色粘質シルト、(小礫を少量含む)
- 10 10783/5(黄褐色粘質シルト、(炭化物を少量含む)



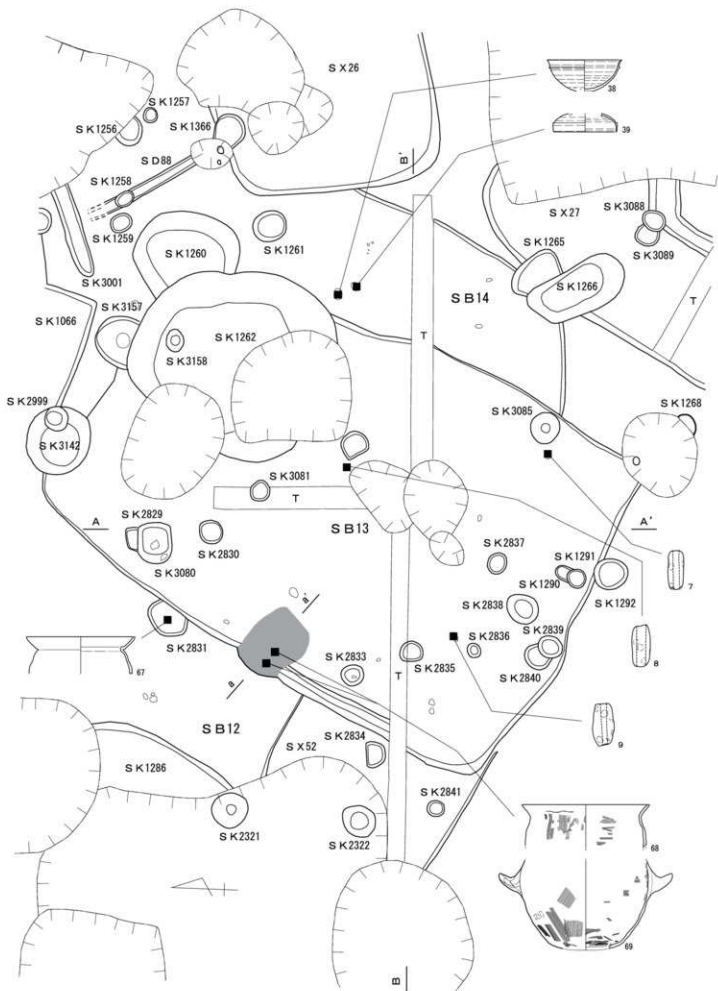


- 1 7.5YR4/4褐色粘質土 (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 2 7.5YR3/4暗褐色粘質土 (小礫を少量含む、炭化物を含む)
- 3 10YR4/4褐色粘質シルト
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)

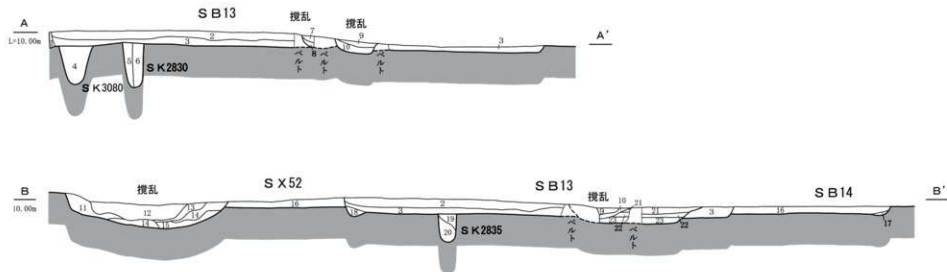
第17図 SB17平面図・断面図 (1:50)

SB14 調査区東端付近のグリッドVII H 6・7 fで検出された竪穴住居で、SB12・SB13と同様SX30の中で確認された住居の1つで、SB13の東側に位置している。SB13やSX26に切られているため、正確な規模・平面プランは不明である。住居の主軸方向も不明で、検出面からの深さは最大10cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴1基 (SK1261) が確認されたのみである。遺物は土師器片が多いが、須恵器で東山44号窯様式の高杯の杯部や杯蓋が出土している。

SB16 調査区西端付近のグリッドVII G 8・9 e~fで検出された竪穴住居で、SB01の南側に位置している。中世の溝SD03やSB01に切られているが、規模は長軸494cm、短軸残存長407cmで、1辺が5m弱の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居であると想定される。住居の主軸方向はN-4°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大5cmを測るのみである。床面からは遺構は確認されていない。遺物は甕などの土師器片が僅かに出土したのみで時期は不明であるが、遺構の切り合い関係からSB01よりも古いと考えられる。



第18图 SB12·SB13·SB14平面图 (1:50)



- 1 7.5YR4/6褐色粘質土
- 2 7.5YR4/3褐色粘質シルト (小礫・炭化物を含む)
- 3 7.5YR4/4褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 4 7.5YR4/4褐色粘質シルトと地山ブロック (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 5 7.5YR5/4にぶい褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 6 7.5YR5/3にぶい褐色粘質シルト
- 7 10YR4/3にぶい黄褐色シルト (小礫・炭化物を少量含む、砂を含む)
- 8 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 9 2.5Y5/3黄褐色シルトと2の斑土
- 10 10YR4/4褐色粘質シルトと地山のブロック
- 11 10YR5/6黄褐色粘質シルト (小礫を少量含む)
- 12 10YR4/3にぶい黄褐色シルト (10YR5/6黄褐色粘質シルトブロックを含む)
- 13 10YR4/4褐色粘質シルトと地山の斑土 (砂を含む)
- 14 2.5Y5/3黄褐色シルトと地山の斑土 (砂を含む)
- 15 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと地山のブロック (砂を含む)
- 16 7.5YR4/3褐色粘質シルト
- 17 7.5YR5/3にぶい褐色粘質シルト
- 18 7.5YR5/4にぶい褐色粘質シルト
- 19 7.5YR5/3にぶい褐色粘質シルト (小礫を含む)
- 20 7.5YR4/3褐色粘質シルト (炭化物を含む)
- 21 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 22 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと2.5Y5/3黄褐色シルトの斑土
- 23 10YR4/4褐色粘質シルトと地山ブロック



- 1 7.5YR5/3にぶい褐色粘質シルト (焼土ブロックを多く含む、炭化物を含む)
- 2 7.5YR4/2灰褐色粘質シルト (焼土ブロック・炭化物を多く含む)
- 3 10YR4/4褐色粘質シルト (焼土ブロック・炭化物を含む)
- 4 7.4YR4/3褐色粘質シルト (焼土ブロック・炭化物を含む)

第19図 SB12・SB13・SB14断面図、SB13カマド断面図 (断1:50、カ1:40)

S B 17 調査区の西側付近のグリッドVII G 9・10 i～jで検出された竪穴住居で、S B 16の南東側に位置している。攪乱を受け中世の溝S D 07に切られているが、規模は長軸推定492cm、短軸残存長421cmで、1辺が5m弱の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向はN-26°-Wを示していると思われる。検出面からの深さは最大28cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴1基(S K 3021)、西辺・南辺で周溝が確認されている。遺物は甕などの土師器片が多いが、須恵器では岩崎17号窯様式の杯身が出土している。

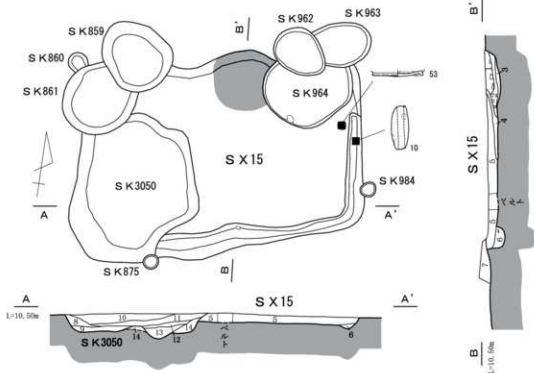
S X 01 調査区西端付近のグリッドVII G 6・7 e～fで検出された竪穴住居と思われる遺構で、S B 01の北東側に位置している。中世の溝S D 03に切られているが、規模は長軸残存長368cm、短軸352cmで、やや不定形ではあるが1辺が3m 50cm前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向はN-5°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大15cmを測る。床面からは何も確認されなかった。遺物は僅かに小片が見られる程度であるが、土師質の土鍾や須恵器では岩崎17号窯様式の有台杯が出土している。

S X 11 調査区のほぼ中央のグリッドVII G 6・7 lで検出された竪穴住居で、S B 02の東側に位置している。中世の溝S D 16に切られているが、規模は長軸残存長327cm、短軸残存長194cmで、1辺が4m前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸はN-2°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大16cmを測る。床面からは遺構は確認されていない。遺物は甕などの土師器片以外に、須恵器で7世紀代と思われる埴瓶の破片が出土している。

S X 13 調査区のほぼ中央のグリッドVII G 5 o～pで検出された竪穴住居と思われる遺構で、S B 03の北側に位置している。住居の大半が攪乱を受けていることから正確な規模は不明であるが、長軸残存長388cm、短軸残存長330cmで、隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向は南辺からN-26°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大6cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴1基(S K 706かS K 707)と周溝が確認された程度である。遺物は土師器の小片が多く不明であるが、遺構の切り合い関係からS B 03より新しい時期が考えられる。

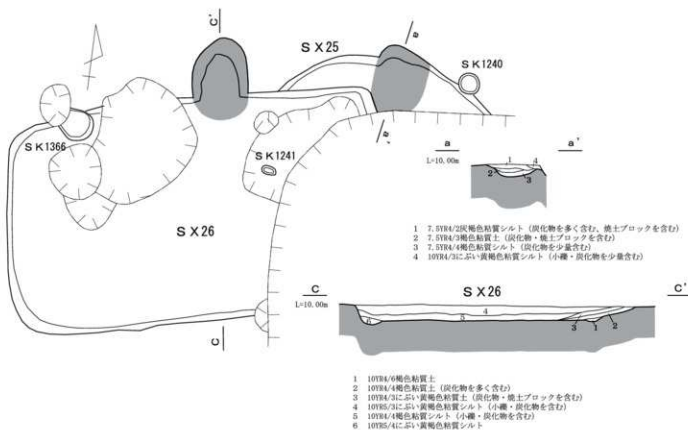
S X 15 調査区東側のグリッドVII G 5・6 b～cで検出された竪穴住居で、S B 04・S B 05の西側に位置している。後世の遺構に切られているが、規模は長軸392cm、短軸258cmで、東西方向にやや長い隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴住居である。住居の主軸方向はN-10°-Wを示している。検出面からの深さは最大15cmを測る。床面からは東辺・南辺で周溝、北辺でカマド痕が確認されている。遺物は土鍾などの土師器片以外に、須恵器で高蔵寺2号窯様式の有台杯や8世紀後半と思われる平瓶の胴部が出土している。

S X 17 調査区東端付近のグリッドVII H 3・4 f～gで検出された竪穴住居と思われる遺構で、S B 04・S B 05の東側に位置している。後世の遺構に切られているが、長軸242cm、短軸192cmで、東西方向にやや長い隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向はN-19°-Wを示していると思われる。検出面からの深さは最大11cmを測る。床面からは遺構は確認されていない。遺物は須恵器の小片のみで、時期を決定することができない。規模が小さいので、他の住居とは性格を異にする可能性もある。



- 1 7.5YR6/4にぶい・褐色粘質シルト (炭化物・大きな焼土ブロックを含む)
- 2 7.5YR5/2明褐色粘質シルト (炭化物を多く含む、焼土ブロックを少量含む)
- 3 7.5YR4/6褐色粘質シルト
- 4 7.5YR5/4にぶい・褐色粘質シルト
- 5 7.5YR6/6明褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 6 7.5YR6/4にぶい・褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 7 10YR5/4にぶい・黄褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 8 7.5YR4/4褐色粘質シルト (10YR5/3にぶい・黄褐色粘質シルトブロックを含む、小礫・炭化物を少量含む)
- 9 7.5YR4/3褐色粘質土 (小礫・炭化物を多く含む)
- 10 10YR5/3にぶい・黄褐色粘質シルト (小礫を含む)
- 11 10YR4/3にぶい・黄褐色粘質シルト
- 12 7.5YR5/3にぶい・褐色粘質土 (小礫・炭化物を少量含む)
- 13 7.5YR4/3褐色粘質土 (小礫・炭化物を多く含む)
- 14 7.5YR4/4褐色粘質土 (小礫・炭化物を少量含む)

第20図 SX15平面図・断面図 (1:50)



- 1 7.5YR4/2灰褐色粘質シルト (炭化物を多く含む、焼土ブロックを含む)
- 2 7.5YR4/3褐色粘質土 (炭化物・焼土ブロックを含む)
- 3 7.5YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 4 10YR4/3にぶい・黄褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)

- 1 10YR4/6褐色粘質土
- 2 10YR4/4褐色粘質土 (炭化物を多く含む)
- 3 10YR4/3にぶい・黄褐色粘質土 (炭化物・焼土ブロックを含む)
- 4 10YR5/3にぶい・黄褐色粘質シルト (小礫・炭化物を含む)
- 5 10YR4/4褐色粘質シルト (小礫・炭化物を含む)
- 6 10YR5/4にぶい・黄褐色粘質シルト

第21図 SX25・SX26平面図、SX26断面図、SX25カマド断面図 (平・断1:50、カ1:40)

S X 24 調査区東端付近のグリッドVII G 2 f ~ g で検出された竪穴住居で、SB 04・SB 05の北東側に位置している。住居の大半は調査区外で大きく削平を受けているため、南辺を確認するにとどまっている。規模・平面プランなどは不明であるが、検出面からの深さは最大23cmを測る。出土遺物はなく時期を確定することはできないが、遺構埋土などから古代の遺構である可能性が高いと考えられる。

S X 25 調査区東端付近のグリッドVII H 6 g で検出された竪穴住居で、SB 07の南側に位置している。住居の大半はS X 26や攪乱で削平されているため北辺が確認されたにとどまっている。正確な規模は不明であるが、東西方向にやや長い隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向も不明で、検出面からの深さは最大9 cmを測る。床面からは北辺でカマド痕が確認されている。出土遺物はなく時期は不明であるが、遺構の切り合い関係からS X 26より古い住居であることがわかる。

S X 26 調査区東端付近のグリッドVII H 6 f ~ g で検出された竪穴住居で、S X 25の西側に位置している。住居の大半は攪乱により切られているが、規模は長軸492cm、短軸373cmで、東西方向にやや長い隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴住居である。住居の主軸方向はN-12°-Wを示している。検出面からの深さは最大28cmを測る。床面からは北辺でカマド痕のみが確認されている。遺物は甕などの土師器片の他に、須恵器では6世紀後半と思われる有蓋高杯の杯部が出土している。

S X 27 調査区東端付近のグリッドVII H 7・8 f ~ g で検出された竪穴住居で、S X 26の南側に位置している。攪乱を受けているが、規模は長軸556cm、短軸468cmで、東西方向にやや長い隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴住居である。住居の主軸方向はN-27°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大16cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴1基(S K 3087)のみ確認されている。遺物は甕などの土師器片の他に、須恵器では7世紀代と思われる土師器の胎部が出土している。

S X 28 調査区東端付近のグリッドVII H 7・8 f ~ g で検出された竪穴住居で、S X 27の南側に位置している。隣接するS X 26と西尾市教育委員会の調査で検出された住居(S B 11)により切られ、攪乱を受けているが、規模は長軸残存長572cm、短軸残存長383cmで、1辺が5 m 70cm前後の隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向は南辺からN-31°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大15cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴1基(S K 3094)と周溝が確認されている。遺物は甕などの土師器片の他に、須恵器では6世紀後半と思われる高杯の杯部や東山15号窯様式の台付長頸壺などが出土している。なお、第40図の45の土師器・甕は西尾市教育委員会の調査で検出された住居(S B 11)のカマド痕から出土した遺物である可能性もある。

S X 29 調査区東端付近のグリッドVII H 8・9 e ~ f で検出された竪穴住居で、S X 28の南西側に位置している。隣接するS X 28や西尾市教育委員会の調査で検出された住居(S B 11)に切られているが、規模は長軸残存長634cm、短軸残存長180cmで、南北方向にやや長い隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向はN-17°-Eを示すと思われる。検出面からの深さは最大20cmを測る。床面からは周溝が確認されている。出土遺物はなく時期は不明である

が、遺構の切り合い関係からSX 28より古い住居と考えられる。

SX 31 調査区東側のグリッドVII H 6・7 c～dで検出された竪穴住居で、SB 08の北西側に位置している。北半部分を覆乱により失っているが、規模は長軸498cm、短軸残存長323cmで、1辺が5m前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向は南辺からN-33°-Eを示すと思われる。検出面からの深さは最大23cmを測る。床面からは主柱穴と思われる柱穴1基(SK 3078)が確認されただけである。遺物は土鍾・甕などの土師器の他に、須恵器で東山44号窯様式の蓋、東山50号窯様式の杯身、岩崎17号窯様式の短頸壺などが出土している。

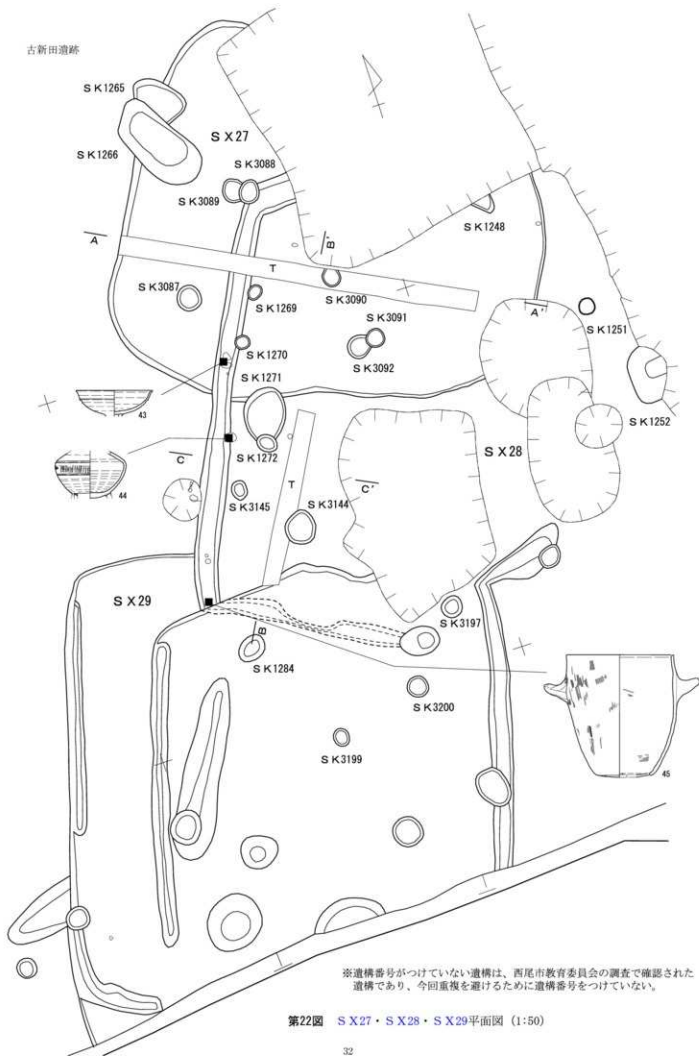
SX 34 調査区東端付近のグリッドVII H 5 fで検出された竪穴住居と思われる遺構で、SB 06の北側に位置している。中世の溝SD 36やSB 06に切られ正確な規模は不明であるが、SK 1063もその一部と捉えると長軸残存長326cm、短軸残存長173cmで、隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向はN-10°-Wを示していると思われる。検出面からの深さは最大10cmを測る。床面では、SK 1063の北辺でカマドの残欠と思われる焼土が確認されている。遺物は小片が多いが、岩崎17号窯様式の杯蓋が出土している。

SX 44 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 8・9 q～rで検出された竪穴住居と思われる遺構で、SB 09・SB 10の東側に位置している。中世の溝SD 25に切られているが、規模は長軸247cm、短軸243cmで、1辺が2m 50cm前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向はN-25°-Wを示している。検出面からの深さは最大26cmを測る。床面からは土坑2基が確認されたのみであり、住居ではない可能性もある。遺物は土鍾・甕などの土師器の他に、須恵器で杯蓋が出土しているが時期は不明である。

SX 45 調査区のほぼ中央のグリッドVII G 8 mで検出された竪穴住居と思われる遺構で、SX 11の南東側に位置している。中世の溝SD 60に切られているが、規模は長軸400cm、短軸残存長175cmで、南北方向にやや長い不定長方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向は南辺からN-61°-Wを示すと思われる。検出面からの深さは最大17cmを測る。床面からは土坑が数基確認されたのみで、住居ではない可能性もある。遺物は土鍾・甕などの土師器の他に、須恵器で東山44号様式の杯身、岩崎17号窯様式の杯や高杯の破片が出土している。

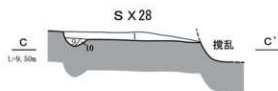
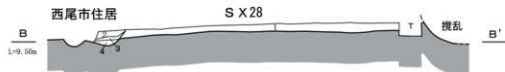
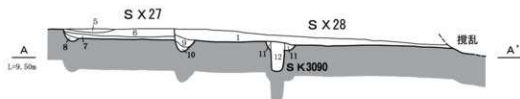
SX 46 調査区のほぼ中央のグリッドVII G 8・9 mで検出された竪穴住居と思われる遺構で、SX 45の南側に位置している。中世の溝SD 60に切られているが、規模は長軸235cm、短軸残存長215cmで、1片が2m 40cm前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と推定される。住居の主軸方向はN-50°-Wを示している。検出面からの深さは最大12cmを測る。床面からは土坑1基が確認されたのみで、住居ではない可能性がある。出土遺物は甕などの土師器の小片が多く、時期は不明である。

SX 48 調査区西端付近のグリッドVII G 8・9 cで検出された竪穴住居と思われる遺構で、SB 01の南西側に位置している。住居の北半部分は検出することができなかったが、規模は長軸残存長324cm、短軸残存長215cmで、1辺が4m前後の隅丸方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向は南辺からN-32°-Wを示すと思われる。検出面からの深さは最大13cmを測る。床面からは土坑2基が確認されたのみである。出土遺物はなく時期は不明である。



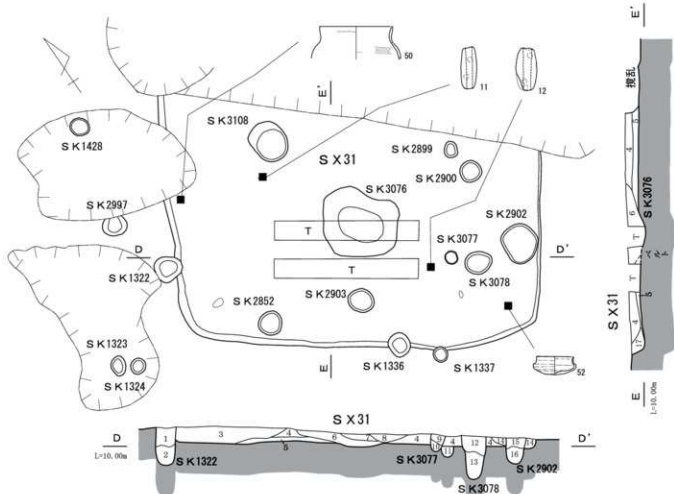
※遺構番号がついていない遺構は、西尾市教育委員会の調査で確認された遺構であり、今回重複を避けるために遺構番号をつけていない。

第22図 SX27・SX28・SX29平面図 (1:50)



- 1 7.5YR4/4褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物・焼土ブロックを少量含む)
- 2 10YR4/4褐色粘質シルトと焼土ブロック
- 3 10YR4/4褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 4 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトと地山の硬土
- 5 7.5YR4/3褐色粘質シルトと焼土ブロック
- 6 7.5YR4/3褐色粘質シルト (小礫・焼土ブロックを含む、炭化物を多く含む)
- 7 7.5YR5/3にぶい褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 8 7.5YR5/3にぶい褐色粘質シルト
- 9 7.5YR5/4にぶい褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 10 7.5YR5/4にぶい褐色粘質シルトと焼土ブロック
- 11 7.5YR4/6褐色粘質シルト
- 12 7.5YR3/4暗褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

第23図 SX27・SX28断面図 (1:50)



- 1 7.5YR3/4暗褐色粘質シルトと7.5YR4/4褐色粘質シルトの硬土 (小礫・炭化物を少量含む)
- 2 7.5YR4/3褐色粘質シルトと焼土ブロック
- 3 7.5YR3/3暗褐色粘質シルトと7.5YR4/3褐色粘質シルトの硬土 (炭化物を少量含む)
- 4 7.5YR4/3褐色粘質シルト (小礫・炭化物を含む)
- 5 7.5YR4/4褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 6 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
- 7 10YR5/4にぶい黄褐色シルト (7.5YR4/4褐色粘質シルトブロックを含む)
- 8 7.5YR4/4褐色粘質シルト (10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトブロックを含む)

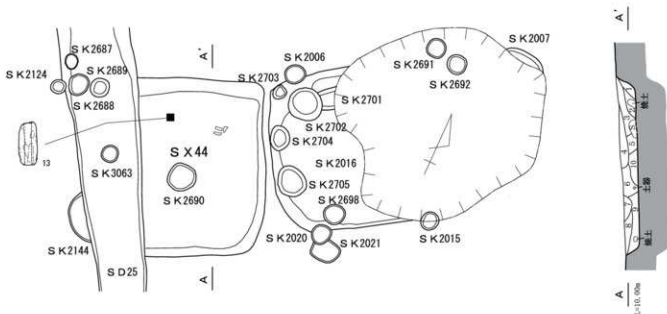
- 9 10YR4/6褐色粘質シルトと10YR3/4暗褐色粘質シルトの硬土 (小礫を含む)
- 10 10YR3/4暗褐色粘質シルトと地山ブロック
- 11 10YR4/4褐色粘質シルト
- 12 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR3/3暗褐色粘質シルトの硬土 (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 13 10YR3/3暗褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 14 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 15 10YR4/4褐色粘質シルト (10YR3/3暗褐色粘質シルトブロックを含む)
- 16 10YR3/3暗褐色粘質シルト
- 17 7.5YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

第24図 SX31平面図・断面図 (1:50)

S X 50 調査区中央やや西寄りのグリッドVII G 8・9 j で検出された竪穴住居で、SB 17の東側に位置している。擾乱を受け中世の溝SD 07・SD 70に切られているが、規模は長軸634cm、短軸残存長228cmで、やや東西に長い隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向は周溝からN-36°-Wと示すと思われる。検出面からの深さは最大5cmを測るのみである。床面からは土坑が数基、周溝、北辺でカマド痕が確認されたが、不明な点が多い。遺物は甕・高杯などの土師器の他に、須恵器で6世紀後半と思われる高杯の脚部が出土している。また、南側で確認されたSD 67・SD 68・SD 69は、その形状から竪穴住居の周溝である可能性が高い。

S X 51 調査区東側のグリッドVII G 6 t・VII H 6 a で検出された竪穴住居と思われる遺構で、S X 15の南西側に位置している。北西隅のみ確認されているため、土坑となる可能性もある。規模は長軸残存長283cm、短軸残存長281cmで、検出面からの深さは最大7cmを測る。出土遺物はなく時期は不明である。また、北側で検出されているSD 47は、幅が細くL字状に曲がるため、竪穴住居の周溝である可能性が高い。

S X 52 調査区東端付近のグリッドVII H 7 d～e で検出された竪穴住居と思われる遺構で、SB 08とSB 13の間に位置している。住居といっても北西隅のみが確認されたのみで、規模は長軸残存長312cm、短軸残存長224cmで、隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴住居と想定される。住居の主軸方向はN-12°-Wを示していると思われる。検出面からの深さは最大19cmを測る。床面からは北辺で周溝が確認されている。出土遺物はなく時期は不明であるが、遺構の切り合い関係からSB 08・SB 13より古いと考えられる。



- 10YK3/3暗褐色粘質シルト (10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトブロック・焼土ブロック・炭化物を少量含む)
- 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土 (炭化物塊・焼土塊を含む、10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトブロック・炭化物を少量含む)
- 10YK3/3暗褐色粘質シルト (10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトブロック・炭化物を含む)
- 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと地山ブロック (小礫・炭化物・焼土ブロックを少量含む)
- 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物・焼土ブロックを少量含む)
- 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土 (炭化物・焼土ブロックを少量含む)
- 10YK3/4暗褐色粘質シルト (炭化物を含む)
- 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物・10YR4/4褐色粘質シルトブロックを含む)
- 10YR4/4褐色粘質シルトと地山ブロック (炭化物・焼土ブロックを少量含む)
- 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物・焼土ブロックを含む)

第25図 SX 44平面図・断面図 (1:50)

S X 53 調査区東端付近のグリッドVII H 6・7 d～eで検出された竪穴住居と思われる遺構で、S X 30の中で確認された4棟の住居の中の1棟である。攪乱を受けSB 12・SB 13に切られているため、一部を確認したのみで規模は不明である。住居の主軸方向は南辺からN-28°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大11cmを測る。床面から遺構は確認されていない。出土遺物がないため時期は不明であるが、遺構の切り合い関係からSB 12・SB 13より古い住居であると考えられる。

S K 1532 調査区東端付近のグリッドVII H 9 b～cで検出された竪穴住居で、SB 08の南西側に位置している。住居といっても北辺端を確認しただけであるが、西尾市教育委員会の調査で検出された住居(SB 02)の一部にあたる。住居の主軸方向はN-21°-Eを示していると思われる。検出面からの深さは最大25cmを測る。床面からは土坑敷基と周溝が確認されている。出土遺物は土師器片が僅かで時期は不明であるが、西尾市教育委員会の調査で検出された住居SB 02(東山44号窯様式)と同一の時期と考えられる。

S K 2470 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 9・10 l～mで検出された竪穴住居と思われる遺構で、S X 50の南東側に位置している。SD 65を周溝と考えることができるが、住居の大半が調査区外になるため規模は不明である。住居の主軸方向はN-38°-Wを示すと思われる。検出面からの深さは最大9cmを測る。床面から遺構は確認されておらず出土遺物もないため、時期は特定できない。なお、西尾市教育委員会の調査でもこの地点では住居が検出されていないことから、住居ではない可能性もある。

3. 溝

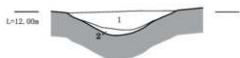
調査区で確認されている溝の中で、確実に時期を古代と言い切れるものは少ない。前述のように、溝の中には幅が細くL字状に曲がるものがあり、竪穴住居の周溝と考えられるものもある。しかしそれ以外の溝では、須恵器や土師器しか出土していないため、中世の遺構に含めることもできない。中世の遺構である可能性を含みながら、ここで紹介する。なお、遺物編ではその他の遺構出土として紹介した。

S D 01 調査区西端のグリッドVII G 8・9 aで検出された溝で、幅70～136cmで、検出面からの深さは最大32cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-8°-Eを示している。出土遺物は須恵器・土師器の小片が多く、時期を決定できない。

S D 06 調査区西端付近のグリッドVII G 6 h・iで検出された溝で、中世の溝SD 07に切られている。幅40～70cmで、検出面からの深さは最大12cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-51°-Wを示している。遺物は須恵器や古代瓦の小片が多く時期を決めたいが、須恵器で岩崎17号窯様式の有台杯が出土している。SD 12と同一の遺構である可能性がある。

S D 12 調査区西端付近のグリッドVII G 7 i・jで検出された溝で、中世の溝SD 07に切られている。幅35～50cmで、検出面からの深さは最大11cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-42°-Wを示している。出土遺物は小片で量も少なく、時期は不明である。SD 06と同一の遺構である可能性があるが、中世の溝SD 63とも同一である可能性も考えられ、不明な点が多い。

S D 01



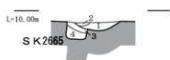
- 1 10YR4/4褐色粘質シルト (小礫を含む、有機分の沈着あり)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (有機分の沈着あり)

S D 12



- 1 10YR4/6褐色粘質シルト (小礫を含む)

S D 49



- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を含む)
- 3 7.5YR4/4褐色粘質シルト (4のブロックを含む)
- 4 10YR4/4褐色粘質シルト

S D 70



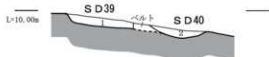
- 1 7.5YR5/明褐色粘質シルト
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト

S D 06



- 1 10YR4/4褐色粘質シルト (小礫を含む)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (有機分の沈着あり)
- 3 10YR5/6黄褐色粘質シルト (有機分の沈着あり)

S D 39・40



- 1 10YR5/6黄褐色粘質シルト (小礫を少量含む)
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト (小礫・炭化物を少量含む)

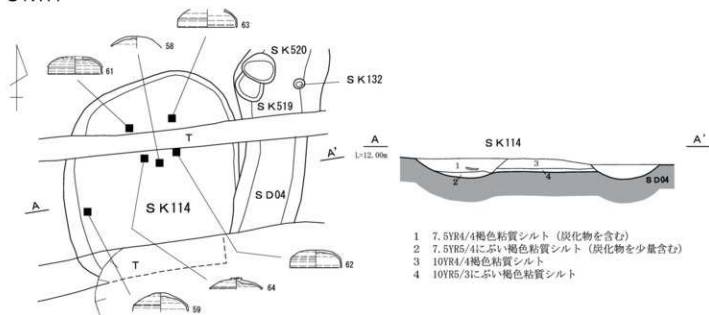
S D 64



- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む、有機分の沈着あり)
- 2 7.5YR5/6明褐色砂質土

第27図 古代の溝断面図 (1:50)

S K 114



- 1 7.5YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を含む)
- 2 7.5YR5/4にぶい褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 3 10YR4/4褐色粘質シルト
- 4 10YR5/3にぶい褐色粘質シルト

第28図 古代の土坑平面図・断面図① (1:50)

SD 40 調査区東端のグリッドVIIH 1～3 h・i で検出された溝で、台地端部に位置している。幅38～89cmで、検出面からの深さは最大20cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-26°-Nを示している。出土遺物は須恵器小片が僅かで時期を決定できない。周辺に位置するSD 39・SD 41からは遺物が出土していないが、遺構の切り合い関係から古代と考えられる。また、SD 42も遺物が出土していないが、その方向などからこの時期とみられる。

SD 49 調査区東端付近のグリッドVIIH 8・9 b で検出された溝で、竪穴住居と思われる遺構SK 1532を切っている。幅40～77cmで、検出面からの深さは最大25cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-23°-Wを示している。出土遺物が僅かで時期は決定できないが、遺構の切り合い関係から竪穴住居より新しいと考えられる。

SD 64 調査区中央やや西寄りのグリッドVII G 9・10 1 で検出された溝で、竪穴住居と想定される遺構SK 2470を切っている。幅90～106cmで、検出面からの深さは最大21cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-41°-Wを示している。出土遺物は僅かで時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から竪穴住居より新しいと考えられる。

SD 70 調査区西半のグリッドVII G 9・10 j～l で検出された溝で、中世の溝SD 71の東側に位置している。幅56～95cmで、検出面からの深さは最大21cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-54°-Wを示している。出土遺物は土師器小片があるのみで、時期は決定できない。

4. 土坑

調査区からは多くの土坑が検出されているが、その多くは性格が明らかになっていない。大型の土坑以外の大半は、平安時代以降の掘立柱建物の柱穴（今回の調査では、柱穴とそれ以外の土坑を区別せずSK番号を付けている。）であると思われるが、これも確証があるものではない。掘立柱建物についてはまとめて後述する（第4節その他の遺構）ことにし、ここでは、遺物実測図を掲載した遺構を中心に紹介する。

SK 114 調査区西端のグリッドVII G 8 f で検出された土坑で、竪穴住居SB 01の東側に位置している。中世の溝SD 04に切られ攪乱を受けているが、長径残存長286cm、短径233cmで、平面形は不定楕円形を呈し、検出面からの深さは最大16cmを測る。遺物は意外と多く、甕などの土師器片の他に、須恵器では東山44号窯様式から東山15号窯様式までの杯蓋や、東山44号窯様式と思われる有蓋高杯の蓋、時期不明の横瓶などが出している。

SK 205 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 6 j で検出された土坑で、竪穴住居SX 11の西側に位置している。長径132cm、短径113cmで、平面形は隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは最大12cmを測る。遺物に布目の残る平瓦片、須恵器・土師器の破片しか出土していないため、時期を決定することができない。中世の土坑塚という可能性もあるが、やや長軸の方位が異なっているため古代の遺構と考えている。

SK 225 調査区中央やや西寄りのグリッドVII G 7 j で検出された土坑で、竪穴住居SX 11の西側に位置している。長径66cm、短径推定36cmで、平面形は楕円形と思われる。検出面からの深さは最大57cmを測り、柱穴の可能性はある。出土遺物は小片が多く、時期を決めることができない。

SK 355 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 6・7 mで検出された土坑で、竪穴住居SX 11の東側に位置している。長径140cm、短径推定132cmで、平面形は不定円形と思われる。検出面からの深さは最大15cmを測る。出土遺物は小片が多く、時期は決定できない。

SK 397 調査区のほぼ中央付近のグリッドVII G 5 oで検出された土坑で、竪穴住居と思われる遺構SX 13を切っている。長径62cm、短径61cmで、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大10cmを測る。出土遺物には土師器の甕が出土しており時期は不明であるが、遺構の切り合い関係からSX 13より新しいと考えられる。

SK 855 調査区東側のグリッドVII H 5 bで検出された土坑で、竪穴住居SX 15の北西側に位置している。長径推定40cm、短径32cmで、平面形は楕円形を呈していると思われる。検出面からの深さは最大40cmを測り、柱穴の可能性がある。遺物は土師器片の他に、須恵器で東山50号窯様式と思われる杯蓋が出土している。

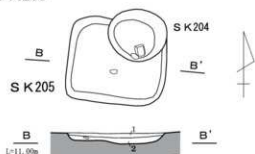
SK 867 調査区東側のグリッドVII H 5 bで検出された土坑で、竪穴住居SX 15の西側に位置している。長径128cm、短径112cmで、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大50cmを測る。出土遺物は土師器小片が多く、時期を決定できない。

SK 879 調査区東側のグリッドVII H 5・6 bで検出された土坑で、竪穴住居SX 15の西側に位置している。長径119cm、短径115cmで、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大53cmを測る。出土遺物は小片が多く、時期を決めることができない。

SK 962 調査区東側のグリッドVII H 5 cで検出された土坑で、竪穴住居SX 15の北東側に位置している。長径76cm、短径60cmで、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大8cmを測る。遺物は須恵器で岩崎17号窯様式の杯身などが出土しているが、SX 15との切り合い関係からもっと新しい時期と想定される。

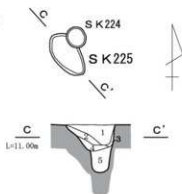
SK 966 調査区東側のグリッドVII H 5 cで検出された土坑で、竪穴住居SX 15の東側に位置している。長径42cm、短径38cmで、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大27cmを測る。遺物は土師器片の他に、須恵器で東山15号窯様式の土が底を上にして出土している。

SK 205



- 1 10YR4/4褐色粘質シルト（小礫を含む、炭化物を少量含む）
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（炭化物を少量含む）

SK 225



- 1 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（小礫・炭化物を含む、焼土ブロックを少量含む）
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（炭化物を多く含む）
- 3 10YR5/6黄褐色粘質シルト
- 4 10YR5/8黄褐色粘質シルト（砂を含み締まり弱い）
- 5 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト（炭化物を含む、砂を含み締まり弱い）

SK 1112 調査区東端付近のグリッドVIII 5 g で検出された土坑で、竪穴住居SB 07の西側に位置している。長径40cm、短径36cmで、平面形は不定円形を呈し、検出面からの深さは最大18cmを測る。遺物は須恵器で東山15号窯様式の杯身が出土している。

SK 1565 調査区東側のグリッドVII 7 a で検出された土坑で、竪穴住居と思われる遺構SX 51の南側に位置している。長径44cm、短径38cmで、平面形は楕円形を呈している。検出面からの深さは最大68cmを測り、柱穴である可能性がある。遺物は土師器片の他に、須恵器で7世紀代と思われる有台盤が出土している。

SK 2335 調査区中央やや西寄りのグリッドVII G 7 n で検出された土坑で、竪穴住居SB 02の南西側に位置している。長径39cm、短径34cmで、平面形は楕円形を呈している。検出面からの深さは最大48cmを測り、柱穴である可能性がある。遺物は土師器片の他に、須恵器で東山44号窯様式の杯蓋が出土している。

SK 2375 調査区中央やや西寄りのグリッドVII G 8・9 n で検出された土坑で、竪穴住居と思われる遺構SX 46の東側に位置している。中世の溝SD 60に切られているが、長径推定109cm、短径106cmで、平面形は円形と思われる。検出面からの深さは最大27cmを測る。出土遺物は小片が多く、時期を決めることができない。

SK 2721 調査区中央やや東寄りのグリッドVII G 9 p で検出された土坑で、竪穴住居と思われる遺構SX 44の南側に位置している。中世の溝SD 25により遺構上部を失っていたが、長径46cm、短径残存長28cmで、平面形は円形と思われる。検出面からの深さは最大24cmを測る。出土遺物は須恵器・土師器とも小片が多く、時期を決定できない。

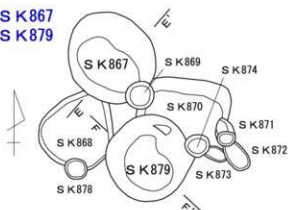
SK 2831 調査区東端付近のグリッドVIII 6 e で検出された土坑で、竪穴住居SB 12の床面に位置している。SB 13に切られているが、長径67cm、短径残存長37cmで、平面形は楕円形を呈していると思われる。床面からの深さは最大19cmを測る。遺物は土師器の甕のみが出土している。

SK 2838 調査区東端付近のグリッドVIII 7 e で検出された土坑で、竪穴住居SB 13の床面に位置している。長径47cm、短径38cmで、平面形は楕円形を呈し、床面からの深さは最大10cmを測る。遺物は土師器片の他に、須恵器で東山50号窯様式の杯身が出土している。

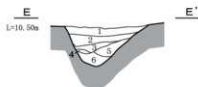
SK 2903 調査区東端付近のグリッドVIII 6・7 c で検出された土坑で、竪穴住居SX 31の床面に位置している。長径36cm、短径30cmで、平面形は楕円形を呈し、床面からの深さは最大31cmを測る。遺物は小片が多いが、須恵器で6世紀末から7世紀初頭頃と思われる高杯の杯部が出土している。

SK 2943 調査区西側のグリッドVII G 7・8 j で検出された土坑で、竪穴住居SX 50の北側に位置している。攪乱などを受けているが、長径残存長134cm、短径残存長132cmで、平面形は不定楕円形と思われる。検出面からの深さは最大23cmを測る。遺物は小片が多いが、須恵器で東山44号窯様式の杯身が出土している。

SK 3043 調査区ほぼ中央のグリッドVII G 5 p で検出された土坑で、竪穴住居SB 03の貯蔵穴と考えている。長径62cm、短径40cmで、平面形は隅丸長方形を呈し、床面からの深さは最大32cmを測る。遺物は土師器の甕の底部が出土している。

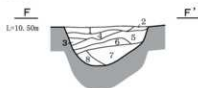
S K 867
S K 879

S K 867



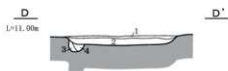
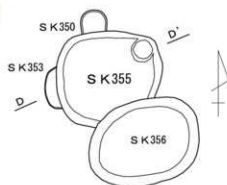
- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (小礫を含む)
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト
- 4 10YR4/4褐色粘質土
- 5 7.5YR4/3褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 6 7.5YR4/4褐色粘質土

S K 879



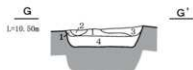
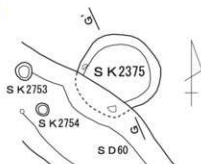
- 1 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 2 7.5YR4/6褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 3 10YR4/6褐色粘質シルト (砂・10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルトブロックを含む)
- 4 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルトと7.5YR4/6褐色粘質シルトの斑土
- 5 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を含む)
- 6 5YR4/6赤褐色粘質シルト (10YR4/4褐色粘質シルトブロックを含む)
- 7 7.5YR4/3褐色粘質シルト (地山ブロックを含む)
- 8 5YR4/3にぶい赤褐色粘質シルト (地山ブロックを含む)

S K 355



- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (小礫を含む)
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト (有機分の沈着あり)
- 3 7.5YR4/3褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 4 7.5YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

S K 2375



- 1 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫・炭化物を含む)
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト (焼土ブロック・炭化物を多く含む)
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (焼土ブロック・炭化物を含む)
- 4 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

第30図 古代の土坑平面図・断面図③ (1:50)

第3節 中世の遺構

1. 概要

今回の調査区において中世の遺構としては、竪穴状遺構と思われる遺構2棟、井戸4基、溝、土坑以外に、時期は不明ながら中世と考えられる掘立柱建物5軒が検出されている。溝に囲まれた屋敷地を想定することが可能であり、古代に続き中世にもこの地に人々が活動していた痕を確認することができた。

2. 竪穴状遺構

調査区において竪穴状遺構と考えられる遺構は2基確認されている。出土遺物も灰釉系陶器と思われる小片が多く、詳細は不明な点が多い。

S X 12 調査区中央やや西寄りのグリッドVII G 6・7 I で検出された竪穴状遺構と思われる遺構で、中世の井戸 S E 01 の南側に位置している。住居の規模は長軸218cm、短軸202cmで、やや不定形ではあるが隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴状遺構と推定される。住居の主軸方向はN-3°-Wを示している。検出面からの深さは最大10cmを測る。床面からは何も検出されていない。出土遺物は小片が多く、時期を決めることはできない。

S K 2016 調査区中央やや東寄りのグリッドVII G 8・9 F で検出された竪穴状遺構と思われる遺構で、中世の井戸 S E 04 の西側に位置している。住居の大半は攪乱を受けているが、長軸残存長123cm、短軸216cmで、隅丸長方形の平面プランをもつ竪穴状遺構と推定される。住居の主軸方向は南辺からN-34°-Wを示していると思われる。検出面からの深さは最大21cmを測る。床面からは土坑が確認されているが、柱穴かどうかは不明である。出土遺物は僅かで、時期は決定できない。

※掘立柱建物

調査区内において柱穴と思われる土坑が多く検出されている。井戸が確認されていることもあり、溝に囲まれた内側を屋敷地として捉え、複数の掘立柱建物を想定することも可能であるが、出土遺物が小片であるため時期を決定するまでに至っていない。古代のものも含めて、その他の遺構として後述（第4節）することにする。

3. 溝

今回の調査でこの時期に該当する溝は20数条検出されており、掘立柱建物の存在から大部分は屋敷地を区画するための溝と考えられる。以下に主な溝を個別に紹介するが、出土遺物が少なく小片が多いため、時期を確定できたものは僅かである。

S D 02 調査区西端付近のグリッドVII G 6～10 d で検出された溝で、古代の溝 S D 01 の東側に位置し、竪穴住居 S B 01 の西辺を切っている。幅40～77cmで、検出面からの深さは最大20cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-16°-Eを示している。出土遺物は小片が多く、時期を決定できない。

SD 03 調査区西端付近のグリッドVII G 6～10 e・fで検出された溝で、中世の溝SD 02の東側に位置し、竪穴住居SB 01・SB 16を切っている。幅87～165cmで、検出面からの深さは最大25cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-11°-Eを示している。出土遺物には小片が多く、時期を決定できない。

SD 04 調査区西端付近のグリッドVII G 6～10 f・gで検出された溝で、竪穴住居SB 01・SB 16の東側に位置している。幅43～116cmで、検出面からの深さは最大22cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-6～27°-Eを示している。出土遺物は僅かで、時期は決定できない。

SD 05 調査区西端付近のグリッドVII G 5～10 f・gで検出された溝で、中世の溝SD 04の東側に位置している。幅123～201cmで、検出面からの深さは最大36cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-13°-Eを示している。出土遺物は小片が多く、時期を決定できない。

SD 07 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 4～10 i・j・kで検出された溝で、中世の溝SD 05の東側に位置している。幅126～334cmで、検出面からの深さは最大59cmを測る。形状は東側にL字状に屈曲し、断面はU字形を呈し、溝の方向はN-55°-WとN-39°-Eを示している。遺物は小片が多いが、陶丸や第7～8型式と思われる灰軸系陶器の鉢の底部が出土している。

SD 10 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 6～8 j・kで検出された溝で、中世の溝SD 07の東側に位置している。幅40～145cmで、検出面からの深さは最大28cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-51°-Wを示している。出土遺物は小片で、時期を決定できない。また、SD 07と直交しているが、それぞれの切り合い関係も判断できていない。

SD 13 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 5～7 k・lで検出された溝で、中世の井戸SE 01周辺に位置している。幅17～136cmで、検出面からの深さは最大18cmを測る。断面はU字形を呈し、形状は不定形で溝の方向は一定ではない。出土遺物は小片で時期を決定できない。屋敷地を区画する溝ではなく、井戸との関連が想定される。また、古代とした溝SD 17と同一である可能性があるが、不明な点が多い。

SD 19 調査区の中央付近のグリッドVII G 4～6 o・pで検出された溝で、中世の溝SD 13の東側に位置し、竪穴住居SB 02・SB 03を切っている。幅67～152cmで、検出面からの深さは最大28cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-56°-Eを示している。出土遺物は小片が多く、時期は決めたいが、SD 24・SD 25との切り合い関係からこれらより新しいと想定される。

SD 24 調査区の中央付近のグリッドVII G 5・6 n～qで検出された溝で、中世の溝SD 19の南側に位置し、竪穴住居SB 02・SB 03を切っている。幅40～105cmで、検出面からの深さは最大21cmを測る。形状はL字状に屈曲しており、断面はU字形を呈し、溝の方向はN-58°-EとN-40°-Wを示している。出土遺物は小片が多いが、12世紀末頃と思われる土師器皿が出土している。また、SD 60と同一の溝となる可能性がある。

SD 25 調査区の中央付近のグリッドVII G 5～8 p・qで検出された溝で、中世の溝SD 24の南側に位置し、竪穴住居SB 03・SB 09を切っている。幅35～121cmで、検出面からの深さは最大24cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-28°-Wを示す。遺物は第8型式までの灰軸系陶器の椀・皿や古瀬戸中期段階の鉢、古瀬戸後期段階の平椀などの施軸陶器が出土している。

S D 02



- 1 10YR4/4褐色粘質シルト (有機分の沈着あり)

S D 04



- 1 10YR4/4褐色粘質シルト
- 2 10YR4/6褐色粘質土 (炭化物を少量含む)

S D 07



- 1 7.5YR5/6明褐色粘質シルト
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 3 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 4 10YR4/6褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 5 10YR6/6明黄褐色粘質土

S D 13



- 1 2.5Y5/2暗灰黄色砂質土 (小礫を含む)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (有機分の沈着あり)
- 3 10YR4/6褐色粘質シルト
- 4 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

S D 24



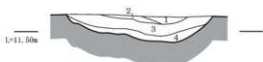
- 1 10YR5/6黄褐色粘質シルト (2.5Y6/4にぶい黄色粘質土ブロック・炭化物を含む、有機分の沈着あり)
- 2 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 3 10YR2/6灰黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 4 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト

S D 03



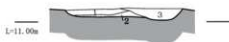
- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

S D 05



- 1 10YR7/4にぶい黄橙色砂質土 (2のブロック・小礫を含む)
- 2 7.5YR4/4褐色粘質シルト
- 3 10YR4/6褐色粘質シルト (有機分の沈着あり)
- 4 10YR4/4褐色粘質シルト (有機分の沈着あり)

S D 10



- 1 10YR6/3にぶい黄橙色シルト (小礫を含む)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト
- 3 10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト (小礫を含む)

S D 19



- 1 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を多く含む)
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む、有機分の沈着あり)
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土 (炭化物を少量含む、有機分の沈着あり)

S D 25



- 1 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫を含む)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 3 7.5YR3/4暗褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

SD26



- 1 10YR5/6黄褐色粘質シルト (小礫を含む)
- 2 10YR4/6褐色粘質シルト (地山ブロックを少量含む)

SD29



- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト (礫・炭化物を少量含む)

SD36



- 1 7.5YR4/4褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)

SD56



- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

SD63



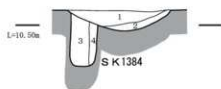
- 1 10YR4/2灰褐色粘質シルト (小礫・10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックを含む)
- 2 10YR3/2黒褐色粘質シルト (小礫・10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックを含む)
- 3 10YR2/2黒褐色粘質土 (小礫・10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロックを含む、炭化物を少量含む)
- 4 10YR3/3暗褐色粘質シルト (小礫を含む)
- 5 10YR3/4暗褐色粘質シルト (小礫・10YR4/6褐色粘質シルトブロックを含む)
- 6 10YR4/6褐色粘質シルト (小礫を含む)

SD28



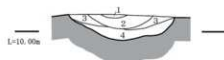
- 1 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を含む)
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

SD30



- 1 10YR4/4褐色粘質シルト (小礫を含む、炭化物を少量含む)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)
- 3 7.5YR5/6明褐色粘質シルト
- 4 7.5YR4/6褐色粘質シルト

SD55



- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト
- 2 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト (炭化物を多く含む、焼土ブロックを少量含む)
- 3 10Y5/3にぶい黄褐色粘質シルト (小礫・炭化物を少量含む)
- 4 10YR4/4褐色粘質土 (小礫・炭化物を少量含む)

SD60



- 1 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト (2のブロック・小礫を含む)
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト (10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトブロックを含む)
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト

第32図 中世の溝断面図② (1:50)

SD 26 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 4・5 q～sで検出された溝で、中世の溝SD 19の南側に位置している。幅30～86cmで、検出面からの深さは最大13cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-64°-Eを示している。出土遺物は小片が多く、時期は不明である。

SD 28 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 5・6 r～sで検出された溝で、中世の溝SD 26の南側に位置している。幅66～123cmで、検出面からの深さは最大15cmを測る。断面はU字形を呈し、形状がコの字状をしている。土坑墓と思われるSK 697を囲むように位置しているため、墓に関連する溝とも考えられる。出土遺物は小片が多く、時期を決定できない。

SD 29 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 6・7 q～tで検出された溝で、中世の溝SD 25の東側に位置している。幅32～145cmで、検出面からの深さは最大24cmを測る。断面はU字形を呈し、形状が不定形であるため溝の方向は不明である。遺物は小片が多いが、第9～10型式の灰軸系陶器の椀などが出土している。

SD 30 調査区東側のグリッドVII G 3～5 s・t、VII H 4・5 a～bで検出された溝で、中世の溝SD 26の東側に位置している。幅30～232cmで、検出面からの深さは最大28cmを測る。断面はU字形を呈し、形状がやや弓状に北側に曲がっているが、溝の方向はN-46°-Wを示している。出土遺物は小片が多く時期は決めたいが、遺構の切り合い関係からSD 26より新しいと考えられる。

SD 36 調査区東端付近のグリッドVII H 3・4・5・6 e～gで検出された溝で、中世の溝SD 30の東側に位置し、竪穴住居SB 04・SB 05・SB 06を切っている。幅45～92cmで、検出面からの深さは最大18cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-37°-Wを示している。出土遺物は小片が多く、時期は決定できない。

SD 51 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 9 s・tで検出された溝で、中世の井戸SE 04の南東側に位置している。西尾市教育委員会の調査で確認された溝(SD 05)と同一の溝と思われる。幅86～96cmで、検出面からの深さは最大22cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-38°-Eを示している。出土遺物は小片が多く、時期は決定できない。

SD 53 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 8・9 r～sで検出された溝で、中央の井戸SE 04の南西側に位置している。西尾市教育委員会の調査で確認された溝(SD 05)と同一の溝と思われる。幅19～67cmで、検出面からの深さは最大20cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-34°-Wを示している。出土遺物は小片が多く、時期は決定できない。なお、前述の溝(SD 05)はL字状に屈曲する溝であるため、SD 51とSD 53は同一の溝である可能性がある。

SD 55 調査区の中央付近のグリッドVII G 7・8・9 n～qで検出された溝で、中世の溝SD 25の西側に位置している。幅143～228cmで、検出面からの深さは最大32cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-44°-Wを示している。出土遺物は小片が多いが、遺構の切り合い関係からSD 56より古いと想定される。

SD 56 調査区の中央付近のグリッドVII G 8・9 oで検出された溝で、中世の溝SD 55の西側に位置し、SD 55を切っている。幅94～125cmで、検出面からの深さは最大25cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-36°-Wを示している。遺物は小片が多いが、第10型式の灰軸系陶器の椀や常滑産の甕片などが出土している。

SD60 調査区の中央付近のグリッドVII G 7・8・9 1～oで検出された溝で、中世の溝SD 55・SD 56の西側に位置している。幅64～127cmで、検出面からの深さは最大38cmを測る。断面はU字形を呈し、形状はL字状に北側に屈曲しており、溝の方向はN-51°-WとN-50°-Eを示している。出土遺物は小片が多く、時期を決定できない。また、西尾市教育委員会の調査で確認された溝(SD 06)と同一遺構となり、SD 24とも同一の遺構となる可能性が考えられる。

SD 63 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 7・8・9 j～mで検出された溝で、中世の溝SD 60の西側に位置している。幅80～368cmで、検出面からの深さは最大35cmを測る。断面はU字形を呈し、溝の方向はN-48°-Wを示している。出土遺物は小片が多いが、第8型式までの灰軸系陶器の椀・皿や陶丸などが出土している。

4. 井戸

この時期に該当する井戸は、やや不明な点はあるが4基が確認されている。断ち割り調査を行っているが、時間的な制約があり断面図の作成は行っていない。図版の遺構写真などを参考にいただきたい。遺物としてはある程度まとまって出土しているが、布目痕の残る古代瓦が大半を占めている場合が多い。以下、個別に説明をする。

SE 01 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 6 1・mで検出された井戸で、竅穴状遺構SX 12の北側に位置している。規模は長軸298cm、短軸288cmで、平面は不定形ではあるが円形を呈している。検出面からの深さは約380cmで、断面は下半部が広がった形をしており、これが掘り形なのか掘削時に崩落したものなのかは不明である。井枠・井桶などの構造物は確認されていない。遺物は古代瓦の他に、第8型式までの灰軸系陶器の椀・皿や常滑産の甕、伊勢型鍋などが出土している。また、周辺で検出されているSD 13やSD 17は井戸に関連する溝である可能性が高い。

SE 02 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 6 mで検出された井戸と考えられる遺構で、SE 01の東側を切るかたちで位置している。規模は長軸126cm、短軸116cmで、平面はほぼ円形を呈している。検出面からの深さは約170cmと浅く、断面は円筒形に掘り下げられている。井枠・井桶などの構造物は確認されていない。遺物は古代瓦の他に、第8型式までの灰軸系陶器の鉢や常滑産の甕などが出土している。

SE 03 調査区東部のグリッドVII G 8 rで検出された井戸と考えられる遺構で、中世の溝SD 29の南側に位置している。規模は長軸99cm、短軸74cmで、平面は不定形な楕円形を呈している。検出面からの深さは約210cmで、断面は円筒形に掘り下げられている。井枠・井桶などの構造物は確認されていない。遺物は古代瓦の他に、灰軸系陶器の椀・皿や中国産の青磁碗の破片が出土している。

SE 04 調査区東部のグリッドVII G 8・9 sで検出された井戸で、SE 03の南東側に位置している。規模は長軸286cm、短軸273cmで、平面はほぼ円形を呈している。検出面からの深さは約350cmで、断面は下半部がやや膨らんでいる。井枠・井桶などの構造物は確認されていない。4基の井戸の中では遺物が多く、古代瓦の他に第10型式までの灰軸系陶器の椀・皿・鉢、古瀬戸前期の四耳壺、中期の花煎、16世紀代までの常滑産の甕、瓦塔、石製品で五輪塔の火輪などが出土している。

5. 土坑

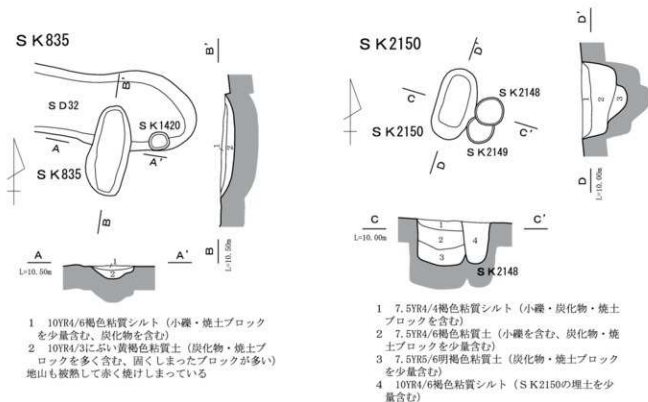
調査区からは多くの土坑が確認されている。掘立柱建物の柱穴と考えられるもの、土坑墓と思われるもの、焼土を含むもの、性格の不明なものなどの4つに分けることができる。以下、出土遺物を実測した遺構を中心に説明する。

①焼土遺構

焼土ブロックを埋土を含む土坑が2基確認されている。西尾市教育委員会の調査では室町時代と考えられる火葬施設(SZ01)が検出されているが、2基とも通風孔の溝を持っていないため同様の遺構とは考えにくい。ここでは焼土遺構として紹介する。

S K 835 調査区東半のグリッドVII H 4 bで検出された焼土土坑で、堅穴住居SX15の北側に位置している。規模は長軸118cm、短軸54cmで、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大20cmを測る。長軸の方位はN-7°-Eを示している。埋土には炭化物や焼土ブロックが多く含まれている。地山部分も熱を受けて赤褐色に変色し固く締まっている。遺物はごく僅かだが他に骨が出土しているため、火葬施設と想定される。本遺構は中世の溝SD32を切って検出されているが、SD32の時期が不明であるため時期を決めることができない。なお、この土坑については熱残留磁気測定を実施し、結果を第IV章第3節に掲載した。

S K 2150 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 9 qで検出された焼土土坑で、中世の溝SD55の東側に位置している。規模は長軸98cm、短軸40cmで、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大15cmを測る。長軸の方位はN-16°-Eを示している。埋土中に炭化物や焼土ブロックを含んでいるが、地山部分には熱を受けたような形跡は確認されていない。出土遺物がなく時期を決定できない。



第33図 中世の土坑平面図・断面図① (1:50)

②土坑墓

隅丸長方形の平面プランを呈し班土の埋土をもつ土坑が確認された。今回はこれらを土坑墓として紹介する。西尾市教育委員会の調査では土坑墓が確認されておらず、また遺物が出土していないものが多いが、土坑墓として推定した土坑は十数基ある。また、ここで紹介した遺構以外にも土坑墓が存在するのかもしれない。しかし、この中には土坑墓である可能性が少ないものも含んでいることに注意していただきたい。土坑墓の検出状況を見てみると、調査区中央部のある程度の範囲にまとまっているようにも見える。さらに、矢作川上流の水入遺跡や今町遺跡で土坑墓が多く確認されており、平面プランが隅丸長方形のもの以外に円形のものも検出されている。円形のを土坑墓として捉えれば、その数は増加すると思われる。出土遺物が僅かで小片が多いため、時期を確定できたものは非常に少ない。

SK 210 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 7 j・kで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の溝SD 07の東側に位置している。規模は長軸142cm、短軸120cmで、平面形は隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは最大5cmを測る。長軸の方位はN-43°-Eを示している。出土遺物はなく時期は不明である。

SK 356 調査区の中央付近のグリッドVII G 7 mで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の井戸SE 01・SE 02の南東側に位置している。規模は長軸150cm、短軸推定132cmで、平面形は楕円形に近い長方形を呈し、検出面からの深さは最大16cmを測る。長軸の方位はN-69°-Eを示している。遺物は灰軸系陶器や伊勢型鍋の小片が出土しただけで、時期は決定できない。

SK 358 調査区の中央付近のグリッドVII G 6・7 mで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の井戸SE 01・SE 02の南東側に位置している。規模は長軸170cm、短軸123cmで、平面形は隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは最大13cmを測る。長軸の方位はN-52°-Eを示している。出土遺物は小片が多く、時期は決定できない。

SK 593 調査区の中央付近のグリッドVII G 5・6 qで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の溝SD 26の南側に位置している。規模は長軸推定138cm、短軸推定121cmで、平面形は楕円形に近い長方形を呈していると想定される。検出面からの深さは最大6cmを測る。長軸の方位はN-21°-Eを示している。出土遺物が僅かで、時期は決定できない。

SK 648 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 6・7 p～qで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の溝SD 25の東側に位置している。規模は長軸144cm、短軸90cmで、平面形は隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは最大37cmを測る。長軸の方位はN-17°-Wを示している。出土遺物は小片が多く、時期を決定できない。

SK 677 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 5 rで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の溝SD 26の南側に位置している。規模は長軸121cm、短軸78cmで、平面形はやや不定形ではあるが隅丸長方形を呈している。検出面からの深さは最大11cmを測る。長軸の方位はN-69°-Eを示している。出土遺物はなく時期は不明であるが、遺構の切り合い関係からSD 26より新しいと考えられる。

S K 697 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 5 r～sで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の溝SD 28に囲まれるように位置している。規模は長軸101cm、短軸66cmで、平面形は隅丸長方形を呈している。検出面からの深さは最大14cmを測る。長軸の方位はN-17°-Wを示している。出土遺物は僅かで、時期は決め難い。SD 28との関係も不明である。

S K 715 調査区東半のグリッドVII G 4 sで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の溝SD 30の西側に位置している。規模は長軸108cm、短軸93cmで、平面形はやや角をもつ楕円形を呈している。検出面からの深さは最大12cmを測る。長軸の方向はN-57°-Wを示している。出土遺物はなく時期は不明であるが、遺構の切り合い関係からSD 26やSD 30より新しいと想定される。

S K 727 調査区東半のグリッドVII G 5 sで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の溝SD 28の北東側に位置している。規模は長軸94cm、短軸80cmで、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大17cmを測る。長軸の方位はN-29°-Wを示している。遺物には灰軸系陶器などの小片が多く、時期を決定できない。

S K 749 調査区東半のグリッドVII G 5・6 sで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の溝SD 28の東側に位置している。規模は長軸151cm、短軸122cmで、平面形は楕円形に近い長方形を呈している。検出面からの深さは最大14cmを測る。長軸の方位はN-21°-Eを示している。出土遺物はなく時期は不明である。

S K 1686 調査区東端付近のグリッドVII H 9 aで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の井戸SE 04の東側に位置している。規模は長軸142cm、短軸111cmで、平面形は楕円形に近い長方形を呈している。検出面からの深さは最大27cmを測る。長軸の方位はN-32°-Wを示している。遺物は小片が多いが、第7～8型式の灰軸系陶器の皿が出土している。

S K 2402 調査区の中央付近のグリッドVII G 7 mで検出された土坑墓と思われる遺構で、中世の井戸SE 01・SE 02の南東側に位置している。規模は長軸残存長115cm、短軸107cmで、平面形は隅丸長方形を呈すると想定される。検出面からの深さは最大13cmを測る。長軸の方位はN-37°-Wを示している。遺物は伊勢型鍋の小片が出土するだけで、時期は不明である。

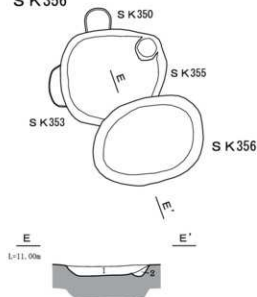
③その他の土坑

これまで見てきた埴土遺構や土坑墓以外の土坑を、その他の土坑としてまとめておく。それらの大半は掘立柱建物の柱穴であると思われるが、中には性格不明な土坑もある。

S K 1680 調査区東半のグリッドVII H 9 aで検出された土坑で、中世の井戸SE 04の東側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径22cm、短径21cmで、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大14cmを測る。遺物は小片が多いが、13世紀代と思われる土師器皿などが出土している。

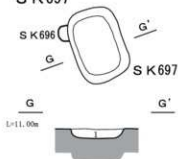
S K 1717 調査区東半のグリッドVII G 7 tで検出された土坑で、中世の井戸SE 04の北東側に位置している。掘立柱建物の柱穴の可能性はあるが、性格は不明である。規模は長径残存長50cm、短径26cmで、平面形は楕円形を呈していると想定される。検出面からの深さは最大18cmを測る。遺物は小片が多く、第7型式の灰軸系陶器の皿などが出土している。

S K 356



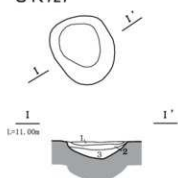
- 1 10YR4/4褐色粘質シルトと10YR3/4暗褐色粘質シルトの斑土 (小礫を含む、有機物の沈着あり)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (有機物の沈着あり)

S K 697



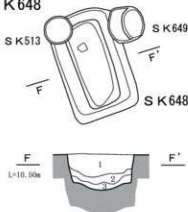
- 1 10YR4/4褐色粘質シルトと10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトの斑土 (炭化物を含む、砂を含み締まり弱い)

S K 727



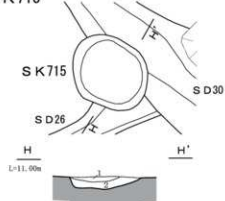
- 1 7.5YR4/3褐色粘質シルト (小砂・炭化物を含む)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト (10YR6/8明黄褐色粘質シルトの斑土、炭化物を少量含む)
- 3 10YR6/8明黄褐色粘質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトの斑土

S K 648



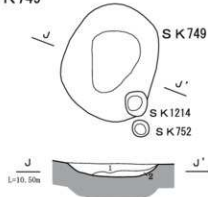
- 1 10YR4/4褐色粘質シルト (10YR3/4暗褐色粘質シルトブロックを多く含む、砂・炭化物を含む)
- 2 10YR3/4暗褐色粘質シルトと10YR4/4褐色粘質シルトの斑土 (炭化物を少量含む)
- 3 10YR3/3暗褐色粘質シルトと10YR4/4褐色粘質シルト (炭化物を少量含む)

S K 715



- 1 10YR5/6黄褐色粘質シルト (小礫を少量含む)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土と10YR4/4褐色粘質シルトの斑土

S K 749



- 1 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトと10YR4/4褐色粘質シルトの斑土 (小礫・炭化物を少量含む)
- 2 7.5YR4/3褐色粘質シルト (有機物の沈着あり)

第34図 中世の土坑平面図・断面図② (1:50)

S K 1753 調査区東半のグリッドVII G 8 t で検出された土坑で、中世の井戸 S E 04 の北東側に位置している。掘立柱建物の柱穴と思われる。規模は長径残存長 34cm、短径 34cm で、平面形は楕円形を呈すると想定される。検出面からの深さは最大 10cm を測る。遺物は小片が多く、第 7 型式の灰軸系陶器の椀などが出土している。

S K 1770 調査区東半のグリッドVII G 8 t で検出された土坑で、中世の井戸 S E 04 の北東側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径 26cm、短径 24cm で、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大 29cm を測る。遺物は小片が多く、12 世紀末頃と思われる土師器皿などが出土している。

S K 1773 調査区東半のグリッドVII G 8 t で検出された土坑で、中世の井戸 S E 04 の北東側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径 22cm、短径 22cm で、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大 29cm を測る。遺物は小片が多く、第 7 型式の灰軸系陶器の椀などが出土している。

S K 1847 調査区東半のグリッドVII G 9 t で検出された土坑で、中世の井戸 S E 04 の東側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径 31cm、短径 27cm で、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大 32cm を測る。遺物は小片が多く、第 6 型式の灰軸系陶器の皿などが出土している。

S K 1975 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 8 r で検出された土坑で、中世の溝 S D 25 の東側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径 39cm、短径 28cm で、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大 14cm を測る。遺物は小片が多く、第 8 型式の灰軸系陶器の椀などが出土している。

S K 2162 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 7 p で検出された土坑で、中世の溝 S D 25 の西側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径 36cm、短径 28cm で、平面形は不定楕円形を呈し、検出面からの深さは最大 23cm を測る。遺物は小片が多く、第 7 型式の灰軸系陶器の皿などが出土している。

S K 2169 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 7 p で検出された土坑で、中世の溝 S D 25 の西側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長・短径とも 22cm で、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大 33cm を測る。遺物は小片が多く、第 5 型式の灰軸系陶器の椀などが出土している。

S K 2197 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 7 p で検出された土坑で、中世の溝 S D 25 の西側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径 22cm、短径 17cm で、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大 23cm を測る。遺物は小片が多く、第 4 型式の灰軸系陶器の椀などが出土している。

S K 2208 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 8 p で検出された土坑で、中世の溝 S D 25 の西側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径 20cm、短径 18cm で、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大 18cm を測る。遺物は小片が多く、第 5 型式の灰軸系陶器の皿などが出土している。

SK2211 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 8 pで検出された土坑で、中世の溝SD 25の西側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径16cm、短径15cmで、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大25cmを測る。遺物は小片が多く、第5型式の灰軸系陶器の皿などが出土している。

SK2296 調査区の中央付近のグリッドVII G 9 oで検出された土坑で、中世の溝SD 60の東側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径残存長34cm、短径33cmで、平面形は楕円形を呈していると想定される。検出面からの深さは最大27cmを測る。遺物は小片が多く、12世紀代と思われる中国産の白磁碗などが出土している。

SK2480 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 8 kで検出された土坑で、中世の井戸SE 01・SE 02の南西側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は推定36cm、短軸33cmで、平面形は円形を呈していると想定される。検出面からの深さは最大18cmを測る。遺物は小片が多く、第7～8型式の灰軸系陶器の碗などが出土している。

SK2485 調査区の中央やや西寄りのグリッド7・8 lで検出された土坑で、中世の溝SD 63の東側に位置している。土坑墓にしては規模が大きすぎ、性格は不明である。規模は長径257cm、短径110cmで、平面形は隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは最大10cmを測る。遺物は小片が多く、第7形式の灰軸系陶器の皿や中国産の青磁碗などが出土している。

SK2522 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 9 lで検出された土坑で、中世の溝SD 63の西側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径27cm、短径25cmで、平面形は不定円形を呈し、検出面からの深さは最大44cmを測る。遺物は小片が多く、灰軸系陶器の第6型式と併行時期の伊勢型鍋などが出土している。

SK2524 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 7 kで検出された土坑で、中世の溝SD 63の東側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径25cm、短径22cmで、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大11cmを測る。遺物は小片が多く、第7型式の灰軸系陶器の碗などが出土している。

SK2530 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 8 kで検出された土坑で、中世の溝SD 63の東側に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径31cm、短径29cmで、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大48cmを測る。遺物は小片が多く、第8形式頃の灰軸系陶器の碗などが出土している。

SK2537 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 8 j～kで検出された土坑で、中世の溝SD 63の西側に位置している。土坑墓にしては規模が大きすぎ、性格は不明である。規模は長径240cm、短径162cmで、平面形は隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは最大6cmを測る。遺物は小片が多く、第7型式の灰軸系陶器の碗などが出土している。

SK2557 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 9 k～lで検出された土坑で、中世の溝SD 63の西側に位置している。規模が大きいため性格は不明である。規模は長径243cm、短径240cmで、平面形は不定円形を呈し、検出面からの深さは最大14cmを測る。遺物は小片が多く、第8型式までの灰軸系陶器の碗・皿・鉢や14世紀代の常滑産の甕などが出土している。

S K 2720 調査区の中央やや東寄りのグリッドVII G 9 p で検出された土坑で、中世の溝SD 25の中に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径18cm、短径17cmで、平面形は円形を呈し、検出面からの深さは最大24cmを測る。遺物は小片が多く、第4型式の灰輪系陶器の椀などが出土している。

S K 2905 調査区の中央やや西寄りのグリッドVII G 8 k で検出された土坑で、中世の溝SD 63の西側、S K 2537の中に位置している。掘立柱建物の柱穴と考えられる。規模は長径47cm、短径42cmで、平面形は楕円形を呈し、検出面からの深さは最大8cmを測る。遺物は小片が多く、第7型式の灰輪系陶器の椀などが出土している。

第4節 その他の遺構

1. 概要

今回の調査区において、古代・中世の遺構以外に、江戸時代の堤防跡と思われる遺構、掘立柱建物を確認されている。ここでまとめてみておくが、残念ながら出土遺物はごく僅かで、時期など不明な点が多い。

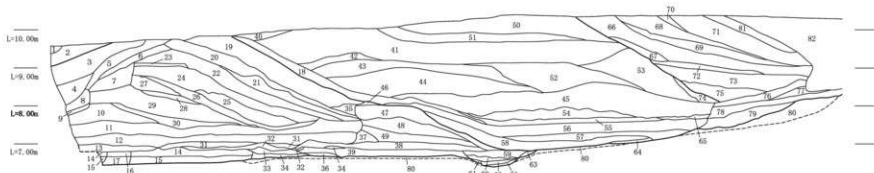
2. 堤防跡

調査区の北に流れる矢作川は、江戸時代初頭に木戸村から米津村までの間の碧海台地を掘り割って作られた新しい川で、本来の矢作川は、その中・下流部においては1本の川ではなく矢作古川付近を乱流していたといわれている。新川の掘削によってこれまでの氾濫地が耕地に変わっていったが、江戸時代の記録を見ても多くの水害の記録が見られ、ここに住む人々は大いに苦しめられてきたことが見て取れる。

調査区の東側で大きな落ち込みが確認され、碧海台地の端部が検出された。その東壁には、堤防跡に人為的に積み上げられた痕跡が確認された。これが旧堤防の基礎になる部分なのか、旧堤防以前に築造されたものであるのか、旧堤防が除去された後のことなので詳しくはわかっていない。落ち込み部分からは、古瀬戸後期段階の天目茶碗の破片と土器片が出土しているだけで正確な時期は決めがたいが、江戸時代以降の堤防であると推測される。ただし、新川開削時のものではなく、後の水害時に作られた堤防の可能性が高い。

3. 掘立柱建物

調査区内において、掘立柱建物と思われる建物は疑わしいものも含め28軒検出されている。柱穴からの遺物が少なく時期は決定できないが、西尾市教育委員会の調査で指摘されている通り、溝の方向と異なる主軸の方向をもつ建物は古代（西尾市教育委員会の調査では10～12世紀と考えられている）、同じ方向をもつ建物は中世（同じく13世紀代と考えられている）と捉えられる。今回確認された掘立柱建物28軒のうち、古代が23軒、中世が5軒となる。建物の中には、規模の違うものや、柱



- 1 1010/1褐色土（埋砂層を含む）黄土小
- 2 2.101/2黄褐色細砂
- 3 1010/5黄褐色シルト（4の粘土ブロック、2の砂を含む）
- 4 1010/6黄褐色シルトと30/1/2灰色ローム状土・1010/14C.1の黄褐色土・7.1010/41C.1の褐色粘土の混土
- 5 2.101/2灰黄色細砂（1010/5黄褐色シルトブロックを含む）
- 6 2.101/2灰白色細砂
- 7 2.101/3C.1の黄褐色細砂
- 8 2.101/2灰黄色細砂
- 9 2.101/2黄褐色細砂（20のブロックを含む）
- 10 2.101/2黄褐色細砂
- 11 2.101/3埋砂ローム褐色細砂（30/1/2灰色シルトブロックを含む）
- 12 2.101/3埋砂褐色細砂（31/1/2灰色シルトブロックを含む）
- 13 101/1灰色細砂（部分の改善あり）
- 14 101/1灰色粘土（部分の改善あり、小礫を少量含む）
- 15 101/1灰色粘土（小礫を少量含む、部分の改善あり）
- 16 7.101/1灰色粘土（小礫を少量含む、部分の改善あり）
- 17 7.101/1灰色粘土（小礫を少量含む、部分の改善あり）
- 18 2.101/2埋砂黄褐色シルト（2.101/2C.1の粘土を含む）
- 19 2.101/2埋砂黄褐色シルト（20のブロックを少量含む）
- 20 2.101/2埋砂シルトと7.1010/4褐色粘土・1010/4埋砂褐色粘土ブロックの混土
- 21 2.101/3ローム褐色粘土（1010/4埋砂黄褐色粘土を含む）
- 22 1010/4褐色細砂
- 23 1010/3C.1の黄褐色中砂
- 24 1010/3C.1の黄褐色中砂と7.1010/41C.1の褐色・7.1010/1褐色粘土ブロックの混土
- 25 1010/3C.1の黄褐色中砂と7.1010/41C.1の褐色・7.1010/1褐色粘土ブロックを含む）
- 26 1010/4C.1の黄褐色細砂
- 27 1010/4C.1の黄褐色粘土シルト（7.1010/4埋砂褐色細砂をブロック状に含む）
- 28 1010/4C.1の黄褐色粘土シルト（7.1010/4埋砂褐色細砂を含む）
- 29 1010/4C.1の黄褐色粘土シルト（7.1010/4埋砂褐色細砂・1010/3埋砂褐色細砂をブロック状に多く含む）
- 30 2.101/3ローム褐色細砂（2.101/2C.1の粘土を多く含む）
- 31 101/1灰色細砂（部分の改善あり）
- 32 101/1灰色粘土（小礫を含む、部分の改善あり）
- 33 7.101/1灰色粘土（小礫を含む、部分の改善あり）
- 34 7.101/1灰色粘土（1010/2C.1の粘土・1010/4埋砂褐色細砂を多く含む、部分の改善あり）
- 35 2.101/2埋砂黄褐色細砂（101/1/4埋砂粘土シルトブロックを含む）
- 36 101/1灰色粘土シルト（小礫を多く含む）
- 37 2.101/3ローム褐色粘土シルト（7.101/1灰色シルトブロックを含む、部分の改善あり）
- 38 101/1灰色粘土（小礫を含む）
- 39 101/1灰色粘土～粘土（30のブロックを含む）
- 40 1010/4埋砂黄褐色細砂と1010/4褐色粘土ブロック
- 41 1010/4褐色土・1010/3C.1の黄褐色土・2.101/2埋砂黄褐色と7.1010/41C.1の褐色・7.1010/1褐色土・1010/6褐色粘土の混土
- 42 1010/3C.1の黄褐色土（7.1010/41C.1の褐色粘土ブロック・2.1010/1褐色粘土ブロックを含む）
- 43 2.101/2埋砂黄褐色と7.1010/41C.1の褐色粘土ブロック・7.1010/1褐色粘土ブロック
- 44 1010/3C.1の黄褐色土と7.1010/1褐色土・1010/4褐色粘土ブロックの混土
- 45 1010/3C.1の黄褐色土と7.1010/1褐色土・1010/4褐色粘土ブロックの混土
- 46 7.1010/1灰色細砂（部分の改善あり）
- 47 7.101/1灰色細砂
- 48 101/1灰色粘土シルト（小礫を少量含む）
- 49 101/1灰色粘土シルト（小礫を少量含む）
- 50 1010/4褐色粘土（1010/6黄褐色粘土シルトブロック状に含む）
- 51 1010/3C.1の黄褐色中砂
- 52 1010/3C.1の黄褐色土・1010/4埋砂褐色細砂と7.1010/41C.1の褐色・7.1010/1褐色土・1010/6褐色粘土の混土
- 53 1010/4褐色粘土（1010/3C.1の黄褐色土と7.1010/41C.1の褐色・7.1010/1褐色土・1010/6褐色粘土の混土）
- 54 7.101/1ローム褐色粘土と1000/4埋砂褐色粘土シルトブロック（小礫を多く含む）
- 55 101/1灰色粘土（砂を含む、小礫を少量含む）
- 56 7.101/1灰色粘土（砂を含む、小礫を少量含む、埋砂層を含む）
- 57 2.101/3埋砂ローム灰色粘土（小礫を少量含む、埋砂層を含む）
- 58 101/1埋砂ローム灰色粘土（小礫を少量含む、埋砂層を含む）
- 59 101/1埋砂ローム灰色粘土（小礫を少量含む、埋砂層を含む、黒っぽく変色している）
- 60 2.101/3埋砂ローム灰色粘土（小礫を少量含む）
- 61 1010/4C.1の黄褐色粘土と7.1010/1灰色粘土の互層（部分の改善あり）
- 62 101/1ローム褐色粘土（部分の改善あり）
- 63 101/2埋砂ロームシルト
- 64 7.101/1灰色粘土（小礫を少量含む、部分の改善あり）
- 65 101/1灰色粘土（部分の改善あり）
- 66 2.101/2埋砂黄褐色粘土（1010/4褐色粘土シルトブロックを含む）
- 67 2.101/2埋砂黄褐色粘土（1010/4褐色粘土シルトブロックを含む）
- 68 2.101/2埋砂黄褐色粘土（1010/4黄褐色粘土シルトブロックを含む）
- 69 2.101/2埋砂黄褐色粘土と1010/4黄褐色粘土の混土（1010/1黄褐色粘土シルトブロックを含む）
- 70 2.101/3ローム褐色粘土と1010/4褐色粘土シルトブロック
- 71 2.101/3ローム褐色粘土（7.1010/4埋砂褐色細砂ブロックを含む）
- 72 2.101/2埋砂黄褐色粘土（1010/4埋砂褐色細砂ブロック・2.101/1黄褐色粘土シルトブロックを含む）
- 73 2.101/2埋砂黄褐色粘土と1010/4埋砂褐色細砂ブロック
- 74 2.101/2埋砂黄褐色粘土（砂を多く含む）
- 75 1010/3埋砂シルト（砂を含む、2.101/2埋砂ローム褐色粘土ブロックを少量含む）
- 76 2.101/3ローム褐色粘土（砂を含む）
- 77 2.101/3埋砂ローム褐色粘土
- 78 2.101/2埋砂黄褐色粘土（小礫を少量含む）
- 79 2.101/2埋砂黄褐色粘土（小礫を少量含む、部分の改善あり）
- 80 2.101/2埋砂黄褐色粘土を多く含むシルト（部分の改善により1010/41C.1の黄褐色に着色している）
- 81 2.101/2埋砂黄褐色粘土
- 82 2.101/2埋砂黄褐色粘土と1010/4埋砂褐色細砂ブロック

第 35 図 東壁セクション（江戸時代の堤防跡 1: 100）

穴の規模や掘り形に違いが見られ、これが建物の性格や時期の違いによって起因している可能性もあるが、詳しいことは不明である。なお、柱穴が櫛のように並ぶ箇所がいくつか見られるが、今回は櫛列としては位置づけていない。

S B 101 調査区西端付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸520cm、短軸480cm程で、3間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-60°-Wを示し、古代に属すると思われる。

S B 102 調査区西端付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸520cm、短軸320cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-65°-Wを示し、古代に属すると思われる。

S B 103 調査区西端付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸790cm、短軸440cm程で、3間×4間の建物と推定される。長軸の方向はN-76°-Eを示し、古代に属すると思われる。

S B 104 調査区西側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸470cm、短軸340cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-18°-Eを示し、中世に属すると思われる。

S B 105 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸550cm、短軸220cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-36°-Eを示し、古代に属すると思われる。

S B 106 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸440cm、短軸270cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-13°-Wを示し、中世に属すると思われる。

S B 107 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸340cm、短軸230cm程で、1間×2間の建物と推定される。長軸の方向はN-29°-Eを示し、古代に属すると思われる。

S B 108 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸550cm、短軸350cm程で、2間×4間の建物と推定される。長軸の方向はN-50°-Wを示し、古代に属すると思われる。

S B 109 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。大半が調査区外になるため、規模は不明であるが長軸250cm以上、短軸180cm以上で、1間×2間以上の建物と推定される。長軸の方向はN-43°-Wを示し、古代に属すると思われる。

S B 110 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸350cm、短軸180cm程で、1間×2間の建物と推定される。長軸の方向はN-23°-Wを示し、古代に属すると思われる。

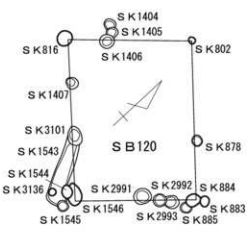
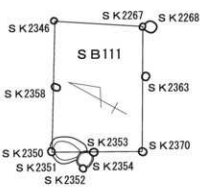
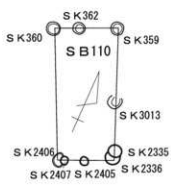
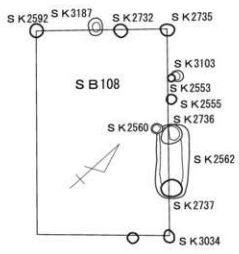
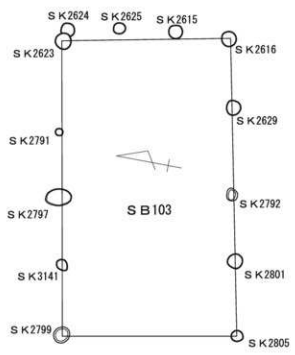
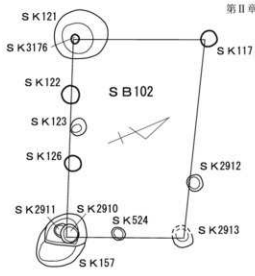
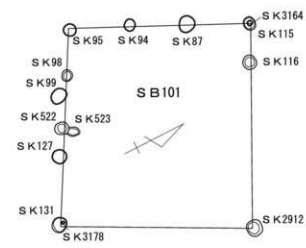
S B 111 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸350cm、短軸240cm程で、2間×2間の建物と推定される。長軸の方向はN-61°-Eを示し、古代に属すると思われる。

S B 112 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸430cm、短軸320cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-84°-Eを示し、古代に属すると思われる。

S B 113 調査区中央付近で検出された掘立柱建物で、西尾市教育委員会の調査で確認された掘立柱建物(S B 2 7)と同一遺構である。規模は長軸410cm、短軸340cm程で、2間×4間の建物と推定される。長軸の方向はN-46°-Wを示し、古代に属している。

S B 114 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸330cm、短軸240cm程で、1間×2間の建物と推定される。長軸の方向はN-38°-Eを示し、古代に属すると思われる。

S B 115 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸350cm、短軸240cm程で、2間×2間の建物と推定される。長軸の方向はN-15°-Wを示し、中世に属すると思われる。



第36図 掘立柱建物平面図 (1:100)

- S B 116** 調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸230cm、短軸200cm程で、1間×2間の建物と推定される。長軸の方向はN-21°-Wを示し、中世に属すると思われる。
- S B 117** 調査区東側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸380cm、短軸220cm程で、1間×2間の建物と推定される。長軸の方向はN-37°-Eを示し、古代に属すると思われる。
- S B 118** 調査区東側で検出された掘立柱建物で、西尾市教育委員会の調査で確認された掘立柱建物(S B 26)と同一遺構である。柱穴を1基のみ検出しただけである。規模は長軸660cm、短軸440cm程で、2間×3間の建物で、長軸の方向はN-66°-Wを示し、古代に属している。
- S B 119** 調査区東側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸630cm、短軸400cm程で、2間×4間の建物と推定される。長軸の方向はN-45°-Wを示し、古代に属すると思われる。
- S B 120** 調査区東側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸420cm、短軸320cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-41°-Wを示し、古代に属すると思われる。
- S B 121** 調査区東側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸340cm、短軸260cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-42°-Wを示し、古代に属すると思われる。
- S B 122** 調査区東側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸440cm、短軸210cm程で、1間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-65°-Eを示し、古代に属すると思われる。
- S B 123** 調査区東側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸280cm、短軸260cm程で、2間×2間の建物と推定される。長軸の方向はN-40°-Eを示し、古代に属すると思われる。
- S B 124** 調査区東側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸640cm、短軸360cm程で、2間×4間の建物と推定される。長軸の方向はN-28°-Eを示し、古代に属すると思われる。
- S B 125** 調査区東側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸400cm、短軸370cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-41°-Eを示し、古代に属すると思われる。
- S B 126** 調査区東側で検出された掘立柱建物である。規模は長軸390cm、短軸210cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-55°-Eを示し、古代に属すると思われる。
- S B 127** 調査区東端付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸400cm、短軸370cm程で、2間×2間の建物と推定される。長軸の方向はN-9°-Eを示し、中世に属すると思われる。
- S B 128** 調査区東端付近で検出された掘立柱建物である。規模は長軸690cm、短軸520cm程で、2間×3間の建物と推定される。長軸の方向はN-34°-Wを示し、古代に属すると思われる。

(小嶋廣也)

参考文献

- 『西尾市史 一 自然環境・原始・古代』西尾市史編纂委員会 1973
- 『矢作川流域資料調査報告書』矢作川流域調査会 1993
- 『古新田遺跡』西尾市教育委員会 1994
- 『年報 平成10年度』財団法人愛知県理蔵文化財センター 1999
- 『平成11年度 年報』財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県理蔵文化財センター 2000
- 『今町遺跡』財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県理蔵文化財センター 2002

第三章 遺物



古代瓦出土状態（西から）

第1節 古代以前の遺物

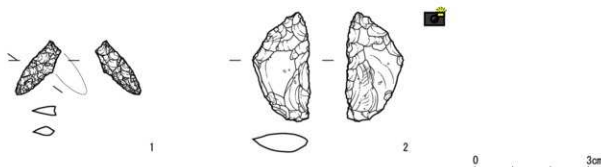
1. 概要

古代以前の遺物として、石器類が7点確認されている。この時期の遺構は確認されておらず、遺構埋土中や検出段階などで出土している。人々がこの台地で活動していたことを示しているのか、矢作川に流されてきたものか詳しいことはわかっていない。安山岩（サヌカイトか）や黒曜石のフレークがあり、製品が2点確認されたため図化した。縄文時代に属すると考えられる。

2. 石器類

1は、チャート（灰色）製の石織で、凹基無茎織に分類される。先端部と基部の一部が欠損している。先端が極かに外湾し、基部のえぐり込みがかなり深い。

2は、安山岩（サヌカイトか）製のスクレーパーである。なお、一部が欠損しているとする、石織（平基無茎織に分類）と考えることも可能である。



遺物番号	調査地点		種類		石材	法量 (cm・g)				備考	P/L	登録番号
	調査区	遺構	種類	器種		長さ	幅	厚さ	重さ			
1	00	中央ベルト	石器類	石織	チャート	残1.5	残0.8	0.3	0.3		30	S-001
2	00	検出	石器類	スクレーパー	安山岩	2.9	1.5	0.5	2.1	サヌカイトか	30	S-002

第37図 石器類 (1:1)

第2節 古代の遺物

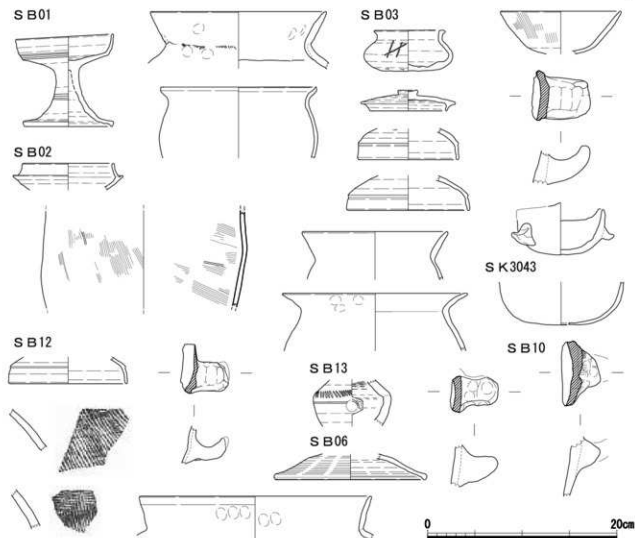
1. 概要

古代の遺物としては、須恵器・土師器以外に、布目瓦や瓦塔などが出土している。製塩土器、土鍾、瓦類、瓦塔は別項で紹介する。須恵器・土師器の時期は、須恵器の編年により東山44号窯様式から岩崎41号窯様式までが主体である。

今回は時間的な制約があつて、カウントを行っていない。そのため数的分析は不明である。須恵器では、杯の出土量が少なく高杯や蓋の出土量が多いように思われる。ふつうの住居跡から出土する遺物とはやや様相が異なっているように見受けられる。

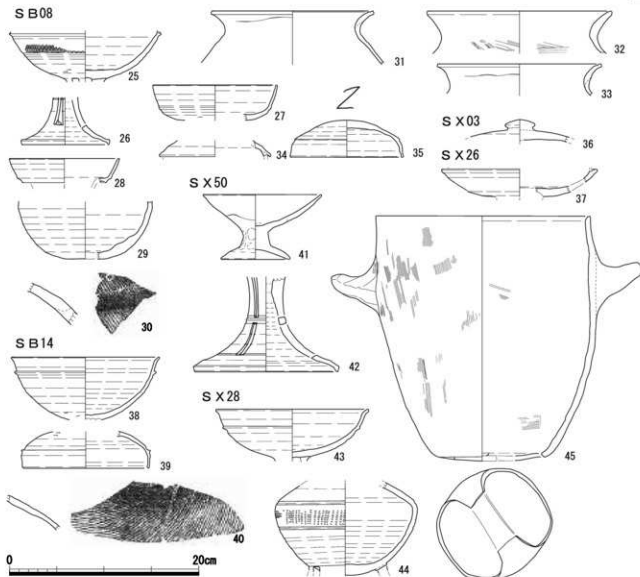
出土遺物については、大まかな分類のみ行っている。ただし、観察表では、もう少し細かく分類をしている。例えば杯は杯身・無台杯・有台杯、蓋では杯蓋・摘み付蓋・返り蓋などに分けている。詳しくは遺物の下に観察表が付けてあるので、遺物毎の記述は省略する。

2. 出土遺物



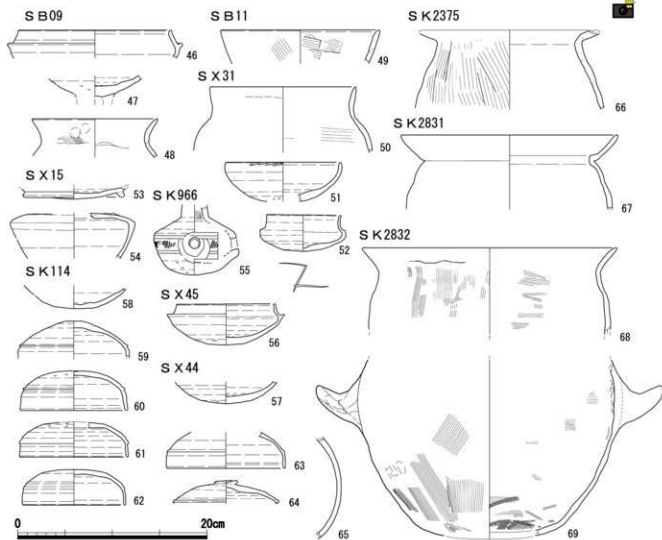
器物 番号	調査地点	遺物 番号	種類	器形	寸法 (cm)				輪郭・調整など		素材	備考	F.L.	登録 番号	
					器高	口径	胴径	底径	内面	外面					
1	00	SB01	瓶形器	高杯	—	19.81	(10.3)	—	19.23	ナブ	ナブ	縁段	1-17, 自然釉か沁る。外面磨石跡あり	24	E-001
2	00	SB01	土師器	甕	—	焼7.1	(19.4)	—	—	指押え+ナブか	指押え+ナブ	不明	磨石のような工具による調整	25	E-002
3	00	SB01	土師器	甕	—	焼7.5	(16.4)	(16.4)	—	ナブか	ナブか	不明	全体に磨滅	—	E-003
4	00	SB02	瓶形器	杯	杯身	焼2.9	(9.4)	—	—	ナブ	ナブ	縁段	11-15	24	E-004
5	00	SB02	土師器	甕か	—	焼10.1	—	(21.4)	—	ナブか	ナブか	不明	内・外面にハケ目か。外面磨石あり。全体に磨滅	—	E-005
6	00	SB03	瓶形器	甕	短瓶型	4.4	7.2	9.3	2.9	ナブ	ナブ+ケズリ	縁段	動動にハケ目	24	E-006
7	00	SB03	瓶形器	甕	横か付張り型	3.2	8.9	—	—	ナブ	ナブ	縁段	1-17, 磨石径2.1cm, 厚径10.6cm	24	E-007
8	00	SB03	瓶形器	甕	杯蓋	焼3.3	(10.4)	—	—	ナブ	ナブ+ケズリ	縁段	1-17か。全体にやや磨滅	—	E-008
9	00	SB03	瓶形器	甕	杯蓋	焼3.7	(12.4)	—	—	ナブ	ナブ	縁段	1-17	—	E-009
10	00	SB03	土師器	甕	—	焼6.1	(15.2)	—	—	ナブか	ナブか	不明	全体に磨滅	—	E-010
11	00	SB10	土師器	甕	—	焼6.1	(19.4)	—	—	ナブか	指押え+ナブか	不明	全体に磨滅	—	E-011
12	00	SB10	土師器	甕	—	焼4.5	—	—	—	ナブか	ナブか	不明	全体に磨滅。外面にハケ目残る	—	E-012
13	00	SB10	土師器	瓶	—	焼4.1	—	—	—	ナブか	指押え+ナブ	不明	内面磨滅	—	E-013
14	00	SB10	土師器	ヒコチヤア	—	3.5	(8.9)	—	—	指押え+ナブか	指押え+ナブか	不明	全体に磨滅	—	E-014
15	00	SK3043	土師器	甕	—	焼4.5	—	—	—	ナブか	ナブか	不明	全体に磨滅	25	E-015
16	00	SB12	瓶形器	甕	杯蓋	焼2.8	(12.5)	—	—	ナブ	ナブ	縁段	11-15	1-17	E-016
17	00	SB12	瓶形器	甕	—	焼4.3	—	—	—	指押え+ナブ	タタキ	縁段	1-17	—	E-017
18	00	SB12	瓶形器	甕	—	焼3.6	—	—	—	ナブ	タタキ	縁段	内面に当て目残	20	E-018
19	00	SB12	土師器	甕	—	焼4.1	—	—	—	ナブか	指押え+ナブか	不明	全体にやや磨滅	—	E-019
20	00	SB12	土師器	甕	—	焼4.6	(14.3)	—	—	指押え+ナブか	指押え+ナブか	不明	全体に磨滅	—	E-020
21	00	SB13	瓶形器	瓶	—	焼4.9	—	(8.2)	—	ナブ	ナブ	縁段	1-17, 自然釉か沁る	—	E-021
22	00	SB13	土師器	甕	—	焼4.4	—	—	—	ナブか	指押え+ナブか	不明	内面磨滅	—	E-022
23	00	SB06	瓶形器	甕	横か付型	焼2.7	(15.8)	—	—	ナブ	ナブ	縁段	C-2, 全体にやや磨滅	24	E-023
24	00	SB10	土師器	瓶	—	焼3.2	—	—	—	ナブか	指押え+ナブか	不明	全体に磨滅。外面にハケ目残る。内外面磨石あり	—	E-024

第39図 古代の遺物① (1:4)



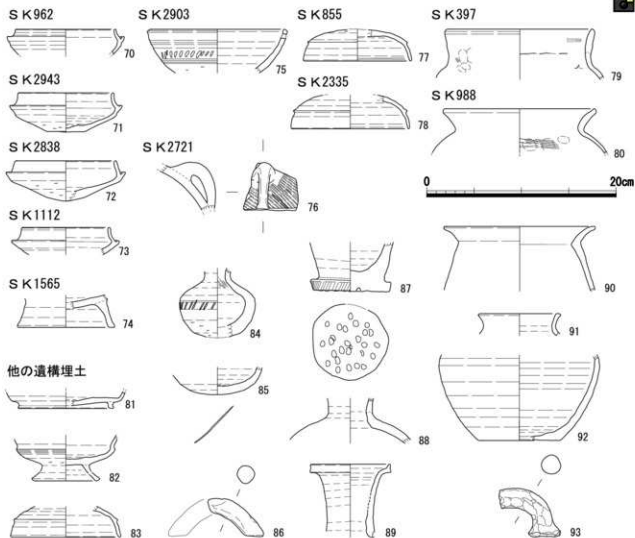
遺物 番号	調査地 調査区	調査地点	種別		器形	寸法 (cm)				断面・調整など		所在地	備考	F.L. 登録 番号	
			種類	群種		高さ	口径	胴径	底径	内面	外面				
25	0	S B 08	碗形器	高杯	—	陶土	—	—	ナゾ	ナゾ+ケズリカ	横紋	6世紀後半、胎部に灰状文、透かし3+底か	24	E-023	
26	0	S B 08	碗形器	高杯	—	陶土	—	—	ナゾ	ナゾ	横紋	11-44	24	E-024	
27	0	S B 08	碗形器	高杯	—	陶土	13.10	—	ナゾ	ナゾ	横紋	1-17	24	E-027	
28	0	S B 08	碗形器	高杯	—	陶土	11.40	—	ナゾ	ナゾ	横紋	6世紀後半、自然焼か小糸	24	E-028	
29	0	S B 08	碗形器	盆か	—	陶土	6.1	(14.1)	—	ナゾ	横紋	7世紀代	24	E-029	
30	0	S B 08	碗形器	盤	—	陶土	—	—	ナゾか	ナゾか	横紋	—	—	E-030	
31	0	S B 08	土師器	盤	—	陶土	17.03	—	ナゾか	ナゾか	不明	全体に磨滅	—	E-031	
32	0	S B 08	土師器	盤	—	陶土	19.40	—	ナゾか	ナゾか	不明	全体に磨滅、内外面にハケ目残る	25	E-032	
33	0	S B 08	土師器	盤	—	陶土	17.23	—	ナゾか	ナゾか	不明	全体に磨滅	—	E-033	
34	0	S B 08	碗形器	蓋	取手蓋か	陶土	1.7	—	ナゾ	ナゾ	横紋	1-17D、胴径(11.9)cm	—	E-034	
35	0	S B 08	碗形器	蓋	新蓋	陶土	3.9	(11.40)	—	ナゾ	ナゾ	横紋	11-44、舟底へテ記号	24	E-035
36	0	S X 03	碗形器	蓋	縁み付蓋	陶土	4	—	ナゾ	ナゾ	横紋	縁み付3.5cm	—	E-036	
37	0	S X 26	碗形器	高杯	有蓋高杯	陶土	16.23	—	ナゾ	ナゾ+ケズリ	横紋	6世紀後半か	—	E-037	
38	0	S B 14	碗形器	高杯	—	陶土	15.53	—	ナゾ	ナゾ	横紋	11-44、底面に印り込み残	24	E-038	
39	0	S B 14	碗形器	蓋	新蓋	陶土	19.22	—	ナゾ	ナゾ+ケズリ	横紋	11-44	24	E-039	
40	0	S B 14	碗形器	盤	—	陶土	6	—	—	縁押え+ナゾ	横紋	—	—	E-040	
41	0	S X 50	土師器	高杯	—	陶土	12.40	(7.1)	—	縁押え+ナゾか	縁押え+ナゾか	不明	全体に磨滅	25	E-041
42	0	S X 50	碗形器	高杯	—	陶土	10.0	—	(13.0)	ナゾ	ナゾ	横紋	6世紀後半、透かし2段+3+底	24	E-042
43	0	S X 28	碗形器	高杯	—	陶土	16.00	—	ナゾ	ナゾ	横紋	6世紀後半、高台に透かし2+底	24	E-043	
44	0	S X 28	碗形器	蓋	台付丸縁蓋	陶土	8	(13.3)	—	ナゾ	ナゾ	横紋	11-15、縁取1高による縁文、高台に透かし2+底	24	E-044
45	0	S X 28	土師器	瓶	—	陶土	22.30	(11.1)	ナゾか	縁押え+ナゾか	不明	全体にやや磨滅	25	E-045	

第40図 古代の遺物②(1:4)

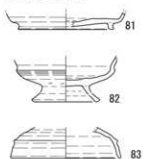


遺物 番号	調査地点		種類	器種	器形	口径 (cm)				輪高・調整など		用途	備	考	P.L.	登録 番号
	調査区	遺構				器高	口径	胴径	底径	内	外					
46	0	SB09	碗形器	杯	杯身	焼3.0	16.0	-	-	ナゾ	ナゾ	焼成	6世紀中頃か			E-046
47	0	SB09	碗形器	高杯	-	焼3.0	-	-	-	ナゾ	ナゾ+ケズカ	焼成	6世紀中頃か			E-047
48	0	SB09	土師器	盤	-	焼4.1	13.2	-	-	ナゾか	ナゾか	不明	全体に厚縁、外周一部ハケ目見える			E-048
49	0	SB11	土師器	盤	-	焼5.0	16.4	-	-	ナゾか	ナゾか	不明	全体に厚縁、内外面にハケ目残る			E-049
50	0	SX31	土師器	盤	-	焼5.0	13.4	-	-	ナゾか	内脚土+ナゾか	不明	全体に厚縁、内面にハケ目残る			E-050
51	0	SX31	土師器	高杯か	-	焼4.2	12.4	-	-	ナゾ	ナゾ+ケズカ	焼成	全体に厚縁、口縁部不明			E-051
52	0	SX31	土師器	皿	短形皿	3.9	7.7	9.1	-	ナゾ	ナゾ	焼成	1-11a、底縁外面にヘラ記号	24		E-052
53	0	SX15	土師器	杯	有台杯	焼3.2	-	-	10.4	ナゾか	ナゾか	焼成	1-11a、全体に厚縁	24		E-053
54	0	SX15	土師器	皿	平皿	焼4.2	-	-	-	ナゾ	ナゾ	焼成	8世紀後半か、自然釉かかぶる	24		E-054
55	0	SK966	土師器	皿	-	焼4.4	-	8.1	-	ナゾか	ナゾ	焼成	11-15、外周縁状工具による施文	24		E-055
56	0	SX45	土師器	杯	杯身	4.4	16.2	-	-	ナゾ	ナゾ+ケズカ	焼成	11-14、口縁部に線装文	24		E-056
57	0	SX44	土師器	皿	杯蓋	焼4.4	-	-	-	ナゾ	ナゾ	焼成				E-057
58	0	SK114	土師器	皿	杯蓋	焼4.1	-	-	-	ナゾ	ナゾか	焼成	丹波厚縁			E-058
59	0	SK114	土師器	皿	杯蓋	焼4.9	-	-	-	ナゾ	ナゾ	焼成	11-44~11-15			E-059
60	0	SK114	土師器	皿	杯蓋	焼4.2	11.2	-	-	ナゾ	ナゾ	焼成	11-44~11-15			E-060
61	0	SK114	土師器	皿	杯蓋	焼4.7	11.0	-	-	ナゾ	ナゾ+ケズカ	焼成	11-44~11-15			E-061
62	0	SK114	土師器	皿	杯蓋	焼4.8	10.8	-	-	ナゾ	ナゾ+ケズカ	焼成	11-44、全体に厚縁	24		E-062
63	0	SK114	土師器	皿	杯蓋	焼4.8	12.4	-	-	ナゾ	ナゾ	焼成	11-44~11-15			E-063
64	0	SK114	土師器	皿	杯蓋+付蓋	焼4.2	-	-	-	ナゾ	ナゾ	焼成	11-44、有蓋部のみ、焼中破片、焼跡(11.2)cm	24		E-064
65	0	SK114	土師器	皿	短形	焼4.7	10.7	-	-	ナゾ	ナゾ	焼成	内外面とも縁方向のケズ、外面自然釉かかぶる	24		E-065
66	0	SK2375	土師器	盤	-	焼4.4	18.4	-	-	内脚土+ナゾか	ナゾ+ハケ	不明	口縁部、内面縁部磨滅か	25		E-066
67	0	SK2831	土師器	盤	-	焼4.9	22.4	-	-	内脚土+ナゾか	内脚土+ナゾか	不明	全体に厚縁			E-067
68	0	SK2832	土師器	皿	-	焼4.2	28.4	-	-	ハケ目	ハケ目	不明	全体に厚縁、外周一部黒く変色(黒黒小)	25		E-068
69	0	SK2832	土師器	皿	-	焼4.5	-	-	-	内脚土+ナゾか	内脚土+ナゾか	不明	内外面にハケ目残る、全体に厚縁、外周一部黒く変色(黒黒小)	25		E-069

第41図 古代の遺物③(1:4)



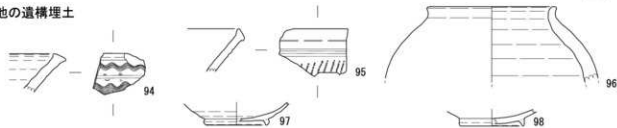
他の遺構埋土



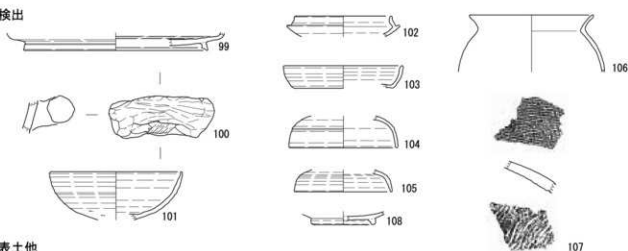
遺物 調査記 遺物記	調査点	種別	器種	器形	器高 (cm)				輪縁・口縁		輪縁・口縁		底高	備考	P.L.	発掘 番号
					器高	口縁	口縁	口縁	内面	外面						
70	00	SK962	碗蓋器	杯	杯身	陶2.7	(10.3)	-	-	ナゾ	ナゾ	鉄灰	1-17、内面やや厚縁			E-070
71	00	SK2903	碗蓋器	杯	杯身	4.2	(10.0)	-	-	ナゾ	ナゾ+ナゾリ	鉄灰	H-44	24	E-071	
72	00	SK2943	碗蓋器	杯	杯身	4.1	(10.4)	-	-	ナゾ	ナゾ+ナゾリ	鉄灰	H-50			E-072
73	00	SK2838	碗蓋器	杯	杯身	陶2.9	(9.1)	-	-	ナゾ	ナゾ	鉄灰	H-15、外面自然釉が少る	24	E-073	
74	00	SK1112	碗蓋器	盤か	有台盤か	陶3.4	-	-	(10.1)	ナゾ	ナゾ	鉄灰	7 片配代か	25	E-074	
75	00	SK2963	碗蓋器	高杯か	-	陶3.6	(14.3)	-	-	ナゾ	ナゾ	鉄灰	8 片配代7 片配、山崎陶器 0.5mm×1mm、8 片配→7 片配	24	E-075	
76	00	SK2721	碗蓋器	瓶	フラスコ形瓶	-	-	-	-	ナゾ	タタキ	鉄灰	外面自然釉が少る	24	E-076	
77	00	SK465	碗蓋器	蓋	碗蓋	陶3.3	(11.3)	-	-	ナゾ	ナゾ+ナゾリ	鉄灰	H-50か			E-077
78	00	SK2335	碗蓋器	蓋	碗蓋	陶3.6	(12.3)	-	-	ナゾ	ナゾ	鉄灰	H-44			E-078
79	00	SK397	土師器	壺か	-	陶3.3	(10.2)	-	-	指押え+ナゾか	指押え+ナゾか	不明	全体に厚縁、ハケ目残るか			E-079
80	00	SK968	土師器	壺	-	陶4.8	(15.0)	-	-	指押え+ナゾか	指押え+ナゾか	不明	全体に厚縁、内面ハケ目残る			E-080
81	00	SD06	碗蓋器	杯	有台盤	陶1.8	-	-	(10.0)	ナゾ	ナゾ	鉄灰	1-17	24	E-081	
82	00	SD08	碗蓋器	不明	-	陶1.8	-	-	(8.4)	ナゾ	ナゾ	鉄灰		25	E-082	
83	00	SD24	碗蓋器	蓋	杯蓋	陶3.3	(11.3)	-	-	ナゾ	ナゾ	鉄灰	H-30			E-083
84	00	SE04	碗蓋器	盥	-	陶2.3	-	(8.0)	-	ナゾ	ナゾ	鉄灰	H-50か、外面磨状工具による厚文	24	E-084	
85	00	SE04	碗蓋器	盥か	-	陶3.0	-	-	-	ナゾ	ナゾ+ナゾリか	鉄灰	底面にハナ型			E-085
86	00	SD08	碗蓋器	盥か	-	-	-	-	-	指押え+ナゾか	不明	蓋の把手か、全体に厚縁、残存長6.5cm、径1.5cm	25	E-086		
87	00	SE04	碗蓋器	鉢	-	陶3.3	-	-	8.1	ナゾ	ナゾ+タタキか	鉄灰	1-17か、底面に穴(27+8)あり	24	E-087	
88	00	SD03	碗蓋器	埴瓶か	-	陶4.8	-	-	-	ナゾ	ナゾ	鉄灰	内面に土層状のナゾ・タタキか、底面に把手の跡か			E-088
89	00	SD40	碗蓋器	瓶	長頸瓶	陶2.7	8.3	-	-	ナゾ	ナゾ	鉄灰	10-78	24	E-089	
90	00	SD25	土師器	壺	-	陶6.9	(15.0)	-	-	ナゾか	ナゾか	不明	全体に厚縁・蓋厚縁か	25	E-090	
91	00	SD02	碗蓋器	蓋	短蓋	陶2.1	(5.4)	-	-	ナゾ	ナゾ	鉄灰	7 片配代	24	E-091	
92	00	SD05	碗蓋器	蓋	短蓋	陶3.0	-	(17.0)	(8.0)	ナゾ	ナゾ+ナゾリ	鉄灰	8 片配代	24	E-092	
93	00	SK346	碗蓋器	不明	-	-	-	-	-	指押え	不明	蓋の把手か、長約1.8cm、幅約1.5cm、径約1.5cm、全体に自然釉	25	E-093		

第42図 古代の遺物④(1:4)

他の遺構埋土



検出



表土他



0 15cm

遺物 番号	調査 区画	遺構 種類	遺物 名称	形状	数量 (個)				施装・装飾など		長所	備 考	P.L.	発掘 番号
					総数	1種	別種	底層	内 面	外 面				
94	00	S 504	灰器器	壺	—	残4.1	—	—	ナゾ	ナゾ	縁段	1—17a, 外面に底状文	E-094	
95	00	S D07	灰器器	壺	—	残4.0	—	—	ナゾ	ナゾ	縁段	1—17, 外面縁による肩目	E-095	
96	00	S X10	灰細陶器	壺	短脚蓋	残3.1	(13.2)	(22.4)	ナゾ	灰釉	縁段か	灰釉はとんでいる。穴を受けているのか	25	E-096
97	00	S X06	灰細陶器	甕	有台甕	残2.4	—	(8.2)	ナゾ	ナゾ	縁段	K-90, 見込み使用による磨滅か。底面に底面取付痕	25	E-097
98	00	S D43	灰細陶器	皿	—	残1.7	—	(6.4)	ナゾ	ナゾ	縁段	0—20a, 内縁縁, 見込による磨滅か。見込に底面取付の磨滅痕	25	E-098
99	00	検1	灰器器	甕	有台甕	残1.9	—	(18.4)	ナゾ	ナゾ	縁段	0—10	24	E-099
100	00	検1	灰器器	罎	—	残4.1	—	—	ナゾ	磨りえ+ナゾか	縁段4	罎の把手, 外面タタキ目残る。白色粘土混入か	25	E-100
101	00	検1	灰器器	高杯	—	残5.1	(13.3)	—	ナゾ	ナゾ+タテボリ	縁段	H-44b, 全体に牛や猪鬃	E-101	
102	00	検1	灰器器	杯	杯身	残2.3	(10.2)	—	ナゾ	ナゾ	縁段	外面自然磨かふる	E-102	
103	00	検1	灰器器	有台杯小	—	残2.4	(12.4)	—	ナゾ	ナゾ	縁段	—	E-103	
104	00	検1	灰器器	蓋	杯蓋	残3.5	(11.4)	—	ナゾ	ナゾ	縁段	H-44	E-104	
105	00	検1	灰器器	蓋	杯蓋	残2.4	(10.2)	—	ナゾ	ナゾ	縁段	1—17	E-105	
106	00	検1	土器器	壺	—	残6.1	(13.0)	—	ナゾか	ナゾか	木目	全体に磨滅	25	E-106
107	00	検1	灰器器	甕	—	残3.3	—	—	—	—	タタキ	内面に当て道具痕	E-107	
108	00	検1	灰細陶器	皿	—	残1.4	—	6.4	ナゾ	ナゾ	縁段	0—53b, 底面に底面取付痕。自然磨かふる	25	E-108
109	00	表係	灰器器	皿	良脚皿	残3.4	(7.4)	—	ナゾ	ナゾ	縁段	1—41	E-109	
110	00	タタキ	灰器器	蓋	磨り付蓋	残1.8	—	—	ナゾ	ナゾ	縁段	磨り付(3.7)cm	24	E-110

第43図 古代の遺物⑤(1:4)

参考文献

橋崎彰一「猿投室の編年について」『愛知県古蹟群分布調査報告書(Ⅲ) 尾北地区・三河地区』

愛知県教育委員会 1983

『第4回三河考古合同研究会 古墳時代の猿投室と湖西宮 一分類・編年・西暦年代の再検討』三河考古刊行会

1999

『第1回東海上器研究会 須恵器生産の出現から消滅』東海上器研究会 2000

3. 製塩土器

製塩土器とは、人間にとって欠くことのできない塩を作るための土器である。本来海岸部分で海水を濃縮した塩水を入れて加熱して塩を作っていたと考えられていることから、土器は海岸部分で出土していた。最近の発掘調査において、豊田市の梅坪遺跡や岡崎市の小針遺跡で大量の製塩土器が出土しており、内陸部の遺跡においても数に違いはあるが出土していることが確認されている。これは、内陸部で塩を作っていたとは考えられないことから、製塩土器に入ったまま海岸部で作られた塩が川を利用して運ばれてきたものと考えられている。

本遺跡において、製塩土器が僅かであるが全部で15点確認されている。正確な数はカウントを行っていないので明らかではないが、古代の遺構から出土したものが殆どで、脚部が6点、杯部が9点となっている。

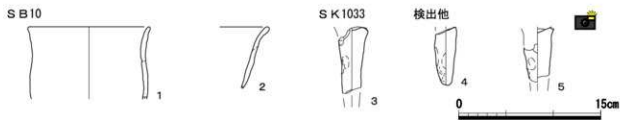
出土した製塩土器の脚部は、棒状脚の先端が尖るものが多く、全体のわかる資料は出土していない。円筒脚と思われる破片が1点のみ確認されている。また、器壁が薄く硬さを多く含むため胎土が粗く、二次的に火を受けていて全体に赤っぽくなった破片が数点確認されている。これが、製塩土器の杯部である可能性が高いので、ここではこれらの破片も製塩土器の杯部として分類した。なかなか杯部を選び出すことが行いにくく、図化される例も少ない。土器器の甕との区別が難しいことが関係しているかもしれないが、よく観察することで分類することが可能となろう。

製塩土器が川を利用して運ばれてきたことは簡単に想像することができる。当然塩以外に生活に必要な物資と一緒に運ばれていたであろうし、当時の人々の川運における活発な活動を示す資料の1つとなっている。

参考文献

森 泰通 「豊田市出土の製塩土器について」『神明遺跡』豊田市埋蔵文化財調査報告書第6集 豊田市教育委員会 1996

福岡発彦他 『松崎遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第20集 (財)愛知県埋蔵文化財センター 1991



遺物番号	調査区	遺構	発見地	種別	器種	器部	法量 (cm)			断面・図解など		産地	備考	F/L	登録番号
							高さ	口径	脚径	底径	内面				
1	0-0	S B 10	土脚部	製塩土器	杯部	残7.6	(12.8)	-	-	ナデカ	ナデカ	不明		25	E-111
2	0-0	S B 10	土脚部	製塩土器	杯部	残6.6	-	-	-	指押え+ナデカ	指押え+ナデカ	不明	全体に磨滅	25	E-112
3	0-0	S K 1033	土脚部	製塩土器	脚部	残7.1	-	-	-	指押え		不明	全体にやや磨滅。最大径2.8cm	25	E-113
4	0-0	検1	土脚部	製塩土器	脚部	残6.2	-	-	-	指押え		不明	全体にやや磨滅。最大径2.2cm	25	E-114
5	0-0	中4-43	土脚部	製塩土器	脚部	残6.9	-	-	-	指押え		不明	全体に磨滅。最大径3.8cm	25	E-115

第44図 製塩土器 (1:4)

4. 土鍾

土鍾とは、漁具として広く用いられているが、他に機織具のものも見られる。漁具のものは石鍾と同じく網の鍾具と考えられている。土鍾には、管状型土鍾・球状土鍾・紡績型土鍾・有溝土鍾・ほまき型土鍾に分けられ、管状型土鍾もさらに管状細長型土鍾・管状中長型土鍾・管状大型土鍾などに細分されている。

本遺跡から出土した土鍾は、完形品および破片を含め81点確認されている。堅穴住居などの遺構から出土したものが69点、検出や表土剥ぎ段階のものが12点で、全て土師質製品である。遺構から出土したといっても全てが古代の遺構から出土したわけではなく、中世以降も土鍾は存在することから古代の土鍾であるとは言い切れないが、ここでまとめて紹介する。今回、製塩土器同様に細かな分類は行わず数を確認した程度である。

本遺跡から出土した土鍾を見てみると、形態的には管状型土鍾で、球状・有溝・紡績型土鍾は全く見られない。殆どが管状大型土鍾に分類され、一部に管状中長型土鍾が見られる程度で、管状細長型土鍾は確認されていない。

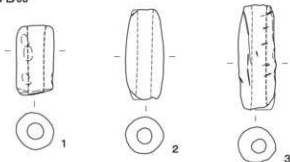
矢作川上流の遺跡では管状細長型土鍾のような小型で軽量の土鍾が利用されていたのに対し、下流の本遺跡においては管状大型土鍾という大型で重量の土鍾が使われていた。これは、河川の水量が多く、現在より海岸線に近かったことなどにより、重い土鍾を利用した網漁が行われていたことを示していると思われる。

参考文献

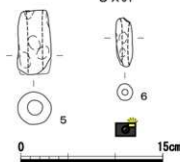
鈴木とよ江「矢作川下流域出土の管状土鍾について」『古新田遺跡』西尾市教育委員会 1994

福岡晃彦他『松崎遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第20集（財）愛知県埋蔵文化財センター 1991

SB08

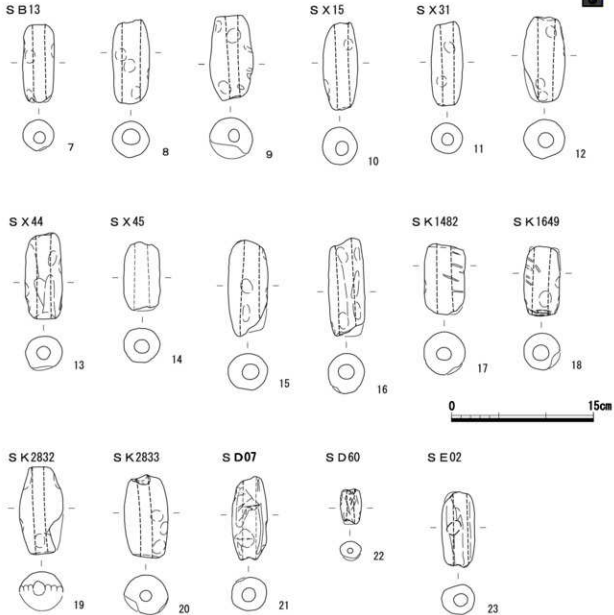


SX01



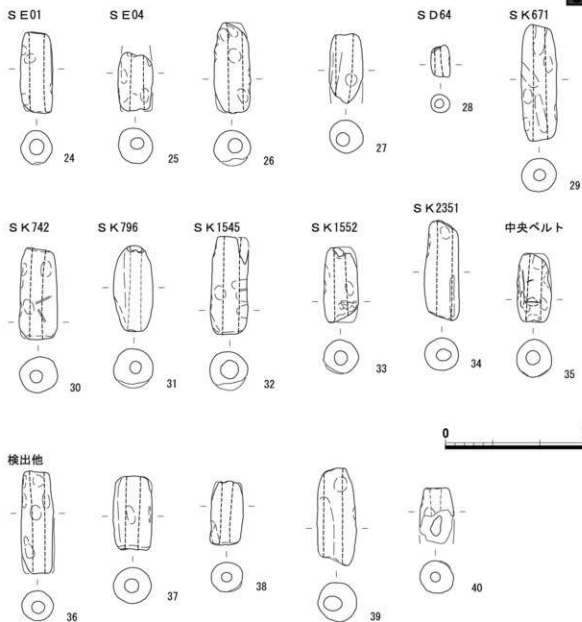
遺物 番号	調査 年度	調査 地点	形 態			寸法 (cm・g)				軸長・調整など		産地	備 考	P.L.	登録 番号
			遺 種	種 別	形 種	長さ	最大幅	底径	重さ	内 面	外 面				
1	00	SB08	土師器	土鍾	管状	7.3	4.0	2.0	102.2	—	指押え+ナゲコ	不明	全体に磨滅、外面一部黒く変色	25	F-116
2	00	SB08	土師器	土鍾	管状	10.3	4.0	1.7	121.0	—	指押え+ナゲコ	不明	全体に磨滅	26	F-117
3	00	SB08	土師器	土鍾	管状	11.03	3.9	1.7	149.9	—	指押え+ナゲコ	不明	全体に磨滅、外面一部黒く変色	25	F-118
4	00	SB08	土師器	土鍾	管状	10.4	4.0	1.2	103.3	—	指押え+ナゲコ	不明	全体に磨滅、外面黒く変色	26	F-119
5	00	SB08	土師器	土鍾	管状	16.91	3.5	1.7	65.9	—	指押え+ナゲコ	不明	全体に磨滅	26	F-120
6	00	SX01	土師器	土鍾	管状	13.11	1.7	0.9	11.6	—	指押え+ナゲコ	不明	全体に磨滅、外面一部黒く変色	25	F-121

第45図 土鍾①(1:4)



番号	調査地点		種類	形状	数量 (m・g)			断面・調整など		断面	備考	F/L	登録番号	
	調査区	遺構			長さ	最大幅	孔径	重量	内面					外面
7	0-0	S 013	土師器	管状	8.3	3.3	1.3	77.4	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅、外面一部黒く変色	25	0-122
8	0-0	S 013	土師器	管状	8.9	3.9	2.0	132.9	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅、外面一部灰色に変色	25	0-123
9	0-0	S 013	土師器	管状	8.1	3.7	1.4	131.9	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅、外面一部灰色に変色	25	0-124
10	0-0	S X 15	土師器	管状	9.3	3.4	1.3	110.1	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅	25	0-125
11	0-0	S X 31	土師器	管状	9.9	3.4	1.4	88.3	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅	25	0-126
12	0-0	S X 31	土師器	管状	10.1	3.4	1.9	127.2	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅	25	0-127
13	0-0	S X 44	土師器	管状	8.2	3.3	1.6	105.5	-	縦押しナナズカ	不明	全体に中々摩滅	25	0-128
14	0-0	S X 45	土師器	管状	7.5	3.8	1.6	89.6	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅	25	0-129
15	0-0	S X 45	土師器	管状	10.2	4.2	1.9	130.5	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅、外面一部褐色に変色	25	0-130
16	0-0	S X 45	土師器	管状	10.4	3.4	1.8	139.6	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅、外面一部褐色に変色	25	0-131
17	0-0	S K 1482	土師器	管状	7.6	3.1	1.3	123.9	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅、外面黒っぽく変色	25	0-132
18	0-0	S K 1649	土師器	管状	7.6	3.3	1.8	83.8	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅	25	0-133
19	0-0	S K 2832	土師器	管状	9.3	3.6	1.3	107.4	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅	25	0-134
20	0-0	S K 2833	土師器	管状	8.7	3.7	1.3	106.9	-	縦押しナナズカ	不明	全体に摩滅、外面一部黒っぽく変色	25	0-135
21	0-0	S D 07	土師器	管状	8.9	3.3	1.0	94.6	-	縦押しナナズカ	不明	全体に中々摩滅、外面一部黒く変色	25	0-136
22	0-0	S D 60	土師器	管状	3.7	3.3	0.9	11.4	-	縦押しナナズカ	不明	全体に中々摩滅	25	0-137
23	0-0	S E 02	土師器	管状	3.6	3.3	1.6	79.7	-	縦押しナナズカ	不明	全体に中々摩滅、外面一部黒く変色	25	0-138

第46図 土師② (1:4)



番号	調査区	調査地点	種別				質量 (g)			形状・調整方法		底径	備考	P.L.	登録番号
			種類	器種	器形	器状	長さ	最大幅	孔径	重さ	内面				
24	00	S E01	土師器	土師	管状	(8.8)	(3.4)	1.6	93.0	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に中々礫		E-139
25	00	S E04	土師器	土師	管状	西6.2	(3.9)	1.6	69.8	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫。外面一部灰色に着色		E-140
26	00	S E04	土師器	土師	管状	(8.4)	(3.8)	1.8	102.0	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に中々礫		E-141
27	00	S E04	土師器	土師	管状	(7.4)	(3.6)	1.4	77.5	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫。外面一部黒く着色		E-142
28	00	S D64	土師器	土師	管状	(3.4)	2.0	0.9	9.9	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫	28	E-143
29	00	S K671	土師器	土師	管状	12.3	3.7	1.6	169.9	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に中々礫。外面黒く着色	29	E-144
30	00	S K742	土師器	土師	管状	(8.7)	4.1	1.4	106.9	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫。外面一部黒く着色	30	E-145
31	00	S K796	土師器	土師	管状	9.1	(4.1)	1.4	136.2	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫		E-146
32	00	S K1545	土師器	土師	管状	(10.4)	4.0	1.9	144.1	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫。外面一部黒く着色		E-147
33	00	S K1552	土師器	土師	管状	(7.9)	(3.7)	1.5	79.6	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫		E-148
34	00	S K2351	土師器	土師	管状	(10.7)	3.6	1.6	121.7	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に中々礫	34	E-149
35	00	98-4-3	土師器	土師	管状	(7.2)	4.0	1.5	97.6	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫	35	E-150
36	00	検1	土師器	土師	管状	(10.9)	(3.4)	1.6	108.0	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に中々礫。外面黒く着色		E-151
37	00	検1	土師器	土師	管状	(7.9)	3.9	1.6	117.2	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫。外面一部黒く着色		E-152
38	00	検1	土師器	土師	管状	(8.8)	(3.4)	1.3	70.5	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫		E-153
39	00	検1	土師器	土師	管状	(10.3)	4.1	2.0	144.3	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫。外面一部黒く着色		E-154
40	00	検1	土師器	土師	管状	西5.9	3.6	1.2	52.3	-	指押え+ナゾシ	不明	全体に礫。外面黒く着色		E-155

第47図 土師③ (1:4)

5. 古代瓦

本遺跡では回面に布目痕が残った瓦が多く出土している。布目瓦ともいわれ、飛鳥時代から発達し奈良・平安時代のものに多く見られるようになる。ここでは、古代瓦として紹介する。

まず、瓦とは主として屋根に用いた屋根瓦を指しているが、敷瓦（罫）などのようにその範囲も広く用いられることがある。屋根瓦は、仏寺の建立とともに発達し、その後現在にまで及んでいる。屋根瓦の本格的な葺き方は本瓦葺きであり、平瓦を並べその隙間を丸瓦で覆う。軒先部分には、文様のある軒丸瓦や軒平瓦を使用する。現在では一般的に見られる屋根瓦も、飛鳥時代の頃には一般的ではなく、寺院や国衙などの役所という極限られたところでしか利用されておらず、一般の人々は竪穴住居や掘立柱建物で生活していたようである。そのため、古代瓦が出土する地点は、寺院跡や役所跡、瓦窯跡と考えられている。

一般的な瓦の作り方を見ておくと、ここで紹介する方法以外にも作り方があることを予めご承知おきいただきたい。丸瓦は、成形台にのせた瓶形をした型に粘土を巻いて筒状のものを作り、格子目を彫刻した叩き板や縄を巻き付けた叩き板などを利用して凸面を叩きしめて成形し、それを縦に2分割して丸瓦とする。型に巻き付ける粘土は紐状のものと板状のものがある。平瓦も丸瓦同様、桶状の成形台に粘土紐や粘土板を巻き付けて叩き板を使って成形し、それを3分割または4分割して平瓦とした。桶型の成形台に粘土を巻いて作るため、桶巻き作りと呼ばれている。丸瓦・平瓦ともに粘土を巻き付ける際、粘土筒を外し易くするため型に袋状の布を被せておくため、瓦の回面に布目痕が残るのである。また、平瓦では大量生産が可能な方法として、蒲鉾形をした凸面の成形台に平瓦一枚分の粘土板を置いて作る一枚作りという方法もあった。これにより、多くの平瓦の生産が可能となり、当時の瓦の需要に応えていったといわれている。また、軒丸瓦は文様をもつ瓦当面の裏に丸瓦を接合して作っている。瓦当部は、文様を彫刻した型（范）に粘土を押しつけて作る。軒平瓦も軒丸瓦と同様、文様部分と平瓦部を別々に作りこれを接合するものと考えられている。この文様を見比べることによって、同じところに同じような傷が確認できる場合がある。これは、同じ型（范）によって製作された可能性が高く、同じ窯で焼かれたことを証明することになる。

本遺跡においては瓦は古代の遺構から出土したものは極僅かで、多くは中世の溝や井戸、包含層から出土している。このため、瓦の年代を知り得る資料は少ないが、全て古代瓦であると考えられる。出土した瓦の大半が丸瓦と平瓦で、一部に軒丸瓦がみられる。軒平瓦については、小片のため不明であるが数点が確認されているのみである。これ以外に鴟尾や鬼瓦などの瓦は出土していない。今回は各瓦の特徴だけを記述しておきたい。古代瓦の細かな分類やカウントなどは実施していない。

まず、軒丸瓦と思われる瓦は9点が確認されている（1～8、10）。1～7は軒丸瓦の瓦当面で、大きく2つに分けることができる。1・2は、北野庵寺系の瓦当面で軟質である。1は、半球状の中房をもつ素弁11葉蓮華文軒丸瓦の瓦当面で、三角形の間弁や周囲に圏線をもち、周縁は無文と思われる。瓦当面裏下半部に周縁状の突帯があったものが剥離しているのか、または元々無かったのか、摩滅がはげしく不明である。2は、1と同范と思われる。文様や形態はやや違うが、小坂井町の医王寺庵寺跡や豊川市の三河国府跡から類似の軒丸瓦が出土している。形態的に、医王寺庵寺跡や三河国

府跡のものよりも新しい瓦と判断できる。4～7は、安城市の寺領庵寺跡や西尾市の大郷瓦窯跡で出土している軒丸瓦と同じ瓦当面で硬質である。4は、一部に単弁が見られる素弁蓮華文軒丸瓦の瓦当部で、中房には1+8蓮子が配置してある。間弁は細くなっているが、中房につながっている。周囲に布目痕が確認され、側板連結模様の丸瓦を接合させていると思われる。大郷瓦窯跡出土の軒丸瓦と同范の可能性が高い。5・6も、4と同様の軒丸瓦の瓦当面と考えられる。ただし、5の間弁は4・6に比べ太くなっている点が注目される。7は、4～6に比べ中房が小さく間弁が完全に中房から離れていることから、同じ蓮華文軒丸瓦としてもかなり新しい段階の瓦と位置付けることができそうである。以上から、5が一番古く、4・6がつづき、7が一番新しくなると考えられる。3は、小片のため不明な点が多いが、軟質であるため1・2と同じ軒丸瓦の破片と思われる。8・10は、軒丸瓦の丸瓦部分である。8は軟質で、これに合う瓦当部分は確認されていない。10は軟質で、歯車状接合と思われる刻みが確認できる。

軒平瓦は小片が数点確認されている程度で、詳しいことはわかっていない。41は、端部に重弧文が施され、頸部とすればかなり深頸となる。

丸瓦は確認されている(9、11～29)。平瓦と丸瓦では、本瓦葺きでは平瓦が圧倒的に多く、丸瓦は数量的には少ない。丸瓦の主体は行基葺きの粘土板作りで、側板連結模様の凸面ナデ調整などにより叩きの痕を消しているものが多い。そのため、丸瓦の凸面にどのような叩き調整が行われていたのか確認できていない。なお、玉縁式丸瓦は出土していない。

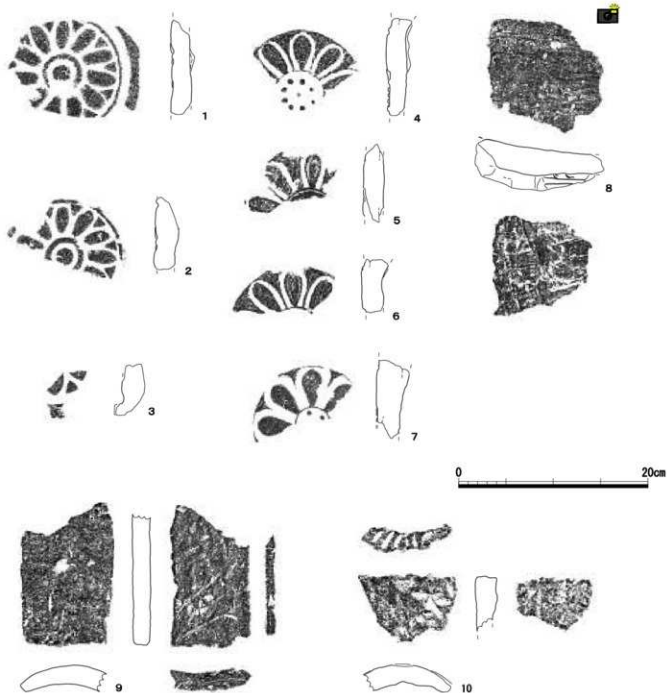
平瓦は多く確認されている(30～60、ただし41は軒平瓦の可能性もある)。平瓦の主体は、粘土板桶巻き作りで、凸面に格子目叩き痕が残るものと格子目叩きした後ナデ調整をするものに大きく分けることができる。格子目叩きには、正格子と斜格子の2種類であるが、正格子でも幅の広いもの(大きい正格子)と狭いもの(小さい正格子)に分けることができ、3種類を確認することができる。これ以外に、平行叩きの痕跡を残す平瓦も僅かながらに出土している。また、少数ではあるが粘土板一枚作りで、凸面に縄目叩きの痕跡を残すものも確認されている。

以上が、本遺跡における軒丸瓦・丸瓦・平瓦の特徴である。これらの瓦が意味することは何であろうか。本遺跡のすぐ南側には志貴野庵寺推定地が広がっており、さらには南には寺領庵寺の瓦を焼いていた大郷瓦窯跡が位置している。これらと何らかの関係があるのであろうか。このあたりを明らかにしようと古代瓦の胎土分析を実施している。詳しくは第IV章第1節・第2節にまとめてあるので参照されたい。

最後になりましたが、筆者が瓦の知識に乏しいため、名古屋市博物館梶山勝氏、高浜市やきものの里かわら博物館天野卓哉氏をはじめ多くの方々からご助言・ご教示をいただいた。記して心から謝意を表す次第である。

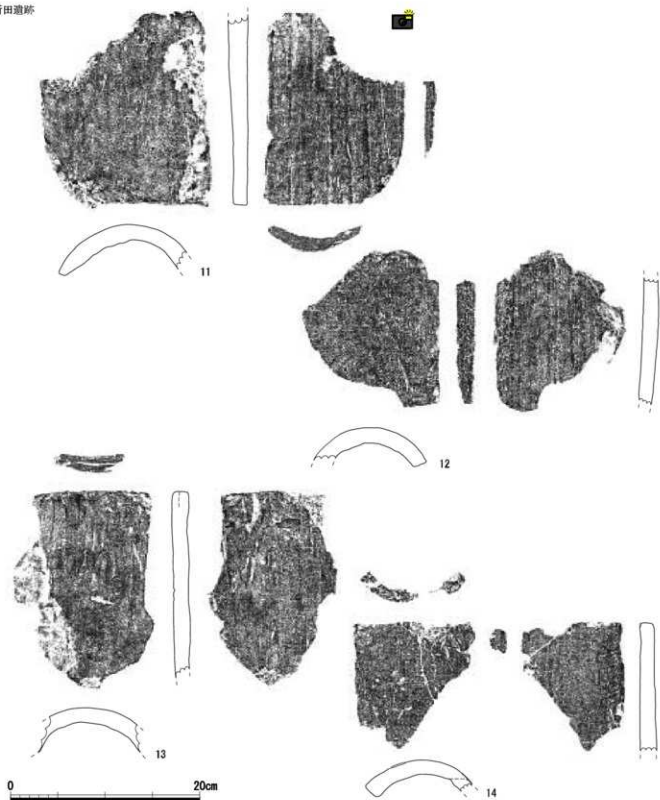
参考文献

- 梶山 勝 『西三川の古代寺院—北野庵寺系軒丸瓦を中心として—』『愛知県史研究 創刊号』『愛知県史研究』編集委員会・愛知県総務部県史編さん室 1997
- 『畿内と東国 一理もれた律令国家—』京都国立博物館 1988 昭和63年度特別展覧会図録



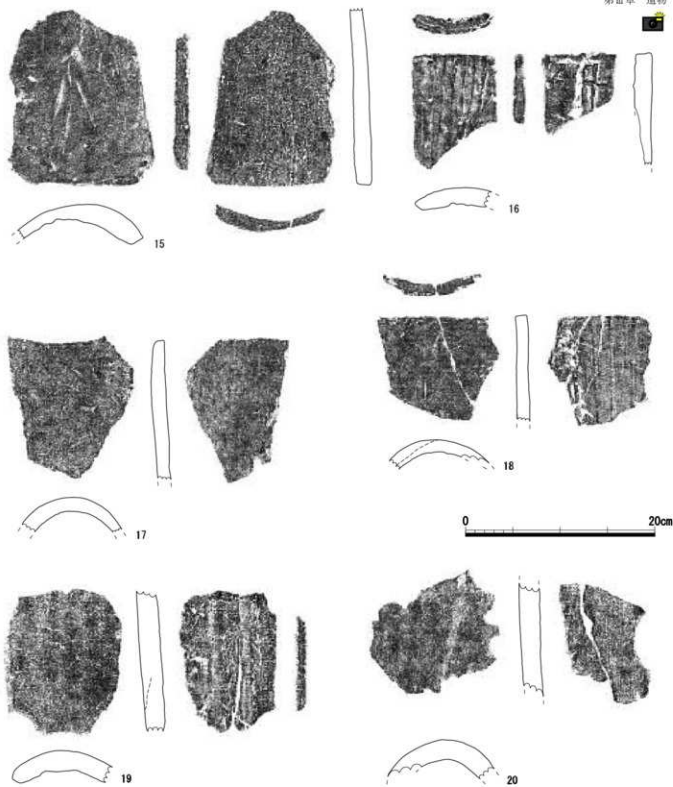
遺物 番号	調査区	遺構	種類	器種	材質	寸法 (cm)			断面・調整寸法			産地	備考	P.L. 登録 番号	
						長さ	幅	厚さ	凹	凸	底				
1	00	構1	瓦類	軒丸瓦	土師質	—	径14.3	3.1	—	—	—	不明	全縁に磨縁	26	E-156
2	00	構1	瓦類	軒丸瓦	土師質	—	径13.1	2.4	—	—	—	不明	全縁に磨縁	26	E-157
3	00	SE03	瓦類	軒丸瓦	土師質	—	径9.6	径2.4	—	—	—	不明	全縁に磨縁	26	E-158
4	00	SK2118	瓦類	軒丸瓦	瀬底質	—	径10.6	2.2	—	—	—	不明	上縁部で布目磨縁心	26	E-159
5	00	SE04	瓦類	軒丸瓦	瀬底質	—	径11.3	2.2	—	—	—	不明	上縁部で布目磨縁心	26	E-160
6	00	SE04	瓦類	軒丸瓦	瀬底質	—	径12.2	2.3	—	—	—	不明	上縁部で布目磨縁心	26	E-161
7	00	SD05	瓦類	軒丸瓦	瀬底質	—	径13.3	3.4	—	—	—	不明	凹の布目磨縁心	26	E-162
8	00	SE02	瓦類	軒丸瓦	土師質	径13.5	径12.7	2.9	布目肌・模唐紙	ナ字	ナ字	不明	全縁に全々磨縁	27	E-163
9	00	SK628	瓦類	丸瓦	土師質	径13.8	径9.1	2.1	模唐紙	ナ字	ナ字	不明	全縁に磨縁	E-164	
10	00	遺土	瓦類	軒丸瓦	土師質	径10.8	径9.2	2.3	模唐紙	—	—	不明	全縁に磨縁。軒丸瓦小	27	E-165

第48図 古代瓦①(1:4)



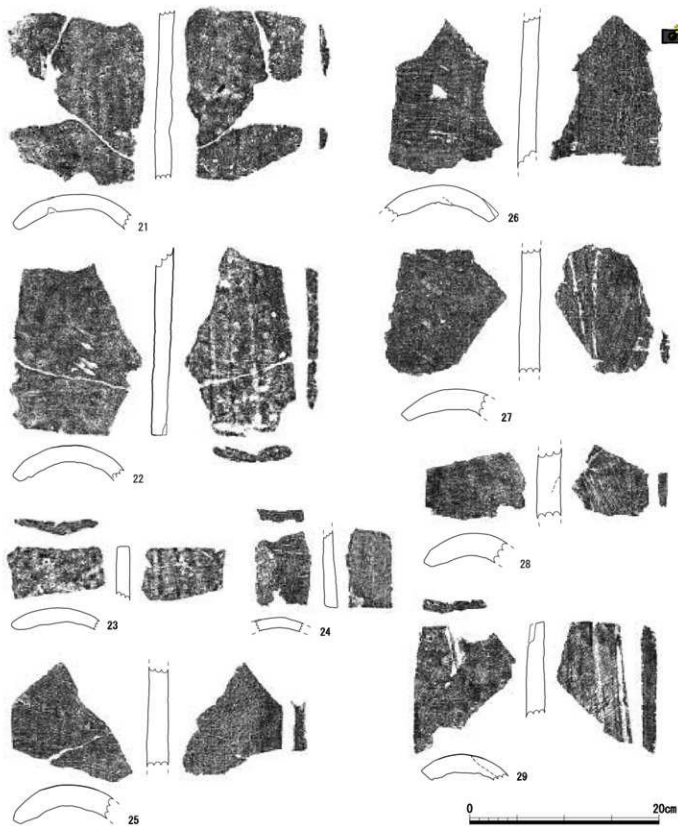
遺物 番号	調査区 番号	遺構 番号	種類	形名	材質	寸法 (cm)			輪郭・調整など		表面	備考	PL 番号	
						長さ	幅	厚さ	凹	凸				
11	00	S E 04	瓦葺	丸瓦	土師質	残19.1	残13.6	2.1	有目痕・磨痕	ナゾ	不明	全体に摩滅	27	E-166
12	00	S E 04	瓦葺	丸瓦	土師質	残13.1	残1.8	1.8	有目痕・磨痕	ナゾ	不明	全体に摩滅	27	E-167
13	00	S E 04	瓦葺	丸瓦	土師質	残19.7	残1.7	1.8	有目痕・磨痕	ナゾ	不明	全体にやや摩滅	27	E-168
14	00	S E 04	瓦葺	丸瓦	土師質	残13.6	残1.2	1.8	有目痕・磨痕	ナゾ	不明	全体にやや摩滅	27	E-169

第49図 古代瓦② (1:4)



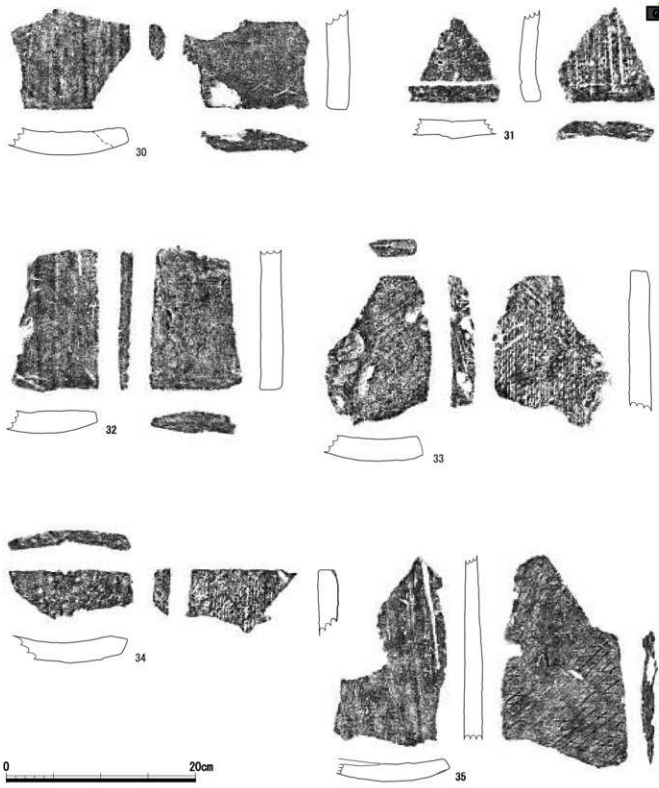
遺物 番号	調査区	遺構	種類	器種	材質	寸法 (cm)			断面・調整など		底縁	備考	F.L.	登録 番号
						長さ	幅	厚さ	凹面	凸面				
15	O	S E 03	瓦類	丸瓦	土師質	横19.6	横13.2	2.3	右目縁・縁帯痕	ナゲ	不明	全体に輝緑	27	E-170
16	O	S E 03	瓦類	丸瓦	土師質	横12.0	横6.1	1.8	右目縁	ナゲ	不明	全体に輝緑		E-171
17	O	S E 03	瓦類	丸瓦	土師質	横14.2	横10.5	1.6	右目縁・縁帯痕	ナゲ	不明	全体に輝緑		E-172
18	O	S E 03	瓦類	丸瓦	土師質	横11.2	横10.5	1.5	右目縁・縁帯痕	ナゲ	不明	全体に中央輝緑		E-173
19	O	S E 03	瓦類	丸瓦	土師質	横14.9	横10.6	2.2	右目縁・縁帯痕	ナゲ	不明	全体に輝緑、粘土縁成形か		E-174
20	O	S D 30	瓦類	丸瓦	土師質	横11.5	横11.2	2.2	右目縁	ナゲか	不明	全体に輝緑		E-175

第50図 古代瓦③ (1:4)



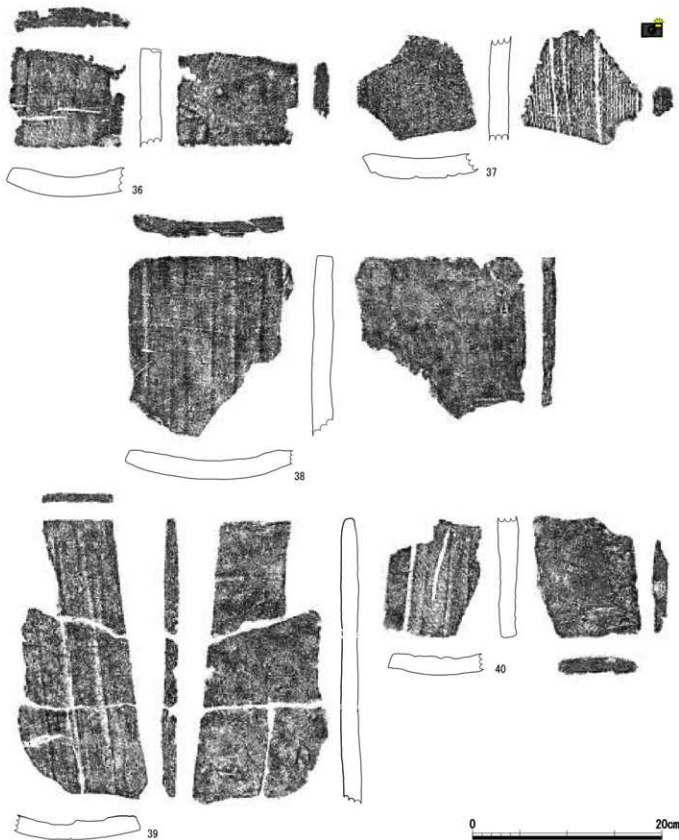
番号	調査地点	遺構	種別		材質	寸法 (cm)		断面・断面形状		底施	備考	P.L.	登録番号	
			種類	器種		長さ	幅	厚さ	凹面					凸面
21	0-0	検1	瓦類	丸瓦	土師質	横17.6	横12.4	1.7	布目織	凸面	ナゾか	不明	全体に摩滅	E-116
22	0-0	検1	瓦類	丸瓦	土師質	横18.4	横11.7	1.8	布目織・横脊織	ナゾ	ナゾか	不明	全体に摩滅	27 E-177
23	0-0	検1	瓦類	平瓦	土師質	横9.7	横9.2	1.7	横脊織か	ナゾか	ナゾか	不明	全体に摩滅	E-178
24	0-0	S K 04	瓦類	丸瓦	須恵質	横9.1	横4.3	1.5	布目織・横脊織か	縁子凸面・ナゾ	不明		E-179	
25	0-0	S K 257	瓦類	丸瓦	須恵質	横15.6	横15.7	2.4	布目織・横脊織	ナゾ	不明		E-180	
26	0-0	S E 03	瓦類	丸瓦	須恵質	横15.5	横10.1	2.1	布目織・横脊織	縁子凸面・ナゾ	不明		E-181	
27	0-0	S E 03	瓦類	丸瓦	須恵質	横13.1	横9.3	2.1	布目織	ナゾ	不明		27 E-182	
28	0-0	S K 1294	瓦類	丸瓦	須恵質	横7.6	横6.9	2.6	布目織・ナゾか	ナゾ	不明	粘土組成別か	E-183	
29	0-0	検1	瓦類	丸瓦	須恵質	横13.1	横9.1	2.0	布目織・横脊織	ナゾ	不明		E-184	

第51図 古代瓦④ (1:4)



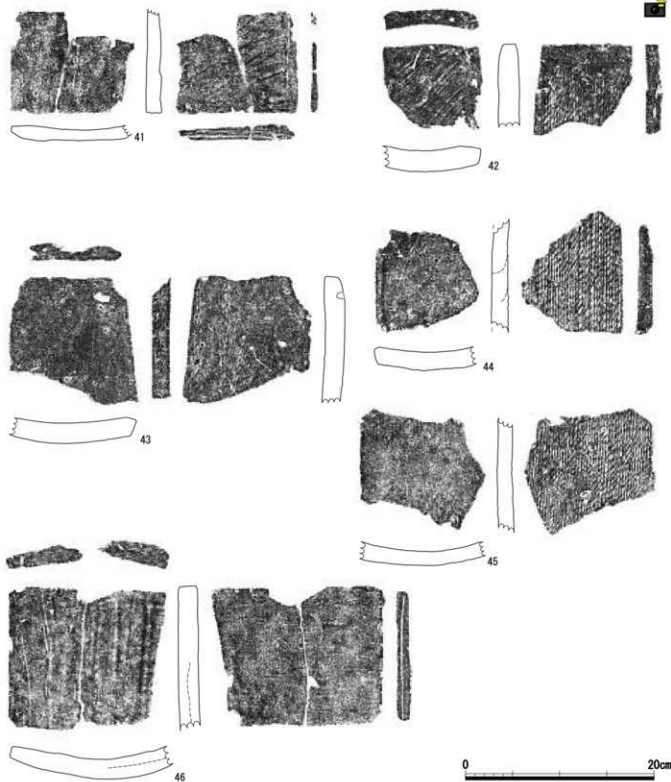
遺物 番号	調査区	調査地点	種別		材質	寸法 (cm)			胎文・図柄など		底径	備考	PL 番号	
			種類	形種		長さ	幅	厚さ	目 部	凸 出				
30	0-0	S-D02	瓦類	平瓦	土師質	横10.5	横12.6	2.5	布目肌・縄文肌	ナゾカ	不明	全体に摩滅、内外面に胎化粉付着カ	27	S-183
31	0-0	S-K-02	瓦類	平瓦	土師質	横8.6	横9.7	1.9	布目肌・ナゾカ	縄目印キ	不明	全体に中々摩滅		S-186
32	0-0	S-K-30	瓦類	平瓦	土師質	横14.7	横9.3	2.4	布目肌・縄文肌	ナゾカ	不明	全体に摩滅		S-187
33	0-0	S-K-14	瓦類	平瓦	土師質	横15.2	横11.9	2.4	ナゾカ	縄目印キ	不明	全体に摩滅		S-189
34	0-0	S-K-197	瓦類	平瓦	土師質	横8.9	横12.1	2.2	布目肌カ	縄目印キ	不明	全体に摩滅		S-189
35	0-0	S-E-04	瓦類	平瓦	土師質	横18.4	横11.9	1.9	布目肌・縄文肌	格子目印キ	不明	全体に摩滅	27	S-190

第52図 古代瓦⑤ (1:4)



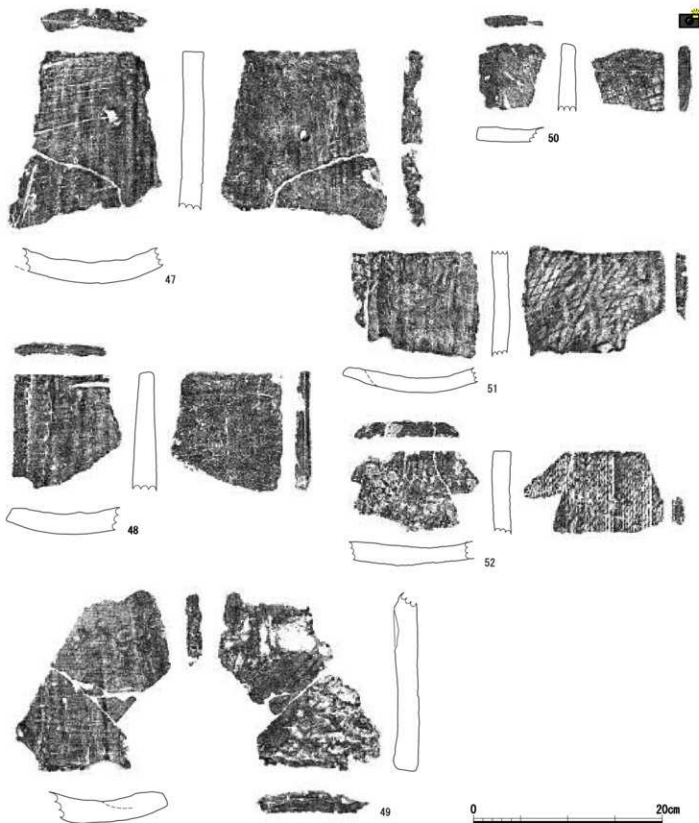
遺物 番号	調査区 番号	調査点 番号	種 類			出處 (cm)			胎土・装飾など			産地	備 考	P.L.	登録 番号
			種類	胎土	材質	高さ	幅	厚さ	目 地	凸 凹					
36	0-0	S-02	瓦類	平瓦	土師瓦	横0.8	横12.1	2.4	布目織・横脊飯	格子目可き・ナゲホ	不明	全体之中や摩滅	28	0-191	
37	0-0	S-02	瓦類	平瓦	土師瓦	横11.0	横11.3	2.3	布目織	横目可き	不明	全体に摩滅	27	0-192	
38	0-0	S-02	瓦類	平瓦	土師瓦	横19.1	横17.0	2.2	布目織・横脊飯	ナゲホ	不明	全体之中や摩滅	28	0-193	
39	0-0	S-02	瓦類	平瓦	土師瓦	横19.9	横13.3	2.0	布目織・横脊飯	ナゲホ	不明	全体に摩滅	28	0-194	
40	0-0	S-03	瓦類	平瓦	土師瓦	横12.7	横10.0	2.1	布目織・横脊飯	格子目可き	不明	全体に摩滅	28	0-195	

第53図 古代瓦⑥ (1:4)



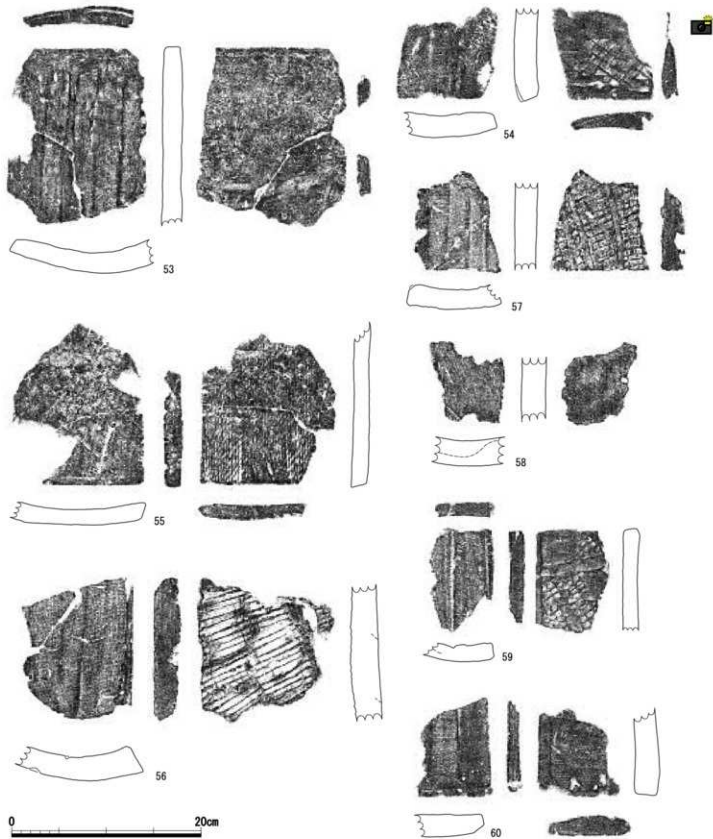
遺物 番号	調査区	遺 跡	種 類	器 種	材 質	寸 法 (cm)			胎底・調整方法		産地	備 考	P.L.	登録 番号
						長さ	幅	厚さ	胎 底	凸 凹				
41	0-0	S-E-03	瓦類	平瓦	土師質	残10.9	残12.7	1.7	有目底・ナゾク	無目底	不明	全縁に磨滅、軒平瓦か	27	I-194
42	0-0	S-E-03	瓦類	平瓦	土師質	残9.7	残10.3	2.3	ナゾク	無目底	不明	全縁に磨滅		I-197
43	0-0	S-E-03	瓦類	平瓦	土師質	残13.4	残12.9	2.2	ナゾク	無目底	不明	全縁に磨滅		I-199
44	0-0	S-E-03	瓦類	平瓦	土師質	残12.6	残10.4	2.0	有目底	無目底	不明	全縁にやや磨滅		I-199
45	0-0	S-E-03	瓦類	平瓦	土師質	残11.6	残13.3	1.8	有目底	無目底	不明	全縁に磨滅		I-200
46	0-0	S-E-03	瓦類	平瓦	土師質	残15.3	残17.2	2.3	有目底・横滑底	ナゾ	不明	全縁にやや磨滅	28	I-201

第54図 古代瓦⑦(1:4)



遺物 番号	調査地点	種別		材質	寸法 (cm)			断面・調整方法			底地	備考	P.L.	登録 番号
		種類	器種		長さ	幅	厚さ	凹面	凸面	面				
47	〇〇 S D40	瓦類	平瓦	土師質	径16.8	径14.3	2.3	布目肌・縦脊線	ナヅク	不明	全体に摩滅	28	E-202	
48	〇〇 S D24	瓦類	平瓦	土師質	径12.6	径11.6	2.7	布目肌・縦脊線	ナヅク	不明	全体に摩滅		E-203	
49	〇〇 横1	瓦類	平瓦	土師質	径18.7	径13.2	2.6	布目肌・縦脊線	ナヅク	不明	全体に摩滅		E-204	
50	〇〇 横1	瓦類	平瓦	土師質	径7.1	径6.9	1.8	布目肌	格子目印き	不明	全体に全く摩滅		E-205	
51	〇〇 横1	瓦類	平瓦	土師質	径11.1	径14.3	1.7	布目肌・縦脊線	格子目印き	不明	全体に摩滅	28	E-206	
52	〇〇 横1	瓦類	平瓦	土師質	径8.8	径13.2	2.1	布目肌	縦目印き	不明	全体に摩滅		E-207	

第55図 古代瓦⑤ (1:4)



番号	調査地点		種別		材質	寸法 (cm)			輪郭・調整など		産地	備考	P.L	登録番号	
	調査区	遺構	種類	器種		長さ	幅	厚さ	胎面	凸面					
53	00	様1	瓦類	平瓦	土師質	幅18.9	幅15.2	2.4	右目版・横帯板	棒子目付き+ナゾ	不明	全縁にやや磨減		28	E-208
54	00	様1	瓦類	平瓦	土師質	幅9.2	幅9.3	2.3	右目版・横帯板	棒子目付き	不明	全縁に磨減		28	E-209
55	00	様1	瓦類	平瓦	土師質	幅17.1	幅13.8	1.9	ナゾか	棒子目付き	不明	全縁に磨減		28	E-210
56	00	様1	瓦類	平瓦	灰土質	幅14.2	幅13.5	3.0	右目版・横帯板	棒子目付き	不明			28	E-211
57	00	S204	瓦類	平瓦	灰土質	幅10.4	幅10.1	2.3	右目版・横帯板	棒子目付き+ナゾ	不明			28	E-212
58	00	S204	瓦類	平瓦	灰土質	幅8.2	幅7.3	2.7	右目版・横帯板	ナゾか	不明			28	E-213
59	00	S133	瓦類	平瓦	灰土質	幅10.7	幅7.4	1.8	右目版・横帯板	棒子目付き+ナゾ	不明			28	E-214
60	00	様1	瓦類	平瓦	灰土質	幅10.2	幅7.9	2.6	右目版・横帯板	ナゾ	不明			28	E-215

第56図 古代瓦④ (1:4)

6. 瓦塔

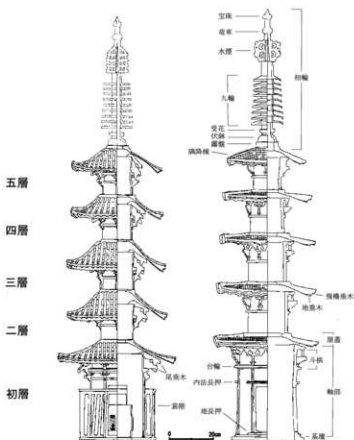
瓦塔とは陶塔ともいわれ、粘土焼成の塔をいう。五層のものが多いが七層のものあり、2m前後の高さをもっている。細部を大別すると基壇部、軸部、斗¹部、屋蓋部、相輪部からなり、各部品ごとに焼成されたものを積み上げる構造になっている。集落・寺院・瓦窯の遺跡から出土することが多く、東海・北陸や関東で出土例が多い。瓦塔使用の目的については、木造塔の代用説や、寺院建立に際し浄財勧募のため予定地における造立説、信仰対象としての堂内安置説、墳墓標識説などがある。瓦塔の年代観は奈良時代から江戸時代までと長く、奈良・平安時代に全盛期を画し、鎌倉・室町時代は衰退期、江戸時代は廃絶期と考えられている。

今回の調査で瓦塔片10点が確認され、須恵質のものが6点、土師質のものが4点ある。部位では屋蓋部が7点(1~7)、軸部が3点(8~10)となっている。少なくとも2~3基の瓦塔が出土しているものと考えられる。屋蓋部では、表に瓦列、裏に垂木の表現が施され、丸瓦列は1列づつ離れている。1は残りが良く、裏には葉の葉脈跡が残っており、成形後に葉の上に乗せて乾燥させていたと想定され興味深い。時期については、検出段階や中世の遺構である井戸や溝から出土しているが、今回は古代の遺物としてここで紹介しておく。

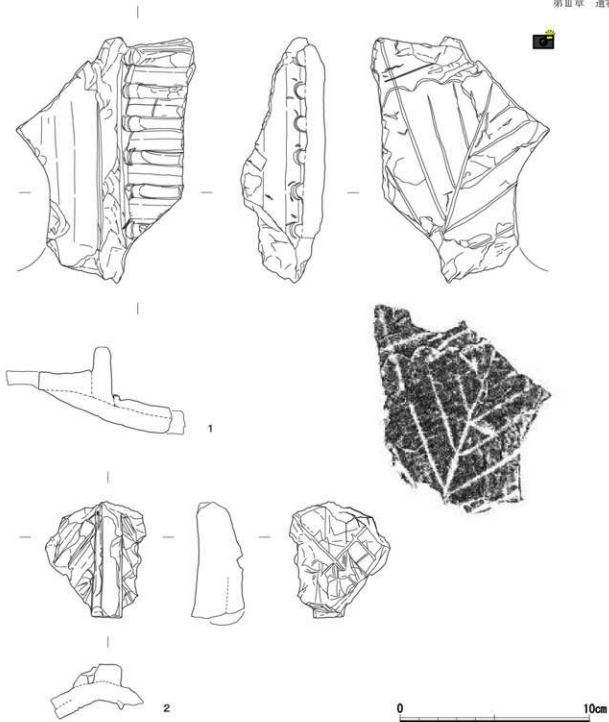
参考文献

永井邦仁「豊田市郷土遺跡出土の瓦塔」『財団法人愛知県埋蔵文化財センター 年報 平成10年度』

(財)愛知県埋蔵文化財センター 1999

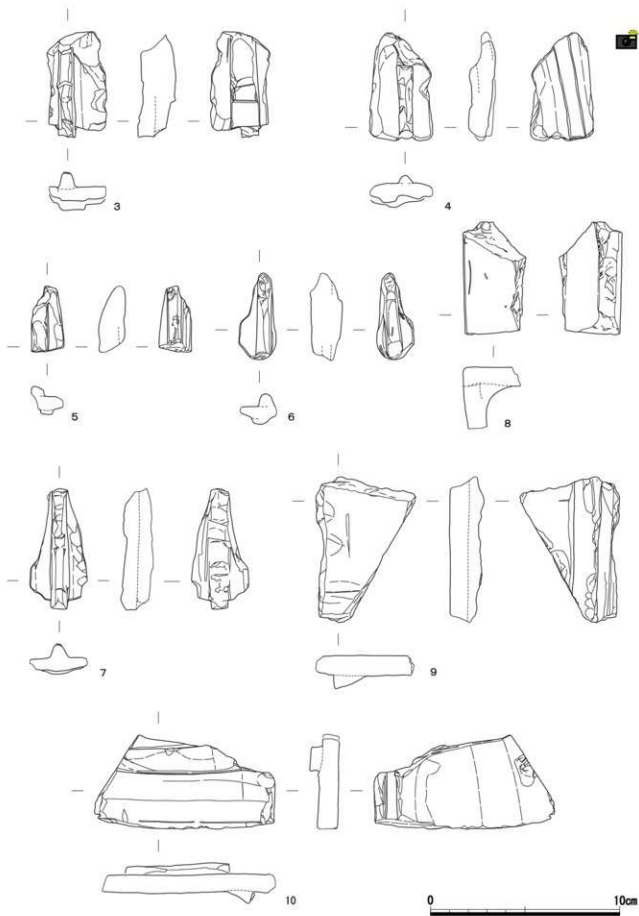


第57図 瓦塔各部の名称(参考文献より転載、一部改変)



遺物 番号	調査区	遺構番号	種 別			出量 (cm・g)				経年・調整など		状態	備 考	P.L	登録 番号
			層位	部位	材質	高さ	幅	厚さ	重量	内 面	外 面				
1	00	SE04	瓦塔	屋蓋部	須恵質	径3.1	径6.4	径2.2	216.9	-	ナデ	不明		26	E-216
2	00	横1	瓦塔	屋蓋部	須恵質	径6.2	径3.3	径2.9	66.1	-	ナデ	不明		26	E-217
3	00	横1	瓦塔	屋蓋部	須恵質	径6.4	径3.0	径1.9	22.4	-	ナデ	不明		26	E-218
4	00	横1	瓦塔	屋蓋部	須恵質	径6.6	径3.3	径1.3	17.3	-	ナデか	不明	全体に厚減		E-219
5	00	SD63	瓦塔	屋蓋部	須恵質	径3.5	径1.7	径1.5	5.7	-	ナデか	不明	全体に厚減		E-220
6	00	横1	瓦塔	屋蓋部	須恵質	径4.6	径1.9	径1.8	8.6	-	ナデか	不明	全体に厚減		E-221
7	00	横1	瓦塔	屋蓋部	須恵質	径6.4	径3.0	径1.5	17.3	-	ナデか	不明	全体に厚減		E-222
8	00	SD60	瓦塔	軸部	須恵質	径5.9	径3.3	径1.0	47.9	ナデ	ナデ	不明			E-223
9	00	SD66	瓦塔	軸部	須恵質	径7.3	径3.2	径1.8	50.7	ナデ	ナデ	不明	全体にやや厚減	26	E-224
10	00	SD63	瓦塔	軸部	須恵質	径4.8	径3.0	径1.5	47.1	ナデ	ナデ	不明		26	E-225

第58図 瓦塔① (1:2)



第59图 瓦塔② (1:2)

第3節 中世の遺物

1. 概要

中世の溝や井戸から、灰釉系陶器の椀・皿や古瀬戸段階の施釉陶器などの遺物が出土している。まとまって出土したのは井戸からで、他の遺構からは破片が出土する程度である。時期は、灰釉系陶器の編年で4型式から9型式、古瀬戸では中期から後期のものが主体である。古代の遺物同様、カウントなどの数的分析は行っていない。遺物の大まかな分類および編年は以下の通りである。

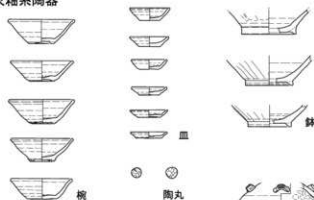
分類	編年型式
灰釉系陶器	4型式 12世紀中葉～後半
椀・皿・鉢・陶丸・その他	5型式 12世紀末～13世紀初め
土器	6型式 13世紀前半
皿・鍋・その他	7型式 13世紀中葉
施釉陶器	8型式 13世紀後半～14世紀前半
皿・鉢・壺・瓶・その他	9型式 14世紀中葉～後半
焼締陶器	10型式 14世紀末～15世紀前半
甕	古瀬戸中期 13世紀末～14世紀中葉
輸入磁器	古瀬戸後期 14世紀後半～15世紀後半
椀	

参考文献

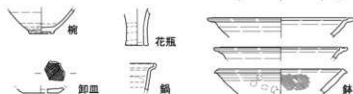
藤澤良祐 「山茶碗と中世集落」『尾呂 本文編 付編2』瀬戸市教育委員会 1990

藤澤良祐 「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要 第3号』三重県埋蔵文化財センター 1994

灰釉系陶器



施釉陶器



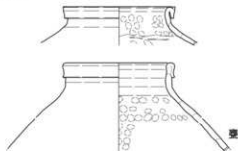
土器



輸入磁器

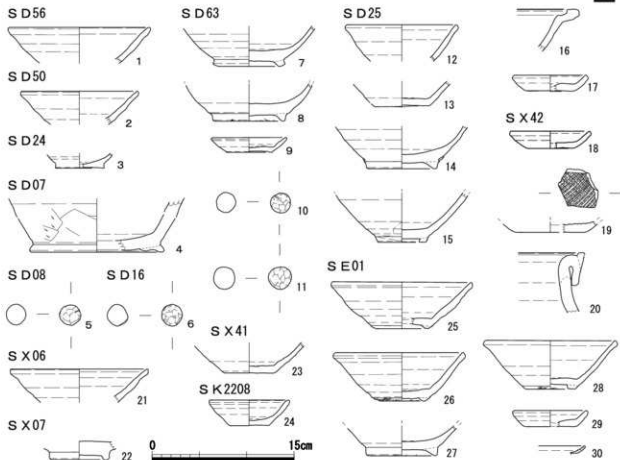


焼締陶器



第60図 中世の遺物分類図

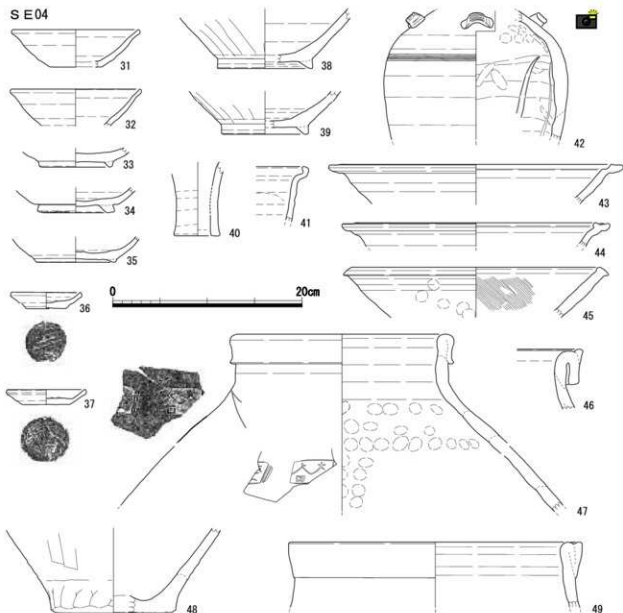
2. 出土遺物



遺物 番号	調査地点	層	種別			寸法 (cm)			結晶・調整など			用途	備考	P.L.
			器種	器形	器類	高さ	口径	胴径	内径	外径	内径			
1	00	SD56	灰陶高脚器	陶	---	103.9	(14.9)	---	ナゲ	ナゲ	見取型	第10型式	E-226	
2	00	SD50	灰陶高脚器	陶	---	103.0	---	---	ナゲ	ナゲ	見取型	第9～10型式	E-227	
3	00	SD24	土器皿	皿	---	101.4	---	(5.2)	ナゲ	ナゲ	見取	底面凹陥部あり。全体に磨減	E-242	
4	00	SD07	灰陶高脚器	鉢	---	103.7	---	(13.9)	ナゲ	ナゲ+ナズリ	見取型	第7～8型式。内面使用による磨減	E-229	
5	00	SD08	灰陶高脚器	陶丸	---	---	---	---	---	---	見取型	直径15cm、胴径25cm、高さ10.1g、全体に磨減	E-230	
6	00	SD16	灰陶高脚器	陶丸	---	---	---	---	---	---	見取型	直径20cm、胴径23cm、高さ11.0g、全体に磨減	E-231	
7	00	SD03	灰陶高脚器	陶	---	104.3	---	(6.4)	ナゲ	ナゲ	見取型	第4型式。内面・高台部分に磨減。使用による磨減あり	E-232	
8	00	SD03	灰陶高脚器	陶	---	104.0	---	(7.2)	ナゲ	ナゲ	見取型	第4型式。底面に凹陥部あり。高台部分に磨減	E-233	
9	00	SD03	灰陶高脚器	皿	---	1.6	(7.8)	(4.8)	ナゲ	ナゲ	見取型	第7～8型式。底面に凹陥部あり。高脚部のみあり	E-234	
10	00	SD03	灰陶高脚器	陶丸	---	---	---	---	---	---	見取型	直径21cm、胴径2.65cm、高さ8.2g	E-235	
11	00	SD03	灰陶高脚器	陶丸	---	---	---	---	---	---	見取型	直径20cm、胴径2.35cm、高さ18.0g、全体に磨減	E-236	
12	00	SD25	灰陶高脚器	陶	---	103.9	(11.4)	---	ナゲ	ナゲ	見取型	第7～8型式	E-237	
13	00	SD25	灰陶高脚器	陶	---	103.7	---	5.8	ナゲ	ナゲ	見取型	第4型式。底面に凹陥部あり。底面部分に磨減している	E-238	
14	00	SD25	灰陶高脚器	陶	---	104.4	---	---	ナゲ	ナゲ	見取型	第4型式。内面・高台部分に磨減。使用による磨減あり	E-239	
15	00	SD25	灰陶高脚器	陶	平脚	103.3	---	(5.6)	灰脚	灰脚	見取型	底面に凹陥部あり。底面に磨減している。高台部分に凹陥部あり	E-240	
16	00	SD25	灰陶高脚器	鉢	折縁鉢	104.3	---	---	灰脚	灰脚	見取型	土曜型中折縁	E-241	
17	00	SD25	灰陶高脚器	皿	---	1.7	(7.6)	(8.2)	ナゲ	ナゲ	見取型	第7～8型式。底面に凹陥部あり。底面部分に磨減。内面部分に磨減	E-242	
18	00	SX42	灰陶高脚器	皿	---	1.8	(8.4)	(8.3)	ナゲ	ナゲ	見取型	第7型式。底面に凹陥部あり。高脚部のみあり	E-243	
19	00	SX42	灰陶高脚器	皿	折し底	101.1	---	(7.2)	---	---	見取型	土曜型中折縁。内面に凹陥部あり	E-244	
20	00	SX42	灰陶高脚器	鉢	---	106.4	---	---	ナゲ	ナゲ	見取型	第8型式	E-245	
21	00	SX06	灰陶高脚器	陶	---	103.8	(14.3)	---	ナゲ	ナゲ	見取型	第7～8型式	E-246	
22	00	SX07	青銅	陶	---	102.0	---	(6.0)	青銅	青銅	中径	内径より高台	E-247	
23	00	SX41	灰陶高脚器	陶	---	103.2	---	(10.2)	ナゲ	ナゲ	見取型	第4～5型式。底面に凹陥部あり。底面部分に磨減	E-248	
24	00	SK2208	灰陶高脚器	皿	---	2.7	(8.0)	---	ナゲ	ナゲ	見取型	第4型式。底面に凹陥部あり。底面部分に磨減。自然磨減あり	E-249	
25	00	SF01	灰陶高脚器	陶	---	(4.9)	(14.4)	---	ナゲ	ナゲ	見取型	第7型式。内面磨く痕跡。底面に凹陥部あり。内面部分に磨減	E-250	
26	00	SF01	灰陶高脚器	陶	---	3.2	(13.4)	---	ナゲ	ナゲ	見取型	第4型式。底面に凹陥部あり。底面部分に磨減	E-251	
27	00	SF01	灰陶高脚器	陶	---	103.2	---	(7.0)	ナゲ	ナゲ	見取型	第4型式。底面に凹陥部あり。高台部分に磨減	E-252	
28	00	SF01	灰陶高脚器	陶	---	(8.1)	(14.2)	---	(5.3)	ナゲ	ナゲ	見取型	第4型式。底面に凹陥部あり。底面部分に磨減	E-253
29	00	SF01	灰陶高脚器	皿	---	1.7	(7.6)	---	(5.4)	ナゲ	ナゲ	見取型	第7～8型式。底面に凹陥部あり	E-254
30	00	SF01	土器	輪+蓋	伊勢型輪	103.9	---	---	ナゲ	ナゲ	不明	全体に磨減	E-255	

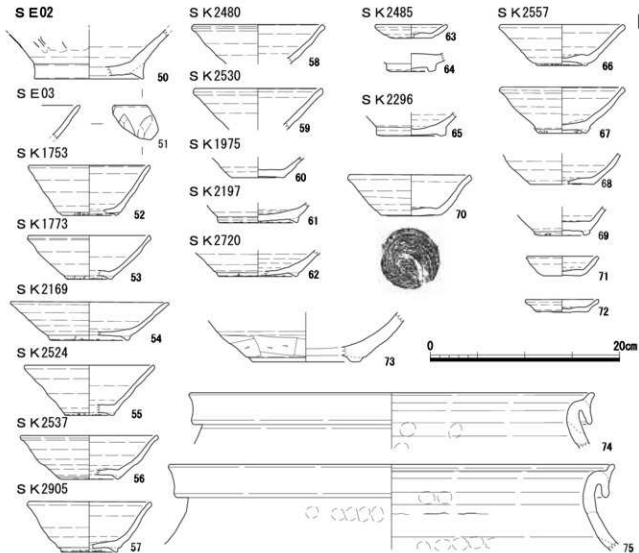
第61図 中世の遺物①(1:4)

SE04



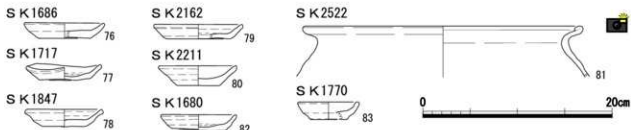
遺物番号	調査地点	遺構	種類	器種	器形	口径	口縁	胴径	底径	内面	外面	産地	備考	DL	登録番号
31	00	SE04	灰釉陶器	碗	—	径4.9	(13.2)	—	(5.5)	ナブ	ナブ	尾張型	第19型式	—	E-286
32	00	SE04	灰釉陶器	碗	—	径4.9	(13.4)	—	—	ナブ	ナブ	尾張型	第9型式、自然釉か中心	—	E-287
33	00	SE04	灰釉陶器	碗	—	径2.0	—	—	7.1	ナブ	ナブ	尾張型	第4型式、足込みに彩蓮文の刺繍、長形付足、底面陶片付り痕	29	E-288
34	00	SE04	灰釉陶器	碗	—	径2.7	—	—	4.8	ナブ	ナブ	尾張型	第4型式、足込みに彩蓮文の刺繍、長形付足、底面陶片付り痕	29	E-289
35	00	SE04	灰釉陶器	碗	—	径2.8	—	—	(8.1)	ナブ	ナブ	尾張型	第4型式、足込みに強い骨ナブ、高台内田陶片付り痕	29	E-260
36	00	SE04	灰釉陶器	皿	—	1.8	(7.3)	—	4.2	ナブ	ナブ	尾張型	第7～8型式、足込みに強い骨ナブ、底面陶片付り痕	29	E-261
37	00	SE04	灰釉陶器	皿	—	1.6	(8.4)	—	(4.9)	ナブ	ナブ	尾張型	第7～8型式、足込みに強い骨ナブ、底面陶片付り痕	29	E-262
38	00	SE04	灰釉陶器	鉢	—	径6.3	—	—	(10.6)	ナブ	ナブ+ケズコ	尾張型	第7～8型式、足込みに彩蓮文の刺繍、内面・高台付りに2土層	29	E-263
39	00	SE04	灰釉陶器	鉢	—	径4.5	—	—	(9.4)	ナブか	ナブ+ケズコ	尾張型	第7～8型式、足込みに彩蓮文の刺繍、内面・高台付りに2土層	29	E-264
40	00	SE04	灰釉陶器	瓶	定瓶	径4.8	—	—	—	灰釉	灰釉	瀬戸	古瀬戸中層後半か、下部底面に人為的刺繍痕	29	E-265
41	00	SE04	灰釉陶器	鉢	餅付付口	径4.9	—	—	—	ナブ	灰釉	瀬戸	古瀬戸後層、全体に鉄分が沈着し褐色に変色	29	E-266
42	00	SE04	灰釉陶器	皿	供茶皿	径13.7	—	(19.4)	—	指押え+ナブ	灰釉	瀬戸	古瀬戸前層～IV層、灰釉刺繍	30	E-267
43	00	SE04	灰釉陶器	鉢	—	径4.2	(28.4)	—	—	灰釉	灰釉	瀬戸	古瀬戸後層前、刺繍大皿	29	E-268
44	00	SE04	灰釉陶器	鉢	片口鉢	—	—	—	—	ナブ	ナブ	尾張型	第19型式	—	E-269
45	00	SE04	灰釉陶器	鉢	片口鉢	径4.3	(26.2)	—	—	指押え+ナブ	指押え+ナブ	常陸	9～10型式か、内面ハケ目か	29	E-270
46	00	SE04	灰釉陶器	壺	—	径4.3	—	—	—	ナブ	常陸	8型式	—	E-271	
47	00	SE04	灰釉陶器	壺	—	径18.8	(21.4)	—	—	指押え+ナブ	指押え+ナブか	常陸	10型式、外面押印・ハケ記号か	30	E-272
48	00	SE04	灰釉陶器	壺	—	径4.0	—	—	(12.4)	指押え+ナブか	指押え+ナブか	常陸	内面自然釉かか・第3土層	29	E-273
49	00	SE04	灰釉陶器	壺	—	径4.9	(30.4)	—	—	指押え+ナブか	指押え+ナブか	常陸	14世紀代か、内外面とも中層	29	E-274

第62図 中世の遺物② (1:4)

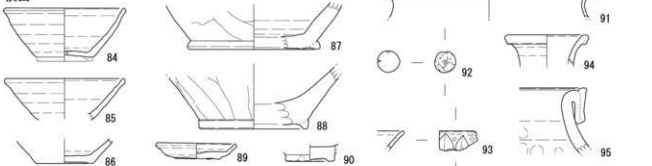


遺物 番号	調査区	調査地点	種類	器種	器形	寸法 (cm)				輪郭・脚部など		高	備考	F.L.	登録 番号
						高さ	口径	胴径	底径	内 面	外 面				
50	00	SE 02	灰黒土器	鉢	—	径5.3	—	—	(11.4)	ナデ	ナデ+ナデリ	尾形型	第7~8型式、内面使用により摩滅	29	E-275
51	00	SE 03	磁器	碗	—	径3.7	—	—	—	青磁	青磁	中国	河東型か、筑前中津	29	E-276
52	00	SK 1753	灰黒土器	碗	—	(3.3)	(12.5)	—	(5.8)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、底込みあり、高台脚付	29	E-277
53	00	SK 1773	灰黒土器	碗	—	4.6	(13.7)	—	(4.8)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、高台脚付	29	E-278
54	00	SK 2169	灰黒土器	碗	—	(4.1)	(16.6)	—	(7.8)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、高台脚付、口縁部自然縮小	29	E-279
55	00	SK 2524	灰黒土器	碗	—	3.3	(13.6)	—	(5.0)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、底縁部縮小あり、高台脚付、自然縮小	29	E-280
56	00	SK 2537	灰黒土器	碗	—	4.6	(14.2)	—	(6.0)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり、高台脚付、自然縮小	29	E-281
57	00	SK 2905	灰黒土器	碗	—	5.3	(12.6)	—	(5.8)	ナデ	ナデ	脚付	底込みに影+ナデ、高台脚付、内面黒く変色	29	E-282
58	00	SK 2480	灰黒土器	碗	—	径4.2	(13.6)	—	—	ナデ	ナデ	尾形型	第7~8型式	29	E-283
59	00	SK 2530	灰黒土器	碗	—	径4.4	(13.3)	—	—	ナデ	ナデ	尾形型	第7~8型式、内面黒く変色	29	E-284
60	00	SK 1975	灰黒土器	碗	—	径2.9	—	—	5.6	ナデ	ナデ	尾形型	第8型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり	29	E-285
61	00	SK 2197	灰黒土器	碗	—	径2.1	—	—	(8.4)	ナデ	ナデ	尾形型	第4型式、底縁部縮小あり、高台脚付	29	E-286
62	00	SK 2720	灰黒土器	碗	—	径2.8	—	—	(8.1)	ナデ	ナデ	尾形型	第4型式、高台脚付	29	E-287
63	00	SK 2485	灰黒土器	皿	—	1.5	(7.4)	—	(3.8)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり、高台脚付	29	E-288
64	00	SK 2296	青磁	碗小	—	径1.9	—	—	4.4	青磁	青磁	中国	底込みに文様か	29	E-289
65	00	SK 2296	白磁	碗	—	径2.5	—	—	(7.2)	白磁	ナデ	中国	12世紀代か、削り出し高台	29	E-290
66	00	SK 2557	灰黒土器	碗	—	4.4	(12.9)	—	(5.1)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり、高台脚付	29	E-291
67	00	SK 2557	灰黒土器	碗	—	4.9	(12.8)	—	(5.0)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり、高台脚付	29	E-292
68	00	SK 2557	灰黒土器	碗	—	径3.3	—	—	(6.8)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり、高台脚付	29	E-293
69	00	SK 2557	灰黒土器	碗	—	径3.1	—	—	(4.8)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり、高台脚付	29	E-294
70	00	SK 2557	灰黒土器	皿	—	(4.4)	12.6	—	4.4	ナデ	ナデ	尾形型	第8型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり、高台脚付、自然縮小	29	E-295
71	00	SK 2557	灰黒土器	皿	—	2.1	(7.3)	—	(4.1)	ナデ	ナデ	尾形型	第8型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり、高台脚付、自然縮小	29	E-296
72	00	SK 2557	灰黒土器	皿	—	1.4	(7.4)	—	(3.6)	ナデ	ナデ	尾形型	第7型式、底込みに影+ナデ、底縁部縮小あり、高台脚付	29	E-297
73	00	SK 2557	灰黒土器	鉢	—	径5.2	—	—	(11.4)	ナデ	ナデ+ナデリ	尾形型	内面・高台部分部分使用による摩滅	29	E-298
74	00	SK 2557	磁器	碗	—	径5.1	(42.4)	—	—	脚押え+ナデか	ナデか	常滑	7型式	29	E-299
75	00	SK 2557	磁器	碗	—	径5.1	(46.9)	—	—	脚押え+ナデ	脚押え+ナデ	常滑	8型式	29	E-300

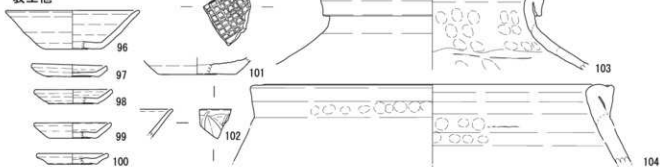
第 63 図 中世の遺物③ (1:4)



検出



表土他



番号	調査区	遺構	層	器名	器高	口径	柄径	底径	胎土・調整など		原産	備考	P.L	登録番号
									内面	外面				
76	0-0	SK1686	灰	蓋	1.6	18.22	-	18.43	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7~8形式、蓋面陶粉多量ナゾ付、自然釉中心、蓋付縁部	29	E-201
77	0-0	SK1717	灰	蓋	1.6	7.8	-	5.3	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7形式、見込みにナゾ付、蓋面陶粉多量ナゾ付・自然釉中心	29	E-202
78	0-0	SK1847	灰	蓋	1.9	17.63	-	4.4	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋6形式、見込みにナゾ付、蓋面陶粉多量ナゾ付・自然釉中心	29	E-203
79	0-0	SK2162	灰	蓋	1.5	19.23	-	16.43	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7形式、蓋面陶粉多量ナゾ付、自然釉中心	29	E-204
80	0-0	SK2211	灰	蓋	2.1	8.0	-	4.5	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋1形式、蓋面陶粉多量ナゾ付、自然釉中心、蓋付縁部	29	E-205
81	0-0	SK2522	赤・黄	伊勢型蓋	10.4	129.23	-	-	陶押え+ナゾ付	陶押え+ナゾ付	不明	13形製中頃か、全体に厚縁、外面釉中心に縁付蓋	29	E-206
82	0-0	SK1680	灰	上蓋	1.7	17.80	-	5.7	ナゾ	ナゾ	不明	13形製中頃か、全体に厚縁、縁部陶粉多量、蓋面陶粉多量	29	E-207
83	0-0	SK1770	灰	上蓋	1.9	18.23	-	13.43	ナゾ	ナゾ	不明	13形製後半、底面陶粉多量ナゾ付	29	E-208
84	0-0	検1	灰	陶	1.9	12.4	-	-	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7形式、見込みにナゾ付、高小縁部、自然釉中心	29	E-209
85	0-0	検1	灰	陶	1.4	11.43	-	-	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7~8形式	29	E-210
86	0-0	検1	灰	陶	1.2	4.3	-	16.43	ナゾ	ナゾ	尾張型	8形製、8形厚縁、見込みにナゾ付、蓋面陶粉多量・自然釉中心、内面陶粉多量	29	E-211
87	0-0	検1	灰	鉢	1.9	9.3	-	11.43	ナゾ	ナゾ+タタミ	尾張型	内面陶粉多量ナゾ付	29	E-212
88	0-0	検1	灰	鉢	1.6	8.3	-	11.23	ナゾ付	ナゾ+タタミ	尾張型	蓋7~8形式、蓋面陶粉多量ナゾ付、内面陶粉多量ナゾ付・自然釉中心	29	E-213
89	0-0	検1	灰	陶	1.9	8.2	-	4.9	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7形式	29	E-214
90	0-0	検1	青磁	陶	1.8	-	-	14.43	青磁	青磁	中国	見込みに文様付	29	E-215
91	0-0	検1	赤・黄	伊勢型蓋	10.2	123.43	-	-	ナゾ付	ナゾ付	不明	13形製中頃か、全体に厚縁、外面縁付蓋	29	E-216
92	0-0	検1	灰	陶	1.2	-	-	-	-	-	尾張型か	口径2.15cm、柄径2.55cm、高さ1.8g、全体に厚縁	29	E-217
93	0-0	検1	青磁	陶	1.2	-	-	-	青磁	青磁	中国	縁部中央、縁部中央	29	E-218
94	0-0	検1	灰	陶	1.4	18.23	-	-	灰釉か	灰釉か	瀬戸	古瀬戸製・厚縁か	29	E-219
95	0-0	検1	灰	陶	1.7	16.3	-	-	陶押え+ナゾ	ナゾ	変種	9形式、外面自然釉中心	29	E-220
96	0-0	検1	灰	陶	1.1	11.93	-	16.43	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋9形式、見込みにナゾ付、蓋面陶粉多量、自然釉中心	29	E-221
97	0-0	中々-6-5	灰	蓋	1.4	7.8	-	5.3	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7~8形式、見込みにナゾ付、蓋面陶粉多量、自然釉中心	29	E-222
98	0-0	中々-6-5	灰	蓋	1.5	18.10	-	15.33	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7~8形式、見込みにナゾ付、蓋面陶粉多量、自然釉中心	29	E-223
99	0-0	表土	灰	蓋	1.6	18.10	-	14.43	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7~8形式、見込みにナゾ付、蓋面陶粉多量、自然釉中心	29	E-224
100	0-0	検1	灰	陶	1.2	17.33	-	15.43	ナゾ	ナゾ	尾張型	蓋7~8形式、見込みにナゾ付、蓋面陶粉多量・自然釉、自然釉中心	29	E-225
101	0-0	中々-6-5	灰	陶	1.8	-	-	18.23	灰釉	灰釉	瀬戸	古瀬戸中1~4型	29	E-226
102	0-0	表土	灰	陶	1.1	-	-	-	青磁	青磁	中国	厚縁中央、縁部中央	29	E-227
103	0-0	中々-6-5	灰	陶	1.8	123.33	-	-	陶押え+ナゾ	ナゾ付	変種	8形式	29	E-228
104	0-0	表土	灰	陶	1.4	136.43	-	-	陶押え+ナゾ	陶押え+ナゾ	変種	9形式	29	E-229

第64図 中世の遺物④(1:4)

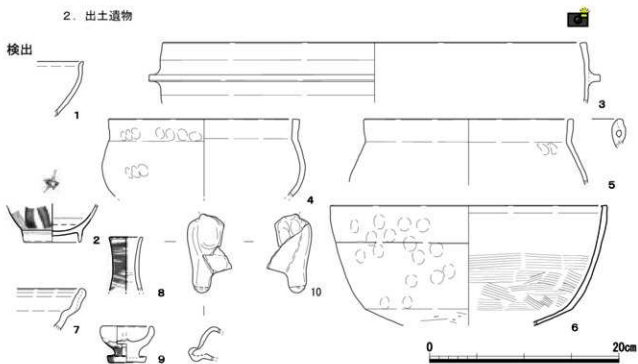
第4節 その他の時期の遺物

1. 概要

近世以降の遺物が検出や埋防盛土から僅かであるが出土している。この時期に属する土器・陶磁器類や瓦類などの遺物をここで紹介する。

1は、古瀬戸後IV期新段階の天目茶碗と思われる。本来ならば中世の遺物として紹介しなければならないが、調査区東端の落ち込みから出土しており、この遺物が東壁で確認された江戸時代と思われる埋防跡が築境される以前に廃棄されたと考えられるため、ここに掲載している。これ以外に、検出段階の遺物では江戸時代までと考えられる遺物が多く、表探資料では産地不明の磁器製品や陶器製品が見られるが、一部で明治時代以降と思われるかなり新しい遺物も確認されている。これらの遺物は、旧埋防が築き上げられていく過程で盛土に混入したものとみられる。

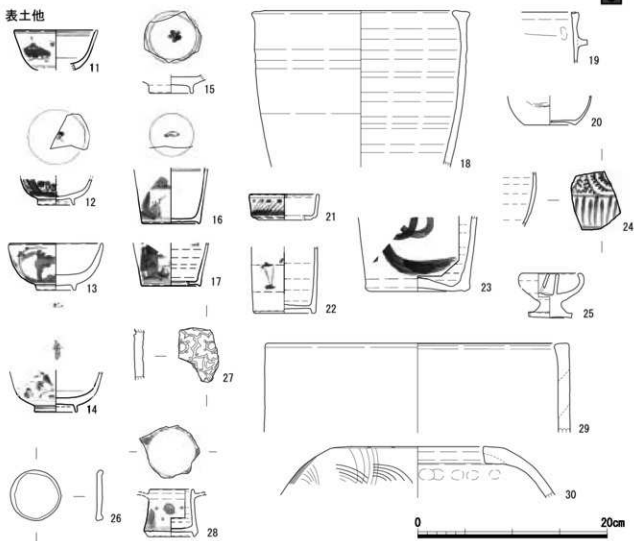
2. 出土遺物



遺物 番号	調査地点	遺物 種別	器種	器形	法量 (cm)				釉薬・調整など		産地	備考	P.L.	登録 番号
					器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
1	0-0	磁器	茶碗	天目碗	残5.8	-	-	-	鉄釉	鉄釉+鉄化釉	瀬戸・美濃	古瀬戸後IV期新段階		E-310
2	0-0	中光(六)	磁器	広葉碗	残4.2	-	-	3.9	-	-	瀬戸・美濃	染付(透赤文)	30	E-311
3	0-0	磁器	土器	鉢・盆	残6.4	14.4	-	-	指押え+ナゾカ	指押え+ナゾカ	不明	全体に磨滅		E-312
4	0-0	磁器	土器	鉢・盆	残9.2	20.0	21.4	-	ナゾカ	指押え+ナゾカ	不明	全体に磨滅、内面僅く付着	30	E-313
5	0-0	磁器	土器	鉢・盆	残7.0	22.1	-	-	指押え+ナゾカ	指押え+ナゾカ	不明	内面磨滅、全体に磨滅、内面僅く着色		E-314
6	0-0	磁器	土器	鉢	残12.7	28.0	-	-	指押え+ナゾ	指押え+ナゾ+ナズ	不明	内面ハナ目残、外面僅く付着		E-315
7	0-0	中光(六)	陶磁器	増鉢	残4.4	-	-	-	鉄釉	鉄釉	瀬戸・美濃			E-316
8	0-0	磁器	陶磁器	磁利	残5.7	13.2	-	-	灰釉	白灰+灰釉	瀬戸・美濃			E-317
9	0-0	中光(六)	陶磁器	茶碗	残3.9	5.1	-	3.9	鉄釉	鉄釉	瀬戸・美濃	内面磨滅付着	30	E-318
10	0-0	磁器	土器	入形か	残3.3	-	-	-	指押え	ナゾカ	不明	指押し成形、最大幅4.2cm、最大厚3.4cm		E-319

第65図 その他の時期の遺物①(1:4)

表土他

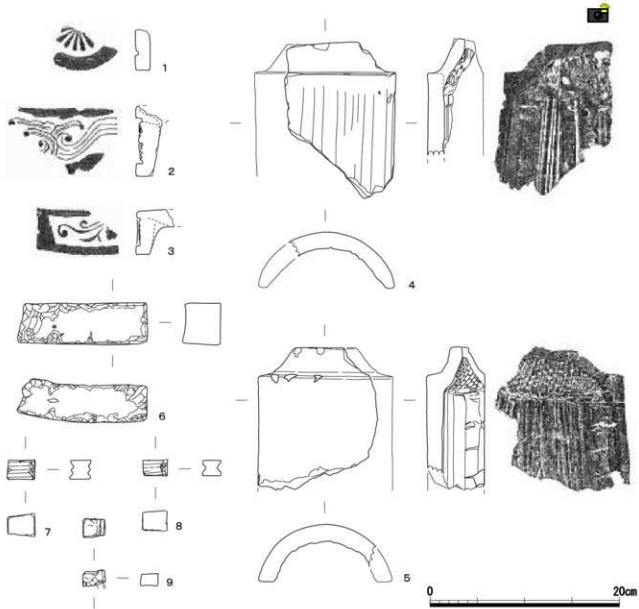


遺物 番号	調査区	遺構	種類	路幅	器形	器高	口縁 (cm)				軸径・胴径など		底径	備考	P.L	発掘 番号
							口徑	胴径	底径	底径	内	外				
11	00	表土	磁器	碗	—	径4.2	(8.7)	—	—	—	—	—	不明	発付(灰文)		E-340
12	39	T.7, 8	磁器	碗	丸腕	径2.8	—	—	3.0	—	—	—	不明	小髷か、発付		E-341
13	00	表土	磁器	碗	丸腕	4.9	(9.7)	—	14.0	—	—	—	肥前系	発付(青輪に横線文)	30	E-342
14	00	表土	磁器	碗	丸腕	径4.3	—	—	14.4	—	—	—	瀬戸・美濃	発付		E-343
15	00	表土	磁器	碗	筒柄か	径5.0	—	—	4.3	—	青輪	肥前	青輪発付(見込み玉赤花)		E-344	
16	00	表土	磁器	小碗	筒文様口	径5.9	—	—	5.8	—	—	不明	発付。高台内底の目線斜子か	30	E-345	
17	00	表土	磁器	小碗	筒文様口	径4.6	—	—	0.20	—	—	不明	発付(山本雅堂文+新小髷)。底面輪筋子	30	E-346	
18	00	表土	瓦類陶器	甕	平胴甕	径16.5	(20.4)	—	—	胴輪	胴輪	瀬戸・美濃	口縁部にトラング		E-347	
19	00	掘り下げ	土器	鉢・皿	羽釜	径5.4	—	—	—	筒押土+ナゾ	ナゾ	不明	全体にややめ感		E-348	
20	00	表土	瓦類陶器	瓦	急須か	径3.1	—	—	5.2	ナゾか	ナゾか	不明	明治以降か、外底文様(金花)あり		E-349	
21	00	表土	磁器	鉢	急須	2.7	(7.1)	—	0.40	—	—	不明	発付(唐文)。口縁部斜子。底面並み地まわりの赤線筋	30	E-350	
22	00	表土	瓦類陶器	瓦	徳利	径7.0	—	—	6.3	ナゾ	灰輪	不明	白長+鉄絵		E-351	
23	00	表土	瓦類陶器	瓦	徳利	径7.9	—	—	10.0	ナゾ	灰輪	瀬戸・美濃	鉄文字		E-352	
24	00	エトレンテ	磁器	徳利	—	径5.8	—	—	—	ナゾ	—	瀬戸・美濃	発付(横線草文)	30	E-353	
25	00	表土	瓦類陶器	甕桶	—	4.7	(6.1)	—	4.6	胴輪	胴輪	不明	底面に輪筋子あり	30	E-354	
26	00	表土	瓦類陶器	その他	加工円蓋	—	—	—	—	灰輪	胴輪	瀬戸・美濃	長径5.6cm、短径3.2cm、厚さ0.8cm。胴輪筋の彫刻か	30	E-355	
27	00	表土	瓦類陶器	不明	—	—	—	—	—	ナゾか	—	不明	長径5.4cm、短径3.9cm、厚さ1.1cm。明治以降か		E-356	
28	00	表土	磁器	不明	—	径5.0	—	—	4.9	—	—	不明	発付	30	E-357	
29	00	表土	瓦類陶器	土管か	—	径6.4	(21.4)	—	—	ナゾ	ナゾ	常滑か	明治以降か、外底横付線か		E-358	
30	00	表土	瓦類陶器	不明	—	径6.4	(13.4)	—	—	筒押土+ナゾ	ナゾ	常滑か	瓦具に一種か、明治以降か		E-359	

第66図 その他の時期の遺物②(1:4)

3. 瓦類

古代瓦以外に新しい段階の燻し瓦も出土している。これが江戸時代の瓦か、明治時代に東本願寺の再建瓦を焼いた時の瓦であるのか、わからない。1～3は軒棧瓦、4・5は丸瓦、6～9は用途不明の瓦であるが道具瓦の一種と考えられる。



遺物 番号	調査地点	種別				寸法 (cm)			輪郭・調整など		表面	備考	P.L. 登録 番号	
		種類	形状	形状	形状	長さ	幅	厚さ	凹面	凸面				
1	00	丸瓦	軒棧瓦	丸瓦	—	幅6.9	1.6	—	—	—	不明	紫灰色	30 E-303	
2	00	赤土	瓦類	軒棧瓦	平瓦	—	幅11.7	2.4	—	—	不明	赤褐色・黄褐色か	30 E-301	
3	00	SK205	瓦類	軒棧瓦	平瓦	—	幅6.9	幅6.7	1.8	—	—	不明	高等燻灰文	E-302
4	00	SK43	瓦類	丸瓦	—	幅16.1	幅14.3	1.7	コピキ金+ナギキ	ナギ金	不明	いぶしていない	30 E-303	
5	00	赤土	瓦類	丸瓦	—	幅14.9	幅14.1	1.9	コピキ金+ナギキ	ナギ金	不明	いぶしていない	30 E-304	
6	00	赤土	瓦類	不明	—	幅11.7	4.4	3.9	—	—	不明	道具瓦の一種か。白色粘土混入か	30 E-305	
7	00	赤土	瓦類	不明	—	2.9	幅2.5	2.1	—	—	不明	道具瓦の一種か	30 E-306	
8	00	赤土	瓦類	不明	—	2.4	幅2.2	1.8	—	—	不明	道具瓦の一種か	30 E-307	
9	00	赤土(6)	瓦類	不明	—	2.1	1.8	1.3	—	—	不明	道具瓦の一種か	30 E-308	

第67図 瓦類 (1:4)

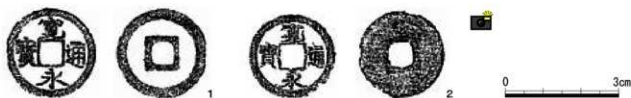
第5節 その他の遺物

1. 概要

その他の遺物として、備かではあるが金属製品と石製品が出土している。ここでまとめて掲載する。

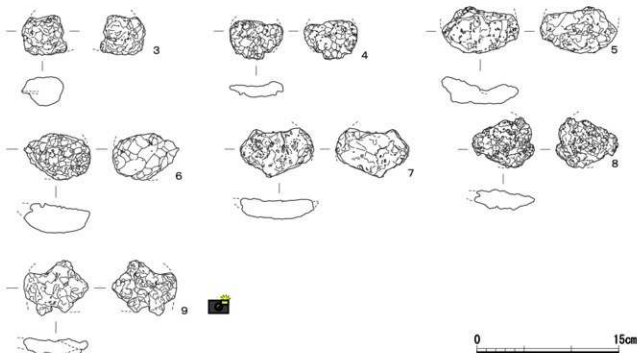
2. 金属製品

1・2は銭貨、3～9は鉄滓である。これ以外に、鉄製の釘や輪の羽口、炉の焼けた壁土のようなものが出土している。



遺物 番号	調査地点	遺構	種別			材質	質量 (m・g)				備考	P.L. 登録 番号	
			種類	形種	器形		径	孔径	厚さ	重さ			
1	0・0	棟1	金属製品	銭貨	寛永通宝	銅	2.3	0.6	0.1	2.7	古寛永	30	W-001
2	0・0	中央-べと	金属製品	銭貨	寛永通宝	銅	2.2	0.6	0.1	2.1	新寛永	30	W-002

第68図 金属製品① (1:1)



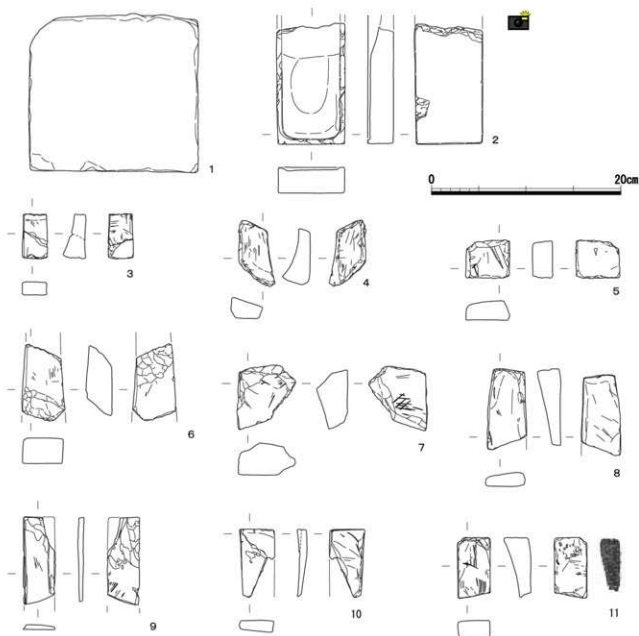
遺物 番号	調査地点	遺構	種別			材質	質量 (m・g)				備考	P.L. 登録 番号	
			種類	形種	器形		径	孔径	厚さ	重さ			
3	0・0	SX30	金属製品	鉄滓	純鉄滓	鉄	194.9	194.2	2.1	83.0	小石を含む。気泡が見られる。土の痕跡が多い。断面を覗きみ込んでいる	30	W-003
4	0・0	SX31	金属製品	鉄滓	純鉄滓	鉄	194.4	194.2	1.7	37.3	小石を含む。気泡が見られる	30	W-004
5	0・0	SX2965	金属製品	鉄滓	純鉄滓	鉄	194.1	194.9	2.9	120.8	小石を含む。土の痕跡がやや多い	30	W-005
6	0・0	S D11	金属製品	鉄滓	純鉄滓	鉄	197.0	194.9	3.1	146.3	小石を含む。気泡が少ない	30	W-006
7	0・0	S D05	金属製品	鉄滓	純鉄滓	鉄	197.8	194.2	2.2	116.4	小石を含む。気泡が少ない	30	W-007
8	0・0	S K208	金属製品	鉄滓	純鉄滓	鉄	194.4	194.7	2.1	76.7	小石を含む。気泡がやや多い	30	W-008
9	0・0	S K345	金属製品	鉄滓	純鉄滓	鉄	194.8	194.8	1.8	83.1	小石を含む。気泡が少ない。3つが重なる	30	W-009

第69図 金属製品② (1:4)

3. 石製品

1は五輪塔の地輪、2は硯、3～11は砥石である。かなり新しい段階の遺物も含まれている。

(小嶋廣也)



遺物番号	調査区	遺物	種別		石材	出處 (cm・g)				備考	P.L.	登録番号		
			器種	器形		長さ	幅	厚さ	重量					
1	00	S E03	石製品	五輪塔	地輪	—	—	—	12100	縦16.7cm、横17.8cm、奥行16.8cm		30	S-003	
2	00	出土	石製品	硯	—	福沢岩	12.8	7.2	2.7	457.7	各面に磨付層		30	S-004
3	00	S X31	石製品	砥石	—	福沢岩	横4.7	2.7	2.4	36.5			30	S-005
4	00	S X18	石製品	砥石	—	吉賀福沢岩	横5.3	3.3	2.9	65.0			30	S-006
5	00	S K2007	石製品	砥石	—	福沢岩	横4.0	4.6	2.1	55.7			30	S-007
6	00	S K234	石製品	砥石	—	福沢岩	横7.4	4.5	2.8	121.8			30	S-008
7	00	S K262	石製品	砥石	—	福沢岩	横6.1	横6.0	横3.3	122.9				S-009
8	00	S D56	石製品	砥石	—	福沢岩	横8.4	4.2	2.3	96.6	切り出し痕小		30	S-010
9	00	S D97	石製品	砥石	—	吉賀福沢岩	横9.2	3.4	横6.6	25.2	切り出し痕小、印上同一個体か			S-011
10	00	S D07	石製品	砥石	—	吉賀福沢岩	横7.2	3.6	1.2	28.8	切り出し痕小、印上同一個体か		30	S-012
11	00	出土	石製品	砥石	—	福沢岩	横5.4	3.4	2.6	61.2	刷印		30	S-013

第70図 石製品 (1:4)

第IV章 科学分析



現地説明会風景（南西から）

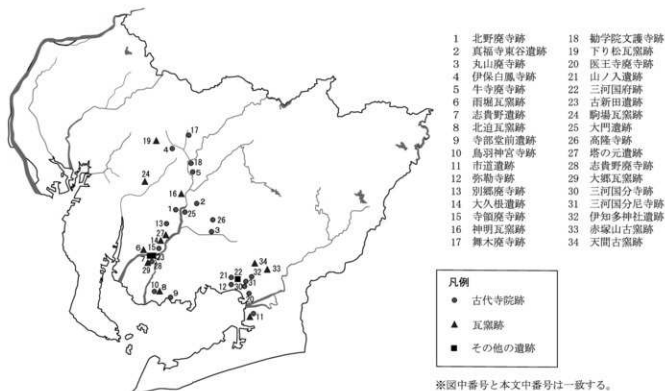
第1節 胎土分析用古代瓦資料

1. はじめに

愛知県下では多くの古代寺院が知られている。古代寺院とは、飛鳥時代から平安時代までに建立された寺院をいい、現在では廃寺跡が残っているだけである。県内では一宮市の長福寺廃寺が最古と考えられ、7世紀中頃に位置づけられている。やや遅れて名古屋市の尾張元興寺がこれに続いている。7世紀後半になると、尾張では旧八郡の全てに、三河では旧碧海郡・旧額田郡・旧徳劔郡に分布するようになる。8世紀前半代になると、尾張平野周辺地域では寺院数が増加し、三河では旧加茂郡・旧瀧美郡内にも建立されるようになる。

本遺跡が位置する矢作川流域だけ見てみると、豊田市の舞木廃寺跡・伊保白鳳寺跡、岡崎市の北野廃寺跡・丸山廃寺跡・能光廃寺跡、知立市の慶雲廃寺跡、安城市の別郷廃寺跡・寺領廃寺跡、西尾市の志貴野廃寺跡、幡豆町の鳥羽神宮寺跡・寺部堂前遺跡（寺部廃寺跡）と10ヶ寺をくだらない。また、瓦を生産していた窯としては、豊田市の神明瓦窯跡、三好町の下り松瓦窯跡、西尾市の大郷瓦窯跡、幡豆町の北迫瓦窯跡などが知られ、寺院に瓦を供給していたと考えられている。

この時代に布目痕のついた古代瓦が出土するのは、寺院跡や国衙などの役所跡に限られていると考えられている。それは、当時の人々の住居は竪穴住居や掘立柱建物で、瓦を葺いた建物は存在しないからである。



第71図 三河の古代寺院と瓦窯跡関連遺跡位置図

2. 目的

古新田遺跡からは、布目の残った古代瓦が多く出土している。第III章第2節で紹介した軒丸瓦、丸瓦、平瓦などが確認されている。軒平瓦と思われる瓦も数点見られるが、小片である。しかし、寺院などに関連する遺構は全く確認されていない。

また、時期が確定できる遺構から出土した瓦は極僅かであり、中世以降の遺構や包含層からの出土が多い。では、本遺跡から出土した瓦が意味するものは何であろうか。本遺跡のすぐ南側には志貴野廃寺推定地が位置しており、この周辺で古代瓦が採取できることは知られている。志貴野廃寺跡に関連する瓦であるのか、大郡瓦窯跡に関連する瓦であるのか、または川で流されてきたものであるのか、不明な点が多い。今回、本遺跡出土資料も含め、主として矢作川流域の古代寺院関連遺跡から出土した瓦の比較研究を行うために、胎土分析を行うことにした。

3. 分析資料の選別

本遺跡が位置する矢作川流域に所在する寺院跡や瓦窯跡を中心に、寺領廃寺出土の瓦と同范と思われる軒平瓦が確認されている東三河の豊橋市の市道遺跡や、本遺跡から出土した軒丸瓦とよく似た軒丸瓦が出土している豊川市の三河国府跡も比較・検討するため、比較資料として加えた。なお、資料の選別に当たって、高浜市やきもの里かわら美術館の天野卓哉氏にご協力いただいた。

基本的には各寺院跡や瓦窯跡毎に丸瓦と平瓦を中心に観察し、まず須恵質の瓦と土師質の瓦に分けた。平瓦については、凸面に格子目叩きや縄目叩きというタタキ調整の違うものやナゲ消されたものがあれば、それぞれをサンプルとして選び出した。また、担当者のご厚意により一部に軒丸瓦や軒平瓦も加え合計253点を選び出し、胎土分析を株式会社第四紀地質研究所に依頼した。分析結果は本章第2節に掲載した。ただし、資料番号は259番までふってあるが、65～70が欠番となっていること、発掘調査が行われている事例が少なく表採資料を利用しているため、結果がやや正確には欠けるといふこともご承知いただきたい。

4. 寺院・窯跡と分析資料

以下に、分析資料を提供いただいた寺院跡や瓦窯跡を簡単に紹介する。

①北野廃寺跡（旧碧海郡） …… 分析資料1～18

北野廃寺は岡崎市北野町字郷裏に所在し、矢作川右岸の碧海台地上に立地している。現地の実測調査などから四天王寺式伽藍配置をとる古代寺院として注目され、昭和4（1929）年に国史跡に指定されている。昭和39（1964）年には発掘調査が行われ、南大門・中門・塔・金堂・講堂・僧坊と伽藍が並ぶ四天王寺式伽藍配置であることが確認された。また、史跡整備に先立ち、昭和52（1977）年には講堂跡の追加調査も行われた。現在、史跡公園として整備されている。時期は、白鳳時代前期の7世紀中葉から平安時代の10世紀頃までと考えられている。北野廃寺に瓦を供給していた瓦窯として豊田市鷲鴨町の神明瓦窯跡（⑧）が知られ、同范の軒丸瓦が採集されている。

②真福寺東谷遺跡（旧額田郡） …… 分析資料19～28

真福寺東谷遺跡は岡崎市真福寺町字東谷に所在し、天台宗の古刹真福寺が位置する薬師山とは谷を挟んだ東側の山頂に立地している。これまで北野廃寺が真福寺の旧跡で、現在の真福寺はその移転によるものと考えられていたが、出土した瓦に北野廃寺跡（①）の創建瓦に類似した軒丸瓦が出土しており、真福寺の創建時期を白鳳時代まで遡らせる資料として注目された。昭和54（1979）年に発掘調査が行われ、中門・塔・堂・講堂跡などの規模が明らかとなっている。時期は、白鳳時代後期の7世紀末以降と考えられている。

③丸山廃寺跡（旧額田郡） …… 分析資料29～34

丸山廃寺は岡崎市丸山町字上地畑に所在し、乙川右岸の低位段丘上に立地している。現在、岡崎市立中学校が跡地に建っている。正式な調査は行われていないが、昭和24（1949）年の校地造成工事の際に大量の瓦が出土したことや、付近の神社境内に礎石と考えられる石があることから寺院跡と推定されている。時期は、北野廃寺跡（①）と同形の素弁六葉蓮華文軒丸瓦などが出土していることから、白鳳時代後期の7世紀末以降と考えられている。

④伊保白鳳寺跡（旧賀茂郡） …… 分析資料35～54

伊保白鳳寺跡は、豊田市保見町六反田に所在し、伊保川によって開析された沖積地を北に臨む台地裾下に位置している。昭和45（1970）年の伊保川の河川付け替え工事で平瓦が垂直に立ち並んだ瓦列などが確認され、瓦塔も出土したため、寺院跡と推定されている。伊保白鳳寺跡の瓦は三好町下り松瓦窯跡（⑨）で焼かれたものであることが確認されており、時期は白鳳時代後期の7世紀末以降と考えられている。

⑤牛寺廃寺跡（旧賀茂郡） …… 分析資料55～64

牛寺廃寺は、豊田市野見町1丁目に所在し、矢作川左岸の段丘低位面上に位置している。昭和48（1973）年に土地改良事業に伴い発掘調査が行われているが、面積は200㎡と僅かである。しかし、縁石を伴う基壇状遺構や敷石の排水施設、瓦溜りなどが確認されているが、遺構の性格や伽藍などについては不明な点が多い。時期は、白鳳時代後期の7世紀末以降と考えられている。

⑥雨堀瓦窯跡（旧碧海郡） …… 分析資料71～76

雨堀瓦窯跡は、西尾市米津町雨堀に所在し、矢作川右岸の碧海台地を開析した小谷の北斜面に位置している。立地状況から瓦窯跡と推定され、発掘調査が行われなくなると消失した。本瓦窯跡は、寺領廃寺跡（⑮）に瓦を供給していた瓦窯跡と推定されているが、今のところ同瓦窯の存在は確認されていない。また、志貴野廃寺（㉞）に瓦を供給していた可能性も示唆されている。時期は奈良時代の8世紀代と考えられている。

⑦志貴野遺跡（旧碧海郡※1） …… 分析資料77～88

志貴野遺跡は、西尾市志貴野町堤崎、向山に所在し、矢作川左岸の碧海台地南端に位置している。昭和63（1988）年から平成元（1989）年にかけて発掘調査が実施され、奈良時代から平安時代までの集落遺跡であることが確認されている。本遺跡の近くには志貴野廃寺推定地（㉞）が位置しているためか、古代瓦が出土している。瓦の時期については不明である。

⑧北迫瓦窯跡（旧幡豆郡） …… 分析資料89～105

北迫瓦窯跡は、幡豆郡幡豆町大字鳥羽字北迫に所在し、鳥羽川左岸の丘陵南西斜面に位置している。土地改良事業に伴い平成4（1992）年に試掘調査が行われ、灰原の一部が検出され軒瓦を含む瓦が出土した。出土瓦の中に鳥羽神宮寺跡（⑩）出土と同范の素弁七葉蓮華文軒瓦があることから、鳥羽神宮寺に瓦を供給していたと考えられている。時期は不明な点があるが、白鳳時代後期から奈良時代までの7世紀末から8世紀と推定されている。

⑨寺部堂前遺跡（旧幡豆郡） … 分析資料106～116

寺部堂前遺跡は寺部廃寺ともいわれ、幡豆郡幡豆町大字寺部に所在し、三河湾に面した小丘陵南麓に位置している。付近の住民が瓦を資料館に持ち込んだことによって知られるようになった。寺院跡と推定されているが、幡豆郡衙跡の可能性も示唆されている。平成14（2002）年には発掘調査が行われ、時期は奈良時代の8世紀代と考えられている。

⑩鳥羽神宮寺跡（旧幡豆郡） … 分析資料117～127

鳥羽神宮寺跡は、幡豆郡幡豆町大字鳥羽字西迫に所在し、鳥羽川右岸の南に舌状に延びる丘陵の南麓斜面に位置している。現在の神明社境内周辺から瓦が出土することが知られており、寺院跡が推定されているが、発掘調査は行われていない。時期は不明な点が多いが、白鳳時代後期の7世紀末以降と考えられている。

⑪市道遺跡（旧潟美郡） … 分析資料128～139

市道遺跡は、豊橋市牟呂町市道に所在し、豊川と柳生川に挟まれて三河湾に向かって延びる大地先端部に位置している。区画整理事業に伴う発掘調査が昭和59（1984）年に降行われ、堀に囲まれた南側区画と北側の掘立建物群や瓦窯などが確認され、郡の有力者の居館跡および寺院跡と推定されている。時期は奈良時代以降の8世紀から9世紀と考えられている。寺領廃寺跡（⑬）と同范の軒平瓦が出土している。

⑫弥勒寺跡（旧宝飯郡） … 分析資料140～147

弥勒寺跡は、宝飯郡御津町大字豊沢字弥勒寺に所在し、御津川に開削された谷に延びる低い尾根上に位置している。瓦の散布する範囲は限定されているので大伽藍が存在していたとは考えがたく、小堂が建っていたのではないかと推定されている。発掘調査は行われていない。時期は白鳳時代後期の8世紀初頭以降と考えられている。

⑬別郷廃寺跡（旧碧海郡） … 分析資料148～156

別郷廃寺は、安城市別郷町油石に所在し、碧海台地の西南端近くに位置している。発掘調査は行われておらず、伽藍の様子は分かっていない。瓦が散布する範囲は東西100m、南北70mで、その一部からは礎石と思われる花崗岩が出土している。そのうちの1つは、市杵姫神社に運ばれている。また、『本朝文粋』にある慶滋保胤の漢詩に出てくる「葉王寺」をこの寺とする説もある。時期は白鳳時代後期の7世紀末以降と考えられている。

⑭大久根遺跡（旧碧海郡） … 分析資料157～162

大久根遺跡は、安城市小川町大久根に所在し、碧海台地上に位置している。ある程度の範囲で瓦が出土しており、瓦窯跡と推定されている。発掘調査が行われていないため、窯の構造など不明な点が多い。寺領廃寺跡（⑬）に瓦を供給していた可能性が考えられている。

⑤寺領廃寺跡（旧碧海郡） …… 分析資料163～182

寺領廃寺は、安城市寺領町久後に所在し、矢作川の沖積低地を臨む碧海台地東縁に位置している。昭和32（1957）年と平成13（2001）年に発掘調査が行われ、金堂・講堂・東塔・西塔の一部などの遺構が確認され、中門と南大門の推定地からは多量の瓦が出土している。これにより東大寺式伽藍配置であることが推定されたが、寺院の領域は確認されていない。西尾市の雨堀瓦窯跡（⑥）から瓦が供給されていたと考えられている。時期は白鳳時代後期である7世紀末以降と考えられている。

⑥神明瓦窯跡（旧碧海郡） …… 分析資料184～197

神明瓦窯跡は、豊田市鶯鴨町神明に所在し、矢作川右岸の碧海台地東縁に位置している。発掘調査は行われておらず実体は不明であるが、段丘崖下の水路から多量の瓦片が出土しており、瓦窯跡と推定されている。採集された瓦の中に北野廃寺跡（①）から出土している素弁六葉蓮華文軒丸瓦が確認され、北野廃寺の瓦窯の1つと考えられている。時期は不明な点が多いが、白鳳時代後期の7世紀末以降と考えられている。

⑦舞木廃寺跡（旧賀茂郡） …… 分析資料198～204

舞木廃寺は、豊田市舞木町丸根に所在し、銀投川によって開析された谷底平野を西に臨む低丘陵西縁に位置している。昭和4（1929）年に塔跡が国指定史跡となり、塔心礎を中心とする礎石が残存している。昭和54（1979）年に付近の地形測量が行われ、平成15（2003）年2月にトレンチ調査が行われた。時期は不明な点が多いが、白鳳時代後期の7世紀末以降と考えられている。

⑧勸学院文護寺跡（旧賀茂郡） …… 分析資料205～207

勸学院文護寺跡は、豊田市寺町町四丁目に所在する現在の隨応院境内周りで、矢作川左岸の段丘低位面に位置している。発掘調査は行われていないが、境内には舍利孔と想定される小穴を有した礎石が1つ残存している。文護寺跡のものといわれる丸瓦・平瓦が各1点伝わっており、この平瓦の凸面には一面に格子目吹き痕が残っており、舞木廃寺跡（⑦）の吹き目の酷似が指摘されている。時期は不明な点が多いが、白鳳時代後期の7世紀末以降と考えられている。

⑨下り松瓦窯跡（旧賀茂郡） …… 分析資料208～219

下り松瓦窯跡はK-91号窯ともいわれ、西加茂郡三好町大字福谷字下り松に所在し、逢妻女川の源流ともいべき小流により開析された東に開口する細長い谷地形の東斜面に位置している。昭和40（1965）年頃発掘調査が行われ、須恵器を併焼した無段の窯窓とされている。伊保白鳳寺跡（④）出土と同范の可能性の高い複弁蓮華文軒丸瓦があり、伊保白鳳寺に瓦を供給していたと推定されている。出土した須恵器から、時期は白鳳時代後期から奈良時代初頭である7世紀末から8世紀前葉と考えられている。

⑩医王寺廃寺跡（旧宝飯郡） …… 分析資料220～223

医王寺廃寺は、宝飯郡小坂井町大字雑東字郷中に所在する現在の医王寺境内にあり、豊川下流域右岸の中段段丘崖を臨む平坦地に位置している。縁起によると、大宝元（701）年に開山され、延暦年間（8世紀末）に焼失、その後まもなく再建されたことなどが確認されている。発掘調査は行われていないが、境内には柱座を造り出した礎石が1つ、付近にも礎石と思われる大石が散在している。時期は縁起から白鳳時代後期の8世紀初頭と考えられている。

③ 山ノ入遺跡（旧宝飯郡） … 分析資料224～229

山ノ入遺跡は、豊川市国府町山ノ入に所在し、音羽川右岸の小開折谷に北面する山麓に位置している。昭和51（1976）年に宅地造成の際に瓦が多量に出土し、面積約40㎡の小規模な調査が行われている。建物基礎や礎石などは確認されていないが、検出された瓦層は屋根瓦が焼失して落下した状態を示しており、周辺に寺院跡の存在が推定されている。三河国府の付属寺院とする考え方もある。時期は奈良時代前半の8世紀前半以降と考えられている。

④ 三河国府跡（旧宝飯郡） … 分析資料230～239

もとは白鳥遺跡といわれ、豊川市白鳥町上郷中・下郷中に所在し、豊川右岸の南に延びる舌状台地上に位置している。三河総社周辺を中心に瓦の散布が見られる。平成4（1992）年以降発掘調査が進められ、三河国府跡推定地として有力視されている。本遺跡の主体となる瓦は、医王寺廃寺跡（㉓）や山ノ入遺跡（㉔）の補修用瓦と共通点が見られる。時期は国府とすれば奈良時代前半である8世紀代と考えられている。

⑤ 古新田遺跡（旧碧海郡※2） … 分析資料240～259

本遺跡である。詳細は第I～第III章に示した。

以上が今回胎土分析を行った寺院跡・瓦窯跡の概要である。これ以外にも、豊田市の駒場瓦窯跡（㉒）、岡崎市の大門遺跡（㉕）・高隆寺跡（㉖）、安城市の塔の元遺跡（㉗）、西尾市の志貴野廃寺跡（㉘）・大郷瓦窯跡（㉙）、豊川市の三河国分寺跡（㉚）・三河国分尼寺跡（㉛）・伊知多神社遺跡（㉜）・赤塚山古窯跡（㉝）・天間古窯跡（㉞）などが知られている。この中で本遺跡と関係の深い志貴野廃寺跡と大郷瓦窯跡について紹介する。

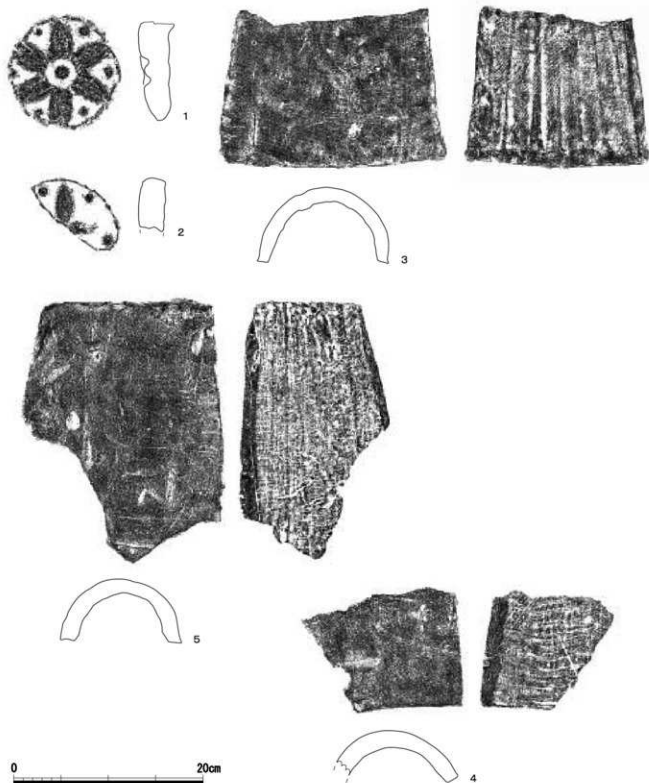
⑥ 志貴野廃寺跡（旧碧海郡※3）

志貴野廃寺跡は、西尾市志貴野町宮前に所在し、矢作川と矢作古川の間分岐点近く、矢作川左岸の碧海台地上に位置している。発掘調査は行われておらず、広範囲から古代瓦が出土し、礎石と推定される石が存在していたことなどから、寺院跡と考えられている。本廃寺跡の南には大郷瓦窯跡（㉙）があり、本廃寺に瓦を供給していた可能性が高いと推定されている。時期は不明な点が多いが、白鳳時代後期の8世紀初頭頃と考えられている。

⑦ 大郷瓦窯跡（旧碧海郡※4）

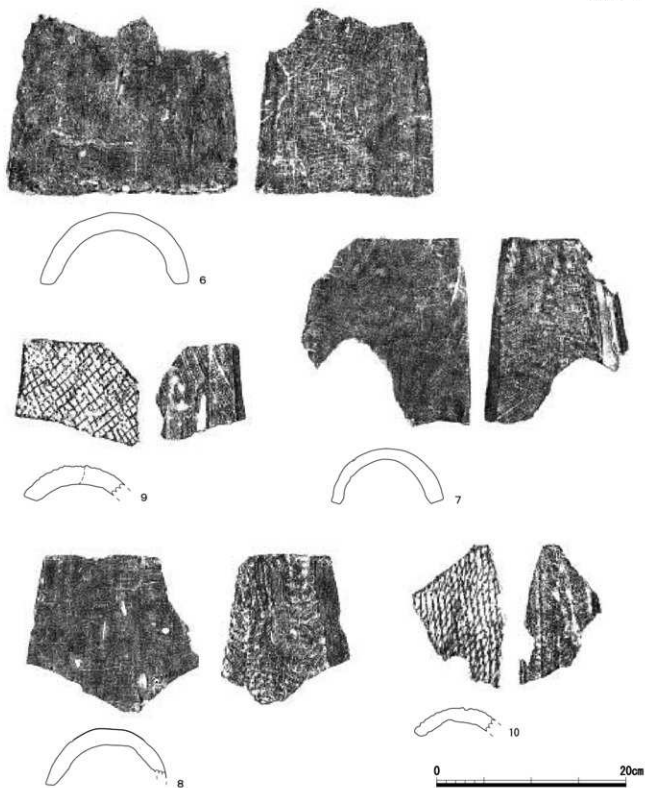
大郷瓦窯跡は、西尾市小島町大郷に所在し、志貴野廃寺跡（㉘）南の大郷山西麓の傾斜地に位置している。かつて土取りの際に1カ所から多量の瓦が出土し、その立地や出土状態から瓦窯跡と推定されている。発掘調査が行われないうまま、消失した。寺領廃寺跡（㉝）出土の軒丸瓦と同范の瓦が出土しており、本瓦窯跡が寺領廃寺跡（㉝）に瓦を供給していたと考えられている。また、その位置関係から志貴野廃寺跡（㉘）に瓦を供給していた可能性もある。時期は不明な点が多いが、白鳳時代後半の8世紀初頭頃と考えられている。

5. 分析資料



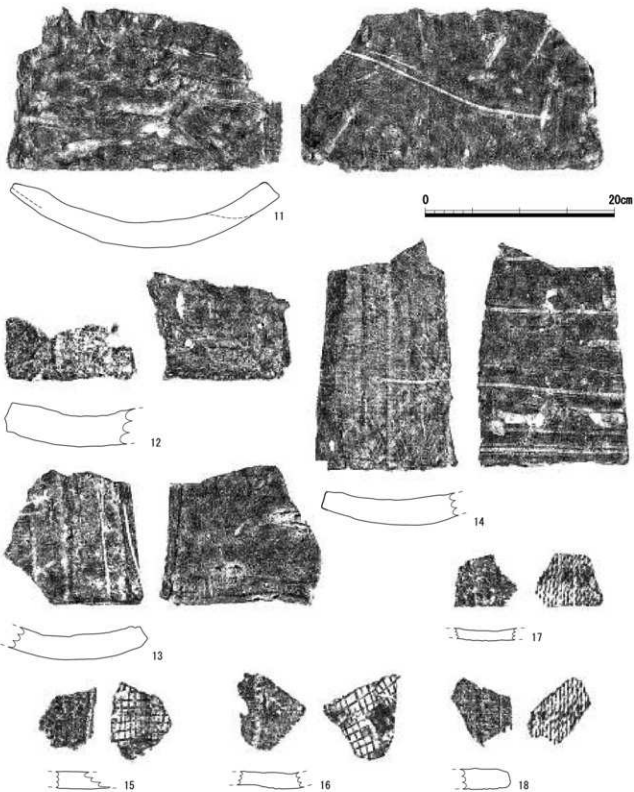
資料 番号	資料出土遺跡			材質	種類	直径 (cm)			断面・断面之比		形状	備考	発跡 番号
	所在地	遺跡名	遺跡			最大	幅	最小	凹面	凸面			
1	岡崎市	北野南寺跡	検出小	土師質	野丸瓦	横11.0	横10.1	3.6	—	—	不明	露脊六葉蓮花文	
2	岡崎市	北野南寺跡	鎌倉北	土師質	野丸瓦	横4.4	横10.4	横2.8	—	—	不明	露脊六葉蓮花文	
3	岡崎市	北野南寺跡	検出小	瀬高質	丸瓦	横16.0	横13.9	1.7	布目張・横脊瓦	ナゾカ	不明		
4	岡崎市	北野南寺跡	南土屋南	土師質	丸瓦	横13.7	横12.9	2.0	布目張	ナゾカ	不明	凸面磨面	
5	岡崎市	北野南寺跡	南土屋第1トレ北溝	土師質	丸瓦	横27.5	横12.8	1.9	布目張・横脊瓦	ナゾ	不明		

第72図 古代瓦胎土分析資料①(1:4)



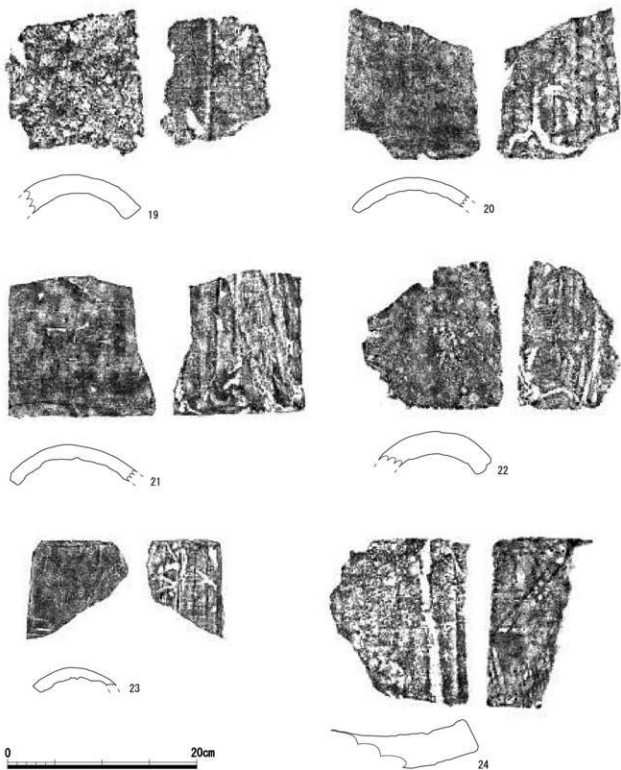
資料 番号	資料出土遺跡			材質	種類	寸法 (cm)			胎面・調整など		施地	備考	登録 番号
	所在地	遺跡名	遺構			長さ	幅	高さ	凹	凸			
6	福岡市	北野殿寺跡	焼出か	土師質	丸瓦	残20.2	残15.6	2.2	布目焼	ナツカ	不明	全体に中々線減	
7	福岡市	北野殿寺跡	焼出か	土師質	丸瓦	残20.0	残11.8	1.8	布目焼	ナツ	不明	全体に中々線減	
8	福岡市	北野殿寺跡	焼出か	磁石質	丸瓦	残17.0	残12.7	1.8	布目焼+ナツカ	ナツ	不明		
9	福岡市	北野殿寺跡	焼出か	土師質	丸瓦	残16.0	残12.7	2.1	布目焼	布目目付	不明		
10	福岡市	北野殿寺跡	焼出か	土師質	丸瓦	残14.6	残6.6	1.0	布目焼・横糸焼か	織目印	不明	全体に中々線減	

第73図 古代瓦胎土分析資料②(1:4)



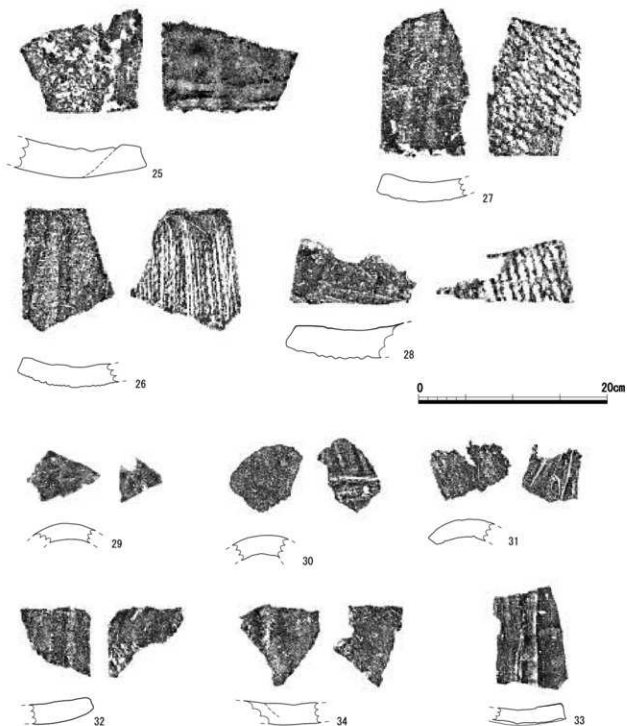
資料 番号	資料出土場所		材質	種類	寸法 (cm)			胎文・装飾など		産地	備考	登録 番号
	所在地	遺跡名			遺構	長さ	幅	高さ	胎文			
11	岡崎市	北野権寺跡	横出か	土師質	平瓦	残17.5	残26.5	2.9	布目織+ナゾ	ナゾ	不明	
12	岡崎市	北野権寺跡	赤土	土師質	平瓦	残11.4	残13.8	3.6	布目織	ナゾか	不明	全体に磨滅、羽目帯等一部剥離
13	岡崎市	北野権寺跡	横出か	瀬底質	平瓦	残14.8	残14.2	2.7	布目織・縦帯織	ナゾ	不明	
14	岡崎市	北野権寺跡	西土遺所	瀬底質	平瓦	残4.0	残14.2	2.9	布目織・縦帯織	ナゾ	不明	
15	岡崎市	北野権寺跡	横出か	土師質	平瓦	残7.4	残5.3	1.8	布目織か	格子目印否	不明	全体に磨滅
16	岡崎市	北野権寺跡	横出か	土師質	平瓦	残6.8	残2.1	1.8	布目織	格子目印否	不明	
17	岡崎市	北野権寺跡	横出か	土師質	平瓦	残6.1	残6.7	1.2	布目織・縦帯織	縦目印否	不明	全体に磨滅
18	岡崎市	北野権寺跡	横出か	土師質	平瓦	残7.3	残5.4	2.3	布目織・縦帯織	縦目印否	不明	全体に磨滅

第74図 古代瓦胎土分析資料③ (1:4)



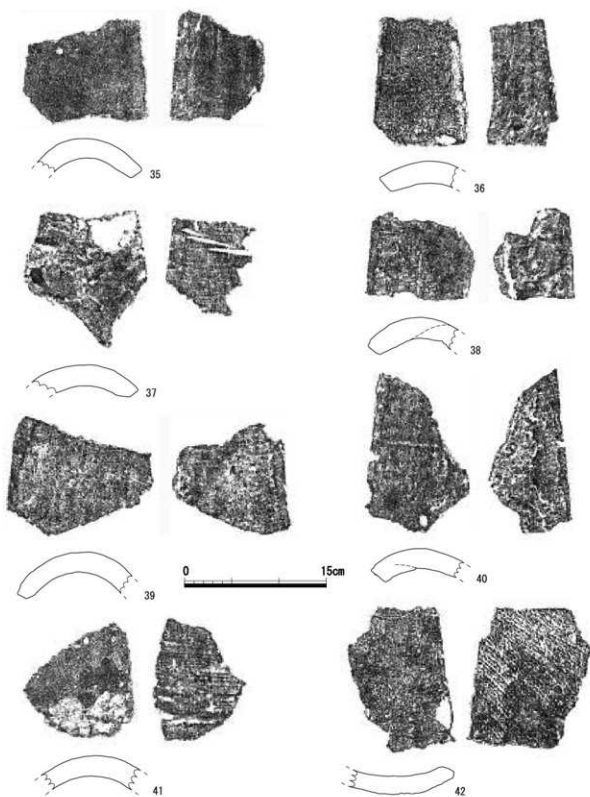
資料 番号	発 見 地 点			材 質	種類	寸 法 (cm)			胎 質・調整など		厚 薄	備 考	付録 番号
	所在地	遺 跡 名	遺 物			長さ	幅	高さ	目 肌	凸 面			
19	岡崎市	真福寺東谷遺跡	検出小	土師質	丸瓦	横15.3	横12.5	2.5	右目肌・横管痕	ナツカ	不明	凸面磨滅	
20	岡崎市	真福寺東谷遺跡	検出小	土師質	丸瓦	横14.7	横12.1	1.9	右目肌・横管痕	ナツカ	不明	全体に磨滅	
21	岡崎市	真福寺東谷遺跡	検出小	灰意瓦	丸瓦	横13.0	横13.4	1.7	右目肌・横管痕	ナツカ	不明		
22	岡崎市	真福寺東谷遺跡	検出小	土師質	丸瓦	横13.5	横11.9	2.3	右目肌・横管痕	ナツカ	不明	全体に磨滅	
23	岡崎市	真福寺東谷遺跡	検出小	灰意瓦	丸瓦	横10.5	横8.0	1.3	右目肌・横管痕	ナツカ	不明		
24	岡崎市	真福寺東谷遺跡	検出小	土師質	平瓦	横16.0	横15.7	3.6	右目肌	佛子目叩き	不明	全体に磨滅・磨滅跡隠小	

第75図 古代瓦胎土分析資料④(1:4)



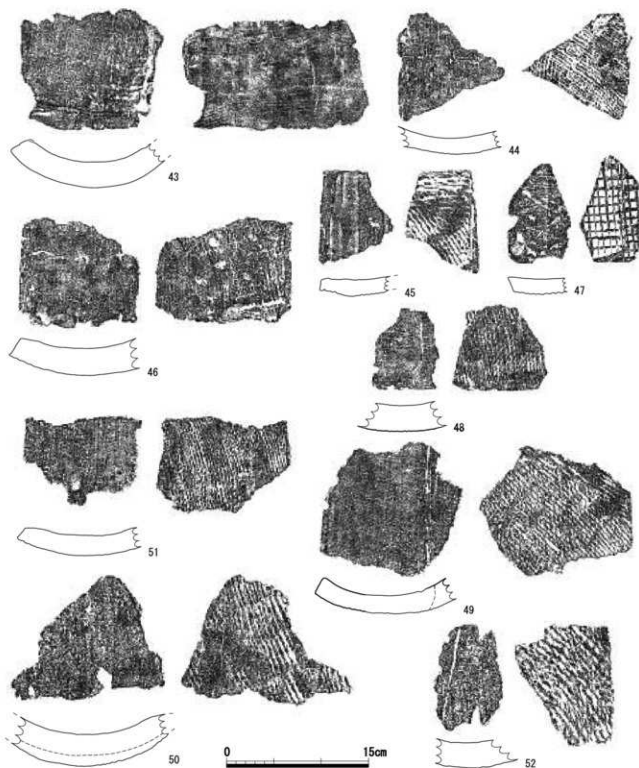
資料 番号	資料出土遺跡		材質	種類	法量 (cm)			胎面・調整など		原産地	備 考	登録 番号	
	所在地	遺跡名			遺	線	長さ	幅	高さ				凹
25	岡崎市	其尾寺東谷遺跡	線出小	土師質	平瓦	横10.0	横14.1	3.3	布目肌小	ナゾ小	不明	全体に磨滅	
26	岡崎市	其尾寺東谷遺跡	線出小	土師質	平瓦	横13.4	横16.8	2.3	布目肌・襷帯肌小	襷目可き	不明	全体に磨滅	
27	岡崎市	其尾寺東谷遺跡	線出小	土師質	平瓦	横15.7	横9.5	2.4	布目肌	襷目可き	不明	全体に磨滅。凸面黒く変色	
28	岡崎市	其尾寺東谷遺跡	線出小	土師質	平瓦	横7.0	横12.6	3.2	布目肌	襷目可き	不明	全体に磨滅	
29	岡崎市	丸山庵寺跡	表部	土師質	丸瓦	横6.9	横6.7	1.7	布目肌	ナゾ小	不明	全体に磨滅	
30	岡崎市	丸山庵寺跡	裏部	土師質	丸瓦	横6.2	横6.0	2.2	布目肌	ナゾ	不明		
31	岡崎市	丸山庵寺跡	裏部	土師質	丸瓦	横6.0	横6.7	2.1	布目肌	ナゾ	不明		
32	岡崎市	丸山庵寺跡	裏部	土師質	平瓦	横7.6	横6.9	2.2	布目肌小	襷目可き小	不明	全体に磨滅	
33	岡崎市	丸山庵寺跡	裏部	土師質	平瓦	横11.2	横7.8	横1.7	布目肌	—	不明	全体にやや磨滅。凸面表面磨滅不明	
34	岡崎市	丸山庵寺跡	裏部	土師質	平瓦	横10.9	横6.3	2.2	布目肌小	襷目可き小	不明	全体に磨滅	

第 76 図 古代瓦胎土分析資料⑤ (1 : 4)



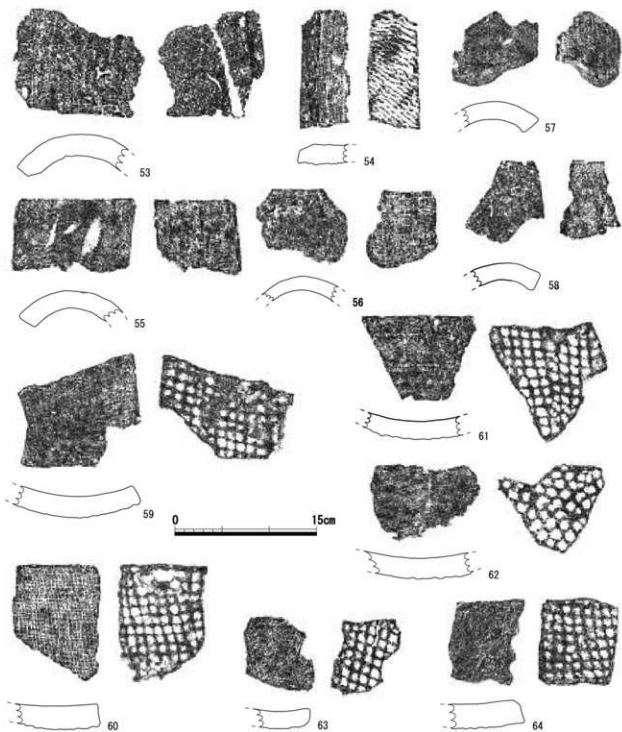
資料 番号	所在地	資料出土遺跡	遺構	材質	種類	寸法 (cm)			胎裏・調整など		編織	備考	登録 番号
						長さ	幅	厚さ	凹	凸			
35	豊田市	伊保白鳳寺跡	溝渠	土師質	丸瓦	残10.5	残11.0	2.2	布目織	ナゾか	不明	全体に摩滅	
36	豊田市	伊保白鳳寺跡	溝渠	土師質	丸瓦	残13.2	残8.4	2.3	布目織	ナゾか	不明	凸面摩滅	
37	豊田市	伊保白鳳寺跡	溝渠	土師質	丸瓦	残13.6	残11.3	2.3	布目織	ナゾか	不明	凸面摩滅	
38	豊田市	伊保白鳳寺跡	溝渠	硬灰質	丸瓦	残8.3	残6.5	2.4	布目織	ナゾ	不明		
39	豊田市	伊保白鳳寺跡	溝渠	硬灰質	丸瓦	残11.5	残12.5	2.2	布目織	ナゾか	不明	凸面摩滅	
40	豊田市	伊保白鳳寺跡	溝渠	硬灰質	丸瓦	残18.8	残9.8	2.2	布目織	ナゾ	不明		
41	豊田市	伊保白鳳寺跡	溝渠	土師質	丸瓦	残12.8	残10.6	2.2	布目織	ナゾか	不明	全体に摩滅	
42	豊田市	伊保白鳳寺跡	溝渠	硬灰質	平瓦	残15.9	残11.2	1.8	布目織	異目地ナ+ナゾ	不明		

第77図 古代瓦胎土分析資料⑥ (1:4)



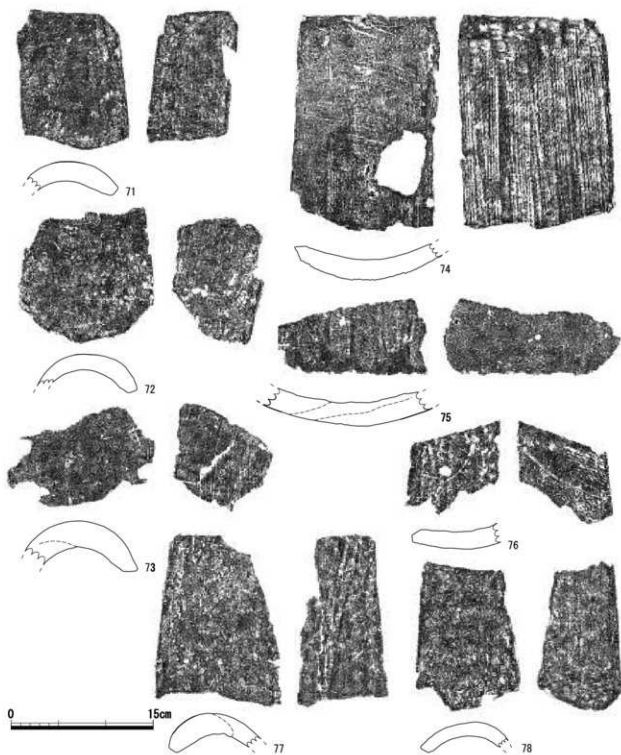
資料番号	資料出土遺跡		材質	形状	片長 (mm)			断面・断面形状		厚	備考	資料番号
	所在地	遺跡名			長さ	幅	高さ	凹面	凸面			
43	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残11.6	残16.3	2.7	右目張	縦目付き+ナゾク	不明		
44	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残11.0	残11.0	1.8	右目張	縦目付き	不明	全体に凹凸模様	
45	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残11.0	残7.4	1.7	右目張・横目張	縦目付き	不明		
46	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残10.6	残13.9	3.0	右目張	縦目付き+ナゾク	不明		
47	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残11.3	残6.1	1.6	右目張・横目張	格子目付き	不明	全体に凹凸模様	
48	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残9.1	残9.5	2.8	右目張	縦目付き+ナゾク	不明		
49	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残14.1	残14.9	3.4	右目張	縦目付き	不明		
50	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残12.6	残26.6	3.4	右目張+ナゾク	縦目付き	不明		
51	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残9.5	残13.1	2.0	右目張	縦目付き	不明	全体に凹凸模様	
52	豊田市	伊保白土遺跡	赤土質	平瓦	残12.2	残6.7	2.8	ナゾク	縦目付き	不明		

第78図 古代瓦胎土分析資料②(1:4)



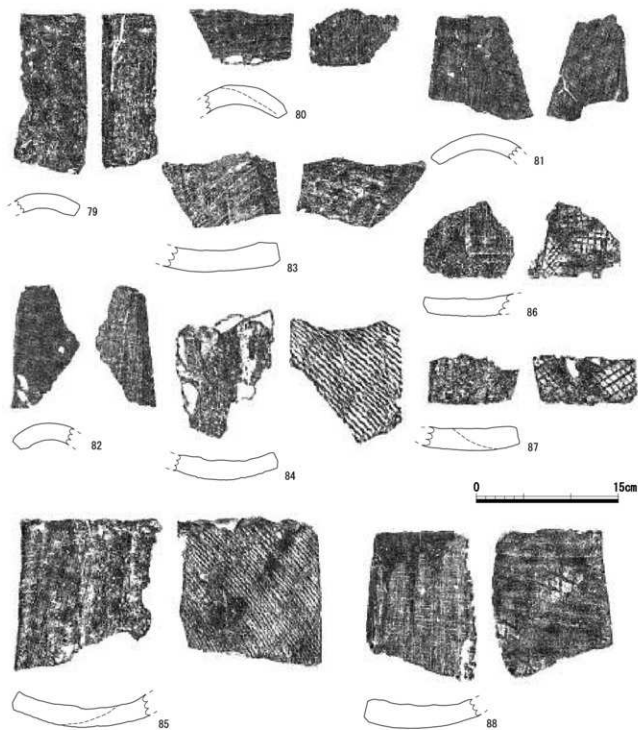
資料番号	資料出土遺跡		材質	編組	法業 (cm)			動脈・調整など		底形	備考	登録番号
	所在地	遺跡名			遺構	長さ	幅	高さ	凹面			
53	豊田市	伊保白鳳寺跡	酒塚	磁器質	丸瓦	残8.9	残8.9	2.3	布目織	ナゾ	不明	
54	豊田市	伊保白鳳寺跡	酒塚	土師質	平瓦	残12.4	残5.7	2.2	布目織・種骨織	格子目付	不明	
55	豊田市	牛久保寺跡	P 1	土師質	丸瓦	残8.6	残10.9	2.1	布目織+ナゾ	ナゾ	不明	全体に華織
56	豊田市	牛久保寺跡	P 3	土師質	丸瓦	残8.3	残8.2	1.6	布目織	ナゾ	不明	全体に華織
57	豊田市	牛久保寺跡	P 1	土師質	丸瓦	残7.3	残5.5	1.9	布目織	ナゾ	不明	全体に華織
58	豊田市	牛久保寺跡	P 1	土師質	丸瓦	残8.0	残6.4	1.9	布目織	ナゾ	不明	全体に華織
59	豊田市	牛久保寺跡	P 1 1	土師質	平瓦	残15.0	残13.2	2.2	布目織+	格子目付	不明	全体に華織
60	豊田市	牛久保寺跡	P 1 1	土師質	平瓦	残13.9	残9.2	2.7	布目織	格子目付	不明	全体に華織
61	豊田市	牛久保寺跡	P 1 1	土師質	平瓦	残12.0	残10.7	2.1	布目織+	格子目付	不明	全体に華織
62	豊田市	牛久保寺跡	P 2	土師質	平瓦	残8.4	残11.7	2.6	布目織	格子目付	不明	全体に華織
63	豊田市	牛久保寺跡	P 1 1	土師質	平瓦	残8.0	残6.1	1.9	布目織	格子目付	不明	全体に華織
64	豊田市	牛久保寺跡	P 2	土師質	平瓦	残8.3	残8.2	2.6	布目織	格子目付	不明	全体に華織。表面黒く黄白色

第79図 古代瓦胎土分析資料⑤(1:4)



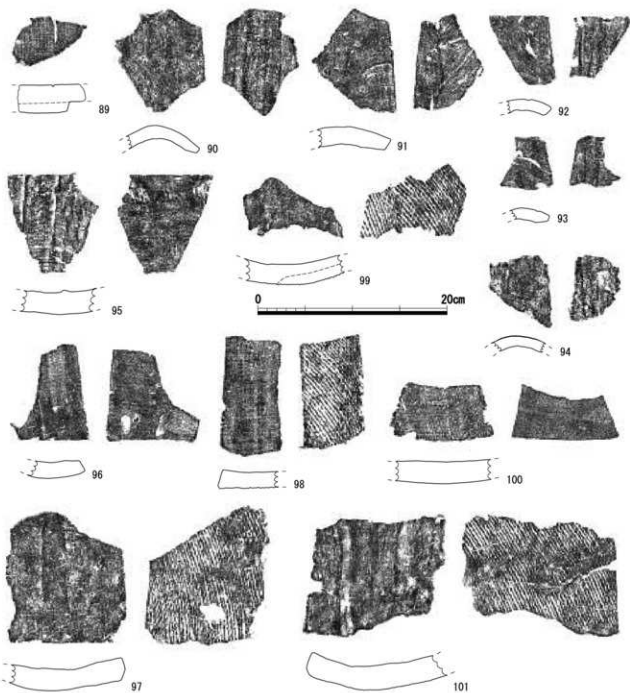
資料 番号	資料出土遺跡		材質	種類	法量 (cm)			断面・形状など		底地	備	考	資料 番号
	所在地	遺跡名			遺	積	長さ	幅	厚さ				
71	西尾市	田網瓦塚跡	赤坂	土師質	丸瓦	残9.5	残9.5	2.2	右首直+ナゾカ	ナゾカ	不明	全体に磨滅	
72	西尾市	田網瓦塚跡	赤坂	土師質	丸瓦	残13.2	残16.4	2.1	右首直	ナゾカ	不明	全体に磨滅	
73	西尾市	田網瓦塚跡	赤坂	土師質	丸瓦	残9.0	残11.1	2.0	右首直	ナゾカ	不明	全体に磨滅	
74	西尾市	田網瓦塚跡	赤坂	土師質	平瓦	残13.0	残15.6	2.2	右首直	縦目切キ	不明		
75	西尾市	田網瓦塚跡	赤坂	土師質	平瓦	残7.7	残10.9	2.5	右首直・横首直	ナゾカ	不明	凸面磨滅	
76	西尾市	田網瓦塚跡	赤坂	土師質	平瓦	残8.5	残9.2	2.1	横首直+ナゾカ	縦目切キ+ナゾカ	不明	全体に磨滅	
77	西尾市	志貴野遺跡	横出カ	土師質	丸瓦	残16.9	残9.8	2.4	ナゾカ	ナゾカ	不明	全体に磨滅	
78	西尾市	志貴野遺跡	横出カ	土師質	丸瓦	残15.2	残9.2	1.6	ナゾカ	ナゾカ	不明	全体に磨滅	

第80図 古代瓦胎土分析資料④ (1:4)



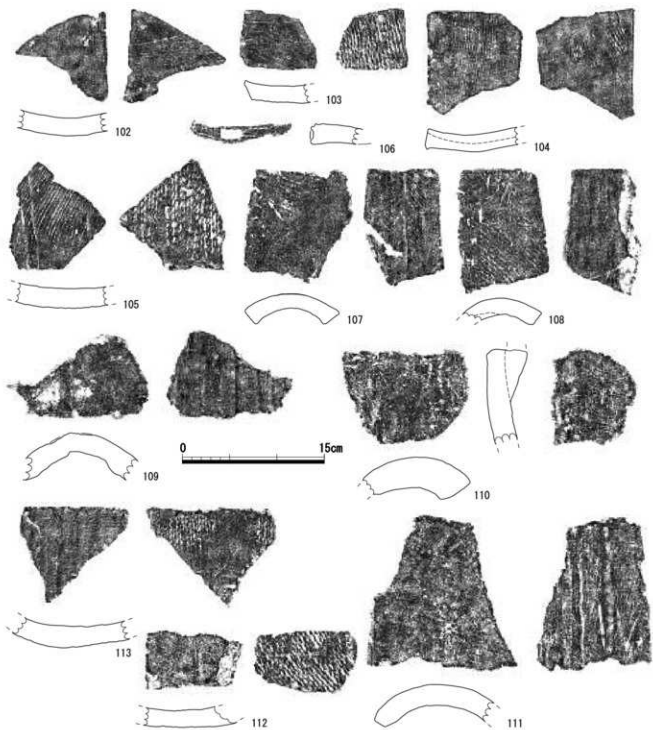
番号	資料出土遺跡			材質	種類	寸法 (cm)			胎素・調整など		底地	装	考	図録番号
	所在地	遺跡名	遺構			長さ	幅	厚さ	目面	凸面				
79	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	土師質	丸瓦	残16.6	残8.9	1.7	赤目焼	ナゾク	不明	粘土組成形か、全体に摩滅		
80	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	須恵質	丸瓦	残5.7	残8.9	2.1	赤目焼	ナゾ	不明			
81	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	須恵質	丸瓦	残10.4	残6.0	1.6	赤目焼	ナゾ+ケズリク	不明	粘土組成形か		
82	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	須恵質	丸瓦	残13.0	残4.7	1.8	赤目焼	ナゾ	不明			
83	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	須恵質	平瓦	残6.5	残12.2	2.4	赤目焼	ナゾ	不明			
84	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	土師質	平瓦	残12.2	残11.1	2.2	赤目焼	織目印キ	不明	全体に中々摩滅		
85	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	土師質	平瓦	残15.0	残14.5	2.2	赤目焼・織目印キ	織目印キ	不明	全体に摩滅		
86	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	土師質	平瓦	残7.0	残3.5	2.1	赤目焼	格子目印キ	不明	表面磨一辺へ、全体に中々摩滅		
87	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	土師質	平瓦	残5.1	残10.2	2.3	ナゾク	格子目印キ	不明	全体に摩滅		
88	西尾市	志貴野遺跡	焼出小	須恵質	平瓦	残15.0	残12.4	2.4	赤目焼・織目印キ	格子目印キ+ナゾク	不明			

第81図 古代瓦胎土分析資料⑧(1:4)



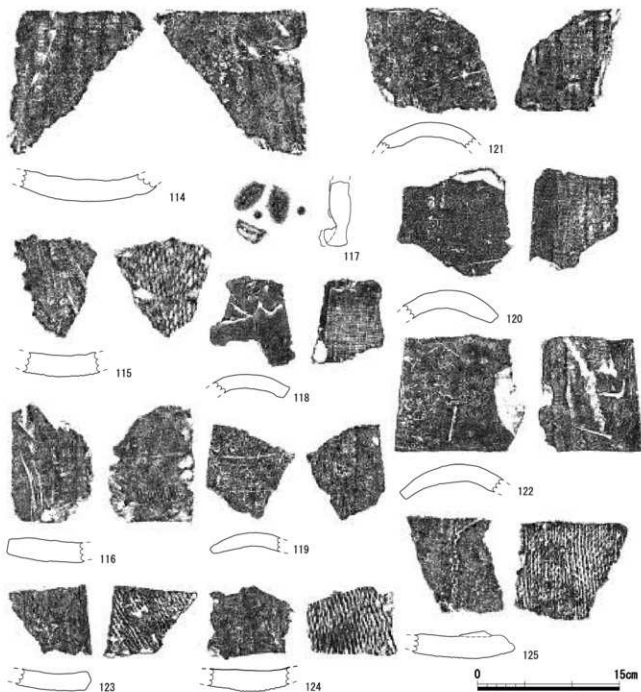
資料番号	所在地	資料出土遺跡		材質	種類	法量 (cm)			断面・装飾など			用途	備考	登録番号
		遺跡名	遺構			長さ	幅	高さ	断面	凸	凹			
89	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	土師質	斜平瓦	横6.7	横6.9	3.0	右目尻	ナゾか	不明	凹面・中平摩滅		
90	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	土師質	丸瓦	横10.6	横7.9	1.4	右目尻・横脊痕	ナゾか	不明	全体に摩滅		
91	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	築造質	丸瓦	横10.5	横7.9	1.9	右目尻	横目印き+ナゾか	不明			
92	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	土師質	丸瓦	横7.6	横4.8	1.2	右目尻・横脊痕	ナゾか	不明	全体に摩滅		
93	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	土師質	丸瓦	横5.8	横4.3	1.2	右目尻・横脊痕	ナゾか	不明	全体に摩滅		
94	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	土師質	丸瓦	横7.4	横5.7	1.2	右目尻・横脊痕	ナゾか	不明	全体に摩滅		
95	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	築造質	平瓦	横10.2	横7.7	2.3	右目尻・横脊痕	横目印き+ナゾか	不明	丸瓦か		
96	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	築造質	平瓦	横9.6	横6.1	1.7	右目尻	ナゾ	不明	凹面横脊痕か		
97	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	土師質	平瓦	横13.6	横11.7	2.3	右目尻・横脊痕	横目印き	不明	全体に中平摩滅		
98	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	築造質	平瓦	横11.1	横6.4	1.9	右目尻・横脊痕	横目印き	不明			
99	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	築造質	平瓦	横8.4	横5.4	2.2	右目尻	横目印き	不明			
100	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	築造質	平瓦	横10.2	横5.7	2.3	右目尻	ナゾ	不明			
101	鎌豆町	北辺瓦葺跡	表探	土師質	平瓦	横11.9	横14.9	2.4	ナゾ・横脊痕	横目印き	不明	全体に摩滅		

第82図 古代瓦胎土分析資料④(1:4)



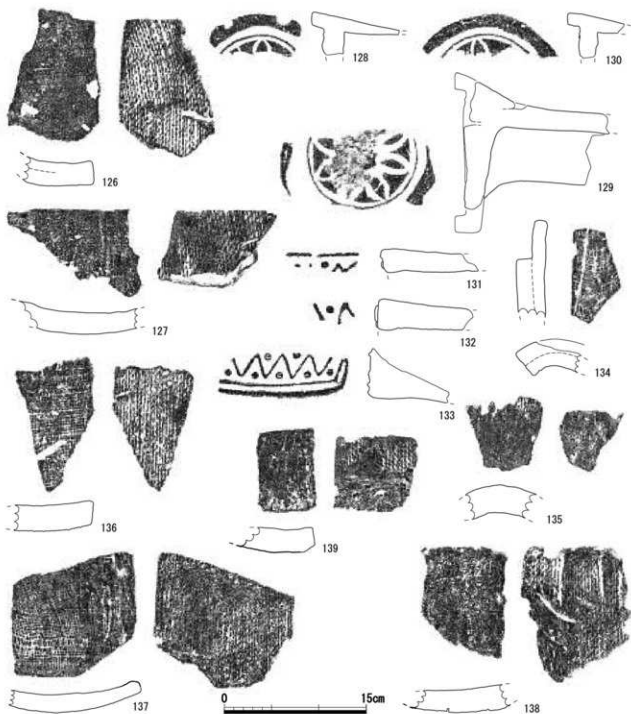
番号	所在地	資料出土遺跡		材質	種類	数量 (cm)			形状・調整方法		质地	備	考	整理番号
		遺跡名	遺構			長さ	幅	厚さ	凹	凸				
100	鶴江町	北志賀跡	溝掘	土師質	平瓦	残9.3	残9.3	2.0	布目織	ナゲ	不明	全体に磨滅		
101	鶴江町	北志賀跡	溝掘	硬灰質	平瓦	残6.3	残6.6	1.9	ナゲ	鏡目印き	不明			
104	鶴江町	北志賀跡	溝掘	硬灰質	平瓦	残11.5	残9.7	2.0	布目織	鏡目印き+ナゲ	不明	全体にやや磨滅		
105	鶴江町	北志賀跡	溝掘	土師質	平瓦	残11.2	残9.3	2.1	ナゲ	鏡目印き	不明	全体に磨滅、凸部黒く変色		
106	鶴江町	中宮堂前遺跡	溝掘	硬灰質	斜平瓦	残6.1	残10.8	残2.1	-		不明	凹部しな麗状文		
107	鶴江町	中宮堂前遺跡	溝掘	硬灰質	丸瓦	残11.3	残9.8	2.1	布目織・横帯痕	ナゲ	不明			
108	鶴江町	中宮堂前遺跡	溝掘	土師質	丸瓦	残12.2	残8.4	1.7	布目織・横帯痕	鏡目印き+ナゲ	不明			
109	鶴江町	中宮堂前遺跡	溝掘	土師質	丸瓦	残8.4	残11.8	2.6	布目織・横帯痕	ナゲ	不明			
110	鶴江町	中宮堂前遺跡	溝掘	土師質	丸瓦	残8.5	残10.4	3.7	布目織	ナゲ	不明	玉縁		
111	鶴江町	中宮堂前遺跡	溝掘	土師質	丸瓦	残11.2	残12.7	2.2	ナゲ・横帯痕	ナゲ	不明			
112	鶴江町	中宮堂前遺跡	溝掘	土師質	平瓦	残6.5	残9.9	2.0	ナゲ	鏡目印き	不明			
113	鶴江町	中宮堂前遺跡	溝掘	硬灰質	平瓦	残10.3	残12.4	2.2	布目織・横帯痕	鏡目印き+ナゲ	不明			

第83図 古代瓦胎土分析資料⑤ (1:4)



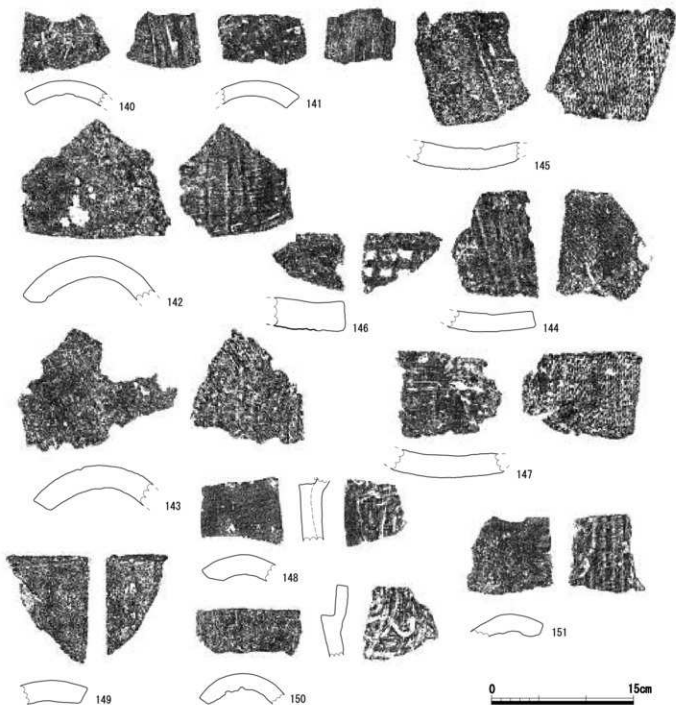
資料番号	資料出土遺跡		材質	種類	法量 (cm)			断面・装飾など		底径	備考	登録番号
	所在地	遺跡名			遺構	長さ	幅	高さ	断面			
114	鎌豆町	寺部堂跡遺跡	赤灰	土師瓦	横13.2	横14.4	2.4	布目織・縞帯織	ナゾ	不明		
115	鎌豆町	寺部堂跡遺跡	赤灰	土師瓦	横16.0	横8.2	2.2	ナゾ	縄目叩き	不明		
116	鎌豆町	寺部堂跡遺跡	赤灰	須恵瓦	横12.1	横8.3	3.2	布目織・縞帯織	縄目叩き+ナゾ	不明		
117	鎌豆町	鳥羽神社寺跡	赤灰	須恵瓦	—	—	2.3	—	—	不明		
118	鎌豆町	鳥羽神社寺跡	赤灰	須恵瓦	横9.2	横8.2	1.5	布目織	ナゾ	不明	軒丸瓦の一部か	
119	鎌豆町	鳥羽神社寺跡	赤灰	土師瓦	横8.1	横7.4	1.6	布目織	ナゾか	不明	全体に摩滅	
120	鎌豆町	鳥羽神社寺跡	赤灰	須恵瓦	横10.9	横10.5	1.6	布目織・縞帯織	縄目叩き+ナゾ	不明		
121	鎌豆町	鳥羽神社寺跡	赤灰	土師瓦	横10.2	横7.0	2.1	布目織・縞帯織	ナゾ	不明		
122	鎌豆町	鳥羽神社寺跡	赤灰	須恵瓦	横12.1	横11.1	1.9	布目織・ナゾ	ナゾ	不明		
123	鎌豆町	鳥羽神社寺跡	赤灰	須恵瓦	横7.1	横8.5	1.9	布目織	縄目叩き	不明		
124	鎌豆町	鳥羽神社寺跡	赤灰	須恵瓦	横7.0	横8.9	2.2	布目織	縄目叩き	不明		
125	鎌豆町	鳥羽神社寺跡	赤灰	土師瓦	横10.4	横10.6	2.9	布目織	縄目叩き	不明		

第84図 古代瓦胎土分析資料③(1:4)



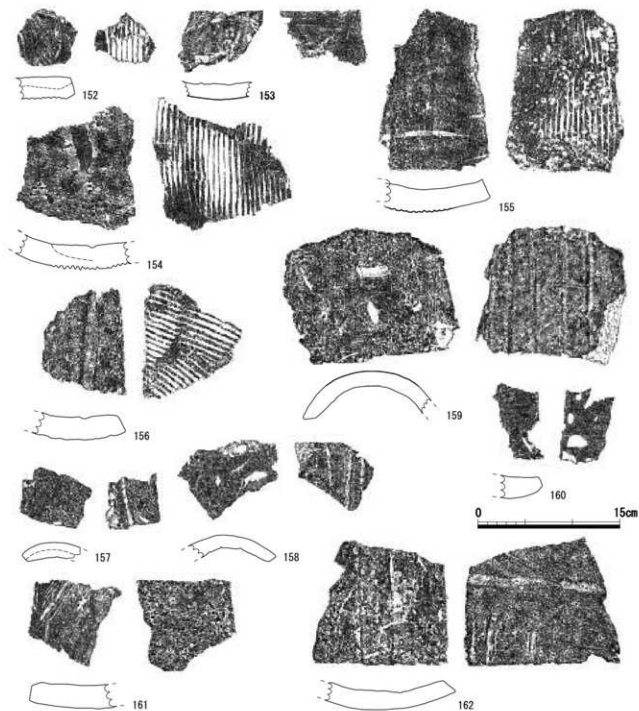
資料 番号	資料出土遺跡			材質	種類	寸法 (cm)			胎裏・胴體など		底地	備 考	登録 番号
	所在地	遺跡名	遺構			長さ	幅	高さ	胎 面	凸 面			
126	鎌豆町	鳥羽神宮中継	赤塚	土師質	平瓦	残14.4	残9.5	2.6	春日底・ナゾ	縄目付き	不明		
127	鎌豆町	鳥羽神宮中継	赤塚	鹿島質	平瓦	残8.7	残16.6	2.4	春日底・ナゾ	縄目付き	不明		
128	豊橋市	中道遺跡	SK-3	土師質	軒瓦瓦	残9.2	残6.1	2.3	ナゾ	ナゾ	不明	全体に摩滅	
129	豊橋市	中道遺跡	SK-1-9	土師質	軒瓦瓦	残16.4	残16.9	3.5	春日底	ナゾ	不明	全体に摩滅	
130	豊橋市	中道遺跡	SK-4-7	土師質	軒瓦瓦	残12.4	残2.4	2.0	ナゾ	ナゾ	不明	全体に摩滅	
131	豊橋市	中道遺跡	SK-4-7	土師質	軒平瓦	残15.4	残15.7	2.5	春日底	縄目付き	不明	全体に摩滅	
132	豊橋市	中道遺跡	SK-1-0	土師質	軒平瓦	残9.5	残15.5	3.3	春日底	縄目付き	不明	全体に摩滅	
133	豊橋市	中道遺跡	SD-6	土師質	軒平瓦	残8.9	残13.0	残5.1	—	ナゾ	不明	全体に摩滅	
134	豊橋市	中道遺跡	SD-9	土師質	瓦瓦	残16.3	残5.8	3.1	春日底	ナゾ	不明	玉縁、全体に摩滅	
135	豊橋市	中道遺跡	SD-1-0	土師質	瓦瓦	残8.3	残7.5	2.9	春日底	縄目付き+ナゾ	不明	全体に摩滅	
136	豊橋市	中道遺跡	赤土	土師質	平瓦	残13.0	残8.2	2.7	春日底	縄目付き	不明	全体に摩滅	
137	豊橋市	中道遺跡	東塚瓦庫	土師質	平瓦	残12.5	残13.9	1.9	春日底	縄目付き	不明	全体に摩滅	
138	豊橋市	中道遺跡	SK-4-7	土師質	平瓦	残13.2	残16.7	2.6	ナゾ	縄目付き	不明	全体に摩滅	
139	豊橋市	中道遺跡	SK-4-6	土師質	平瓦	残8.0	残7.8	2.4	春日底	縄目付き	不明	全体に摩滅	

第85図 古代瓦胎土分析資料⑤ (1:4)



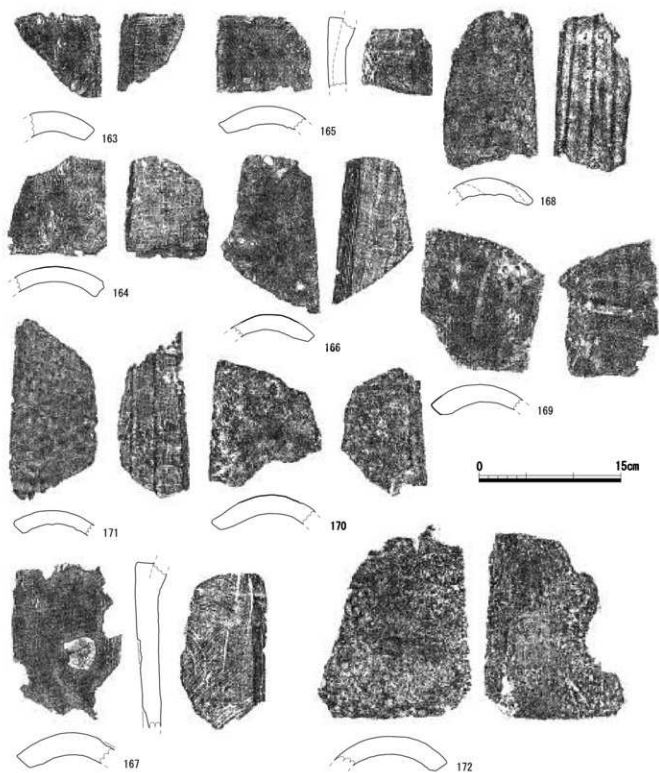
資料番号	資料出土遺跡		材質	種類	法量 (cm)			断面・調整など		原産地	備考	登録番号
	所在地	遺跡名			遺構	長さ	幅	高さ	凹面			
140	銅律町	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	丸瓦	径6.2	径6.6	1.6	布目織・縦帯瓦	ナゾ	不明	
141	銅律町	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	丸瓦	径6.3	径6.2	1.9	布目織	ナゾ	不明	
142	銅律町	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	丸瓦	径12.0	径13.9	1.8	布目織・縦帯瓦	縄目切き+ナゾ	不明	
143	銅律町	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	丸瓦	径12.5	径11.7	2.5	布目織・縦帯瓦	縄目切き+ナゾ	不明	
144	銅律町	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	平瓦	径11.1	径9.4	2.0	布目織・縦帯瓦	縄目切き+ナゾ	不明	
145	銅律町	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	平瓦	径12.0	径11.2	2.2	ナゾ	縄目切き	不明	全体に凹凸模様
146	銅律町	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	平瓦	径6.2	径7.8	3.1	布目織	縄目切き	不明	
147	銅律町	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	平瓦	径6.2	径12.0	2.4	布目織・ナゾ	縄目切き	不明	
148	安城市	弥勒寺跡	表瓦	原産瓦	丸瓦	径6.6	径7.8	2.2	布目織	縄目切き+ナゾ	不明	玉縁
149	安城市	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	丸瓦	径11.2	径7.1	2.2	布目織	ナゾ	不明	全体に模様
150	安城市	弥勒寺跡	表瓦	土質瓦	丸瓦	径7.7	径6.9	1.8	布目織・縦帯瓦	ナゾ	不明	玉縁。全体に凹凸模様
151	安城市	弥勒寺跡	表瓦	原産瓦	丸瓦	径6.3	径7.7	1.9	ナゾ	ナゾ	不明	全体に模様

第86図 古代瓦胎土分析資料⑤(1:4)



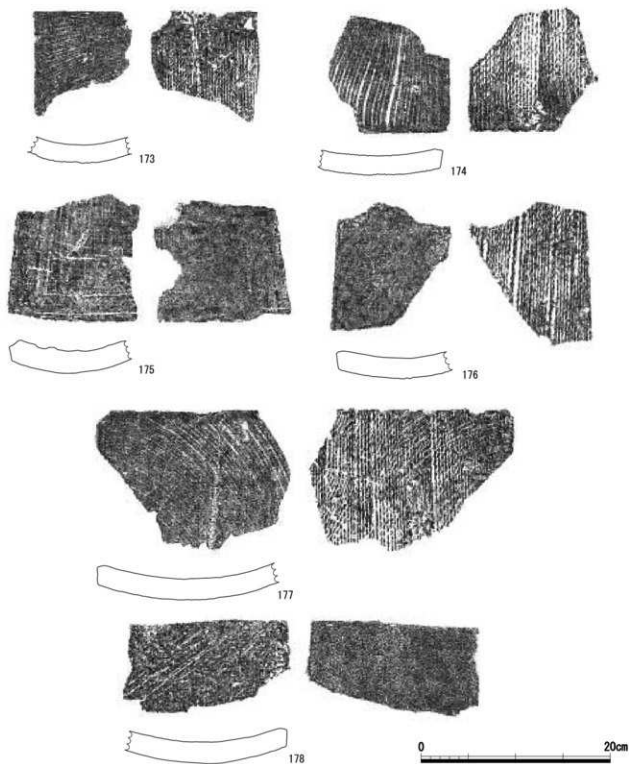
資料 番号	資料出土遺跡			材質	種類	出處 (m)			胎質・調整など		底質	備 考	資料 番号
	所在地	層 跡 名	層 積			長さ	幅	重量	凹 面	凸 面			
152	安城市	別荘遺跡	表層	灰土質	平瓦	横6.1	横5.8	2.4	布目織	平行明きか	不明		
153	安城市	別荘遺跡	表層	灰土質	平瓦	横5.9	横7.8	2.3	布目織・籠骨織	ナゾ	不明		
154	安城市	別荘遺跡	表層	灰土質	平瓦	横13.5	横12.3	2.8	布目織	平行明き	不明		
155	安城市	別荘遺跡	表層	灰土質	平瓦	横17.5	横11.2	2.7	布目織・ナゾ	平行明き・ナゾか	不明		
156	安城市	別荘遺跡	表層	土質質	平瓦	横12.0	横9.5	2.4	布目織・籠骨織	平行明き	不明	全体に中々線織	
157	安城市	大久保遺跡	表層	土質質	瓦	横4.8	横6.1	1.6	布目織	ナゾか	不明	全体に中々線織	
158	安城市	大久保遺跡	表層	灰土質	瓦	横7.5	横9.3	1.8	布目織・籠骨織	ナゾ	不明		
159	安城市	大久保遺跡	表層	土質質	瓦	横14.0	横13.5	1.9	籠骨織	ナゾ	不明		
160	安城市	大久保遺跡	表層	灰土質	平瓦	横8.5	横4.6	2.4	布目織・ナゾ	ナゾ	不明		
161	安城市	大久保遺跡	表層	土質質	平瓦	横10.0	横9.2	2.5	布目織・ナゾ	ナゾか	不明	全体に線織	
162	安城市	大久保遺跡	表層	土質質	平瓦	横13.5	横13.8	2.1	布目織・籠骨織	ナゾか	不明	全体に線織	

第 87 図 古代瓦胎土分析資料⑥ (1:4)



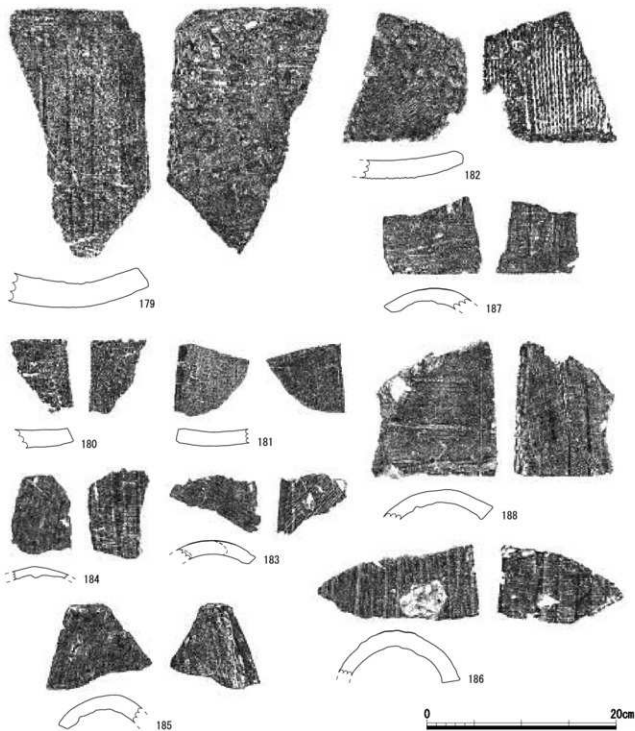
資料 番号	資料出土遺跡			材質	種類	出處 (cm)			断面・調整など		底面	装	考	登録 番号
	所在地	遺跡名	層			長さ	幅	高さ	口面	凸面				
163	安城市	寺飯塚寺跡	表段小	磁器質	丸瓦	横29.0	横7.1	2.3	布目肌	ナゾ	不明			
164	安城市	寺飯塚寺跡	B A 2 A or E	磁器質	丸瓦	横10.7	横9.4	1.8	布目肌	ナゾ	不明			
165	安城市	寺飯塚寺跡	B A 2 A or E	土師質	丸瓦	横8.2	横9.3	1.9	布目肌	ナゾか	不明	瓦縁、全体に磨滅		
166	安城市	寺飯塚寺跡	B A 2 A or E	磁器質	丸瓦	横11.0	横8.9	1.7	布目肌	ナゾ	不明			
167	安城市	寺飯塚寺跡	B A 2 A or E	土師質	丸瓦	横17.0	横9.1	2.2	布目肌	ナゾ	不明	瓦縁、断面質少		
168	安城市	寺飯塚寺跡	B A 2 A or E	土師質	丸瓦	横16.5	横9.5	1.8	布目肌・横脊面	ナゾか	不明			
169	安城市	寺飯塚寺跡	B A 2 A or E	土師質	丸瓦	横14.5	横11.0	2.0	布目肌	横目向き+ナゾか	不明	凸出摩滅		
170	安城市	寺飯塚寺跡	B A 2 A or E	土師質	丸瓦	横12.5	横9.7	2.2	布目肌	ナゾか	不明	全体に磨滅		
171	安城市	寺飯塚寺跡	B A 2 A or E	土師質	丸瓦	横19.0	横6.5	1.5	布目肌・横脊面	ナゾ	不明	全体に磨滅		
172	安城市	寺飯塚寺跡	B A 2 A or E	土師質	丸瓦	横19.0	横11.9	2.0	布目肌	ナゾか	不明	全体に磨滅		

第88図 古代瓦胎土分析資料②(1:4)



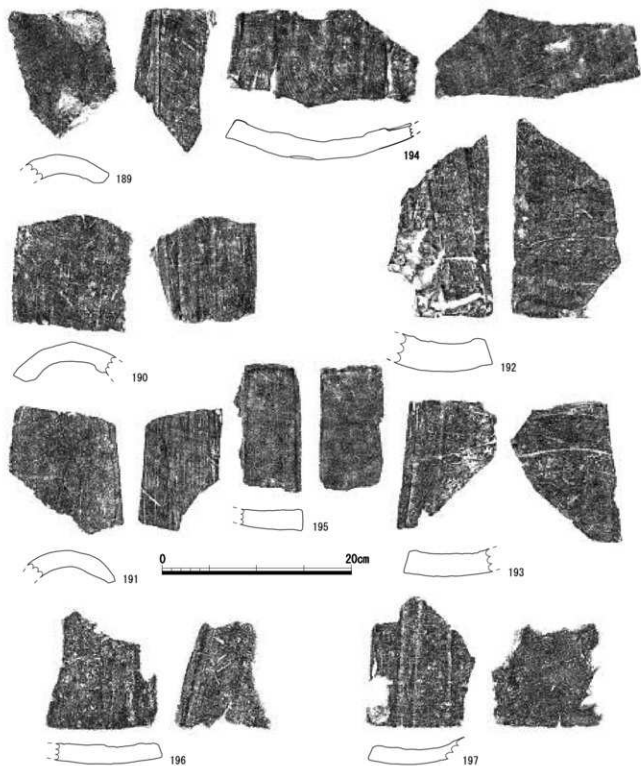
資料 番号	資料出土遺跡			材質	種類	胎厚 (mm)		胎底・調整など			底面	備考	出所 番号
	所在地	遺跡名	遺跡			高さ	幅	高さ	用土	凸面			
173	安城市	寺領塚古墳	表段小	灰土質	平瓦	横11.9	横11.1	2.0	布目織	織目印跡	不明		
174	安城市	寺領塚古墳	表段小	土質質	平瓦	横13.1	横12.7	2.1	布目織	織目印跡	不明		
175	安城市	寺領塚古墳	表段小	灰土質	平瓦	横13.0	横12.9	2.5	布目織・横骨織	織目印跡+ナゾ小	不明		
176	安城市	寺領塚古墳	表段小	土質質	平瓦	横13.0	横11.7	2.2	布目織	織目印跡	不明		
177	安城市	寺領塚古墳	目A2E	灰土質	平瓦	横13.0	横19.1	2.3	布目織	織目印跡	不明		
178	安城市	寺領塚古墳	目A2E	土質質	平瓦	横9.2	横16.9	2.3	布目織	ナゾ小	不明	凸面中央部織	

第 89 図 古代瓦胎土分析資料⑧ (1:4)



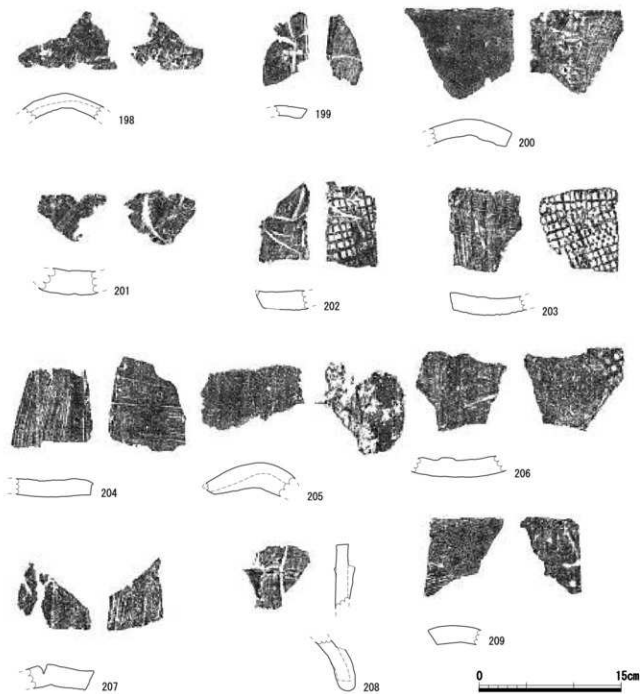
資料 番号	資料出土遺跡			材質	種類	法量 (cm)			断面・調整など		原料	備考	登録 番号
	所在地	遺跡名	遺構			長さ	幅	高さ	凹面	凸面			
179	安城市	寺福庵中継	B A 2 E	土師質	平瓦	横26.0	横14.6	3.0	布目肌・横滑肌	ナゾ	不明		
180	安城市	寺福庵中継	B A 2 G	築山質	平瓦	横7.9	横6.4	1.9	布目肌・ナゾカ	ナゾ	不明		
181	安城市	寺福庵中継	B A 2 G	築山質	平瓦	横7.2	横7.6	1.6	布目肌	ナゾ	不明		
182	安城市	寺福庵中継	B A 2 F	土師質	平瓦	横13.6	横11.4	2.1	布目肌	縦目付き	不明	全体に磨滅	
183	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-32	築山質	丸瓦	横6.5	横6.4	1.5	ナゾ	ナゾ	不明		
184	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-32	築山質	丸瓦	横8.4	横8.0	1.2	布目肌・横滑肌	ナゾ	不明	凸面や凹面滅	
185	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-32	築山質	丸瓦	横9.3	横9.0	1.7	布目肌・横滑肌	ナゾカ	不明		
186	豊田市	神明瓦葺跡	表探小	土師質	丸瓦	横7.5	横12.8	1.8	布目肌・横滑肌	ナゾ	不明	凸面や凹面滅。凹面磨い	
187	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-32	土師質	丸瓦	横8.1	横9.2	1.7	布目肌・横滑肌	ナゾ	不明	凸面磨滅	
188	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-32	土師質	丸瓦	横14.3	横11.6	1.8	布目肌・横滑肌	ナゾカ	不明	凸面や凹面い	

第90図 古代瓦胎土分析資料④(1:4)



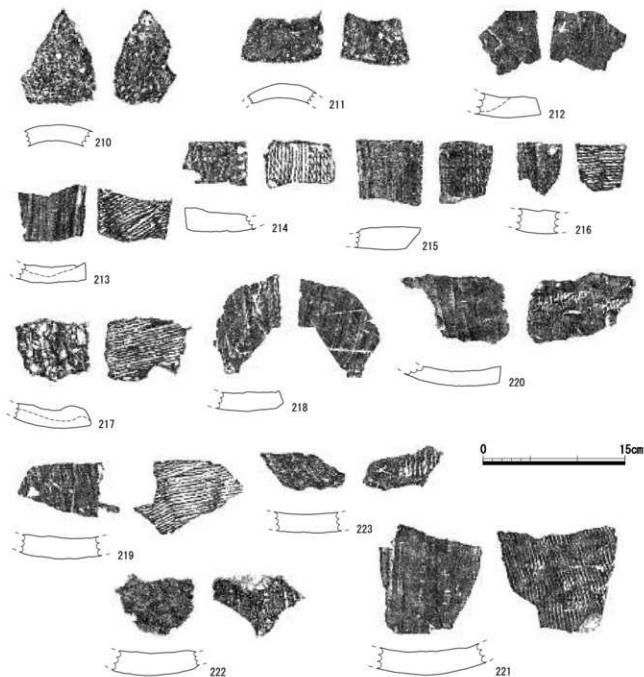
資料番号	資料出土遺跡			材質	種類	寸法 (cm)			胎施・面化粧		原産地	備考	登録番号
	所在地	遺跡名	遺構			長さ	幅	高さ	内面	外面			
189	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-32	土師質	丸瓦	径11.0	径6.8	2.2	春日飯・横骨飯	ナツシ	不明	粘土組成が小	
189	豊田市	神明瓦葺跡	遺構小	土師質	丸瓦	径12.0	径6.8	2.2	春日飯・横骨飯	ナツシ	不明		
191	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-32	土師質	丸瓦	径11.8	径6.4	1.9	春日飯	ナツシ	不明	凸面の中半部破	
192	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-29	土師質	平瓦	径20.3	径10.4	3.3	春日飯・横骨飯	ナツシ	不明	全体に中半部破	
193	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-29	土師質	平瓦	径14.9	径9.4	1.5	春日飯・横骨飯	ナツシ	不明	全体に中半部破	
194	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-29	土師質	平瓦	径8.1	径19.8	1.5	春日飯・横骨飯	ナツシ	不明		
195	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-29	土師質	平瓦	径12.7	径11.7	2.3	春日飯・横骨飯	ナツシ	不明		
196	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-29	土師質	平瓦	径18.0	径11.3	2.0	春日飯・横骨飯	ナツシ	不明	全体に半部破	
197	豊田市	神明瓦葺跡	K 3-29	土師質	平瓦	径15.7	径9.9	1.8	春日飯・横骨飯	ナツシ	不明	全体に半部破	

第91図 古代瓦胎土分析資料⑤ (1:4)



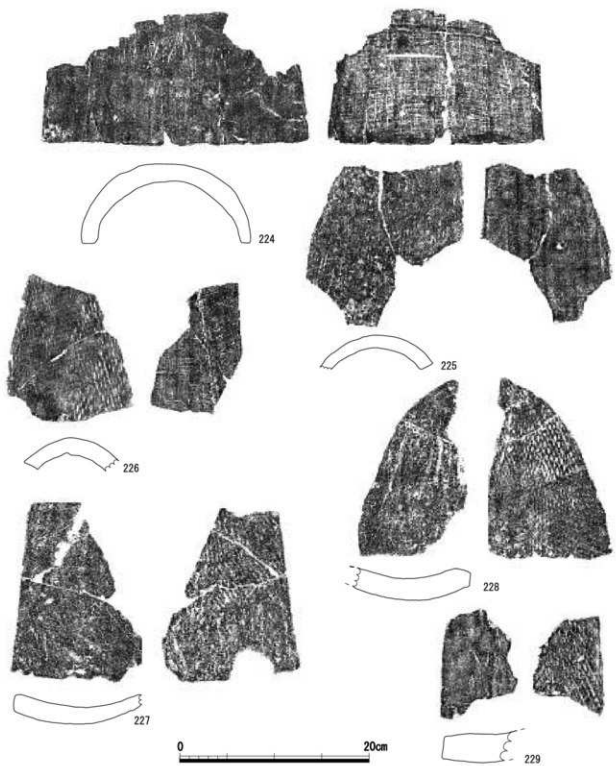
資料 番号	資料出土遺跡		材質	種類	法量 (cm)			胎素・調整など		産地	備考	登録 番号
	遺跡名	遺構			長さ	幅	高さ	凹面	凸面			
198	豊田市 神木殿寺跡	表探	灰胎質	丸瓦	径6.9	径6.6	1.7	春日底	ナゾ	不明	軒瓦瓦の一片か	
199	豊田市 神木殿寺跡	表探	灰胎質	丸瓦	径6.2	径6.3	1.2	春日底	ナゾか	不明	凸面や凹面減	
200	豊田市 神木殿寺跡	表探	灰胎質	丸瓦	径6.5	径6.7	1.9	春日底	ナゾ	不明	粘土組成部か	
201	豊田市 神木殿寺跡	表探	土胎質	平瓦	径5.5	径6.3	2.5	春日底・軽骨板	ナゾか	不明	全体に摩滅	
202	豊田市 神木殿寺跡	表探	灰胎質	平瓦	径6.8	径6.9	2.1	春日底・軽骨板か	膝子目印き	不明		
203	豊田市 神木殿寺跡	表探	灰胎質	平瓦	径6.7	径7.7	1.9	春日底・軽骨板	膝子目印き	不明		
204	豊田市 神木殿寺跡	表探	土胎質	平瓦	径6.8	径6.0	1.8	春日底+ナゾ	ナゾ	不明		
205	豊田市 神宇陀文藏寺跡	表探	土胎質	丸瓦	径6.2	径6.4	2.6	ナゾか	ナゾ	不明	全体に摩滅	
206	豊田市 神宇陀文藏寺跡	表探	土胎質	平瓦	径7.8	径10.0	2.0	春日底・軽骨板	膝子目印き+ナゾか	不明		
207	豊田市 神宇陀文藏寺跡	表探	灰胎質	平瓦	径6.2	径7.1	2.3	春日底	ナゾか	不明	古代瓦か	
208	三好町 下り松瓦塚跡	表探	灰胎質	軒瓦	径6.7	径6.4	2.0	春日底	ナゾか	不明		
209	三好町 下り松瓦塚跡	表探	灰胎質	丸瓦	径6.1	径5.5	1.9	春日底	縄目印き+ナゾ	不明	粘土組成部か	

第92図 古代瓦胎土分析資料 (1:4)



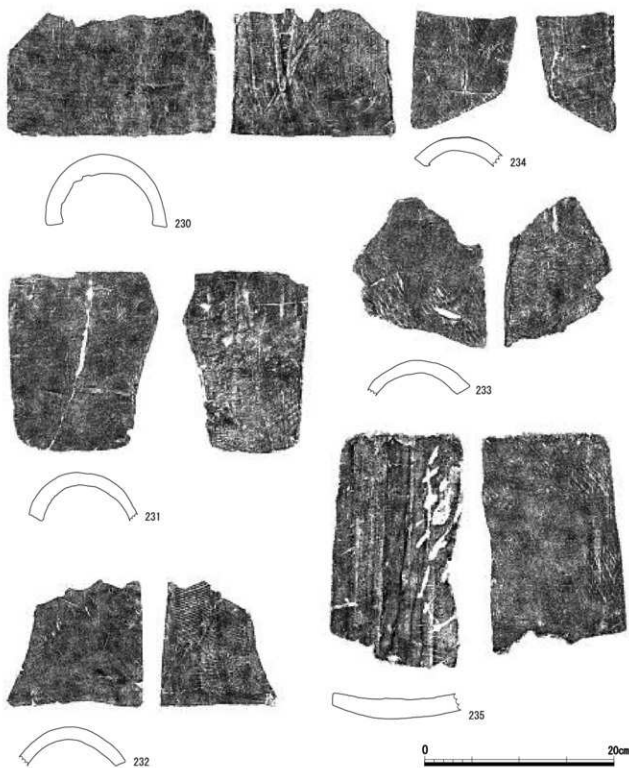
資料 番号	資料出土遺跡		材質	形状	出来 (cm)			胎質・調整など		産地	備考	登録 番号
	所在地	遺跡名			遺構	長さ	幅	高さ	内面			
210	三好町	下中松瓦窯跡	表探	土製質 丸瓦	残10.0	残7.2	1.8	ナゾク	ナゾク	不明	全体に磨滅	
211	三好町	下中松瓦窯跡	表探	土製質 丸瓦	残4.6	残7.3	1.4	ナゾク	ナゾク	不明	全体に磨滅	
212	三好町	下中松瓦窯跡	表探	灰胎質 平瓦	残6.1	残6.9	2.2	布目肌	ナゾ	不明		
213	三好町	下中松瓦窯跡	表探	灰胎質 平瓦	残4.9	残7.4	1.8	布目肌・横脊肌	縦目引き	不明		
214	三好町	下中松瓦窯跡	表探	灰胎質 平瓦	残4.8	残7.3	2.4	布目肌・横脊肌	縦目引き	不明		
215	三好町	下中松瓦窯跡	表探	灰胎質 平瓦	残6.1	残5.5	2.4	布目肌・横脊肌	縦目引き+ナゾク	不明		
216	三好町	下中松瓦窯跡	表探	灰胎質 平瓦	残4.9	残4.5	2.5	布目肌・横脊肌	縦目引き	不明		
217	三好町	下中松瓦窯跡	表探	土製質 平瓦	残6.5	残8.2	2.3	ナゾク	縦目引き	不明	全体に磨滅	
218	三好町	下中松瓦窯跡	表探	灰胎質 平瓦	残6.1	残7.2	2.1	布目肌・横脊肌	ナゾ	不明		
219	三好町	下中松瓦窯跡	表探	灰胎質 平瓦	残6.6	残8.7	2.3	布目肌・横脊肌	縦目引き	不明		
220	小阪井町	飯王寺跡	表探	灰胎質 平瓦	残6.7	残10.1	1.7	布目肌・横脊肌	縦目引き+ナゾ	不明		
221	小阪井町	飯王寺跡	表探	灰胎質 平瓦	残10.5	残11.6	2.5	ナゾ・横脊肌	縦目引き	不明	全体に磨滅	
222	小阪井町	飯王寺跡	表探	土製質 平瓦	残5.7	残8.3	2.4	ナゾク	縦目引き	不明	全体に磨滅	
223	小阪井町	飯王寺跡	表探	灰胎質 平瓦	残5.7	残6.9	2.0	布目肌	縦目引き	不明		

第93図 古代瓦胎土分析資料 (1:4)



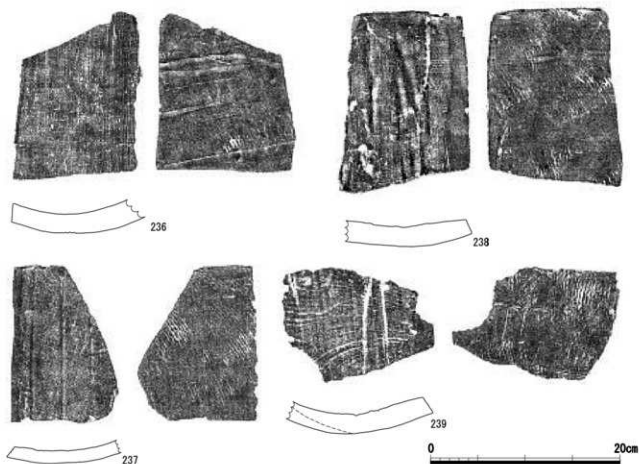
資料番号	資料出土遺跡			材質	種類	法量 (cm)			輪裏・脚裏など		透地	備考	登録番号
	所在地	遺跡名	遺構			長さ	幅	高さ	凹面	凸面			
224	豊川市	山ノ入遺跡	表塚	灰唐瓦	横14.1	17.8	2.2	布目織	ナゾ	不明			
225	豊川市	山ノ入遺跡	表塚	灰唐瓦	横16.8	横11.9	1.5	布目織	罫目印き+ナゾ	不明		全体に厚織	
226	豊川市	山ノ入遺跡	表塚	灰唐瓦	横13.9	横10.0	1.9	布目織	罫目印き+ナゾ	不明			
227	豊川市	山ノ入遺跡	表塚	灰唐瓦	横18.8	横13.6	3.0	ナゾ小	罫目印き+ナゾ	不明			
228	豊川市	山ノ入遺跡	表塚	土師瓦	横18.6	横12.4	2.4	ナゾ小	罫目印き	不明		全体に布目織	
229	豊川市	山ノ入遺跡	表塚	土師瓦	横19.3	横6.6	3.0	布目織	罫目印き	不明			

第94図 古代瓦胎土分析資料 (1:4)



資料番号	資料出土遺跡			材質	種類	寸法 (cm)			胎底・底面など		底面	備考	登録番号	
	所在地	遺跡名	遺構			長さ	幅	高さ	凹部	凸部				
230	豊川市	三河国府跡	S-X001	硬磁質	丸瓦	残13.1	12.9	2.1	布目肌		縄目印キ+ナデ	不明		
231	豊川市	三河国府跡	S-X001	土師質	丸瓦	残18.0	残11.4	1.6	布目肌		ナデ	不明		
232	豊川市	三河国府跡	S-X003	硬磁質	丸瓦	残13.3	残11.3	1.5	布目肌		縄目印キ+ナデ	不明		
233	豊川市	三河国府跡	S-X201	土師質	丸瓦	残14.3	残10.8	1.7	布目肌		縄目印キ+ナデ	不明		
234	豊川市	三河国府跡	S-X201	硬磁質	丸瓦	残11.3	残8.3	1.6	布目肌		縄目印キ+ナデ	不明		
235	豊川市	三河国府跡	S-X001	硬磁質	平瓦	残13.0	残13.0	2.1	布目肌・縦骨肌		縄目印キ+ナデ	不明		

第95図 古代瓦胎土分析資料（1：4）



資料番号	発掘出土遺跡			材質	種類	法量 (cm)			調整・調整など		産地	備考	詳細画像
	所在地	遺跡名	遺構			長さ	幅	高さ	別面	凸面			
236	豊川市	三河国府跡	S.X.001	灰黒質	平瓦	残16.5	残14.1	2.4	布目織	織目向き+ナデ	不明		
237	豊川市	三河国府跡	S.X.001	灰黒質	平瓦	残16.4	残12.1	1.4	布目織・縦帯織	織目向き+ナデ	不明		
238	豊川市	三河国府跡	S.X.001	土質質	平瓦	残18.7	残13.5	2.4	布目織・縦帯織	織目向き+ナデ	不明		
239	豊川市	三河国府跡	S.X.01	灰黒質	平瓦	残11.7	残15.4	2.1	布目織・縦帯織	織目向き+ナデ	不明		

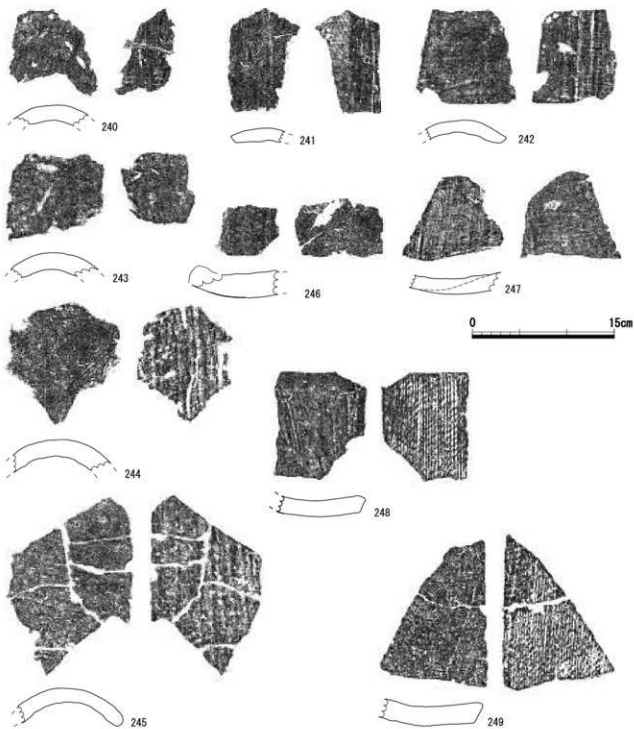
第96図 古代瓦胎土分析資料 (1:4)

6. おわりに

胎土分析の結果は第2節に示した。これを受けて細かな分析を行わなければならないが、時間的な制約があって結果を紹介したにすぎない。発掘調査が行われた寺院跡や瓦窯跡は少なく、今回の分析資料の大半は表採資料であり正確な分析結果が出ていない可能性もある。誤差はあるかもしれないが、詳細な分析についてはこれからの課題とした。

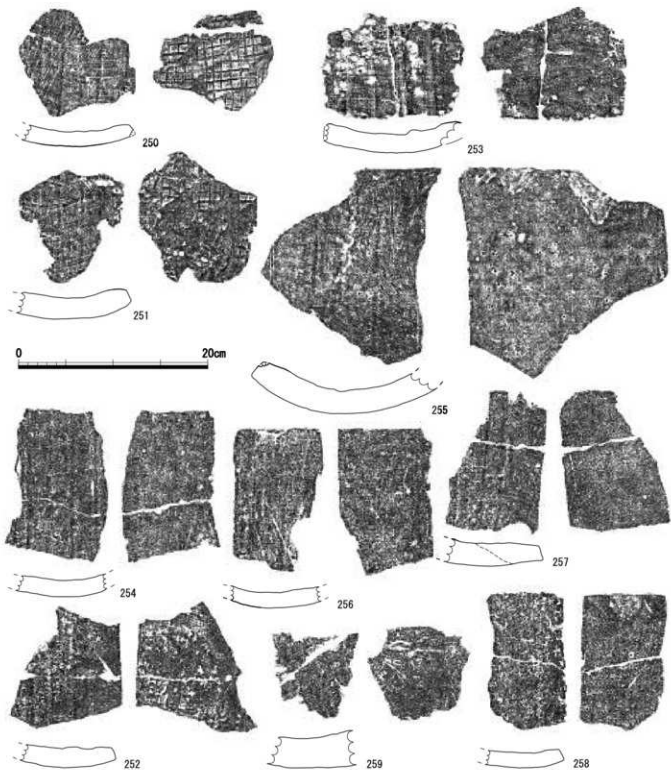
今後は年代を知ることのできる軒丸瓦と軒平瓦を分析資料とするなり、同時期と思われる寺院跡出土瓦を比較したり、凸面の調整毎に瓦の比較をしたり、今回加えることの出来なかった寺院跡や瓦窯跡との比較をどのようにするのかなど、まだまだ問題点は多く残されている。産地をより明確にさせて、生産と供給の関係を明らかにしていく必要がある。これからの課題として、研究を続けていきたい。

最後に、今回の分析に際し同行していただいた天野氏をはじめ、快く資料を提供していただいた各資料館・博物館のすべての方々へ感謝の意を表します。(小嶋廣也)



資料番号	資料出土遺跡		材質	形状	寸法 (cm)			胎裏・調整など		高度	備考	登録番号
	所在地	遺跡名			遺構	長さ	幅	高さ	目 肌			
240	西尾市	古新田遺跡	横出	灰赤質 丸瓦	径7.2	径7.9	1.7	布目肌+ナゾ	ナゾ	不明		B-369
241	西尾市	古新田遺跡	張り下げ	灰赤質 丸瓦	径10.6	径10.7	1.5	布目肌・縦骨肌	ナゾ	不明		B-370
242	西尾市	古新田遺跡	丁丁一丁	土師質 丸瓦	径10.0	径8.6	1.5	布目肌・縦骨肌	ナゾ	不明	全体に中々層減	B-371
243	西尾市	古新田遺跡	瓦口H	土師質 丸瓦	径7.7	径8.2	2.0	ナゾ	ナゾ	不明	全体に中々層減	B-372
244	西尾市	古新田遺跡	横出	土師質 丸瓦	径12.1	径10.4	2.1	布目肌・縦骨肌	ナゾ	不明	全体に中々層減	B-373
245	西尾市	古新田遺跡	横出	土師質 丸瓦	径11.2	径11.2	1.7	布目肌・縦骨肌	ナゾ	不明	全体に中々層減	B-374
246	西尾市	古新田遺跡	北トレンテ	灰赤質 平瓦	径10.8	径8.1	2.0	布目肌・縦骨肌	ナゾ	不明	全体に中々層減	B-375
247	西尾市	古新田遺跡	横出	灰赤質 平瓦	径9.0	径8.1	1.8	布目肌・縦骨肌	ナゾ	不明		B-376
248	西尾市	古新田遺跡	横出	灰赤質 平瓦	径11.3	径8.0	1.8	布目肌+ナゾ	横目叩き	不明	全体に中々層減	B-377
249	西尾市	古新田遺跡	横出	土師質 平瓦	径10.8	径10.4	2.1	布目肌	横目叩き	不明	全体に中々層減	B-378

第97図 古代瓦胎土分析資料・(1:4)



資料 番号	資料出土遺跡		材質	種類	出葉 (cm)			輪葉・胴部など		底径	備	考	登録 番号
	所在地	遺跡名			遺構	長さ	幅	高さ	口面				
250	西尾市	吉野田遺跡	線出	土師質 平瓦	横10.4	横10.7	1.7	春日瓦・籠骨瓦	獅子目印キ+ナゾカ	不明	全体に摩滅		E-379
251	西尾市	吉野田遺跡	S D29	土師質 平瓦	横13.2	横11.7	2.4	春日瓦	獅子目印キ+ナゾカ	不明	全体に摩滅		E-380
252	西尾市	吉野田遺跡	表土12号	土師質 平瓦	横12.5	横10.1	2.1	籠骨瓦	ナゾカ	不明	全体に摩滅		E-381
253	西尾市	吉野田遺跡	S E03	土師質 平瓦	横11.9	横12.5	2.0	春日瓦・籠骨瓦	ナゾカ	不明	全体に摩滅		E-382
254	西尾市	吉野田遺跡	S E03	土師質 平瓦	横15.9	横9.6	1.7	春日瓦・籠骨瓦	ナゾカ	不明	全体に摩滅		E-383
255	西尾市	吉野田遺跡	S E03	土師質 平瓦	横20.4	横19.4	2.4	籠骨瓦	ナゾカ	不明	全体に摩滅		E-384
256	西尾市	吉野田遺跡	線出	土師質 平瓦	横15.5	横9.6	1.9	春日瓦・籠骨瓦	ナゾカ	不明	全体に摩滅、粘土粒感付		E-385
257	西尾市	吉野田遺跡	S E03	土師質 平瓦	横15.1	横10.2	2.5	春日瓦・籠骨瓦	ナゾカ	不明	全体に摩滅、掻付着		E-386
258	西尾市	吉野田遺跡	線出	土師質 平瓦	横13.7	横9.3	1.6	春日瓦・籠骨瓦	ナゾカ	不明	全体に摩滅		E-387
259	西尾市	吉野田遺跡	S E03	土師質 平瓦	横10.0	横9.4	2.4	ナゾカ	ナゾカ	不明	全体に摩滅		E-388

第98図 古代瓦胎土分析資料 (1:4)

註

- 1) 本来西尾市志貴野町は旧幡豆郡といわれている。しかし、旧幡豆郡とする根拠は明らかにはされていない。志貴野町の北側にある矢作川が区画の根拠になっているように思われるが、これは江戸時代初期に開削された新しい川であり、集落や寺院があった古代には対岸の安城市から延びる碧海台地と地続きとなっていた。この点から、旧幡豆郡ではなく旧碧海郡と考える方が自然ではないかと思ひ、志貴野遺跡が所在する志貴野町は旧碧海郡に属すると考えている。なお、郡の境界は八ツ面山と推定しておきたい。
- 2) 1に同じ
- 3) 1に同じ
- 4) 1に同じ

参考文献

- 稲垣晋也他 『北野庵寺』 岡崎市教育委員会 1991
- 梶山 勝 「西三河の古代寺院—北野庵寺系軒丸瓦を中心として—」 『愛知県史研究 創刊号』 「愛知県史研究」編集委員会・愛知県総務部県史編さん室 1997
- 斎藤嘉彦他 『真福寺東谷遺跡』 岡崎市教育委員会 1982
- 斎藤嘉彦 『山ノ入遺跡発掘調査報告書』 豊川市教育委員会 1985
- 前田清彦 「三河の古代寺院と瓦葺」 『第9回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会 古代仏教東へ—寺と窟— 1、寺院編』 東海埋蔵文化財研究会実行委員会 1992
- 松井直樹 『志貴野遺跡』 西尾市教育委員会 1990
- 贊 元洋他 『市道遺跡(Ⅰ)・(Ⅱ)・(Ⅲ)』 豊橋市教育委員会・赤呂地区遺跡調査会 1996・1997・1998
- 豊田市郡土史研究会 『豊田市埋蔵文化財調査集報 第六集 寺院址』 豊田市郡土資料館 1978
- 『安城市史 本文編』 安城市史編さん委員会 1971
- 『吉良町史 原始・古代・中世前期』 吉良町史編さん委員会 1996
- 『猿投町誌』 猿投町誌編纂委員会 1968
- 『豊田市史 一 自然・原始・古代・中世』 豊田市教育委員会・豊田市史編さん専門委員会 1976
- 『西尾市史 二 古代・中世・近世上』 西尾市史編纂委員会 1974

第2節 X線回折試験及び化学分析

(株) 第四紀 地質研究所 井上 巖

1 実験条件

1-1 試料

分析に供した試料は第2～4表の胎土性状表に示す通りである。X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020 X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°

計数時間: 0.5秒。

1-3 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15kV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200倍、分析有効時間: 100秒、分析指定元素10元素で行った。

2 X線回折試験結果の取扱い

実験結果は第2～4表の胎土性状表に示す通りである。各表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示しており、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

2-1 組成分類

1) Mont-Mica-Hb三角ダイヤグラム

第99図に示すように三角ダイヤグラムを1～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。Mont、Mica、Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいい、

別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント(%)で表示する。モンモリロナイトはMont/Mont/Mica+Hb*100でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。三角ダイヤグラム内の1~4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第99図に示す通りである。

2) Mont-Ch, Mica-Hb 菱形ダイヤグラム

第100図に示すように菱形ダイヤグラムを1~19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)、緑泥石(Ch)の内、

- a) 3成分以上含まれない、b) Mont, Chの2成分が含まれない、
- c) Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイヤグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch, Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch*100と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。菱形ダイヤグラム内にある1~7はMont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺Mont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第100図に示すとおりである。

3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法(10元素全体で100%になる)で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO₂-Al₂O₃図、Fe₂O₃-MgO図、K₂O-CaO図、TiO₂-MnO図の各図を作成した。これらの図をもとに、瓦類を元素の面から分類した。

3 X線回折試験結果

3-1 タイプ分類

第2~4表の胎土性状表には古新田遺跡および周辺地域の寺院跡、瓦窯跡より出土した瓦のX線回折試験結果が記載してある。各図は総合図、丸瓦図、平瓦図、軒丸瓦・軒平瓦図を1組として作成してある。

Aタイプ：Hb 1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。

Bタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Cタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

Dタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。組成的にはBタイプと類似するが

検出強度が異なる。

Eタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。組成的にはCタイプと類似するが検出強度が異なる。

Fタイプ：Mica, Chの2成分を含み、Mont, Hbの2成分に欠ける。

Gタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Chの3成分に欠ける。

Hタイプ：Mont, Micaの2成分を含み、Hb, Chの2成分に欠ける。

Iタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分に欠ける。

高温で焼成されているため、鉱物は分解してガラスに変質したもので、4成分は検出されない。

分析した瓦は低温で焼成されたものから高温で焼成されたものと焼成領域は広い。Iタイプは高温で焼成されているため鉱物がガラスに変質したもので、全体の約46%を占める。次いで、雲母類が検出されるGタイプが30%を占め、Cタイプは9%を占め、この3試料で85%を占める。A、B、D、E、F、Hの6タイプで全体の約16%を占める。

3-2 石英(Qt) - 斜長石(P1)の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を製作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るといったことは個々の集団が持つ土器製作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第103・107・111・115図のQt - P1図に示すように、古新田遺跡より出土した瓦類と周辺寺院跡より出土した瓦類はQt(石英)の強度が小さい領域から大きい領域にかけてQt:小、Qt:中、Qt:大、P1の強度が低い領域から高い領域にかけて焼成温度の低いP1:高、焼成温度の高いP1:低に分類される。

Qt:小・P1:高 - Qtが2000~3200、P1が200~550の領域に分布する。

市道遺跡と伊保白鳳寺跡、寺領廃寺跡の瓦類が主体となる。

Qt:中・P1:高 - Qtが3100~5200、P1が200~400の領域に分布する。

寺領廃寺跡、真福寺東谷遺跡、牛寺廃寺跡の瓦類が主体となる。

Qt:小・P1:低 - Qtが800~2600、P1が50~200の領域に分布する。

北泊瓦窯跡、鳥羽神宮寺跡、別郷廃寺跡、志貴野遺跡、三河国府跡の瓦が主体となる。

Qt:中・P1:低 - Qtが2500~4400、P1が50~200の領域に分布する。

北野廃寺跡、神明瓦窯跡、鳥羽神宮寺跡、牛寺廃寺跡、別郷廃寺跡、三河国府跡、古新田遺跡の瓦が主体となる。

Qt:大・P1:低 - Qtが3600~6000、P1が50~200の領域に分布する。

下り松瓦窯跡の瓦が主体となる。

その他:古新田遺跡-5、山ノ入遺跡-4はP1が高、弥勒寺跡-7、丸山廃寺跡-4、寺部堂前

遺跡-5はQtzが大で異質である。

4 化学分析結果

第5～7表の化学分析表に示すように、古新田遺跡および周辺地域の寺院跡、瓦窯跡より出土した瓦を化学分析した。分析結果に基づいて第104・108・112・116図のSiO₂-Al₂O₃図、第105・109・113・117図のFe₂O₃-Na₂O図、第106・110・114・118図のK₂O-CaO図を作成した。各図は総合図、丸瓦図、平瓦図、軒丸瓦・軒平瓦図を1組として作成してある。

4-1 SiO₂-Al₂O₃の相関について

第104・108・112・116図のSiO₂-Al₂O₃図に示すように、古新田遺跡および周辺地域の寺院跡、瓦窯跡より出土した瓦はSiO₂が低い領域から高い領域に向かって、I～Vタイプの5タイプに分類された。

Iタイプ：SiO₂が43～56%、Al₂O₃が28～40%の領域に分布する。

山ノ入遺跡、鳥羽神宮寺跡、伊保白鳳寺跡、北迫瓦窯跡、古新田遺跡の瓦が共存する。

IIタイプ：SiO₂が53～60%、Al₂O₃が18～28%の領域に分布する。

市道遺跡の瓦が集中する。

IIIタイプ：SiO₂が55～68%、Al₂O₃が24～35%の領域に分布する。

寺領庵寺跡、鳥羽神宮寺跡、伊保白鳳寺跡、別郷庵寺跡、寺部堂前遺跡、雨塚瓦窯跡、古新田遺跡の瓦類が共存する。

IVタイプ：SiO₂が60～70%、Al₂O₃が18～30%の領域に分布する。

神明瓦窯跡、牛寺庵寺跡、寺領庵寺跡、北迫瓦窯跡、舞木庵寺跡、下り松瓦窯跡、別郷庵寺跡の瓦類が共存する。

Vタイプ：SiO₂が70～82%、Al₂O₃が12～22%の領域に分布する。

下り松瓦窯跡の瓦類が集中する。

4-2 Fe₂O₃-Na₂Oの相関について

第105・109・113・117図のFe₂O₃-Na₂O図に示すように、古新田遺跡より出土した瓦類と周辺寺院跡より出土した瓦類はFe₂O₃が低い領域から高い領域に向かって2領域、Na₂Oが低い領域から高い領域に向かって3領域に分布する。

Fe₂O₃：小-Fe₂O₃が2～6%、Na₂Oが0～0.6%の領域にあり、北野庵寺跡、神明瓦窯跡、舞木庵寺跡、別郷庵寺跡の瓦類が集中する。

Fe₂O₃：大-Fe₂O₃が5～11%、Na₂Oが0～0.5%の領域にあり、北迫瓦窯跡、古新田遺跡、鳥羽神宮寺跡、寺領庵寺跡、志貴野遺跡と牛寺庵寺跡の瓦類が集中する。

Na₂O：低-Fe₂O₃が5～14%、Na₂Oが0.2～0.8%の領域にあり、伊保白鳳寺跡、牛寺庵寺跡、寺領庵寺跡、寺部堂前遺跡の瓦類が集中する。

Na_2O : 中- Fe_2O_3 が8~13%、 Na_2O が0.5~1.2%の領域にあり、市道遺跡の瓦類が集中する。

Na_2O : 中- Fe_2O_3 が2~9%、 Na_2O が0.6~1.5%の領域にあり、寺領廃寺跡の瓦類が集中する。

4-3 $\text{K}_2\text{O}-\text{CaO}$ の相関について

第106・110・114・118図の $\text{K}_2\text{O}-\text{CaO}$ 図に示すように、古新田遺跡より出土した瓦類と周辺寺院跡より出土した瓦類は K_2O が低い領域から高い領域に向かって3領域、 CaO が低い領域から高い領域に向かって2領域に分布する。

K_2O : 小- K_2O が0.6~1.4%の領域には北迫瓦窯跡、鳥羽神宮寺跡の瓦が集中し、寺部堂前遺跡と志貴野遺跡の瓦類が混在する。

K_2O : 中- K_2O が1.3~3.6%の領域には寺領廃寺跡、神明瓦窯跡、伊保白鳳寺跡、雨堀瓦窯跡、三河国府跡、下り松瓦窯跡、牛寺廃寺跡、丸山廃寺跡、弥勒寺跡、舞木廃寺跡、古新田遺跡の瓦が集中する。

K_2O : 大- K_2O が2.8~5.0%の高い領域には北野廃寺跡の瓦が分布する。

CaO : 低- K_2O が1.4~2.4%、 CaO が0.5~1.3%の領域には寺部堂前遺跡の瓦が集中する。

CaO : 高- K_2O が2.3~3.6%、 CaO が1.0~2.0%の領域には市道遺跡の瓦が集中する。

5 まとめ

古新田遺跡より出土した瓦類の分析と周辺地域の瓦類の分析結果を取りまとめたものが第8・9表の組成分類表である。第8・9表に示すように瓦類は51タイプに分類される。個体数の多い順に記載すると次のようになる。

P1-高とは焼成ランクが低い瓦、P1-低とは焼成ランクが高い瓦で焼成環境が異なることを意味する。Q1-小とは混入される砂の量が少ない、Q1-大とは混入される砂の量が多いことを意味する。

1) 「IIIタイプ: Q t : 中・P1-低」丸瓦は北野廃寺跡、丸山廃寺跡、志貴野遺跡、寺部堂前遺跡、三河国府跡、大久根遺跡、雨堀瓦窯跡とともに古新田遺跡の瓦が共存する。平瓦は北野廃寺跡、丸山廃寺跡、牛寺廃寺跡、伊保白鳳寺跡、寺領廃寺跡、医王寺跡、鳥羽神宮寺跡、神明瓦窯跡とともに古新田遺跡の瓦が共存する。

2) 「IIIタイプ: Q t : 小・P1-低」丸瓦は伊保白鳳寺跡、鳥羽神宮寺跡、寺領廃寺跡、志貴野遺跡、北迫瓦窯跡の瓦が共存する。平瓦は伊保白鳳寺跡、別郷廃寺跡、志貴野遺跡、鳥羽神宮寺跡、勸学院文護寺跡、北迫瓦窯跡等とともに古新田遺跡の瓦が共存する。

3) 「IVタイプ: Q t : 中・P1-低」丸瓦は神明瓦窯跡、弥勒寺跡、舞木廃寺跡、別郷廃寺跡、

牛寺廃寺跡、とともに市道遺跡と山ノ入遺跡の瓦類が共存する。平瓦は北野廃寺跡、牛寺廃寺跡、寺領廃寺跡、舞木廃寺跡とともに神明瓦窯跡、北迫瓦窯跡、雨塚瓦窯跡の瓦が共存する。

4)「Iタイプ:Qt:小・P1-低」丸瓦は北迫瓦窯跡の瓦が集中し、三河国府跡の瓦が混在する。平瓦は北迫瓦窯跡の瓦が集中し、三河国府跡の瓦とともに寺部堂前遺跡、志貴野遺跡、古新田遺跡の瓦が共存する。

5)「IIIタイプ:Qt:小・P1-高」丸瓦は寺領廃寺跡、寺部堂前遺跡、伊保白鳳寺跡、別郷廃寺跡の瓦とともに古新田遺跡の瓦が共存する。平瓦は伊保白鳳寺跡、寺領廃寺跡、寺部堂前遺跡、志貴野遺跡の瓦とともに、雨塚瓦窯跡、北迫瓦窯跡、古新田遺跡の瓦が共存する。

6)「IVタイプ:Qt:小・P1-低」丸瓦は北野廃寺跡、真福寺東谷遺跡、伊保白鳳寺跡、別郷廃寺跡、大久根遺跡、舞木廃寺跡とともに神明瓦窯跡と三河国府跡の瓦が共存する。平瓦は北野廃寺跡、舞木廃寺跡の瓦が共存する。

7)「IVタイプ:Qt:中・P1-高」丸瓦は牛寺廃寺跡、真福寺東谷遺跡、とともに神明瓦窯跡と山ノ入遺跡の瓦が共存する。平瓦は真福寺東谷遺跡、寺領廃寺跡の瓦とともに神明瓦窯跡が共存する。

これら分類されたタイプの中で個体数の多いもの順に記載したがその他にも個体数が少なくタイプが異なるものが多数検出されている。その状況は第8・9表に示す通りである。分散する傾向が強いということは長い年月にわたるため工人が変わることにより製作工程が異なるのか、基本的な製作工程は確定しているがそれらに対応しないがかつてに、あるいはいい加減に造っているものが多く含まれているために生じた現象であるのか判断が難しい。

第103図～第106図の総合図に見られるように、市道遺跡、北迫瓦窯跡、下り松瓦窯跡、北野廃寺跡の瓦類は明らかに組成的特徴が認められ、他の瓦とは分離される。牛寺廃寺跡の瓦類は焼成ランクが異なるためにいくつかに分類されるが、化学組成的には類似性が高い。同様の傾向は伊保白鳳寺跡、寺部堂前遺跡、鳥羽神宮寺跡、神明瓦窯跡の瓦類も各々が異なる組成の中で各々の瓦類は組成的統一性が認められ、牛寺廃寺跡の瓦類と同様に焼成ランクが異なることから多種になっているものである。寺領廃寺跡の瓦類は大きく分けて3種類あり、傾向としては異質である。鳥羽神宮寺跡と寺部堂前遺跡の瓦類の中にはHc(角閃石)の強度が高く異質なCタイプの胎土があり、特徴的である。真福寺東谷遺跡と丸山廃寺跡の瓦類の中にはGタイプで、Mica(雲母類)の強度が高いものがあり、異質で特徴的である。古新田遺跡の瓦類は寺領廃寺跡の瓦類と類似する傾向が認められ、3種類とも同じ領域にあり、関連性が伺われる。

試料番号	タイプ	組成成分			粘土鉱物および有機物															備考	
		分級	Mu-Mt	Mu-Ch-Mt-Hb	Moist	Moist	Hb	Ch(Fa)	(Ni)Ma	Ca	Fe	Crst	Multis	K-fels	Halcy	Kaol	Pyrite	Au	写真	顕微鏡写真No.	
高純度-1	I	14	20						4568	157	104									片晶	北野製成-1
高純度-2	I	14	20						3699	69	117	52	239							片晶	北野製成-2
高純度-3	I	14	20						1949	91	217	157								片晶	北野製成-3
高純度-4	G	8	20						3776	186										片晶	北野製成-4
高純度-5	I	14	20						3765	86	100	98	823							片晶	北野製成-5
高純度-6	F	8	8	98			108		3556	142										片晶	北野製成-6
高純度-7	G	8	20						3680	129										片晶	北野製成-7
高純度-8	I	14	20						1741	77	157	130								片晶	北野製成-8
高純度-9	I	14	20						3571	175	86	66								片晶	北野製成-9
高純度-1.0	I	14	20						3677	64	90	72								片晶	北野製成-1.0
高純度-1.1	I	14	20						3531	301	78	115								片晶	北野製成-1.1
高純度-1.2	I	14	20						3802	72	77	107								片晶	北野製成-1.2
高純度-1.3	I	14	20						2860	82	104	133	113							片晶	北野製成-1.3
高純度-1.4	I	14	20						2132	74	165	143								片晶	北野製成-1.4
高純度-1.5	G	8	20					147	3176	180										片晶	北野製成-1.5
高純度-1.6	J	14	20						3788	125	116	62								片晶	北野製成-1.6
高純度-1.7	G	8	20					116	3765	191										片晶	北野製成-1.7
高純度-1.8	G	8	20					141	3337	213										片晶	北野製成-1.8
高純度-1.9	G	8	20					318	3602	250										片晶	真鍮色-1
高純度-2.0	G	8	20					140	3705	99										片晶	真鍮色-2
高純度-2.1	I	14	20						2837	60	140	76								片晶	真鍮色-3
高純度-2.2	G	8	20					110	4662	237										片晶	真鍮色-4
高純度-2.3	I	14	20						1682	71	268	149								片晶	真鍮色-5
高純度-2.4	G	8	20					386	2335	219										片晶	真鍮色-6
高純度-2.5	G	8	20					418	3255	160										片晶	真鍮色-7
高純度-2.6	G	8	20					143	4414	219										片晶	真鍮色-8
高純度-2.7	G	8	20					287	2505	286										片晶	真鍮色-9
高純度-2.8	G	8	20					423	2616	246										片晶	真鍮色-1.0
高純度-2.9	I	14	20						3712	61	86	72	106							片晶	丸山製成-1
高純度-3.0	I	14	20						4322	54	69	91	169							片晶	丸山製成-2
高純度-3.1	I	14	20						2492	49	101	107	82							片晶	丸山製成-3
高純度-3.2	G	8	20					209	5898	285										片晶	丸山製成-4
高純度-3.3	E	7	20					398	3016	112										片晶	丸山製成-5
高純度-3.4	G	8	20					213	3618	101										片晶	丸山製成-6
高純度-3.5	G	8	20					59	2904	396										片晶	白濁色-1
高純度-3.6	I	14	20						2312	276										片晶	白濁色-2
高純度-3.7	H	10	17	169	141				4287	222										片晶	白濁色-3
高純度-3.8	A	5	20			164			1013	77	328	136	144							片晶	白濁色-4
高純度-3.9	I	14	20						2418	132	204	91								片晶	白濁色-5
高純度-4.0	I	14	20						2454	107	274	86								片晶	白濁色-6
高純度-4.1	G	8	20			162			2516	497										片晶	白濁色-7
高純度-4.2	I	14	20						2261	89	194	123								片晶	白濁色-8
高純度-4.3	I	14	20						5699	58	91	87	103							片晶	白濁色-9
高純度-4.4	I	14	20						2220	107	269	110								片晶	白濁色-1.0
高純度-4.5	D	7	9			163	82	166	2810	388										片晶	白濁色-1.1
高純度-4.6	I	14	20						2323	231	142	95								片晶	白濁色-1.2
高純度-4.7	I	14	20						2258	140	98	64	201							片晶	白濁色-1.3
高純度-4.8	I	14	20						2650	137	234	73								片晶	白濁色-1.4
高純度-4.9	I	14	20						3742	109	76	80								片晶	白濁色-1.5
高純度-5.0	I	14	20						1961	124	230	86								片晶	白濁色-1.6
高純度-5.1	I	14	20						3768	276	92	53								片晶	白濁色-1.7
高純度-5.2	I	14	20						3227	95	321	102								片晶	白濁色-1.8
高純度-5.3	I	14	20						1934	104	249	139								片晶	白濁色-1.9
高純度-5.4	F	8	8			166			2950	404										片晶	白濁色-2.0
高純度-5.5	C	6	20			132	179		3532	361										片晶	半半-1
高純度-5.6	F	8	8			154		138	3487	232										片晶	半半-2
高純度-5.7	G	8	20			154			4317	343										片晶	半半-3
高純度-5.8	G	8	20			152			3341	140										片晶	半半-4
高純度-5.9	F	8	8			136		133	3059	148										片晶	半半-5
高純度-6.0	G	8	20			179			3370	174										片晶	半半-6
高純度-6.1	F	8	8			164		149	3706	216										片晶	半半-7
高純度-6.2	F	8	8			139			3935	87										片晶	半半-8
高純度-6.3	E	7	20			148	76		3743	110			250							片晶	半半-9
高純度-6.4	F	8	8			153		129	3799	107										片晶	半半-1.0
高純度-7.1	G	8	20			159			3451	140			289							片晶	真鍮色-1
高純度-7.2	G	8	20			269			4326	363										片晶	真鍮色-2
高純度-7.3	I	14	20						3382	85										片晶	真鍮色-3
高純度-7.4	C	6	20			62	66		2335	254										片晶	真鍮色-4
高純度-7.5	I	14	20						3553	137										片晶	真鍮色-5
高純度-7.6	G	8	20			131			2533	204										片晶	真鍮色-6
高純度-7.7	G	8	20			234			3472	388										片晶	真鍮色-1
高純度-7.8	E	7	20			170	83		3331	533										片晶	真鍮色-2
高純度-7.9	G	8	20			202			2418	139										片晶	真鍮色-3
高純度-8.0	I	14	20						2725	71	182	120								片晶	真鍮色-4
高純度-8.1	I	14	20						3220	79	80	84								片晶	真鍮色-5
高純度-8.2	I	14	20						3548	76	81	77								片晶	真鍮色-6
高純度-8.3	I	14	20						2214	84	230	196								片晶	真鍮色-7
高純度-8.4	C	6	20			146	193		1593	130										片晶	真鍮色-8
高純度-8.5	D	7	9			203	180	182	1848	129										片晶	真鍮色-9
高純度-8.6	G	8	20			170			2668	253										片晶	真鍮色-1.0
高純度-8.7	I	14	20						3158	422										片晶	真鍮色-1.1
高純度-8.8	I	14	20						3062	100	81	58								片晶	真鍮色-1.2
高純度-8.9	I	14	20						3693	42	69	69								片晶	比色-1
高純度-9.0	A	5	20					147	1516	90	106	66	204							片晶	比色-2
高純度-9.1	I	14	20						1848	94	169	56								片晶	比色-3
高純度-9.2	B	6	10			113	256	174	160	2321	122									片晶	比色-4
高純度-9.3	B	6	10			138	285	187		1380	193									片晶	比色-5
高純度-9.4	A	5	20			266			1394	82										片晶	比色-6
高純度-9.5	A	5	20			95			1294	94										片晶	比色-7

第2表 粘土性状表①

タイプ	組成分類	組成分類										胎生動物および胎前動物										種 名	
		Mo-Me-Hb	Mo	Ch-Me-Hb	Mo	Me	Hb	Ch(Fa)	Ch(Mg)	Ca	P	Crst	Multis	K-fats	Helly	Kast	Pyrite	As	種 名	通称記号No			
高純度-9.6	I	14	20						3295	89	184								学芸	高純度-9			
高純度-9.7	C	6	20			129	267		2021	125									学芸	高純度-9			
高純度-9.8	A	5	20				107		2204	93	164	417							学芸	高純度-1.0			
高純度-9.9	I	14	20						2102	65	806	161							学芸	高純度-1.1			
高純度-1.0.0	I	14	20						4046	30	68	98							学芸	高純度-1.2			
高純度-1.0.1	I	14	20						2303	215	73								学芸	高純度-1.3			
高純度-1.0.2	C	6	20			59	145		1321	190									学芸	高純度-1.4			
高純度-1.0.3	I	14	20						1287	84	353	132							学芸	高純度-1.5			
高純度-1.0.4	C	6	20			77	422		1532	100									学芸	高純度-1.6			
高純度-1.0.5	I	14	20						1202	76	160	58	429						学芸	高純度-1.7			
高純度-1.0.6	I	14	20						1756	103	317	111							新学芸	高純度前-1			
高純度-1.0.7	I	14	20						3433	82	192	62							学芸	高純度前-2			
高純度-1.0.8	A	5	20						3104	126			104						学芸	高純度前-3			
高純度-1.0.9	C	6	20			135	200		2412	214			218						学芸	高純度前-4			
高純度-1.1.0	C	6	20			99	220		7062	397									学芸	高純度前-5			
高純度-1.1.1	C	6	20			70	108		4730	215	483								学芸	高純度前-6			
高純度-1.1.2	C	6	20			104	129		4135	225			352						学芸	高純度前-7			
高純度-1.1.3	I	14	20						2520	99	246	104							学芸	高純度前-8			
高純度-1.1.4	C	6	20			115	310		2243	82			279						学芸	高純度前-9			
高純度-1.1.5	C	6	20			118	450		5016	110			205						学芸	高純度前-1.0			
高純度-1.1.6	C	6	20			101	354		2886	221			249						学芸	高純度前-1.1			
高純度-1.1.7	C	6	20			54	78		3471	207			101						新学芸	高純度前-1			
高純度-1.1.8	C	6	20			117	319		1881	122			197						学芸	高純度前-2			
高純度-1.1.9	I	14	20						3670	47	70	93							学芸	高純度前-3			
高純度-1.2.0	C	6	20			157	208		2559	102									学芸	高純度前-4			
高純度-1.2.1	C	6	20			141	342		1190	162			166						学芸	高純度前-5			
高純度-1.2.2	B	6	10			164	471	184	1537	186			1297						学芸	高純度前-6			
高純度-1.2.3	E	7	20			89	81		3746	66			96						学芸	高純度前-7			
高純度-1.2.4	I	14	20						1449	78	142	86							学芸	高純度前-8			
高純度-1.2.5	C	6	20			81	313		3272	99			111						学芸	高純度前-9			
高純度-1.2.6	C	6	20			145	184		2959	115			135						学芸	高純度前-1.0			
高純度-1.2.7	C	6	20			78	788		1723	107			230						学芸	高純度前-1.1			
高純度-1.2.8	C	6	20			194	256		2459	541			492						新学芸	高純度-1			
高純度-1.2.9	E	7	20			222	216		2411	276									新学芸	高純度-2			
高純度-1.3.0	E	7	20			187	181		2722	230			198						新学芸	高純度-3			
高純度-1.3.1	D	7	9			223	214	214	2366	339									新学芸	高純度-4			
高純度-1.3.2	B	6	10			177	180	186	2089	329									新学芸	高純度-5			
高純度-1.3.3	D	7	9			225	204	188	2367	274									新学芸	高純度-6			
高純度-1.3.4	D	7	9			236	218	149	2279	340									学芸	高純度-7			
高純度-1.3.5	G	8	20			106			4080	142									学芸	高純度-8			
高純度-1.3.6	C	6	20			96	226		2501	275									学芸	高純度-9			
高純度-1.3.7	D	7	9			154	95	157	3461	218									学芸	高純度-1.0			
高純度-1.3.8	B	6	10			176	200	163	145	2237	463		184						学芸	高純度-1.1			
高純度-1.3.9	I	14	20						4726	63			112						学芸	高純度-1.2			
高純度-1.4.0	G	8	20			272			3639	171			420						学芸	高純度前-1			
高純度-1.4.1	G	8	20			307			3622	121			334						学芸	高純度前-2			
高純度-1.4.2	G	8	20			384			3521	84			273						学芸	高純度前-3			
高純度-1.4.3	G	8	20			464			4316	89			217						学芸	高純度前-4			
高純度-1.4.4	G	8	20			250			4194	178			149						学芸	高純度前-5			
高純度-1.4.5	E	7	20			197	78		4816	79			162						学芸	高純度前-6			
高純度-1.4.6	E	7	20			204	113		6114	298			177						学芸	高純度前-7			
高純度-1.4.7	E	7	20			281	122		5759	113			482						学芸	高純度前-8			
高純度-1.4.8	I	14	20						1786	88	244	82							学芸	高純度前-1			
高純度-1.4.9	G	8	20			119			3109	208			76						学芸	高純度前-2			
高純度-1.5.0	G	8	20			107			2366	395			365						学芸	高純度前-3			
高純度-1.5.1	G	8	20			169			3218	134			279						学芸	高純度前-4			
高純度-1.5.2	I	14	20						1359	59	527	133							学芸	高純度前-5			
高純度-1.5.3	I	14	20						3111	118	124	93	101						学芸	高純度前-6			
高純度-1.5.4	I	14	20						2385	72	127	133	138						学芸	高純度前-7			
高純度-1.5.5	G	8	20			122			1882	117			282						学芸	高純度前-8			
高純度-1.5.6	G	8	20			152			2213	118			188						学芸	高純度前-9			
高純度-1.5.7	I	14	20						2153	181			169						学芸	高純度前-1			
高純度-1.5.8	I	14	20						3830	45	101	121	207						学芸	高純度前-2			
高純度-1.5.9	G	8	20			129			3689	139			212						学芸	高純度前-3			
高純度-1.6.0	I	14	20						3134	17	322	144							学芸	高純度前-4			
高純度-1.6.1	F	8	8			123	162		3883	237			176						学芸	高純度前-5			
高純度-1.6.2	G	8	20			116			5254	167			250						学芸	高純度前-6			
高純度-1.6.3	I	14	20						3313	58	70	94	220						学芸	高純度前-1			
高純度-1.6.4	I	14	20						2339	360	159	56							学芸	高純度前-2			
高純度-1.6.5	G	8	20			159			2342	423			314						学芸	高純度前-3			
高純度-1.6.6	I	14	20						2380	80	123	175							学芸	高純度前-4			
高純度-1.6.7	G	8	20			59			3074	419			237						学芸	高純度前-5			
高純度-1.6.8	G	8	20			105			2458	487			399						学芸	高純度前-6			
高純度-1.6.9	G	8	20			119			3293	211			310						学芸	高純度前-7			
高純度-1.7.0	G	8	20			92			3833	298			559						学芸	高純度前-8			
高純度-1.7.1	G	8	20			129			2114	172			219						学芸	高純度前-9			
高純度-1.7.2	I	14	20						4168	228			252						学芸	高純度前-1.0			
高純度-1.7.3	I	14	20						2248	133	160	108							学芸	高純度前-1.1			
高純度-1.7.4	G	8	20			114			2539	255			319						学芸	高純度前-1.2			
高純度-1.7.5	I	14	20						2689	94			152						学芸	高純度前-1.3			
高純度-1.7.6	H	10	17	132	128				3776	211			173						学芸	高純度前-1.4			
高純度-1.7.7	I	14	20						2632	425			229						学芸	高純度前-1.5			
高純度-1.7.8	G	8	20			96			3988	245			285						学芸	高純度前-1.6			
高純度-1.7.9	G	8	20			110			3343	137									学芸	高純度前-1.7			
高純度-1.8.0	I	14	20						3162	57	108	132	88						学芸	高純度前-1.8			
高純度-1.8.1	I	14	20						2409	58	117	98							学芸	高純度前-1.9			
高純度-1.8.2	G	8	20			104			4300	411			390						学芸	高純度前-2.0			
高純度-1.8.3	I	14	20						2454	77	184	174							学芸	高純度前-2.1			
高純度-1.8.4	I	14	20						3390	63	190	148							学芸	高純度前-2.2			

第3表 胎生性状表②

試料名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	NO	Total	互 換	濃縮試料No
古銅田-1	0.37	0.00	29.30	60.83	4.08	0.21	1.07	0.20	3.94	0.00	100.00	秤丸互	北野銅田-1
古銅田-2	0.05	0.00	30.59	58.62	2.23	0.24	1.10	0.12	6.90	0.13	99.98	秤丸互	北野銅田-2
古銅田-3	0.22	0.00	25.65	65.40	3.12	0.28	1.12	0.01	2.71	0.30	100.01	秤丸互	北野銅田-3
古銅田-4	0.45	0.00	27.17	61.49	4.77	0.23	1.10	0.03	4.48	0.27	99.99	秤丸互	北野銅田-4
古銅田-5	0.55	0.00	25.37	59.56	3.69	0.23	0.92	0.39	9.29	0.00	99.99	秤丸互	北野銅田-5
古銅田-6	0.17	0.00	27.26	60.40	2.50	0.21	1.09	0.32	8.03	0.01	99.99	秤丸互	北野銅田-6
古銅田-7	0.21	0.00	29.77	61.56	2.89	0.18	1.36	0.44	3.60	0.00	100.01	秤丸互	北野銅田-7
古銅田-8	0.54	0.00	22.53	66.02	4.08	0.28	0.98	0.00	5.43	0.14	100.00	秤丸互	北野銅田-8
古銅田-9	0.08	0.00	31.22	58.92	3.30	0.14	1.34	0.10	4.91	0.00	100.01	秤丸互	北野銅田-9
古銅田-1.0	0.08	0.00	24.90	66.49	3.86	0.20	1.27	0.27	3.40	0.03	100.00	秤丸互	北野銅田-1.0
古銅田-1.1	0.26	0.00	31.04	57.86	2.56	0.18	1.18	0.19	6.71	0.00	99.98	秤丸互	北野銅田-1.1
古銅田-1.2	0.17	0.00	25.10	58.14	2.66	0.02	1.39	0.39	11.95	0.00	100.02	秤丸互	北野銅田-1.2
古銅田-1.3	0.23	0.00	24.88	64.16	5.04	0.17	1.24	0.10	4.13	0.05	100.00	秤丸互	北野銅田-1.3
古銅田-1.4	0.36	0.00	24.99	65.11	3.82	0.30	1.29	0.22	3.91	0.00	100.00	秤丸互	北野銅田-1.4
古銅田-1.5	0.11	0.00	30.67	60.64	3.18	0.09	1.54	0.00	3.77	0.00	100.00	秤丸互	北野銅田-1.5
古銅田-1.6	0.28	0.00	30.58	58.60	3.37	0.22	1.70	0.00	5.25	0.00	100.00	秤丸互	北野銅田-1.6
古銅田-1.7	0.47	0.00	32.29	58.79	2.73	0.18	1.24	0.10	3.97	0.24	100.01	秤丸互	北野銅田-1.7
古銅田-1.8	0.39	0.00	31.50	58.48	2.98	0.07	1.46	0.27	4.84	0.00	99.99	秤丸互	北野銅田-1.8
古銅田-1.9	0.30	0.00	28.57	59.40	4.41	0.22	0.84	0.25	5.91	0.00	100.00	秤丸互	真備野-1
古銅田-2.0	0.40	0.00	26.23	63.44	2.14	0.37	1.09	0.00	6.28	0.05	100.00	秤丸互	真備野-2
古銅田-2.1	0.23	0.00	28.22	60.09	2.49	0.19	1.41	0.33	7.06	0.00	100.02	秤丸互	真備野-3
古銅田-2.2	0.49	0.00	21.59	70.58	2.71	0.16	1.22	0.00	3.03	0.23	100.01	秤丸互	真備野-4
古銅田-2.3	0.19	0.00	26.57	64.26	2.66	0.07	1.54	0.00	4.71	0.00	100.00	秤丸互	真備野-5
古銅田-2.4	0.21	0.00	31.12	54.89	3.33	0.10	0.88	0.57	8.90	0.00	100.00	秤丸互	真備野-6
古銅田-2.5	0.29	0.00	30.92	56.67	3.27	0.15	0.96	0.08	7.44	0.21	99.99	秤丸互	真備野-7
古銅田-2.6	0.63	0.00	23.15	67.91	3.20	0.37	1.13	0.06	3.41	0.15	100.01	秤丸互	真備野-8
古銅田-2.7	0.40	0.00	34.48	51.43	3.65	0.20	0.82	0.09	8.93	0.04	100.00	秤丸互	真備野-9
古銅田-2.8	0.34	0.00	33.38	52.43	3.96	0.05	0.85	0.23	8.38	0.38	100.00	秤丸互	真備野-1.0
古銅田-2.9	0.17	0.00	30.08	56.16	3.17	0.16	1.72	0.18	8.37	0.00	100.01	秤丸互	丸山銅田-1
古銅田-3.0	0.15	0.00	29.84	56.26	3.39	0.09	0.78	0.31	9.19	0.00	100.01	秤丸互	丸山銅田-2
古銅田-3.1	0.12	0.00	28.35	56.78	3.15	0.09	0.80	0.37	10.13	0.22	100.01	秤丸互	丸山銅田-3
古銅田-3.2	0.10	0.00	28.90	61.83	2.79	0.09	0.85	0.00	5.34	0.10	100.00	秤丸互	丸山銅田-4
古銅田-3.3	0.08	0.00	30.37	57.97	3.13	0.24	1.43	0.11	6.52	0.15	100.00	秤丸互	丸山銅田-5
古銅田-3.4	0.35	0.00	28.96	61.66	2.72	0.17	0.77	0.15	5.17	0.01	100.01	秤丸互	丸山銅田-6
古銅田-3.5	0.30	0.00	32.67	52.87	2.62	0.35	1.41	0.13	9.66	0.00	100.01	秤丸互	白銅野-1
古銅田-3.6	0.31	0.00	32.40	54.34	2.34	0.31	1.17	0.46	8.68	0.00	100.01	秤丸互	白銅野-2
古銅田-3.7	0.71	0.00	30.50	55.98	2.51	0.31	1.09	0.00	8.89	0.00	99.99	秤丸互	白銅野-3
古銅田-3.8	0.62	0.00	30.86	58.18	2.57	0.54	1.08	0.23	5.92	0.00	100.00	秤丸互	白銅野-4
古銅田-3.9	0.72	0.00	27.74	56.56	3.09	0.43	1.65	0.18	9.62	0.00	99.99	秤丸互	白銅野-5
古銅田-4.0	0.70	0.00	27.90	59.62	3.03	0.44	0.97	0.08	7.23	0.03	100.00	秤丸互	白銅野-6
古銅田-4.1	0.47	0.00	26.63	56.24	3.00	0.20	0.80	0.31	12.25	0.08	100.00	秤丸互	白銅野-7
古銅田-4.2	0.38	0.00	34.72	64.08	1.44	0.30	0.47	0.06	3.17	0.00	100.00	秤丸互	白銅野-8
古銅田-4.3	0.00	0.00	16.78	76.00	2.40	0.01	1.42	0.48	2.80	0.10	99.99	秤丸互	白銅野-9
古銅田-4.4	0.64	0.00	30.78	57.06	3.13	0.48	1.17	0.17	6.56	0.00	99.99	秤丸互	白銅野-1.0
古銅田-4.5	0.62	0.00	26.93	63.33	2.10	0.27	0.83	0.00	5.92	0.00	100.00	秤丸互	白銅野-1.1
古銅田-4.6	0.59	0.00	31.50	55.86	2.63	0.45	0.90	0.12	7.84	0.11	100.00	秤丸互	白銅野-1.2
古銅田-4.7	0.57	0.00	30.84	58.33	2.88	0.39	1.24	0.23	5.38	0.13	99.99	秤丸互	白銅野-1.3
古銅田-4.8	0.68	0.00	28.35	57.30	2.48	0.31	1.12	0.35	9.41	0.00	100.00	秤丸互	白銅野-1.4
古銅田-4.9	1.21	0.00	26.45	59.39	4.60	0.43	1.18	0.28	6.31	0.18	100.00	秤丸互	白銅野-1.5
古銅田-5.0	0.69	0.00	30.82	57.82	3.38	0.38	0.80	0.71	7.32	0.00	99.99	秤丸互	白銅野-1.6
古銅田-5.1	0.55	0.00	33.41	50.61	2.46	0.39	1.15	0.69	10.37	0.33	99.99	秤丸互	白銅野-1.7
古銅田-5.2	0.75	0.00	30.66	55.73	3.09	0.34	1.14	0.31	7.97	0.00	99.99	秤丸互	白銅野-1.8
古銅田-5.3	0.81	0.00	28.72	57.57	2.76	0.39	1.17	0.32	8.25	0.00	99.99	秤丸互	白銅野-1.9
古銅田-5.4	0.70	0.00	29.57	58.44	2.28	0.22	1.09	0.00	7.69	0.00	99.99	秤丸互	白銅野-2.0
古銅田-5.5	0.53	0.00	24.87	61.24	2.96	0.42	1.37	0.36	8.13	0.12	100.00	秤丸互	牛年-1
古銅田-5.6	0.67	0.00	25.06	62.19	3.06	0.51	1.14	0.31	7.07	0.00	100.01	秤丸互	牛年-2
古銅田-5.7	0.23	0.00	25.02	62.67	2.82	0.30	1.27	0.23	7.28	0.17	99.99	秤丸互	牛年-3
古銅田-5.8	0.51	0.00	25.02	61.19	3.19	0.25	0.49	0.21	7.92	0.22	100.00	秤丸互	牛年-4
古銅田-5.9	0.34	0.00	25.47	61.75	3.12	0.28	1.13	0.37	7.54	0.00	100.00	秤丸互	牛年-5
古銅田-6.0	0.10	0.00	24.83	62.54	2.81	0.25	1.30	0.23	7.61	0.31	99.98	秤丸互	牛年-6
古銅田-6.1	0.17	0.00	26.13	60.89	2.62	0.24	1.18	0.50	8.09	0.19	100.01	秤丸互	牛年-7
古銅田-6.2	0.01	0.00	27.70	60.27	2.46	0.49	1.46	0.16	7.45	0.00	100.00	秤丸互	牛年-8
古銅田-6.3	0.17	0.00	19.93	68.35	2.33	0.28	1.29	0.34	7.14	0.17	100.00	秤丸互	牛年-9
古銅田-6.4	0.31	0.00	24.93	63.21	2.89	0.18	1.38	0.45	6.66	0.00	100.01	秤丸互	牛年-1.0
古銅田-7.1	0.22	0.00	30.82	58.52	2.51	0.38	0.82	0.02	6.53	0.00	100.00	秤丸互	南備-1
古銅田-7.2	0.30	0.00	31.72	53.35	2.65	0.13	0.82	0.12	10.24	0.14	100.01	秤丸互	南備-2
古銅田-7.3	0.13	0.00	29.66	59.11	2.37	0.15	1.19	0.14	7.22	0.03	100.00	秤丸互	南備-3
古銅田-7.4	0.90	0.00	23.55	58.27	1.87	1.00	1.39	0.55	12.48	0.00	100.01	秤丸互	南備-4
古銅田-7.5	0.27	0.00	25.74	62.92	2.70	0.13	1.18	0.18	6.88	0.00	100.00	秤丸互	南備-5
古銅田-7.6	0.78	0.00	22.39	68.53	1.57	0.28	0.83	0.11	5.51	0.02	100.02	秤丸互	南備-6
古銅田-7.7	0.40	0.00	29.43	58.09	2.89	0.11	1.36	0.35	7.30	0.08	100.01	秤丸互	志貴野-1
古銅田-7.8	0.21	0.00	34.36	54.21	2.47	0.11	0.95	0.51	7.18	0.01	100.01	秤丸互	志貴野-2
古銅田-7.9	0.27	0.00	30.45	59.54	2.64	0.21	0.99	0.26	6.19	0.02	100.00	秤丸互	志貴野-3
古銅田-8.0	0.23	0.00	29.62	58.50	3.14	0.34	1.05	0.08	6.76	0.28	100.00	秤丸互	志貴野-4
古銅田-8.1	0.24	0.00	30.12	56.39	3.17	0.34	1.09	0.44	7.81	0.40	100.00	秤丸互	志貴野-5
古銅田-8.2	0.18	0.00	29.29	57.84	2.56	0.08	1.09	0.42	8.22	0.32	100.00	秤丸互	志貴野-6
古銅田-8.3	0.47	0.00	31.79	56.63	2.78	0.22	0.73	0.30	7.09	0.00	100.01	秤丸互	志貴野-7
古銅田-8.4	0.14	0.00	33.26	60.08	0.81	0.42	0.57	0.20	4.52	0.00	100.00	秤丸互	志貴野-8
古銅田-8.5	0.11	0.00	36.34	55.82	0.92	0.52	1.08	0.00	5.22	0.00	100.01	秤丸互	志貴野-9
古銅田-8.6	0.44	0.00	33.87	56.43	2.09	0.31	0.79	0.26	5.82	0.00	100.01	秤丸互	志貴野-1.0
古銅田-8.7	1.22	0.00	28.76	59.54	3.26	0.81	1.32	0.00	4.96	0.14	100.01	秤丸互	志貴野-1.1
古銅田-8.8	0.33	0.00	34.15	54.10	2.43	0.17	1.24	0.37	7.06	0.14	99.99	秤丸互	志貴野-1.2
古銅田-8.9	0.13	1.47	20.45	62.53	2.56	0.54	1.33	0.40	10.58	0.00	99.99	秤丸互	北道-1
古銅田-9.0	0.01	0.48	39.54	49.79	1.20	0.75	1.39	0.17	6.50	0.18	100.01	秤丸互	北道-2
古銅田-9.1	0.03	1.39	34.59	51.63	0.93	1.07	1.22	0.22	8.93	0.00	100.01	秤丸互	北道-3
古銅田-9.2	0.12	0.43	34.24	54.64	1.04	0.46	1.14	0.20	7.58	0.15	100.00	秤丸互	北道-4
古銅田-9.3	0.21	0.32	35.13	56.61	0.87	0.69	1.00	0.42	4.64	0.10	99.99	秤丸互	北道-5
古銅田-9.4	0.15	0.07	35.98	53.67	0.93	0.87	1.31	0.18	6.76	0.10	100.02	秤丸互	北道-6
古銅田													

材料名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	NO	Total	互 雜	透視材料No
古新原-0.07	0.00	0.13	22.63	63.25	0.93	0.22	2.18	0.32	10.34	0.00	100.00	互 雜	北流-8
古新原-0.8	0.13	0.49	29.68	62.09	0.93	0.63	0.95	0.00	5.11	0.00	100.01	互 雜	北流-9
古新原-1.0	0.16	0.43	27.08	61.80	1.11	0.72	1.21	0.15	7.17	0.17	100.00	互 雜	北流-10
古新原-0.8	0.04	0.01	35.39	55.33	0.75	0.49	1.12	0.45	6.36	0.08	100.02	互 雜	北流-11
古新原-10.0	0.13	0.43	19.38	66.28	3.39	1.18	1.44	0.43	8.36	0.00	100.02	互 雜	北流-12
古新原-1.01	0.00	0.00	32.76	58.11	1.16	0.68	1.15	0.36	5.78	0.00	100.00	互 雜	北流-13
古新原-1.02	0.10	0.28	35.82	54.34	1.00	1.09	0.91	0.09	6.23	0.12	99.98	互 雜	北流-14
古新原-1.03	0.16	0.00	35.42	56.28	1.10	0.71	0.95	0.06	5.32	0.00	100.00	互 雜	北流-15
古新原-1.04	0.12	0.00	36.96	53.64	0.63	0.74	0.92	0.47	6.39	0.12	99.99	互 雜	北流-16
古新原-1.05	0.00	0.71	33.41	52.97	0.96	0.92	1.57	0.33	9.13	0.00	100.00	互 雜	北流-17
古新原-1.06	0.44	0.08	29.02	59.18	1.76	0.63	1.21	0.18	7.45	0.00	100.00	互 雜	寺部原-1
古新原-1.07	0.74	0.99	25.62	55.31	1.74	1.06	0.86	0.45	13.08	0.14	99.99	互 雜	寺部原-2
古新原-1.08	0.36	0.58	28.56	55.81	2.09	0.96	1.07	0.38	10.02	0.17	100.00	互 雜	寺部原-3
古新原-1.09	0.23	0.02	32.76	56.91	1.86	0.55	1.28	0.00	5.98	0.41	100.00	互 雜	寺部原-4
古新原-1.10	0.31	0.00	27.34	57.02	2.93	0.75	1.21	0.34	10.11	0.00	100.01	互 雜	寺部原-5
古新原-1.11	0.51	0.00	28.55	59.04	1.41	0.94	1.10	0.00	8.45	0.00	100.00	互 雜	寺部原-6
古新原-1.12	0.78	0.00	28.74	60.40	1.84	1.08	1.33	0.08	5.76	0.00	100.01	互 雜	寺部原-7
古新原-1.13	0.04	0.22	13.20	79.87	0.81	0.39	0.78	0.23	4.18	0.19	100.01	互 雜	寺部原-8
古新原-1.14	0.17	0.10	29.21	52.09	1.02	0.59	1.16	0.95	14.49	0.22	100.00	互 雜	寺部原-9
古新原-1.15	0.54	0.00	24.53	55.73	1.87	0.77	3.22	0.36	12.99	0.00	100.01	互 雜	寺部原-10
古新原-1.16	0.01	0.32	31.29	56.67	2.06	0.59	1.40	0.27	7.36	0.03	100.00	互 雜	寺部原-11
古新原-1.17	0.14	0.14	31.63	54.04	1.84	0.59	1.58	0.41	9.64	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.18	0.04	0.25	33.62	58.09	0.75	0.73	0.84	0.28	5.40	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦-1
古新原-1.19	0.00	0.08	23.60	58.88	1.91	0.09	1.52	0.54	13.38	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦-2
古新原-1.20	0.00	0.00	31.95	60.48	1.27	0.64	1.03	0.01	4.62	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦-3
古新原-1.21	0.23	0.06	33.40	56.57	0.93	0.62	1.24	0.59	6.10	0.26	100.00	互 雜	神耳瓦-4
古新原-1.22	0.23	0.00	33.35	56.69	0.71	0.49	1.19	0.00	3.34	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦-5
古新原-1.23	0.17	0.00	38.35	53.38	0.57	0.71	1.05	0.49	4.82	0.04	99.98	互 雜	神耳瓦-7
古新原-1.24	0.00	0.14	33.93	57.40	0.89	0.85	1.05	0.27	5.47	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦-8
古新原-1.25	0.23	0.14	30.73	58.52	1.49	0.77	1.02	0.27	6.65	0.18	100.00	互 雜	神耳瓦-9
古新原-1.26	0.09	0.00	32.60	55.31	2.01	0.47	1.46	0.66	7.17	0.23	100.00	互 雜	神耳瓦-10
古新原-1.27	0.03	1.28	31.87	56.96	0.67	1.31	0.95	0.08	6.84	0.01	100.00	互 雜	神耳瓦-11
古新原-1.28	0.78	1.01	25.12	57.18	2.97	1.75	1.83	0.40	8.66	0.31	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.29	0.67	1.31	26.40	54.38	2.86	1.75	1.78	0.34	10.53	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.30	0.78	1.17	24.05	58.32	3.15	1.89	1.71	0.26	8.47	0.21	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.31	0.32	1.81	24.95	54.07	2.68	1.83	1.88	0.44	11.63	0.40	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.32	0.73	2.26	23.51	53.96	2.19	1.95	1.59	0.57	13.16	0.08	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.33	0.98	1.70	25.53	55.78	2.84	1.60	1.80	0.18	9.52	0.08	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.34	0.79	2.05	24.94	56.53	2.87	1.34	1.77	0.18	9.54	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.35	0.11	0.00	22.28	68.76	1.77	1.10	0.98	0.19	4.80	0.00	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.36	0.74	2.11	22.79	58.97	3.19	1.18	1.55	0.14	9.03	0.29	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.37	0.65	1.51	26.35	56.89	3.11	1.88	1.72	0.00	5.34	0.07	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.38	0.57	2.91	24.64	55.62	3.00	1.76	2.01	0.28	9.58	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.39	0.22	0.00	24.37	65.57	1.50	0.55	1.18	0.00	6.45	0.17	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.40	0.35	0.00	33.25	54.66	2.66	0.24	1.31	0.20	7.27	0.08	100.02	互 雜	神耳瓦
古新原-1.41	0.14	0.10	23.40	68.84	1.91	0.20	1.04	0.00	4.25	0.11	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.42	0.09	0.04	23.17	65.31	3.26	0.14	1.27	0.12	6.61	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.43	0.64	0.00	27.41	61.42	2.93	0.54	1.56	0.23	5.26	0.00	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.44	0.41	0.00	31.11	56.36	2.46	0.33	1.64	0.19	7.30	0.20	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.45	0.26	0.00	32.43	61.27	1.73	1.01	1.43	0.14	11.13	0.05	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.46	0.26	0.34	28.03	55.44	3.26	0.49	1.56	0.00	10.30	0.33	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.47	0.25	0.00	29.01	61.03	1.92	0.23	1.31	0.16	5.81	0.28	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.48	1.13	0.00	19.93	65.63	3.54	0.71	1.12	0.12	7.81	0.00	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.49	0.39	0.00	28.31	63.76	2.87	0.21	1.34	0.06	3.06	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.50	0.44	0.00	29.52	57.01	2.17	0.32	1.39	0.31	8.73	0.11	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.51	0.12	0.00	29.22	63.04	2.46	0.34	1.33	0.12	3.35	0.03	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.52	0.21	0.00	27.34	62.52	2.99	0.35	1.19	0.05	3.35	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.53	0.10	0.00	32.23	59.28	2.56	0.13	1.30	0.26	4.15	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.54	0.20	0.00	31.30	60.87	2.61	0.19	1.27	0.01	3.20	0.34	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.55	0.13	0.00	31.60	62.27	1.99	0.20	1.17	0.03	2.62	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.56	0.28	0.00	33.86	58.20	2.13	0.29	1.41	0.00	3.83	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.57	0.36	0.00	25.39	65.17	1.51	0.10	0.85	0.21	6.99	0.12	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.58	0.29	0.00	29.16	60.60	2.28	0.14	1.35	0.04	6.14	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.59	0.19	0.00	27.74	62.88	2.28	0.30	0.90	0.19	3.35	0.16	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.60	0.13	0.00	27.67	58.47	3.33	0.35	1.96	0.03	8.53	0.04	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.61	0.32	0.00	29.64	61.48	2.77	0.13	1.33	0.06	9.93	0.06	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.62	0.15	0.00	27.83	64.75	1.43	0.14	1.16	0.12	4.42	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.63	0.19	0.00	27.26	60.80	3.07	0.16	1.02	0.23	7.27	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.64	0.90	0.00	26.87	60.19	2.81	0.48	0.91	0.38	7.30	0.16	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.65	1.34	0.00	25.68	64.53	1.66	0.57	0.91	0.17	5.15	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.66	0.18	0.00	29.44	57.07	2.02	0.23	1.47	0.46	9.05	0.10	100.02	互 雜	神耳瓦
古新原-1.67	0.81	0.00	29.96	57.81	2.27	0.54	1.24	0.13	7.25	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.68	0.48	0.00	29.67	64.11	2.92	0.39	1.21	0.24	9.00	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.69	0.40	0.00	28.67	61.53	1.94	0.22	0.77	0.09	6.07	0.30	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.70	1.14	0.00	19.89	71.75	2.28	0.24	0.71	0.00	3.98	0.01	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.71	1.32	0.00	26.67	60.72	1.95	0.35	0.71	0.13	8.05	0.11	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.72	0.46	0.00	28.01	58.60	2.50	0.37	1.16	0.00	8.77	0.14	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.73	1.19	0.00	29.06	58.39	2.70	0.47	1.10	0.13	6.87	0.09	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.74	0.80	0.00	27.92	62.58	1.94	0.33	1.21	0.11	5.11	0.00	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.75	0.16	0.00	29.39	56.86	1.89	0.29	1.13	0.14	9.95	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.76	0.98	0.00	29.01	59.20	1.99	0.77	0.88	0.36	6.90	0.31	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.77	0.63	0.00	29.32	58.03	2.30	0.38	1.07	0.13	8.12	0.01	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.78	1.43	0.00	24.79	64.96	2.59	0.71	1.00	0.20	4.29	0.02	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.79	0.27	0.00	28.38	64.05	1.96	0.16	0.83	0.26	4.04	0.06	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.80	0.29	0.00	27.57	60.80	3.03	0.20	0.99	0.15	6.98	0.00	100.01	互 雜	神耳瓦
古新原-1.81	0.24	0.00	26.11	62.60	3.52	0.20	1.07	0.21	5.81	0.23	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.82	0.74	0.00	27.48	61.89	2.34	0.35	1.20	0.38	5.41	0.00	99.99	互 雜	神耳瓦
古新原-1.83	0.67	0.00	25.96	66.49	2.75	0.39	1.15	0.29	2.28	0.02	100.00	互 雜	神耳瓦
古新原-1.84	0.10	0.00	27.97	60.99	2.81								

試料名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	NO	Total	五	備	透視試料No
古新期-1.8.5	0.16	0.00	24.85	64.56	2.93	0.25	1.47	0.00	5.70	0.08	100.00	丸瓦	神明瓦-3	
古新期-1.8.6	0.11	0.00	29.45	62.33	2.55	0.17	1.22	0.22	3.95	0.00	100.00	丸瓦	神明瓦-4	
古新期-1.8.7	0.11	0.00	25.81	65.49	2.75	0.26	1.10	0.35	4.11	0.00	100.00	丸瓦	神明瓦-5	
古新期-1.8.8	0.35	0.00	25.01	66.07	2.99	0.11	1.33	0.00	3.94	0.31	100.00	丸瓦	神明瓦-6	
古新期-1.8.9	0.17	0.00	27.78	64.75	3.43	0.19	0.94	0.00	2.59	0.15	100.00	丸瓦	神明瓦-7	
古新期-1.9.0	0.17	0.00	27.51	62.83	2.68	0.07	1.29	0.00	5.25	0.19	99.99	丸瓦	神明瓦-8	
古新期-1.9.1	0.11	0.00	24.53	67.69	2.44	0.08	1.10	0.00	3.78	0.27	100.00	丸瓦	神明瓦-9	
古新期-1.9.2	0.11	0.00	28.51	62.07	3.08	0.22	1.31	0.13	4.40	0.16	99.99	丸瓦	神明瓦-10	
古新期-1.9.3	0.38	0.00	28.07	64.54	2.46	0.19	1.01	0.00	3.24	0.10	99.99	丸瓦	神明瓦-11	
古新期-1.9.4	0.29	0.00	27.63	64.25	2.36	0.29	1.03	0.26	3.69	0.22	100.02	丸瓦	神明瓦-12	
古新期-1.9.5	0.11	0.00	18.98	75.02	1.99	0.18	1.13	0.00	2.45	0.10	100.00	丸瓦	神明瓦-13	
古新期-1.9.6	0.22	0.00	26.67	64.08	2.42	0.13	1.39	0.05	4.90	0.14	100.00	丸瓦	神明瓦-14	
古新期-1.9.7	0.08	0.00	31.21	60.20	2.48	0.06	1.27	0.00	4.64	0.06	100.00	丸瓦	神明瓦-15	
古新期-1.9.8	0.00	0.00	24.02	68.08	3.54	0.20	0.77	0.00	3.40	0.00	100.01	丸瓦	熊木寺-1	
古新期-1.9.9	0.00	0.00	24.34	66.89	3.12	0.11	0.70	0.00	4.79	0.05	100.00	丸瓦	熊木寺-2	
古新期-2.0.0	0.00	0.00	23.72	66.98	3.15	0.33	1.17	0.35	4.29	0.00	99.99	丸瓦	熊木寺-3	
古新期-2.0.1	0.06	0.00	25.72	65.95	3.44	0.10	0.81	0.23	3.79	0.00	100.00	丸瓦	熊木寺-4	
古新期-2.0.2	0.00	0.00	24.46	67.42	2.74	0.10	0.94	0.16	4.08	0.19	100.00	丸瓦	熊木寺-5	
古新期-2.0.3	0.77	0.00	28.38	60.26	4.44	0.47	1.14	0.15	5.19	0.18	99.99	丸瓦	熊木寺-6	
古新期-2.0.4	0.04	0.00	23.93	68.22	3.55	0.43	0.78	0.00	3.04	0.02	100.01	丸瓦	熊木寺-7	
古新期-2.0.5	0.87	0.00	22.70	60.96	5.41	0.52	0.90	0.53	8.11	0.00	100.00	丸瓦	熊木寺-8	
古新期-2.0.6	1.16	0.00	27.61	60.21	3.66	0.48	1.14	0.13	5.37	0.24	100.00	丸瓦	熊木寺-9	
古新期-2.0.7	1.40	0.00	25.78	57.51	3.40	0.46	0.89	0.34	10.01	0.18	99.99	丸瓦	熊木寺-10	
古新期-2.0.8	0.19	0.00	16.24	75.82	3.08	0.13	1.19	0.13	3.21	0.01	100.00	軒瓦瓦	下段-1	
古新期-2.0.9	0.19	0.00	15.37	77.89	2.86	0.12	0.99	0.27	3.73	0.00	100.00	軒瓦瓦	下段-2	
古新期-2.1.0	0.00	0.00	22.01	68.21	6.81	0.23	0.16	0.99	0.00	5.40	100.00	丸瓦	下段-3	
古新期-2.1.1	0.16	0.00	18.73	71.01	3.10	0.12	1.34	0.07	5.37	0.11	100.01	丸瓦	下段-4	
古新期-2.1.2	0.19	0.00	18.24	74.06	3.30	0.12	1.06	0.06	2.97	0.00	100.00	丸瓦	下段-5	
古新期-2.1.3	0.00	0.00	15.27	74.35	3.84	0.10	1.15	0.22	4.69	0.37	99.99	丸瓦	下段-6	
古新期-2.1.4	0.04	0.00	24.02	64.77	1.96	0.10	1.30	0.19	7.44	0.19	100.01	丸瓦	下段-7	
古新期-2.1.5	0.09	0.00	15.43	75.01	2.66	0.20	0.90	0.05	5.66	0.00	100.00	丸瓦	下段-8	
古新期-2.1.6	0.00	0.00	19.68	71.49	2.59	0.05	1.20	0.00	4.85	0.01	100.00	丸瓦	下段-9	
古新期-2.1.7	0.00	0.00	16.42	65.18	2.64	0.61	1.15	0.62	6.76	0.25	99.99	丸瓦	下段-10	
古新期-2.1.8	0.09	0.00	16.62	74.31	2.65	0.15	1.14	0.00	5.05	0.00	100.01	丸瓦	下段-11	
古新期-2.1.9	0.12	0.00	17.48	74.22	2.04	0.20	1.19	0.10	4.37	0.27	99.99	丸瓦	下段-12	
古新期-2.2.0	0.23	0.00	30.14	61.29	2.73	0.39	1.38	0.00	3.84	0.00	100.00	丸瓦	熊手寺-1	
古新期-2.2.1	0.33	0.00	27.23	62.21	3.34	0.57	1.53	0.05	4.52	0.23	100.01	丸瓦	熊手寺-2	
古新期-2.2.2	0.19	0.00	29.73	59.74	2.79	0.53	1.48	0.00	5.22	0.32	100.00	丸瓦	熊手寺-3	
古新期-2.2.3	0.18	0.15	25.95	59.81	2.75	0.46	1.43	0.53	8.73	0.00	99.99	丸瓦	熊手寺-4	
古新期-2.2.4	0.71	0.08	22.97	63.18	2.86	0.61	1.51	0.62	6.76	0.25	99.99	丸瓦	熊手寺-5	
古新期-2.2.5	0.54	0.53	25.43	63.63	2.67	0.43	0.89	0.33	5.55	0.00	100.00	丸瓦	山ノ入-2	
古新期-2.2.6	1.57	0.78	31.39	50.04	3.55	0.92	1.20	0.48	9.59	0.47	99.99	丸瓦	山ノ入-3	
古新期-2.2.7	0.43	1.07	32.36	53.79	3.06	0.45	1.52	0.04	7.14	0.13	99.99	丸瓦	山ノ入-4	
古新期-2.2.8	0.26	1.86	33.73	46.06	2.62	0.42	1.90	0.83	12.17	0.16	100.01	丸瓦	山ノ入-5	
古新期-2.2.9	0.50	1.07	31.30	50.46	2.98	0.39	1.91	0.25	11.15	0.00	100.01	丸瓦	山ノ入-6	
古新期-2.3.0	0.15	0.00	32.47	57.09	2.86	0.28	1.77	0.02	4.89	0.37	100.00	丸瓦	三河國前-1	
古新期-2.3.1	0.19	0.00	32.32	56.71	1.48	0.17	2.11	0.23	6.48	0.32	100.01	丸瓦	三河國前-2	
古新期-2.3.2	0.11	0.00	26.51	64.37	2.64	0.46	1.31	0.32	4.14	0.04	100.00	丸瓦	三河國前-3	
古新期-2.3.3	0.13	0.07	36.94	52.30	2.02	0.23	1.72	0.13	5.94	0.52	100.00	丸瓦	三河國前-4	
古新期-2.3.4	0.09	0.02	35.73	54.46	1.71	0.22	1.81	0.27	5.57	0.12	100.00	丸瓦	三河國前-5	
古新期-2.3.5	0.07	0.27	31.29	59.19	2.44	0.40	1.53	0.16	4.43	0.22	100.00	丸瓦	三河國前-6	
古新期-2.3.6	0.19	1.50	35.15	47.34	2.52	0.34	1.82	0.53	10.38	0.23	100.00	丸瓦	三河國前-7	
古新期-2.3.7	0.00	0.18	35.35	54.53	1.01	0.12	1.84	0.17	6.77	0.03	100.00	丸瓦	三河國前-8	
古新期-2.3.8	0.00	0.15	36.32	50.11	1.94	0.31	2.49	0.00	6.67	0.00	99.99	丸瓦	三河國前-9	
古新期-2.3.9	0.00	0.00	29.90	60.31	2.86	0.40	1.42	0.43	4.39	0.35	100.01	丸瓦	三河國前-10	
古新期-2.4.0	0.50	0.00	30.89	57.02	2.88	0.37	1.32	0.30	6.73	0.00	100.01	丸瓦	古新期-1	
古新期-2.4.1	1.08	0.00	29.09	58.85	3.21	0.35	0.88	0.29	6.25	0.00	100.00	丸瓦	古新期-2	
古新期-2.4.2	0.08	0.00	31.75	59.81	2.34	0.07	0.96	0.02	4.77	0.19	99.99	丸瓦	古新期-3	
古新期-2.4.3	0.21	0.00	32.17	57.46	2.59	0.14	1.12	0.17	6.09	0.05	100.00	丸瓦	古新期-4	
古新期-2.4.4	0.68	0.00	27.08	60.10	2.59	0.38	1.42	0.19	7.50	0.06	100.00	丸瓦	古新期-5	
古新期-2.4.5	0.70	0.00	29.11	59.73	2.89	0.50	1.11	0.00	5.70	0.26	100.00	丸瓦	古新期-6	
古新期-2.4.6	0.40	0.00	30.29	56.64	3.05	0.19	1.13	0.62	7.68	0.00	100.00	丸瓦	古新期-7	
古新期-2.4.7	0.07	0.00	30.88	56.90	2.82	0.18	1.10	0.25	7.78	0.01	99.99	丸瓦	古新期-8	
古新期-2.4.8	0.43	0.00	29.13	56.95	2.61	0.19	1.40	0.00	9.18	0.13	100.02	丸瓦	古新期-9	
古新期-2.4.9	0.21	0.00	28.76	57.83	3.63	0.12	1.15	0.25	7.92	0.13	100.00	丸瓦	古新期-10	
古新期-2.5.0	0.09	0.00	34.43	53.94	2.07	0.07	1.29	0.17	7.67	0.28	100.01	丸瓦	古新期-11	
古新期-2.5.1	0.00	0.00	39.27	49.28	1.57	0.13	1.39	0.44	7.55	0.37	100.00	丸瓦	古新期-12	
古新期-2.5.2	0.00	0.00	32.24	58.35	2.06	0.15	1.01	0.35	5.40	0.44	100.00	丸瓦	古新期-13	
古新期-2.5.3	0.00	0.00	34.33	53.76	2.27	0.10	1.24	0.10	6.21	0.00	100.01	丸瓦	古新期-14	
古新期-2.5.4	0.11	0.00	32.20	57.08	2.45	0.22	1.31	0.26	6.37	0.00	100.00	丸瓦	古新期-15	
古新期-2.5.5	0.52	0.00	28.45	61.27	2.65	0.23	1.04	0.25	5.58	0.00	99.99	丸瓦	古新期-16	
古新期-2.5.6	0.16	0.00	35.50	52.99	2.24	0.11	1.16	0.38	7.38	0.08	100.00	丸瓦	古新期-17	
古新期-2.5.7	0.07	0.00	31.20	59.67	1.89	0.11	1.09	0.34	5.62	0.00	99.99	丸瓦	古新期-18	
古新期-2.5.8	0.08	0.00	31.79	58.47	2.00	0.14	0.93	0.35	6.26	0.00	100.02	丸瓦	古新期-19	
古新期-2.5.9	0.58	0.00	29.36	61.42	2.30	0.29	1.30	0.10	4.65	0.00	100.00	丸瓦	古新期-20	

第7表 化学分析表③

材料番号	タイプ	種 別			用途場所
		分類	瓦 種	透排水材No	
※タイプ: Q1ー小・P1ー高					
古新田-3.5	G	丸瓦	白鳥寺-1	豊田市	
古新田-3.6	I	丸瓦	白鳥寺-2	豊田市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー高					
古新田-7.2	G	丸瓦	熊取-2	西尾市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー高					
古新田-7.8	E	丸瓦	志茂野-2	西尾市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー低					
古新田-9.0	A	丸瓦	北流-2	樽豆町	
古新田-9.1	I	丸瓦	北流-3	樽豆町	
古新田-9.2	B	丸瓦	北流-4	樽豆町	
古新田-9.4	A	丸瓦	北流-5	樽豆町	
古新田-2.3.4	I	丸瓦	三河國府-5	豊川市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー低					
古新田-1.4.0	G	丸瓦	勢動寺-1	御津町	
古新田-2.2.6	I	丸瓦	山ノ入-3	豊川市	
古新田-2.3.3	I	丸瓦	三河國府-4	豊川市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー高					
古新田-2.4	G	平瓦	真鏡寺-8	岡崎市	
古新田-2.7	G	平瓦	真鏡寺-9	岡崎市	
古新田-2.8	G	平瓦	真鏡寺-10	岡崎市	
古新田-2.2.8	E	平瓦	山ノ入-5	豊川市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー高					
古新田-5.1	I	平瓦	白鳥寺-1.7	豊田市	
古新田-2.2.9	F	平瓦	山ノ入-6	豊川市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー低					
古新田-8.5	D	平瓦	志茂野-9	西尾市	
古新田-9.5	A	平瓦	北流-7	樽豆町	
古新田-9.9	I	平瓦	北流-1.1	樽豆町	
古新田-1.0.3	I	平瓦	北流-1.5	樽豆町	
古新田-1.0.4	C	平瓦	北流-1.6	樽豆町	
古新田-1.0.5	I	平瓦	北流-1.7	樽豆町	
古新田-1.1.4	C	平瓦	寺部堂前-9	樽豆町	
古新田-2.3.6	I	平瓦	三河國府-7	豊川市	
古新田-2.5.1	G	平瓦	古新田-1.2	西尾市	
古新田-2.5.3	I	平瓦	古新田-1.4	西尾市	
古新田-2.5.6	G	平瓦	古新田-1.7	西尾市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー低					
古新田-8.8	I	平瓦	志茂野-1.2	西尾市	
古新田-1.2.3	E	平瓦	神宮寺-7	樽豆町	
古新田-2.3.7	I	平瓦	三河國府-8	豊川市	
古新田-2.3.8	I	平瓦	三河國府-9	豊川市	
古新田-2.5.0	I	平瓦	古新田-1.1	西尾市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー高					
古新田-1.3.4	D	丸瓦	市原-7	豊橋市	
※タイプ: その他					
古新田-2.4.4	G	丸瓦	古新田-5	西尾市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー高					
古新田-1.3.6	C	平瓦	市原-9	豊橋市	
古新田-1.3.8	B	平瓦	市原-1.1	豊橋市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー高					
古新田-1.3.7	D	平瓦	市原-1.0	豊橋市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー低					
古新田-1.0.2	C	平瓦	北流-1.4	樽豆町	
※タイプ: Q1ー大・P1ー低					
古新田-1.1.5	C	平瓦	寺部堂前-1.0	樽豆町	
※タイプ: その他					
古新田-2.2.7	E	平瓦	山ノ入-4	豊川市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー高					
古新田-4.1	G	丸瓦	白鳥寺-7	豊田市	
古新田-1.0.9	C	丸瓦	寺部堂前-4	樽豆町	
古新田-1.5.0	G	丸瓦	別願寺-3	安城市	
古新田-1.6.4	I	丸瓦	寺部堂前-2	安城市	
古新田-1.6.7	G	丸瓦	寺部堂前-5	安城市	
古新田-2.4.1	I	丸瓦	古新田-2	西尾市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー高					
古新田-1.3	G	丸瓦	真鏡寺-1	岡崎市	
古新田-1.1.1	C	丸瓦	寺部堂前-8	樽豆町	
古新田-1.6.9	G	丸瓦	寺部堂前-7	安城市	
古新田-1.7.2	I	丸瓦	寺部堂前-1.0	安城市	
古新田-2.4.3	G	丸瓦	古新田-4	西尾市	
古新田-2.4.5	G	丸瓦	古新田-6	西尾市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー高					
古新田-7.7	G	丸瓦	志茂野-1	西尾市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー低					
古新田-3.1	I	丸瓦	丸山寺-3	岡崎市	
古新田-3.8	A	丸瓦	白鳥寺-4	豊田市	
古新田-3.9	I	丸瓦	白鳥寺-5	豊田市	
古新田-4.0	I	丸瓦	白鳥寺-6	豊田市	

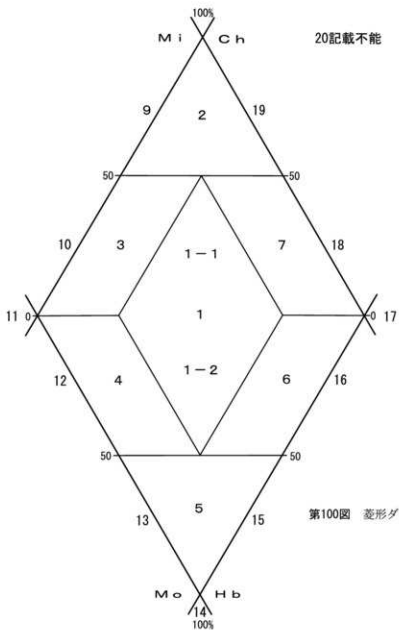
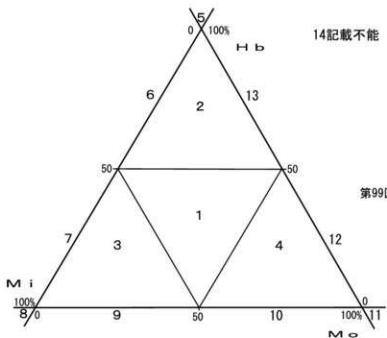
材料番号	タイプ	種 別			用途場所
		分類	瓦 種	透排水材No	
古新田-5.3	I	丸瓦	白鳥寺-1.9	豊田市	
古新田-7.9	G	丸瓦	志茂野-3	西尾市	
古新田-9.3	B	丸瓦	北流-5	樽豆町	
古新田-1.1.8	C	丸瓦	神宮寺-2	樽豆町	
古新田-1.2.0	C	丸瓦	神宮寺-4	樽豆町	
古新田-1.2.1	C	丸瓦	神宮寺-5	樽豆町	
古新田-1.2.2	B	丸瓦	神宮寺-6	樽豆町	
古新田-1.6.6	I	丸瓦	寺部堂前-4	安城市	
古新田-1.7.1	G	丸瓦	寺部堂前-9	安城市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー低					
古新田-4	G	丸瓦	北野寺-4	岡崎市	
古新田-5	I	丸瓦	北野寺-5	岡崎市	
古新田-6	F	丸瓦	北野寺-6	岡崎市	
古新田-7	G	丸瓦	北野寺-7	岡崎市	
古新田-9	I	丸瓦	北野寺-9	岡崎市	
古新田-2.1	I	丸瓦	真鏡寺-3	岡崎市	
古新田-2.9	I	丸瓦	丸山寺-1	岡崎市	
古新田-3.0	I	丸瓦	丸山寺-2	岡崎市	
古新田-7.1	G	丸瓦	市原-1	西尾市	
古新田-7.3	I	丸瓦	市原-3	西尾市	
古新田-8.0	I	丸瓦	志茂野-4	西尾市	
古新田-8.1	I	丸瓦	志茂野-5	西尾市	
古新田-8.2	I	丸瓦	志茂野-6	西尾市	
古新田-1.0.7	I	丸瓦	寺部堂前-2	樽豆町	
古新田-1.0.8	A	丸瓦	寺部堂前-3	樽豆町	
古新田-1.1.9	I	丸瓦	神宮寺-3	樽豆町	
古新田-1.5.8	I	丸瓦	大久保-2	安城市	
古新田-1.5.9	G	丸瓦	大久保-3	安城市	
古新田-1.6.3	I	丸瓦	寺部堂前-1	安城市	
古新田-2.3.0	I	丸瓦	三河國府-1	豊川市	
古新田-2.3.1	I	丸瓦	三河國府-2	豊川市	
古新田-2.4.0	I	丸瓦	古新田-1	西尾市	
古新田-2.4.2	G	丸瓦	古新田-3	西尾市	
※タイプ: その他					
古新田-3.7	H	丸瓦	白鳥寺-3	豊田市	
古新田-1.1.0	C	丸瓦	寺部堂前-5	樽豆町	
※タイプ: Q1ー中・P1ー高					
古新田-4.5	D	平瓦	白鳥寺-1.1	豊田市	
古新田-4.6	I	平瓦	白鳥寺-1.2	豊田市	
古新田-4.8	I	平瓦	白鳥寺-1.4	豊田市	
古新田-5.4	F	平瓦	白鳥寺-2.0	豊田市	
古新田-7.4	C	平瓦	市原-4	西尾市	
古新田-8.6	G	平瓦	市原-1.0	西尾市	
古新田-1.0.1	I	平瓦	北流-1.3	樽豆町	
古新田-1.1.6	C	平瓦	寺部堂前-1.1	樽豆町	
古新田-1.7.4	G	平瓦	寺部堂前-1.2	安城市	
古新田-1.7.7	I	平瓦	寺部堂前-1.5	安城市	
古新田-2.5.5	G	平瓦	古新田-1.6	西尾市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー高					
古新田-1.1	I	平瓦	北野寺-1.1	岡崎市	
古新田-1.7	G	平瓦	北野寺-1.7	岡崎市	
古新田-1.8	G	平瓦	北野寺-1.8	岡崎市	
古新田-3.2	G	平瓦	丸山寺-4	岡崎市	
古新田-6.1	F	平瓦	市原-7	豊田市	
古新田-1.1.2	C	平瓦	寺部堂前-7	樽豆町	
古新田-1.6.1	F	平瓦	大久保-5	安城市	
古新田-1.7.6	H	平瓦	寺部堂前-1.4	安城市	
古新田-1.8.2	G	平瓦	寺部堂前-2.0	安城市	
古新田-2.5.9	G	平瓦	古新田-2.0	西尾市	
※タイプ: Q1ー小・P1ー高					
古新田-6.7	I	平瓦	志茂野-1.1	西尾市	
※タイプ: Q1ー中・P1ー低					
古新田-4.4	I	平瓦	白鳥寺-1.0	豊田市	
古新田-4.7	I	平瓦	白鳥寺-1.3	豊田市	
古新田-5.0	I	平瓦	白鳥寺-1.6	豊田市	
古新田-8.3	I	平瓦	志茂野-7	西尾市	
古新田-8.4	C	平瓦	志茂野-8	西尾市	
古新田-9.7	C	平瓦	北流-9	樽豆町	
古新田-9.8	A	平瓦	北流-1.0	樽豆町	
古新田-1.2.4	I	平瓦	神宮寺-8	樽豆町	
古新田-1.2.7	C	平瓦	神宮寺-1.1	樽豆町	
古新田-1.5.2	I	平瓦	別願寺-5	安城市	
古新田-1.5.4	I	平瓦	別願寺-7	安城市	
古新田-1.5.5	G	平瓦	別願寺-8	安城市	
古新田-1.5.6	G	平瓦	別願寺-9	安城市	
古新田-1.7.3	I	平瓦	寺部堂前-1.1	安城市	
古新田-1.8.1	I	平瓦	寺部堂前-1.8	安城市	
古新田-2.0.3	I	平瓦	真木寺-6	真木市	
古新田-2.0.6	I	平瓦	勢動寺文庫前-2	御津町	

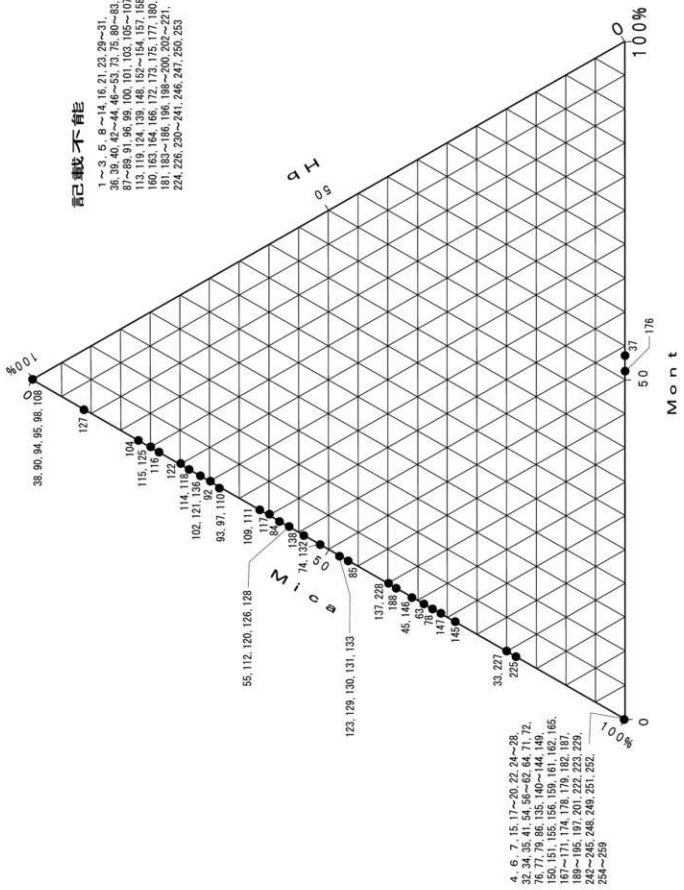
第8表 組成分類表①

試験番号	タイプ	管			通称場所
		分類	互種	通称料No	
古新田-2.07	I	互瓦	勸学院文庫等-3	豊田市	
古新田-2.20	I	互瓦	高玉寺-1	小坂井町	
古新田-2.25	I	互瓦	三河院等-6	豊川市	
古新田-2.39	I	互瓦	三河院等-10	豊川市	
古新田-2.52	G	互瓦	古新田-13	西尾市	
古新田-2.57	G	互瓦	古新田-18	西尾市	
古新田-2.58	G	互瓦	古新田-19	西尾市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.2	I	互瓦	北野貴寺-12	岡崎市	
古新田-1.5	G	互瓦	北野貴寺-15	岡崎市	
古新田-1.8	I	互瓦	北野貴寺-18	岡崎市	
古新田-2.5	G	互瓦	神楽寺-7	岡崎市	
古新田-3.3	E	互瓦	丸山貴寺-5	岡崎市	
古新田-3.4	G	互瓦	丸山貴寺-8	岡崎市	
古新田-4.9	I	互瓦	白鳥寺-15	豊田市	
古新田-5.2	I	互瓦	白鳥寺-18	豊田市	
古新田-5.9	F	互瓦	牛寺-5	豊田市	
古新田-6.0	G	互瓦	牛寺-6	豊田市	
古新田-6.2	F	互瓦	牛寺-8	豊田市	
古新田-6.4	F	互瓦	牛寺-10	豊田市	
古新田-1.25	C	互瓦	神宮寺-9	樽原町	
古新田-1.26	C	互瓦	神宮寺-10	樽原町	
古新田-1.44	G	互瓦	勢動寺-5	豊田市	
古新田-1.53	I	互瓦	勢動寺-5	安城市	
古新田-1.60	I	互瓦	大久保-4	安城市	
古新田-1.75	I	互瓦	寺領貴寺-13	安城市	
古新田-1.80	I	互瓦	寺領貴寺-18	安城市	
古新田-1.92	G	互瓦	神明瓦-10	豊田市	
古新田-1.97	G	互瓦	神明瓦-15	豊田市	
古新田-2.21	I	互瓦	高玉寺-2	小坂井町	
古新田-2.22	G	互瓦	高玉寺-3	小坂井町	
古新田-2.23	G	互瓦	高玉寺-4	小坂井町	
古新田-2.46	I	互瓦	古新田-7	西尾市	
古新田-2.47	I	互瓦	古新田-8	西尾市	
古新田-2.48	G	互瓦	古新田-9	西尾市	
古新田-2.49	G	互瓦	古新田-10	西尾市	
古新田-2.54	G	互瓦	古新田-15	西尾市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.45	E	互瓦	勢動寺-6	豊田市	
古新田-1.47	E	互瓦	勢動寺-8	豊田市	
互タイプ-その他					
古新田-1.46	E	互瓦	勢動寺-7	豊田市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.28	C	軒瓦	赤渡-1	豊橋市	
古新田-1.29	E	軒瓦	赤渡-2	豊橋市	
古新田-1.30	E	軒瓦	赤渡-3	豊橋市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.17	C	軒瓦	神宮寺-1	樽原町	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1	I	軒瓦	北野貴寺-1	岡崎市	
古新田-2	I	軒瓦	北野貴寺-2	岡崎市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.31	D	軒瓦	赤渡-4	豊橋市	
古新田-1.32	B	軒瓦	赤渡-5	豊橋市	
古新田-1.33	D	軒瓦	赤渡-6	豊橋市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.06	I	軒瓦	寺領貴寺-1	樽原町	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.65	G	瓦	寺領貴寺-3	安城市	
古新田-1.68	G	瓦	寺領貴寺-5	安城市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-2.2	G	瓦	真福寺-4	岡崎市	
古新田-5.5	C	瓦	牛寺-1	豊田市	
古新田-5.6	F	瓦	牛寺-2	豊田市	
古新田-5.7	G	瓦	牛寺-3	豊田市	
古新田-1.87	G	瓦	神明瓦-5	豊田市	
古新田-2.25	E	瓦	山ノ入-3	豊川市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-2	I	瓦	北野貴寺-3	岡崎市	
古新田-8	I	瓦	北野貴寺-8	岡崎市	
古新田-2.3	I	瓦	真福寺-5	岡崎市	
古新田-1.48	I	瓦	別願貴寺-1	安城市	
古新田-1.57	I	瓦	大久保-1	安城市	

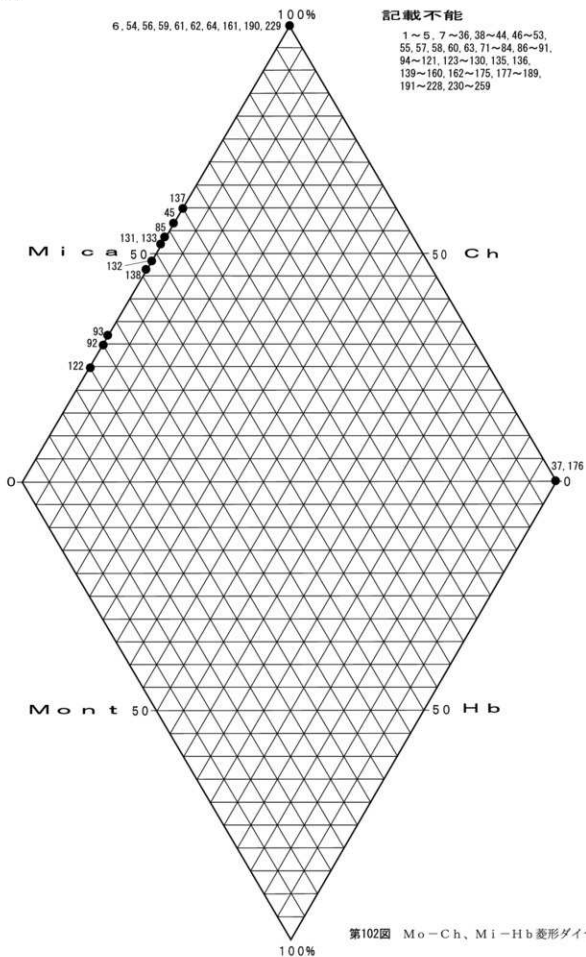
試験番号	タイプ	管			通称場所
		分類	互種	通称料No	
古新田-1.83	I	瓦	神明瓦-1	豊田市	
古新田-1.98	I	瓦	神木貴寺-1	豊田市	
古新田-2.32	I	瓦	三河院等-3	豊川市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.0	I	瓦	北野貴寺-10	岡崎市	
古新田-2.0	G	瓦	真福寺-2	岡崎市	
古新田-5.8	G	瓦	牛寺-4	豊田市	
古新田-1.35	G	瓦	赤渡-8	豊橋市	
古新田-1.41	G	瓦	勢動寺-2	豊田市	
古新田-1.42	G	瓦	勢動寺-3	豊田市	
古新田-1.43	G	瓦	勢動寺-4	豊田市	
古新田-1.49	G	瓦	別願貴寺-2	安城市	
古新田-1.51	G	瓦	別願貴寺-4	安城市	
古新田-1.84	I	瓦	神明瓦-2	豊田市	
古新田-1.85	I	瓦	神明瓦-3	豊田市	
古新田-1.86	I	瓦	神明瓦-4	豊田市	
古新田-1.88	E	瓦	神明瓦-6	豊田市	
古新田-1.89	G	瓦	神明瓦-7	豊田市	
古新田-1.90	F	瓦	神明瓦-8	豊田市	
古新田-1.91	G	瓦	神明瓦-9	豊田市	
古新田-1.99	I	瓦	神木貴寺-2	豊田市	
古新田-2.00	I	瓦	神木貴寺-3	豊田市	
古新田-2.05	I	瓦	寺領貴寺等-1	樽原町	
古新田-2.24	I	瓦	山ノ入-1	豊川市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-2.10	I	瓦	下石松-3	三好町	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-7.6	G	互瓦	西尾-6	西尾市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-2.6	G	互瓦	真福寺-8	豊田市	
古新田-1.78	G	互瓦	寺領貴寺-10	安城市	
古新田-1.93	G	互瓦	神明瓦-11	豊田市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.4	I	互瓦	北野貴寺-14	岡崎市	
古新田-4.2	I	互瓦	白鳥寺-6	豊田市	
古新田-2.02	I	互瓦	神木貴寺-5	豊田市	
古新田-2.04	I	互瓦	神木貴寺-7	豊田市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.3	E	互瓦	北野貴寺-13	岡崎市	
古新田-6.3	E	互瓦	牛寺-9	豊田市	
古新田-7.5	I	互瓦	西尾-5	西尾市	
古新田-9.6	I	互瓦	北尾-8	樽原町	
古新田-10.0	I	互瓦	北尾-12	樽原町	
古新田-1.79	G	互瓦	寺領貴寺-17	安城市	
古新田-1.84	G	互瓦	神明瓦-12	豊田市	
古新田-1.86	I	互瓦	神明瓦-14	豊田市	
古新田-2.01	G	互瓦	神木貴寺-4	豊田市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.39	I	互瓦	赤渡-12	豊橋市	
古新田-1.62	G	互瓦	大久保-6	安城市	
古新田-2.14	I	互瓦	下石松-7	三好町	
古新田-2.17	I	互瓦	下石松-10	三好町	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-8.9	I	軒瓦	赤渡-1	樽原町	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.70	C	瓦	寺領貴寺-8	安城市	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-2.09	I	瓦	下石松-2	三好町	
古新田-2.11	I	瓦	下石松-4	三好町	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.13	I	互瓦	寺領貴寺-8	樽原町	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-1.95	G	互瓦	神明瓦-13	豊田市	
古新田-2.12	I	互瓦	下石松-5	三好町	
古新田-2.15	I	互瓦	下石松-8	三好町	
古新田-2.18	I	互瓦	下石松-10	三好町	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-4.3	I	互瓦	白鳥寺-9	豊田市	
古新田-2.12	I	互瓦	下石松-6	三好町	
古新田-2.16	I	互瓦	下石松-9	三好町	
古新田-2.19	I	互瓦	下石松-12	三好町	
互タイプ-Q1-中-P1-高					
古新田-2.08	I	軒瓦	下石松-1	三好町	

第9表 組成分類表②

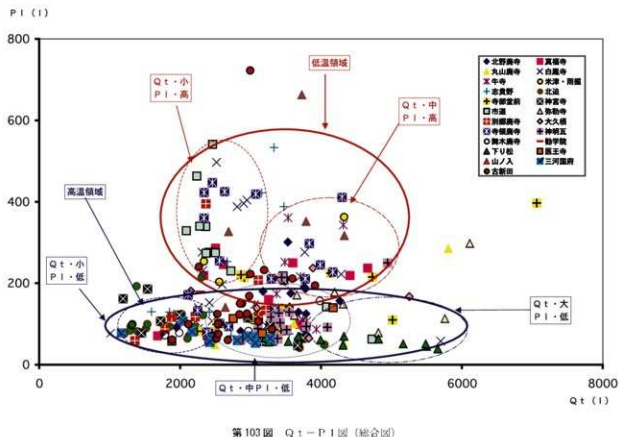
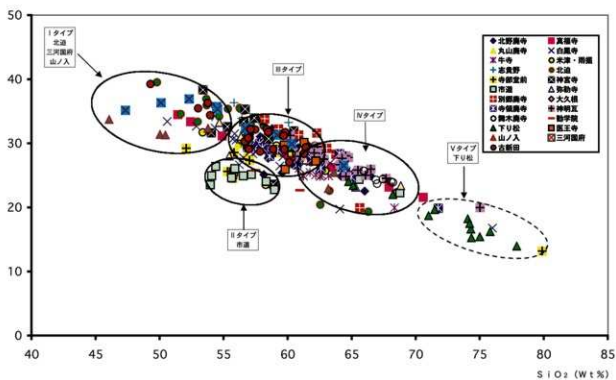


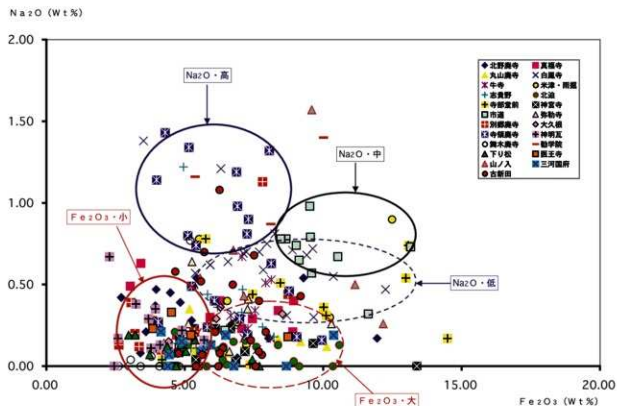


第101図 Mo-Mi-Hb 三角ダイヤグラム

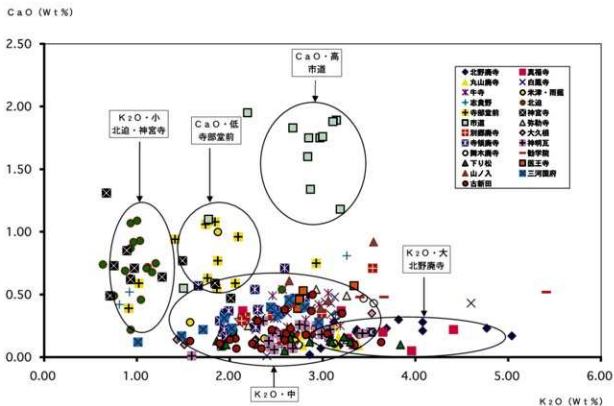


第102図 Mo-Ch, Mi-Hb 菱形ダイアグラム

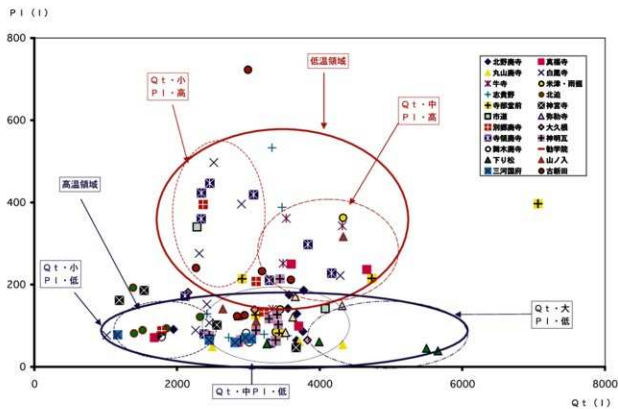
Al₂O₃ (Wt%)



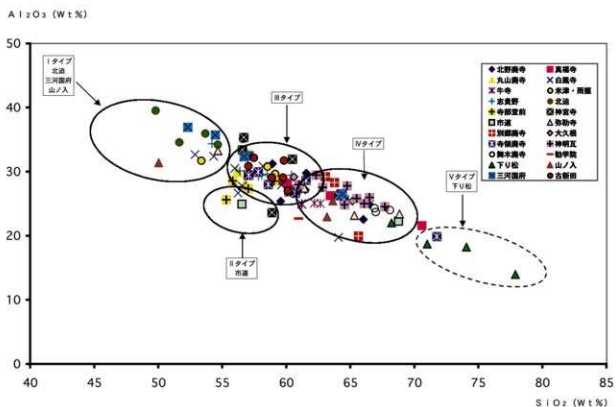
第105圖 Fe_2O_3 - Na_2O 図(綜合圖)

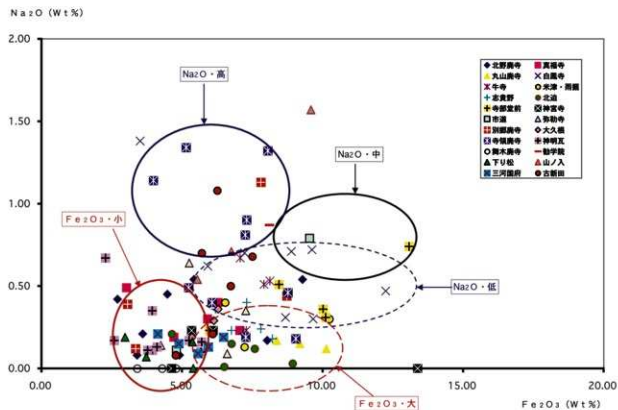


第106圖 K_2O - CaO 図(綜合圖)

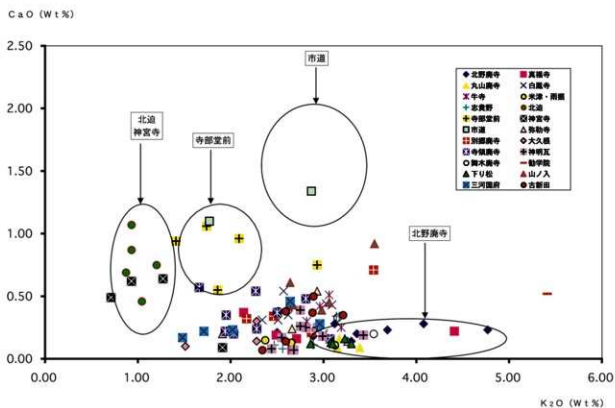


第107図 Qt-P1図 (丸丸)

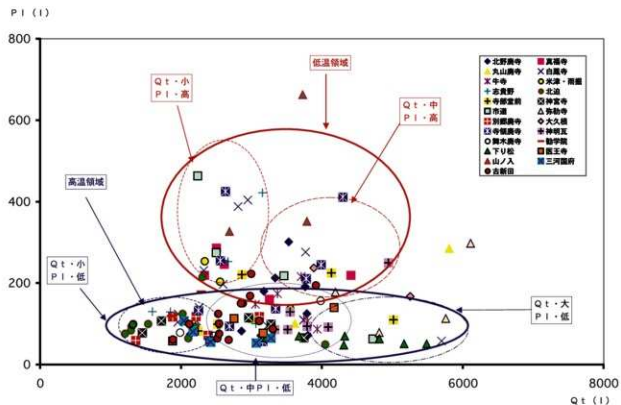
第108図 SiO₂-Al₂O₃図 (丸丸)



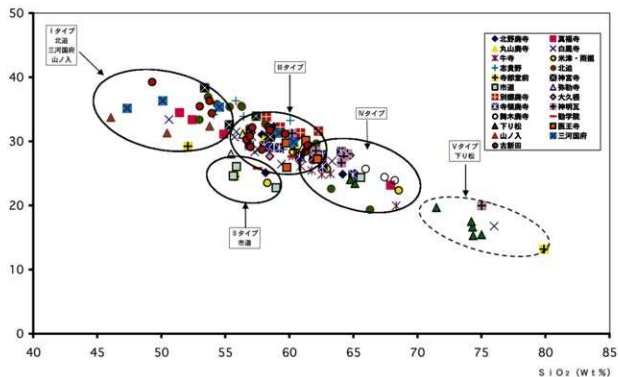
第109図 Fe₂O₃-NazO図 (丸瓦)

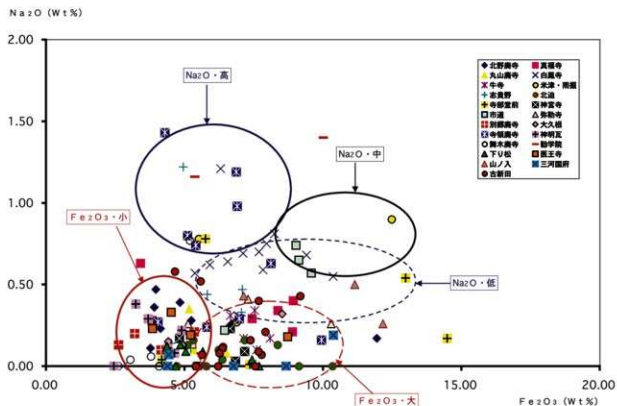


第110図 K₂O-CaO図 (丸瓦)

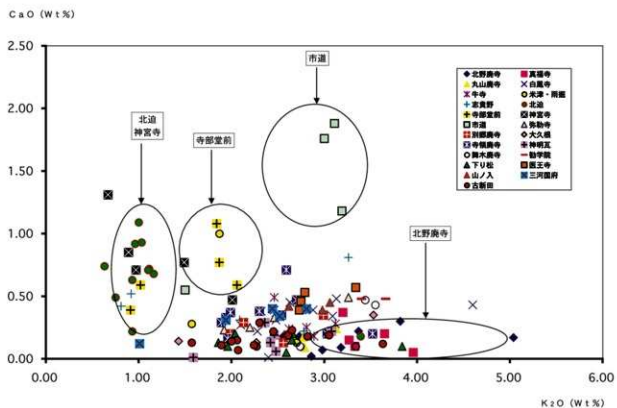


第111圖 Q t - P I 圖 (平均)

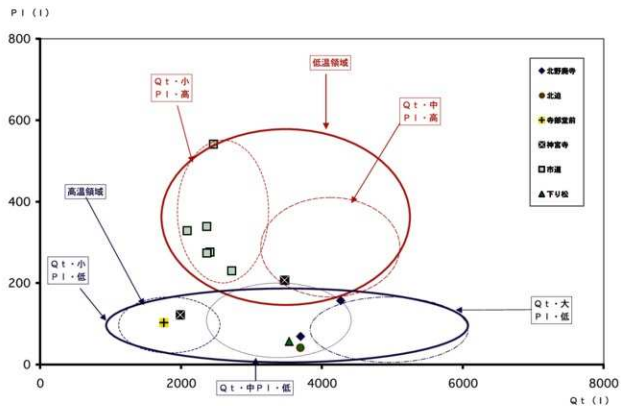
Al₂O₃ (Wt%)第112圖 SiO₂ - Al₂O₃ 圖 (平均)



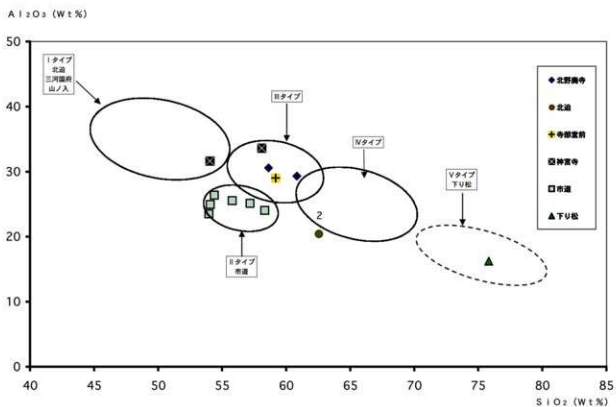
第113圖 Fe₂O₃-NazO圖 (平瓦)

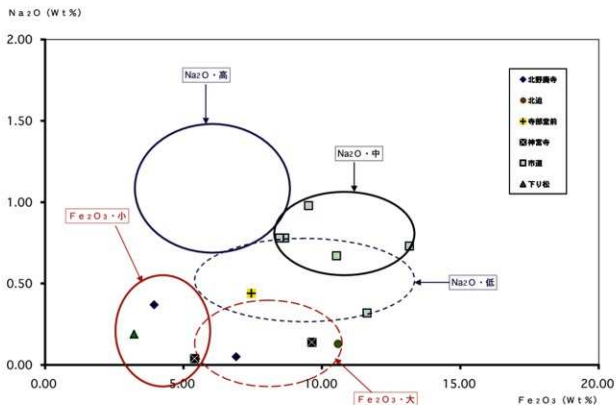


第114圖 K₂O-CaO圖 (平瓦)

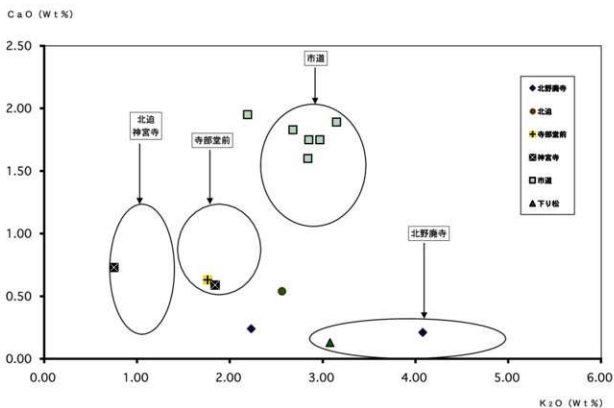


第115図 Qt-P1図 (軒平瓦・軒丸瓦)

第116図 SiO₂-Al₂O₃図 (軒平瓦・軒丸瓦)



第117圖 Fe₂O₃-NazO圖 (軒平瓦・軒丸瓦)



第118圖 K₂O-CaO圖 (軒平瓦・軒丸瓦)

3. 焼土坑焼土の焼成年代推定

藤根 久・Zauri Lomtatzize (パレオ・ラボ)

1. はじめに

古新田遺跡は、西尾市志貴野町の矢作川沿い台地上に位置する遺跡である。調査では、古瀬戸の陶器を伴う溝を切って楕円形焼土坑(S K 835)が検出された。ここでは、この焼土坑の焼土の熱残留磁化を測定し、その磁化方向から焼成年代を推定した。

2. 考古地磁気年代推定の原理

地球上には地磁気が存在するために、磁石は北を指す。この地磁気は、その方向と強度(全磁力)によって表される。方向は、真北からの角度である偏角(Declination)と水平面からの角度である伏角(Inclination)によって表す。磁気コンパスが北として示す方向(磁北)は、真北からずれており、この間の角度が偏角である。また、磁針をその重心で支え磁南北と平行な鉛直面内で自由に回転できるようにすると、北半球では磁針のN極が水平面より下方を指す。この時の傾斜角が伏角である。現在、この付近の偏角は約 6.74° 、伏角は約 48.05° 、全磁力(水平分力)は約 $30956.5(\text{nT})$ である(理科年表、1993; いずれも1990年値)。これら地磁気の三要素(偏角・伏角・全磁力)は、観測する地点によって異なる値になる。全世界地磁気三要素の観測データの解析から、現在の地磁気の分布は、地球の中心に棒磁石を置いた時にできる磁場分布に近似される。また、こうした地磁気は時間の経過とともに変化し、ある地点で観測される偏角や伏角あるいは全磁力の値も時代とともに変化する。この地磁気の変動を地磁気年変化と呼んでいる。

過去の地磁気の様子は、高温に焼かれた窯跡や炉跡などの焼土、地表近くで高温から固結した火山岩あるいは堆積物などの残留磁化測定から知ることができる。大半の物質は、ある磁場中に置かれると磁気を帯びるが、強磁性鉱物(磁鉄鉱など)はこの磁場が取り除かれた後も磁気が残る。これが残留磁化である。考古地磁気では、焼土の残留磁化(熱残留磁化)が、焼かれた当時の地磁気の方向を記録していることを利用する。こうした地磁気の化石を調べた結果、地磁気の方向は少しずつではあるが変化しており、その変化は地域によって違っていることが分かっている。過去2,000年については、西南日本の窯跡や炉跡の焼土の熱残留磁化測定から、その変化が詳しく調べられている(広岡、1977; Shibuya, 1980)。一方、地磁気には地域差が認められることから、東海地方の地磁気年変化曲線が求められている(広岡・藤澤、1998; 第119図)。

こうした年代のよく分かっている窯跡焼土や火山岩の熱残留磁化測定などから地磁気年変化曲線が得られると、逆に年代の確かでない遺跡焼土などの残留磁化測定を行い、先の地磁気年変化曲線と比較することによって、その焼成時の年代が推定できる。また、年代が推定されている窯跡焼土などについても、土器とは違った方法で焼成時の年代を推定できることから、さらに科学的な裏付けを得ることができる。この年代推定法が考古地磁気による年代推定法である。ただし、この方法は、 14C 年代測定法など他の絶対年代測定法のように、測定結果単独で年代の決定を決定する方法ではな

い。すなわち、焼土の熱残留磁化測定から得られる偏角および伏角の値からは複数の年代値が推定されるが、いずれを採用するかは、焼き物等の年代が参考となる。

3. 試料採取と残留磁化測定

考古地磁気による年代推定は、a) 測定用試料の採取および整形、b) 残留磁化測定および統計計算を行い、c) 地磁気永年変化曲線との比較を行い、焼成年代を推定する。なお、試料の磁化保持力や焼成以後の二次的な残留磁化の有無などを確認するために、段階交流消磁も行った。

a. 測定用試料の採取および整形

試料は、床焼土面において、①一辺約4cmの立方体試料を取り出すため、瓦用ハンマーなどを用いて、対象とする部分（良く焼けた部分）の周囲に溝を掘る。②薄く溶いた石膏を試料全体にかけ、試料表面を補強する。③やや固め（練りハマガキ程度）の石膏を試料上面にかけ、すばやく一辺5cmの正方形のアルミ板を押し付け、石膏が固まるまで放置する。④石膏が固まった後、アルミ板を剥し、この面の最大傾斜の方位および傾斜角を磁気コンパス（考古地磁気用に改良したクリノメータ）で測定し、方位を記録すると同時に、この面に方位を示すマークと番号を記入する。⑤試料を掘り起こした後、試料の底面に石膏をつけて補強し持ち帰る。⑥持ち帰った試料は、ダイヤモンド・カッターを用いて一辺3.5cm・厚さ2cm程度の立方体に切断する。この際切断面が崩れないように、一面ごとに石膏を塗って補強し、熱残留磁化測定用試料とする。採取した試料は、広範囲に焼けた焼土部分から9試料を採取した。

b. 段階交流消磁、熱残留磁化測定および統計計算の結果

熱残留磁化測定は、リング・コア型スピナー磁力計（SMM-85：柳夏原技研製）を用いて測定した。磁化保持力の様子や放棄された後の二次的な磁化の有無を確認するため、任意1試料（No.6）について交流消磁装置（DEM-8601：柳夏原技研製）を用いて段階的に消磁を行い、その都度スピナー磁力計を用いて残留磁化を測定した。その結果、試料の磁化強度は10-3～10-4 emuと強いことが分かり、NRM（自然残留磁化）に対する強度は、750e消磁において約78%と高い値であった。さらに、磁化方向は、両者とも中心に向かって直線的に変化し、安定した方向を記録していることが分かった。

以上の理由から、750e消磁した際の残留磁化方向が焼成時の磁化方向であると判断した。そこで、これ以外の段階交流消磁を行っていない試料も、750e消磁した後残留磁化を測定した。

複数試料の測定から得た偏角（ D_i ）、伏角（ I_i ）を用いて、Fisher（1953）の統計法により平均値（ D_m 、 I_m ）を求めた。信頼度計数は、約1991.84であり、従って伏角および偏角の各誤差が小さな値であった（第10表）。

求めた残留磁化方向は、真北を基準とする座標に対する数値に補正する。偏角は、建設省国土地理院の1990.0年の磁気偏角近似式から計算した $6.74^{\circ}W$ を使用した。その結果は、広岡・藤澤（1998）による地磁気変化曲線とともにプロットした。図中測定点に示した楕円は、フッシャー（1953）の95%信頼角より算定した偏角および伏角の各誤差から作成したものである。

4. 焼成年代値の推定

第11図には、広岡・藤澤（1998）による東海地方の地磁気永年変化（実線）の一部曲線とともに焼土坑の焼土の磁化方向を示した。

磁化方向は、標準曲線から外れるものの、1,200～1,300年間に近い位置にある。年代の推定は、この磁化方向にもっとも近い標準曲線上に移動して推定した。その結果、第11表のような年代値が推定された。

引用文献

Fisher, R. A. (1953) Dispersion on a sphere. Proc. Roy. Soc. London, A, 217, 295-305.

広岡公夫（1977）考古学地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向、第四紀研究、15、200-203.

広岡公夫・藤澤良祐（1998）東海地方の地磁気永年変化、日本文化財科学会第15回大会発表要旨集、20-21.

理科年表（1993）国立天文台編、丸善、952p

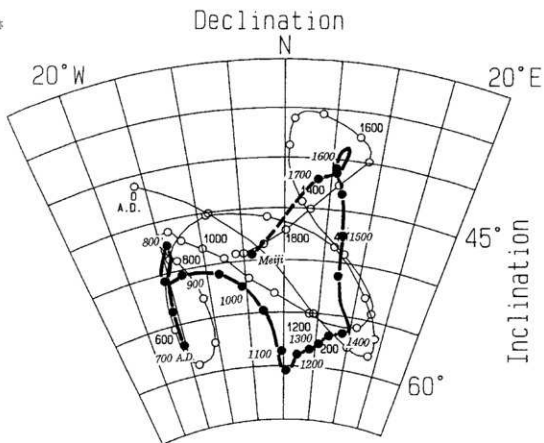
Shibuya, H. (1980) Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000years by means of archaeomagnetism. 大阪大学基礎工学部修士論文、54p

遺構名	試料No.	偏角(°E)	伏角(°)	強度($\times 10^{-4}$ emu)	備考	統計処理項目	統計値
焼土坑 (750e消磁)	1	13.2	63.3	0.333		試料数 (n)	9
	2	14.3	58.4	0.971			
	3	13.3	61.0	1.971			
	4	9.8	60.9	1.046		平均偏角 I _w (°E)	12.05
	5	9.0	58.8	1.327		平均伏角 I _v (°)	60.23
	6	10.3	60.3	1.245	段層交流消磁		
	7	11.7	60.2	0.994		誤差角 δD (°)	2.32
	8	13.6	60.6	0.493			
	9	13.3	58.3	0.477		誤差角 δI (°)	1.15
	10						
	11					信頼度計数 (k)	1991.84
	12						
	13					平均磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu)	0.98
	14						

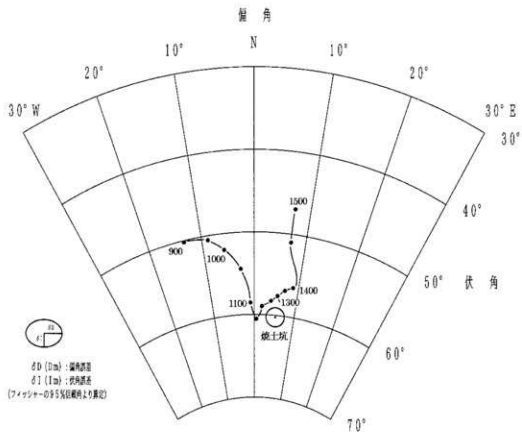
第10表 焼土坑の焼土の残留磁化測定（偏角補正前）

遺構	遺物年代	残留磁化による推定年代
焼土坑	古瀬戸以降	A. D. 1,240±50年

第11表 焼土坑の焼成年代推定値



第119図 広岡・藤澤 (1998) による東海地方の考古学磁気永年変化曲線 (太線)



第120図 焼土坑焼土の残留磁化方向と広岡・藤澤 (1998) の考古地磁気永年変化曲線の一部

第V章 まとめ



調査区全景（西から）

まとめ

以上、古新田遺跡における発掘調査によって得られた成果を、遺構・遺物などの各項目に分けて事実関係をできるだけ限り報告してきた。本遺跡では古代・中世・江戸時代の3つの時期の遺構と遺物を確認することができた。最後に、3つの時期を中心に分かったことを概説しまとめとする。

1. 古代以前

本遺跡においては、古代以前にまで遡ることができる遺構は確認されていない。しかし、縄文時代と考えられる石器類が出土している。これをどのように考えるのかということであるが、本遺跡がある磐海台地上には縄文時代後・晩期に属する八王子貝塚や枯木宮貝塚が知られている。矢作川分岐点近くの台地上においても、縄文時代の人々が活動していたことが確認された。

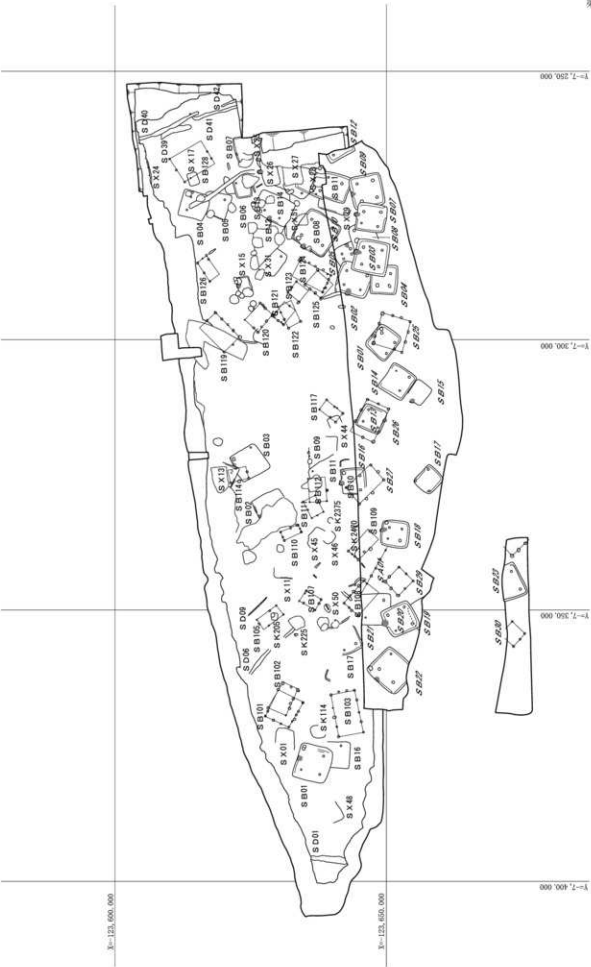
2. 古代（飛鳥時代～平安時代）

矢作川流域を見てみると、梅坪遺跡・今町遺跡・神明遺跡・水入遺跡・小針遺跡など多くの古代集落遺跡が知られ、中には拠点的な大規模集落も見ることができる。本遺跡周辺でも、加美遺跡・大畑遺跡・志貴野遺跡・八ツ面北部遺跡などの集落遺跡が知られている。

本遺跡では竪穴住居と思われる遺構が調査区全体で40棟近く確認され、この付近でもある程度の集落が形成されていたことが確認された。その中でも、形状が隅丸方形のものと隅丸長方形のものがあり、これが時期による違いなのか、住居の機能の違いに起因しているのかは検証することができていない。住居の時期は、出土遺物から飛鳥時代から奈良時代までと考えられる。一般的な住居とはやや異なり、杯の出土量が少なく、高杯・蓋の出土量が多く、他にミニチュアの鍋などが出土している。また、古代に属するとみられる掘立柱建物も23軒が検出されているが、出土遺物が少なく時期は決定できなかった。しかし、西尾市教育委員会の調査例を参考にし、検出段階で10世紀前後の遺物が出土していることから平安時代と推定できる。

また、調査区の南側には志貴野廃寺推定地が隣接している。志貴野廃寺については発掘調査が実施されておらず不明な点が多いが、古代瓦が広い範囲で採集され礎石と思われる石があったということから、古代寺院が存在したと考えられている。さらに南には志貴野廃寺に瓦を供給したとされる大郷瓦窯跡が位置している。今回、本遺跡から多量の古代瓦や瓦塔が出土している。志貴野廃寺に関係するものか、大郷瓦窯に関係するものか、それ以外なのかは不明である。しかし、出土した軒丸瓦の瓦当部の文様が数種類確認され時期幅が見られることや、平瓦において調整の異なる瓦が確認されていることなどから、志貴野廃寺との直接の関係は薄いように思われる。また、大郷瓦窯跡で出土した軒丸瓦と同范と思われる瓦が出土していることを含めると、大郷瓦窯との関係が深いと考えられる。

従来、古新田遺跡が位置する地点は「和名類聚抄」にある田幡豆郡内の熊来郷または大川郷に含まれると考えられている。しかし、第IV章で述べたように幡豆郡とするのに明確な根拠があるわけではない。本遺跡部分是对岸の安城市と同じ台地上にあり、その端部に位置していることなどから、所属する郡郷については研究課題として残しておきたい。



第121図 古代の主要遺構 (1:700)

3. 中世(鎌倉時代～室町時代)

この時期については周辺の加美遺跡や八ツ面山北部遺跡などで集落があったこと以外、詳しいことはわかっていない。中世の遺構については、溝・井戸・土坑の他にこの時期と考えられる掘立柱建物5軒が確認されている。調査区に幅がないため正確なことは不明であるが、溝に囲まれた区画の中に井戸と掘立柱建物が配置されているようで、屋敷地がある程度の規格をもって存在していたと考えられる。また、土坑の中には焼土土坑と思われるものや土坑墓と思われるものがあるが、時期や土坑の性格については出土遺物が小片が多いため不明な点が多い。なお、西尾市教育委員会の調査において室町時代の火葬施設が検出されている。焼土土坑が中世の溝を切っていることから、新しい時期(室町時代)と考えられる。磁気測定の結果も近い数値を示している。

4. 近世(江戸時代)

近世以前の矢作川は、岡崎市域から続く三河高原東部山地の丘陵地帯と碧海台地との間を奔放に幾筋かに分かれて流れていたと考えられる。そのため、大雨が降る度に川が氾濫して周辺の住民を苦しめていたようである。そこで、慶長10(1605)年に、現在の安城市木戸町から西尾市米津町までの間の台地を掘り割って新川の開削工事が行われた。その規模は全長12町(1,300m)、川幅20間(36m)、底幅4間(7.2m)で、これにより旧河川は矢作古川と呼ばれるようになった。さらに西尾市米津町から当時島であった碧南市鷺塚町まで築堤された(西尾市上町地内の最上流である宇藤波から田貫町までの築堤の完成は元和4(1618)年とされている)。これにより入り海の高潮が進み、今まで海であった油ヶ瀬は湖沼となり、干拓事業などが進められていった。

その後の寛文5(1665)年、幡豆郡西浅井村の畔柳甚五兵衛の開発により幡豆郡浅井新田村と呼ばれていたが、寛文11(1671)年には碧海郡に属し、元文3(1738)年に古新田村と呼ばれるようになったといわれている。

江戸時代と思われる遺構は、調査区の東壁において堤防跡と思われる部分がセクションで確認されたのみである。しかし、旧堤防の下から出土した遺物がごく僅かしかないので、この堤防跡の正確な時期についてはわからない。

5. 明治以降

明治13(1880)～20(1887)年までの間、京都東本願寺の再建瓦を焼く製瓦場が古新田村におかれていた。この時期の遺構・遺物については検出できていない。ただし、調査区内で確認された平面形が円形または楕円形の攪乱は、瓦の原料である粘土採掘坑の跡といわれている。その多くは砂で埋められていた。

明治17(1884)年、碧海郡古新田村・新々田村(明和4(1767)年に碧海郡福桶村鈴木九右衛門が開発している)・藤井村字出崎は合併し、志貴野村と改称されて幡豆郡に編入された。明治21(1888)年に市町村制が公布され、明治22(1889)年町村制が実施されて、幡豆郡久麻久村大字志貴野となる。明治39(1906)年には西尾町大字志貴野となり、以後昭和28(1953)年に西尾市志貴野町となった。

今回、古代瓦の胎土分析に力点をおきすぎってしまったため、それ以外の遺物がほとんど検討される



第122回 中世の主要遺構 (1:700)

ことなくなおざりにされた感がある。また、遺構についても細かな検討が十分に行われたとは言いきれず、不明な点が多く残されており本当に不十分な報告書になってしまった。これは単に筆者の力量不足に他ならず、これからの研究課題としておきたい。

最後になりましたが、多くの方々のご協力を得て本書を編集することができました。発掘調査に参加していただいた発掘調査補助員・発掘作業員のみなさん、整理作業を行っていただいた調査研究補助員・整理補助員・整理作業員のみなさん、現場や整理段階でご指導・ご教示をいただいた方々など、すべての皆様にご心より感謝申し上げます。

(小嶋廣也)

参考文献

- 鈴木とよ江 『古新田遺跡』 西尾市教育委員会 1994
- 松井 直樹 『志貴野遺跡』 西尾市教育委員会 1990
- 『八ツ面山北部遺跡Ⅰ』 西尾市教育委員会 1991
- 『八ツ面山北部遺跡Ⅱ』 西尾市教育委員会 1992
- 『八ツ面山北部遺跡Ⅲ』 西尾市教育委員会 1993
- 『西尾市史 一 自然環境・原始・古代』 西尾市史編纂委員会 1973
- 『西尾市史 二 古代・中世・近世上』 西尾市史編纂委員会 1974

図 版



整理作業風景

凡例

1. 遺構番号

SB: 竪穴住居・掘立柱建物 SD: 溝 SE: 井戸 SK: 土坑 SX: その他
ただし、今回の調査においては、柱穴と判断できてもPitではなくSKをつけている。また、遺構図においてはSKは4桁の数字のみで表記している。なお、西尾市教育委員会の調査で確認された遺構については、混同を避けるため番号を付けていない。

2. 縮率

遺構図版割付図 1:1,000

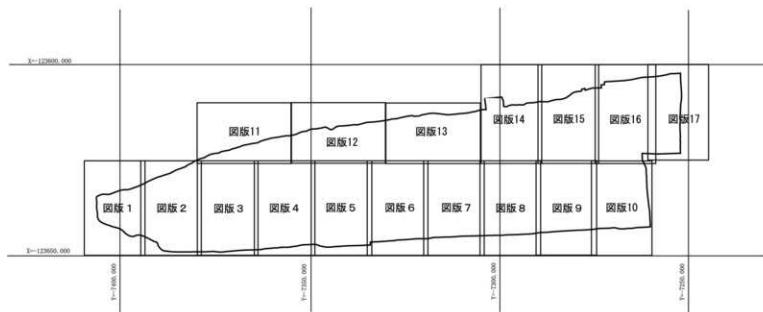
遺構図 1:100

遺物 基本的には1:4であるが、一部に1:2、1:6がある。

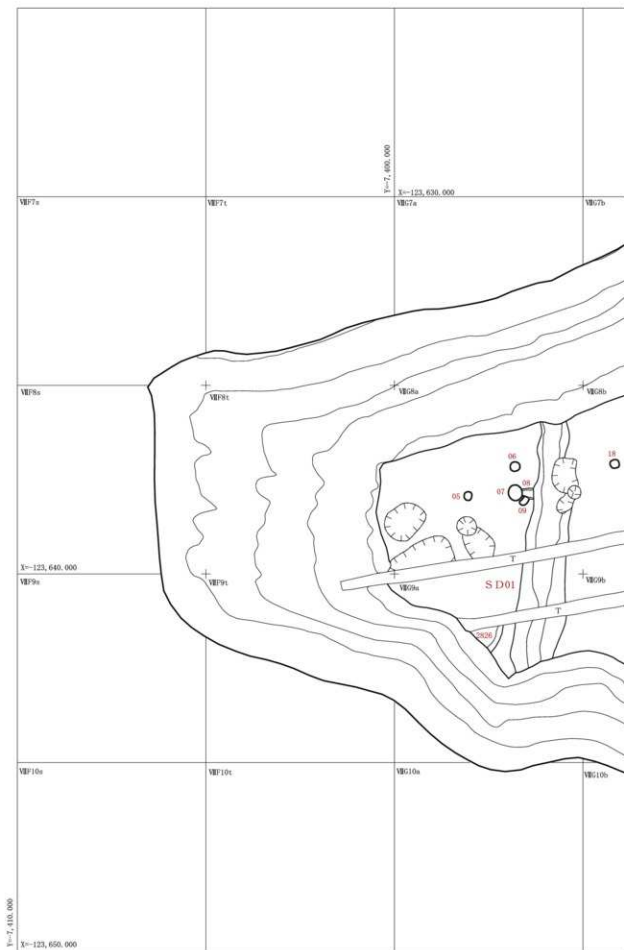
遺物の番号については、挿図中の番号と同一である。ただし、それぞれの番号の前に古代の遺物の場合は「古」をつけて示している。以下同様に、製塩土器は「塩」、土鍾は「土」、古代の瓦は「古瓦」、瓦塔は「塔」、中世の遺物は「中」、その他の時代の遺物は「他」、その他の瓦は「他瓦」、金属製品は「金」、石器類は「石器」、石製品は「石」をつけて区別している。

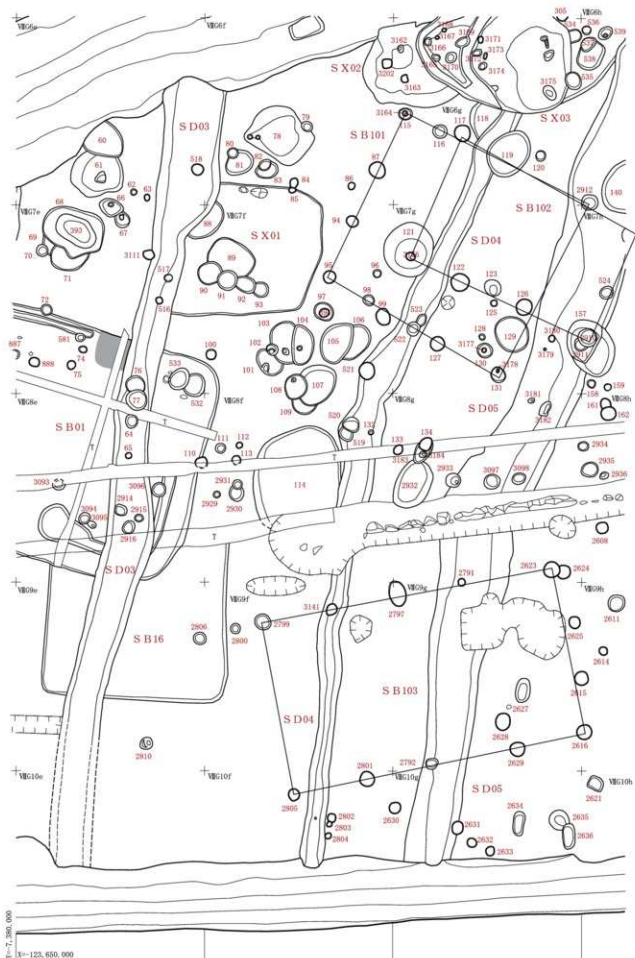
3. 付表（遺構一覧・遺物一覧）

遺構一覧は本書中には掲載していないが、遺物一覧の一部は挿図の下に掲載している。付属のCD-ROMの中には収録してあるが、一覧表の中の法量のうち、数値の前に記された「残」は残存している部分のみの計測値を示し、「推」は復元推定値を示している。なお、遺構一覧の規模については、遺構図から計測した数値であり、実際の測定値ではない。

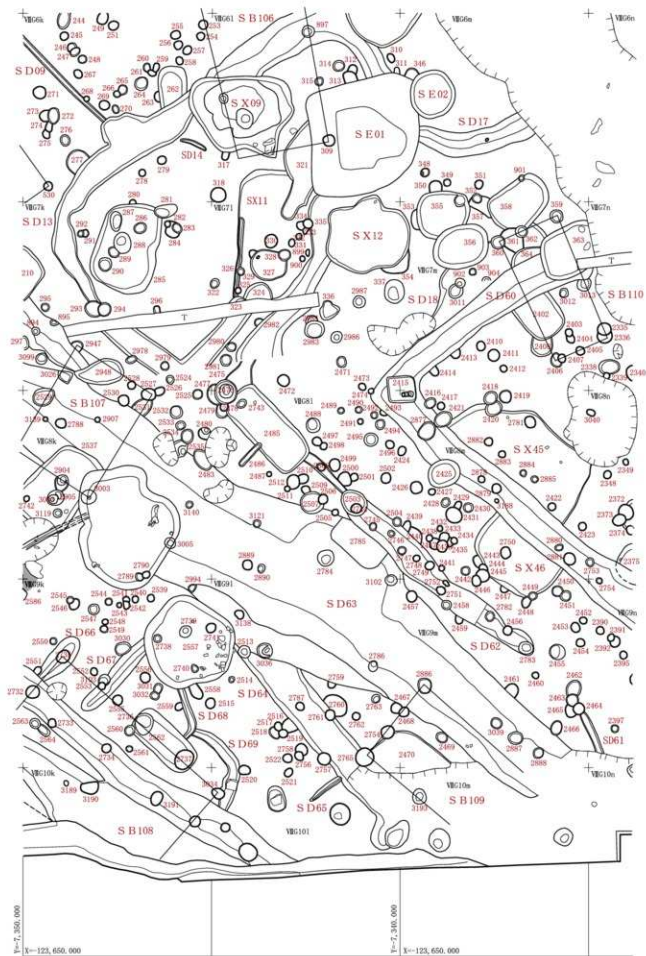


遺構図版割付図 (1:1,000)

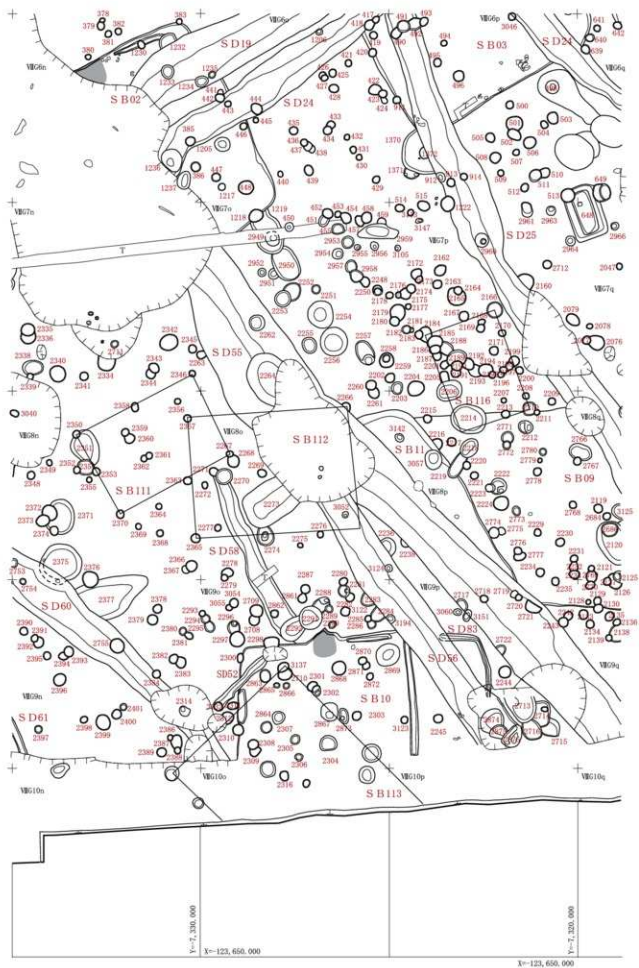


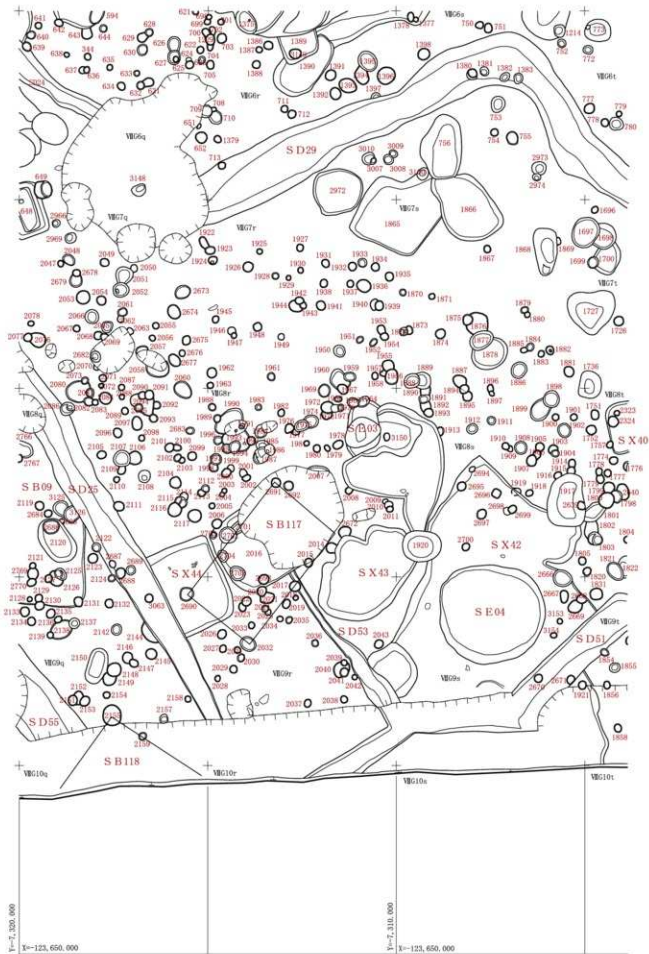


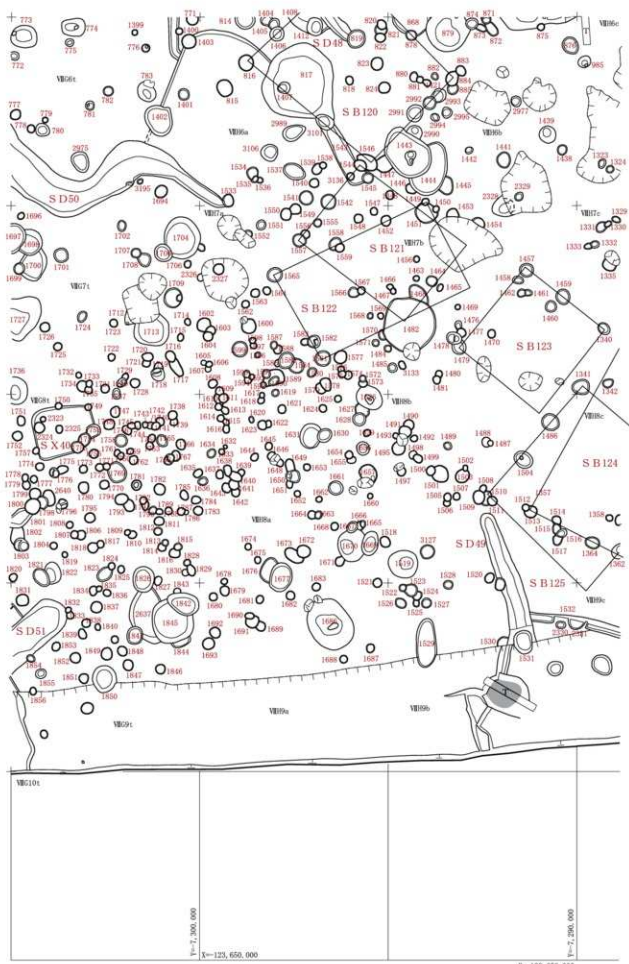
0-125,650,000

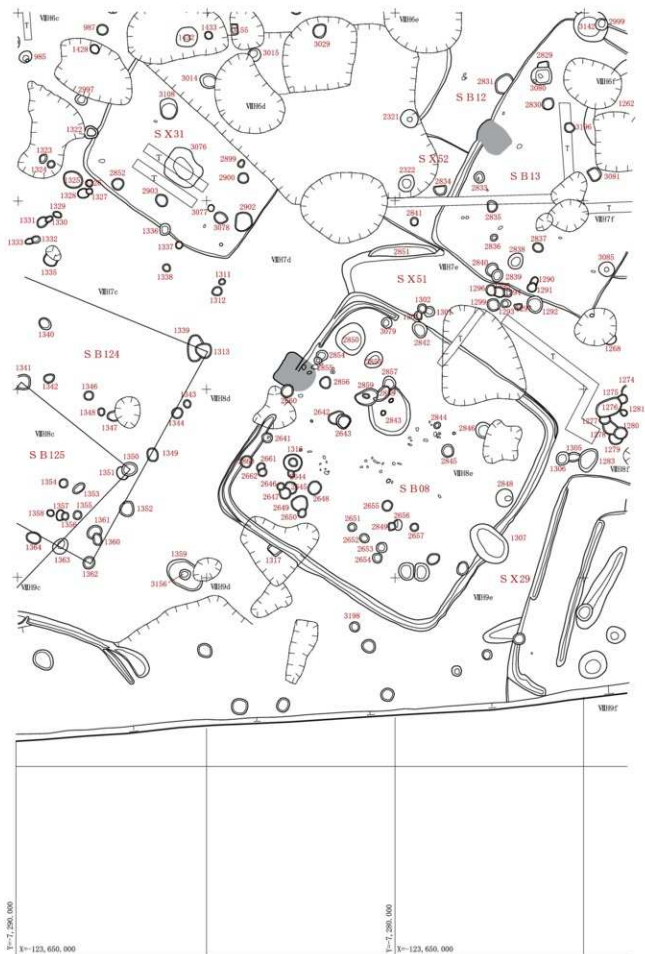


図版 6 遺構図(6)



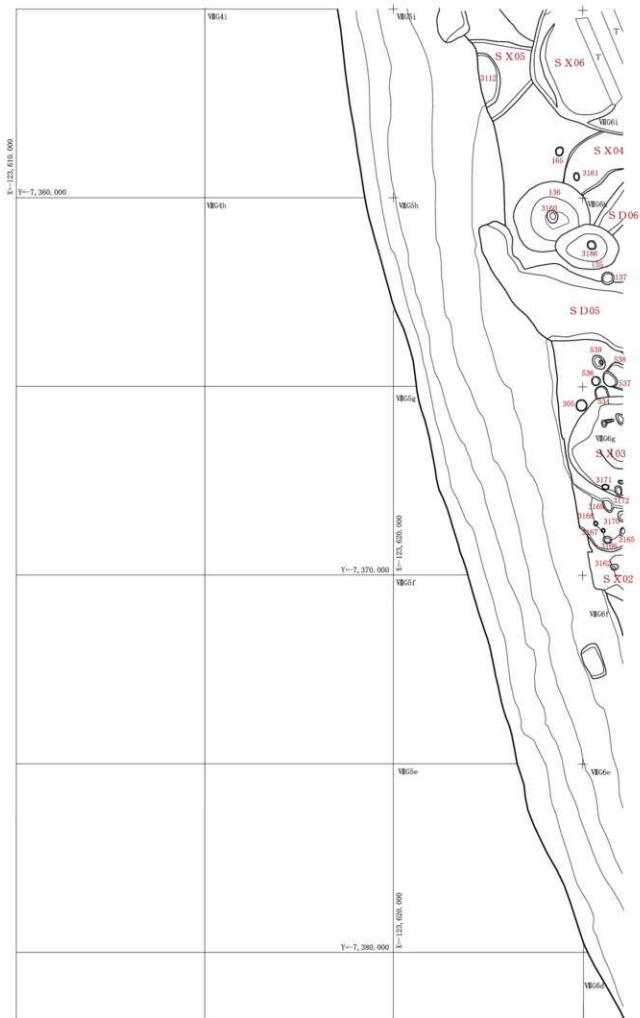


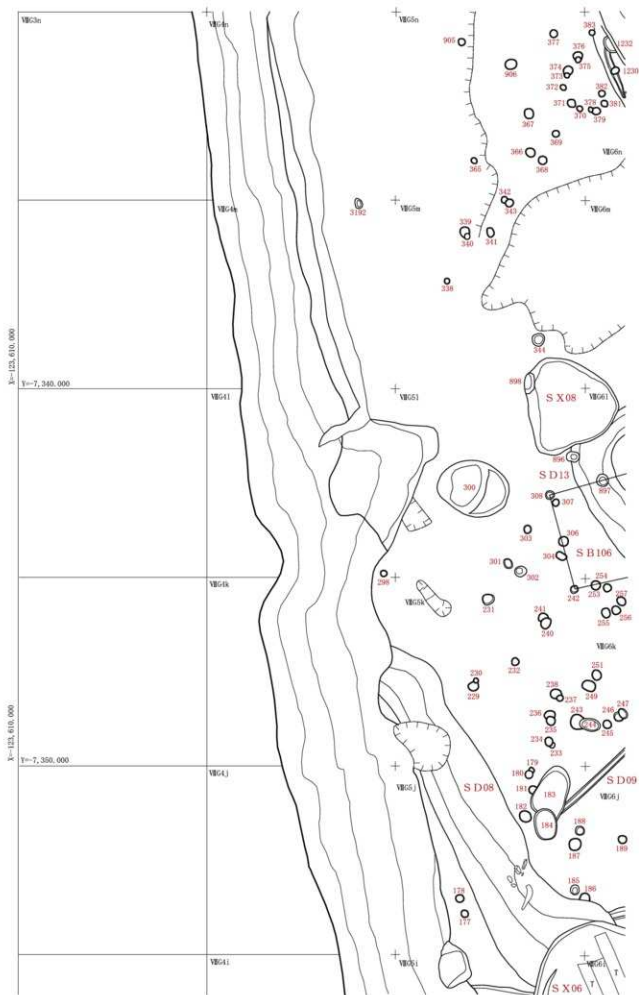


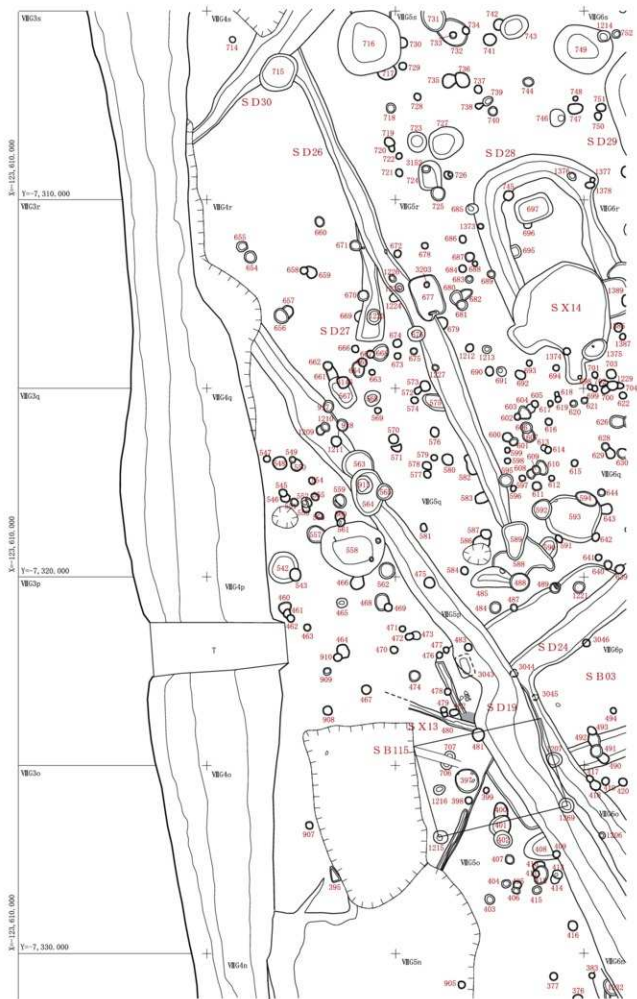


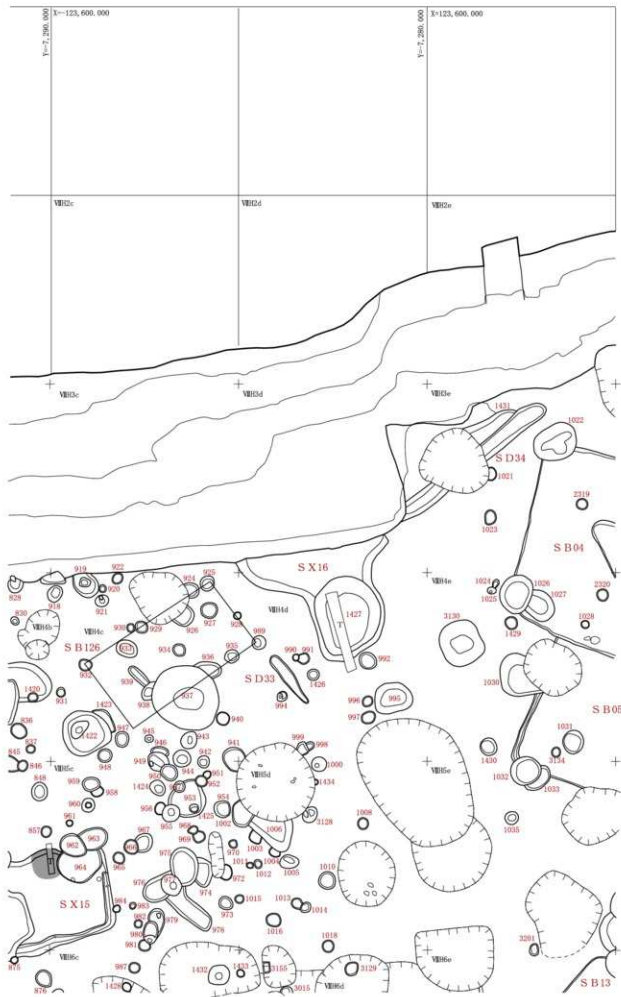
図版 10 遺構図 (10)

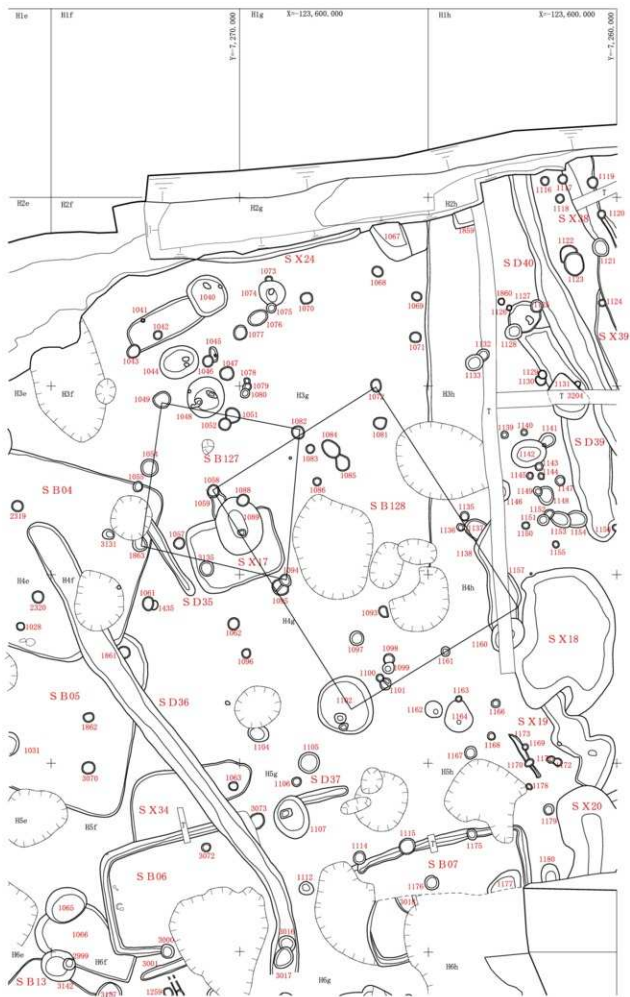


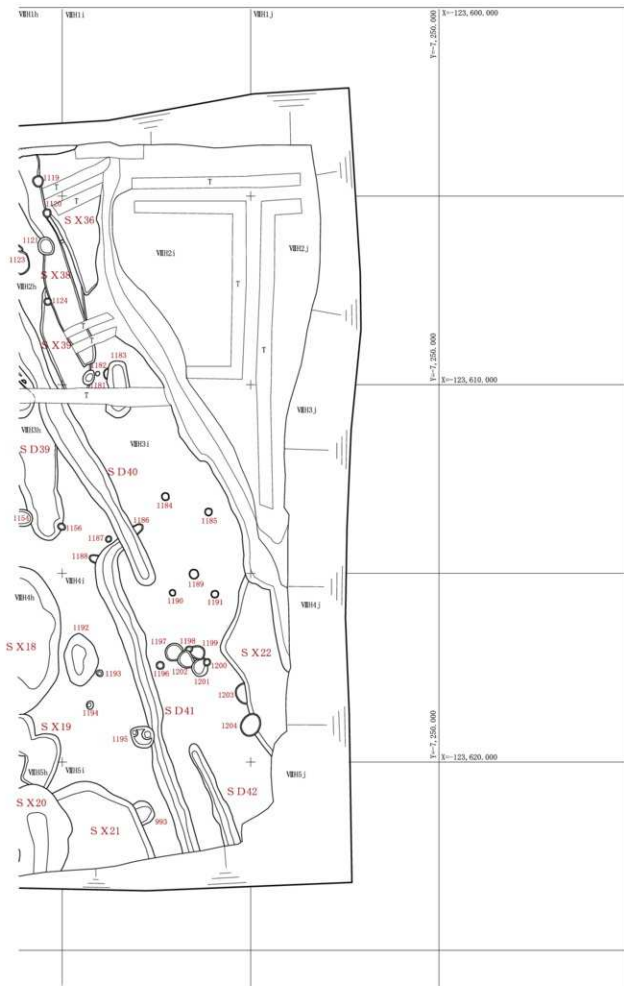












図版18 遺構写真(1) 調査区全景(左が北)





左: TT-1
西壁セクション
(南東から)



右: TT-2
西壁セクション
(南東から)



左: S B01
S D02・S D03
(南から)



右: S B01
遺物出土状態
(南から)



左: S B02
(南東から)



右: S B02
カマド検出状況
遺物出土状態
(南東から)



左: S B03
S D24・S D25
(南から)



右: S B03
遺物出土状態①
(北東から)



左: S B03
遺物出土状態②
(東から)



右: S B04・S B05
(南西から)

左: S B06
(東から)



右: S B08
(南西から)



左: S B12・S B13・
S B14
(南西から)



右: S B13
カマド断割状況
(南西から)



左: S B14
遺物出土状態
(南西から)

右: S B17
(北から)





左: S X 27・S X 28・
S X 29
(南西から)



右: S X 28
遺物出土状態①
(北から)



左: S X 28
遺物出土状態②
(西から)



右: S X 28
遺物出土状態③
(西から)



左: S X 31
(北西から)



右: S X 31
遺物出土状態
(西から)



左: S X 44・S D 25
(南から)



右: S K 114
遺物出土状態
(南から)



左: S K 966
遺物出土状態
(東から)



右: 古代瓦出土状態
(西から)

左: S D05
(南西から)



右: S D19・S D24
(南西から)



左: S D26
(南西から)

右: S D28・S D29
S K697
(北西から)



左: S D30・S K715
(北西から)

右: S D55・S D56
(南から)



左: S D63
(南東から)

右: S K648
(南から)



左: S K835
(北から)

右: S K2150
(南東から)



左: S E 01
断ち割り状況
(北東から)



右: S E 02
断ち割り状況
(東から)



左: S E 03
断ち割り状況
(西から)



右: S E 04
断ち割り状況
(東から)



左: S K 1847
遺物出土状態
(北から)



右: S K 2169
遺物出土状態
(南から)



左: S K 2557
遺物出土状態
(南西から)



右: 東壁セクション
(西から)



左: S B 101
(南東から)



右: S B 108
(西から)









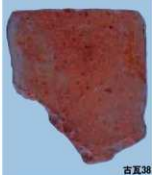
古瓦36



古瓦36



古瓦38



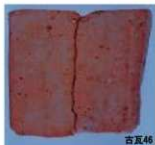
古瓦38



古瓦39



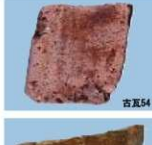
古瓦39



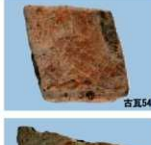
古瓦46



古瓦46



古瓦54



古瓦54



古瓦47



古瓦47



古瓦56



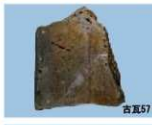
古瓦56



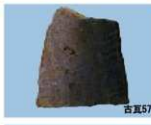
古瓦51



古瓦51



古瓦57



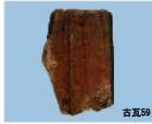
古瓦57



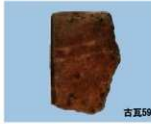
古瓦53



古瓦53



古瓦59



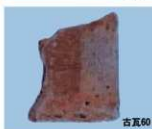
古瓦59



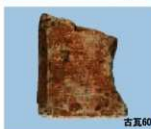
古瓦60



古瓦60



古瓦60



古瓦60





報告書抄録

ふりがな	きどじょういせき・こしんでんいせき							
書名	木戸城遺跡・古新田遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第111集							
編集者名	池本正明・松田 訓・鈴木 裕・神谷巳佳 小嶋廣也・武井繁樹・鬼頭剛・(株)第四紀地質研究所・(株)パレオ・ラボ							
編集機関	財団法人 愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡赤富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦2003年8月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きどじょういせき 木戸城遺跡	あいちけんあんじょうし 愛知県安城市 きどじょうひがしやしき 木戸町東屋敷	23212	5445	34度 53分 19秒	137度 5分 37秒	20001010 ～ 20001207	1,400	矢作川河 川改修に 伴う事前 調査
こしんでんいせき 古新田遺跡	あいちけんにしおし 愛知県西尾市 しきのちようみやまえ 志貴野町富前	23213	55230	34度 53分 7秒	137度 5分 14秒	20001121 ～ 20010330	4,100	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
木戸城遺跡	集落	飛鳥～奈良時代	竪穴住居3棟、土坑 掘立柱建物2軒	須恵器、土師器				
	城跡	室町時代	掘立柱建物1軒、櫓 土坑、溝、土塁3条	灰軸系陶器、土師器、 施釉陶器、貿易陶磁				
古新田遺跡	集落	古代	竪穴住居39棟、土坑 掘立柱建物23軒、溝	須恵器、土師器、灰軸陶器、 製塩土器、土錘、古代瓦、 瓦塔				
		中世	掘立柱建物5軒、溝 井戸4基、土坑墓 焼土土坑	灰軸系陶器、土器、 施釉陶器、焼締陶器				
		江戸時代か	堤防跡					